

青森県埋蔵文化財調査報告書 第264集

野木遺跡Ⅱ

— 青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

(第 2 分 冊)

1999年3月

青森県教育委員会

目 次

(第1分冊)

序

例 言

目 次

第1章 調査の概要 (第1分冊～第3分冊)

第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の要項	3
第3節 調査の方法	4
第4節 調査の経過	4

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置	5
第2節 基本層序	6

第3章 東 区

第1節 古代の遺構と出土遺物	16
1 竪穴住居跡 (301H～365H)	16

(第2分冊)

1 竪穴住居跡 (367H～497H)	233
---------------------------	-----

(第3分冊)

2 土坑	521
3 その他の遺構	597
(1) 焼土状遺構	597
(2) 溝状遺構	603
(3) 畝状遺構	621
(4) 掘立柱建物跡	624
第2節 遺構外出土遺物	625
(1) 土師器	625

(2) 須恵器	637
(3) その他の遺物	637

(第4分冊)

第4章 西区

第1節 検出遺構とその出土遺物	657
1 竪穴住居跡	657
2 土坑	703
3 その他の遺構	
(1) 溝状遺構	713
(2) 焼土状遺構	720
第2節 遺構外の出土遺物	721
写真図版	723

(第5分冊)

第5章 自然科学分析

第1節 土師器の蛍光X線分析	745
第2節 放射性炭素年代測定	752
第3節 プラント・オパール分析、花粉分析	758

第6章 まとめ

写真図版	779
------------	-----

引用参考文献	1133
--------------	------

報告書抄録	1135
-------------	------

第3章 東区

第1節 古代の遺構と出土遺物

1 竪穴住居跡

第367号竪穴住居跡（図186～図190）

〔位置〕 NK～NM-465～467グリッドに位置する。

〔重複〕 第455号・第456号・第459号住居跡、第307号溝と重複し、第455号・第456号・第459号住居跡より新しく、第307号溝より古い。

〔平面形・規模〕 東壁7m55cm、西壁7m50cm、南壁7m40cm、北壁7m65cmのほぼ方形である。床面積は55.44㎡である。主軸方位はN-83°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁21cm、西壁72cm、南壁71cm、北壁16cmである。床面はほぼ平坦で、粘土と黒褐色土が混入している。

〔周溝〕 幅10～37cm、深さ12～28cmの周溝が一巡する。北壁・東壁では壁直下を周溝が巡るのに対して、南壁・西壁では壁から3～31cm程度離れている。フク土の堆積状況と考え併せると、壁のやや内側に周溝を巡らせ、板材を建て壁面と板材の間に土を埋めたと推定される。

〔ピット〕 ピットは床面で36、貼床下から1つ検出されている。このうちピット1・ピット2・ピット3・ピット7・ピット9は柱穴の可能性がある。それぞれのピットの深さを図中に（ ）で示す。

〔カマド〕 東壁やや南側に構築されている。礎を芯材とし、粘土で覆って築かれている。煙道は半地下式で、住居外に60cmのびる。煙道底面は煙出し方向に向かって緩やかに上昇する。

〔その他の施設〕 住居北側中央に径1m、深さ80cmの円形のピット8が検出された。貼床下から検出されたピット10は1m80cm×1m60cm、深さ19cmの不整な楕円形である。

〔堆積土〕 15層に分層される。黒褐色土・暗褐色土を主体とし、全体的に粘土が混入する。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器・須恵器の他に台石・刀子・お引金・棒状鉄製品・羽口が出土している。

〔時期〕 出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

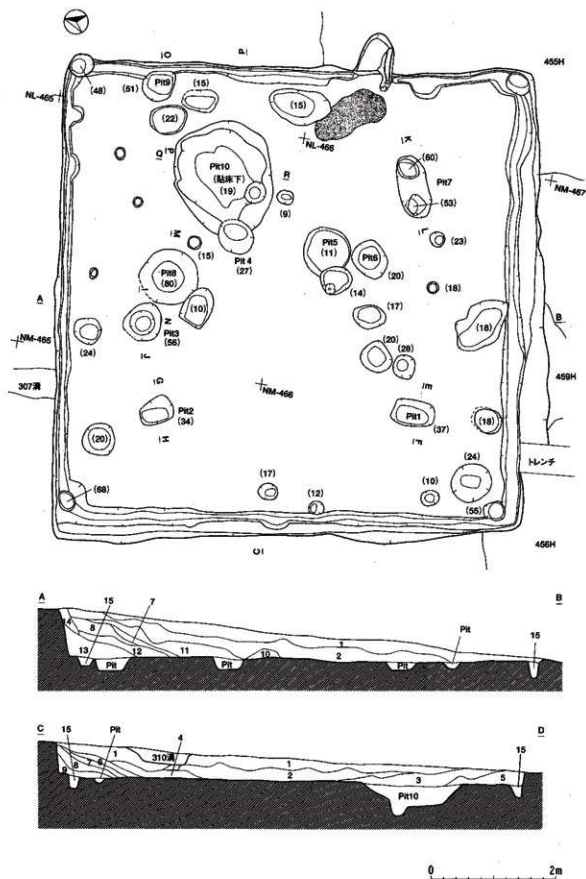
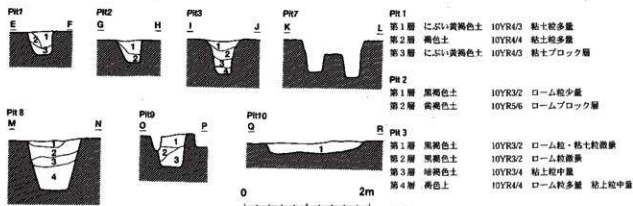


図186 第367号竪穴住居跡(1)



第367号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量	炭化物・粘土粒少量
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量	ローム粒少量
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・微土粒少量	
第4層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物中量	ローム粒・粘土粒少量
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・粘土粒少量	
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量	粘土粒少量 炭化物微量
第7層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒中量	ローム粒・粘土粒微量
第8層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒中量	ローム粒・炭化物微量
第9層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒中量	ローム粒微量
第10層	暗褐色土	10YR3/4	焼土層	
第11層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量	ローム粒少量
第12層	暗褐色土	10YR3/4	粘土粒多量	炭化物少量
第13層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量	
第14層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒少量	
第15層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量	炭化物少量

遺物出土状況

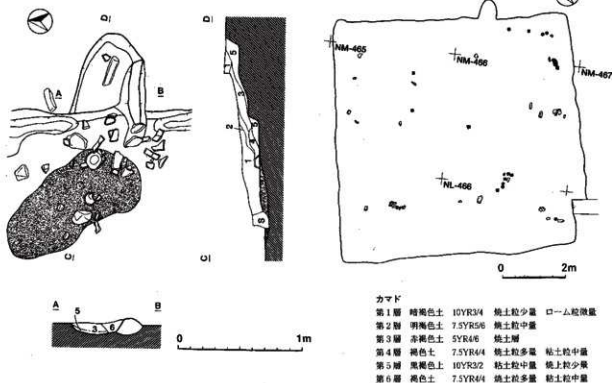
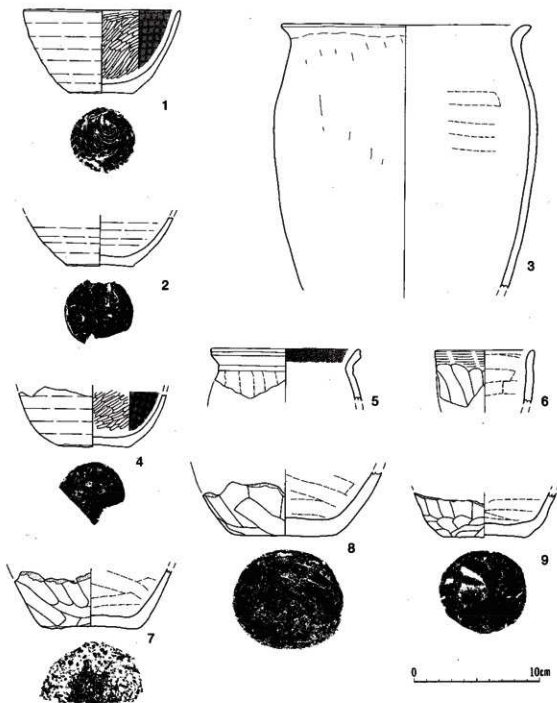
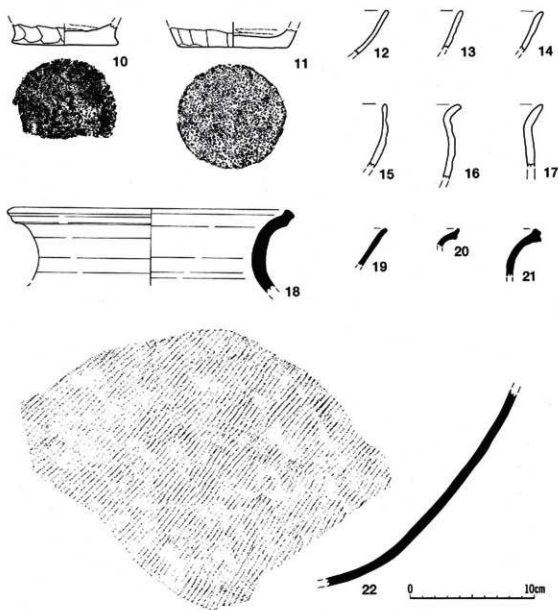


図187 第367号竪穴住居跡(2)



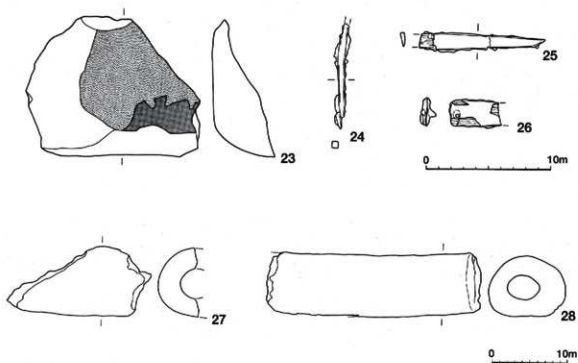
図版 番号	種類	器種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整				内 面 調 整				底面調整	分 類	備 考
				口 径	口 縁 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半					
1	土師器	坏	カマド フク土	12.8	6.7	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	刷毛塗り	B I b	内面黒色硝埋 P-321	
2	土師器	坏	陶溝	—	(4.0)	(5.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	刷毛塗り	B II			
3	土師器	甕	貼床下 フク土	(20.0)	(21.0)	—	不明	不明	—	不明	ヘラナデ?	—	—	A I	P-506, 511, 522		
4	土師器	坏	フク土	—	(6.0)	(4.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	刷毛塗り	B I	内面黒色硝埋 P-13		
5	土師器	甕	貼床下	(12.0)	(4.2)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	内面にスス状灰化物		
6	土師器	甕	Ps3フク土	(8.0)	(4.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A II			
7	土師器	甕	貼床下	—	(4.8)	(8.0)	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	—	砂敷	A			
8	土師器	甕	カマド フク土	—	(5.2)	8.6	—	ヘラナデ?	—	ヘラナデ?	—	—	砂敷	A			
9	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.6)	(6.8)	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ?	—	ナゲツケ	A			

図188 第367号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁径	体部上半	体部下半	口縁径	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	カマド フク土	—	(1.7)	(8.4)	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナダ	砂底	A	P-509
11	土師器	甕	カマド フク土	—	(2.1)	9.0	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナダ	砂底	A	P-510
12	土師器	坏	フク土	(12.0)	(3.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BI	ビット6, 7 内面黒色処理
13	土師器	坏	フク土	(12.0)	(3.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BI	内面黒色処理
14	土師器	坏	フク土	—	(3.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BI	内面黒色処理
15	土師器	坏	フク土	(11.0)	(5.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BI	内面黒色処理 P-15
16	土師器	甕	フク土	(19.0)	(6.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヨコナデ	ヘラナダ?	—	—	B	
17	土師器	甕	床直	(23.0)	(4.8)	—	ヨコナデ	ヘラナダ	—	ヘラナダ	ヘラナダ	—	—	A	
18	須恵器	甕	フク土	(23.2)	(6.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面縦線付帯 P-7
19	須恵器	坏	床面	(3.1)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面大ダスキ面
20	須恵器	釜	フク土	(1.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
21	須恵器	釜	フク土	(3.8)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-8
22	須恵器	甕	フク土	(18.5)	—	—	—	タタキ目	—	—	—	あて具底	—	—	P-2

図189 第367号竪穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
23	フク土	10.8	13.5	4.8	790	安	台石	S-1 黒褐色物質付着
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考	
		長さ	幅	厚さ				
24	フク土	8.5	0.6	0.5	5.1	棒状	Fe-12	
25	フク土	10.0	1.2	0.3	12.5	刀子	Fe-7	
26	フク土	4.1	2.5	1.2	7.2	字引金	Fe-3	木質部残存
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調査	備考
		長さ	外径	内径				
27	フク土	(19.2)	(9.2) × (5.5)	—	(540)	不明		
28	カマドフク土	(28.7)	8.1 × 10.3	3.2 × 4.4	(2,160)	C	ケズリ	芯材

図190 第367号竪穴住居跡出土遺物 (3)

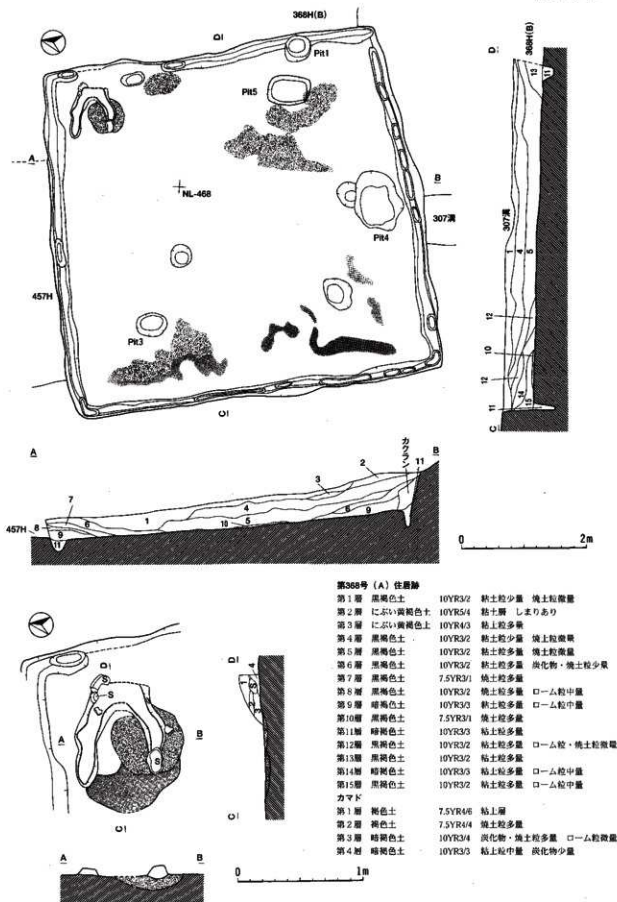


図191 第368号(A)竪穴住居跡(1)

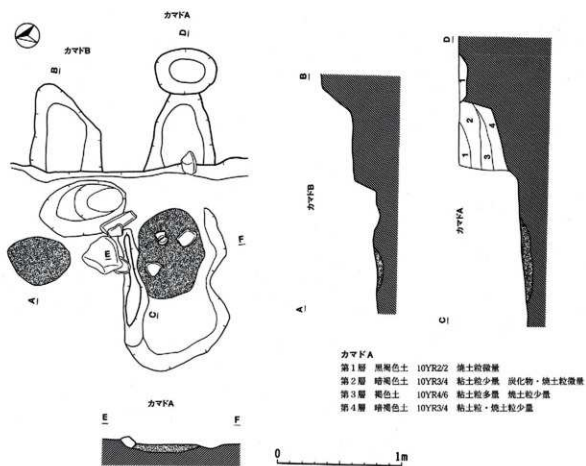
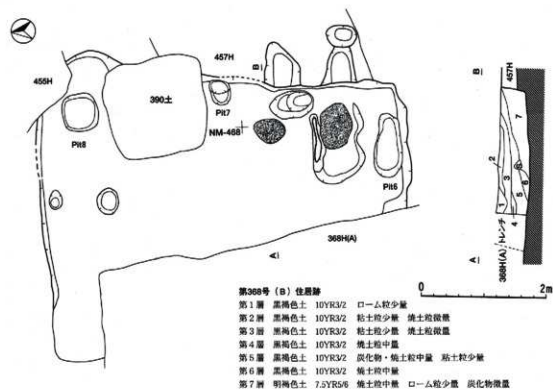
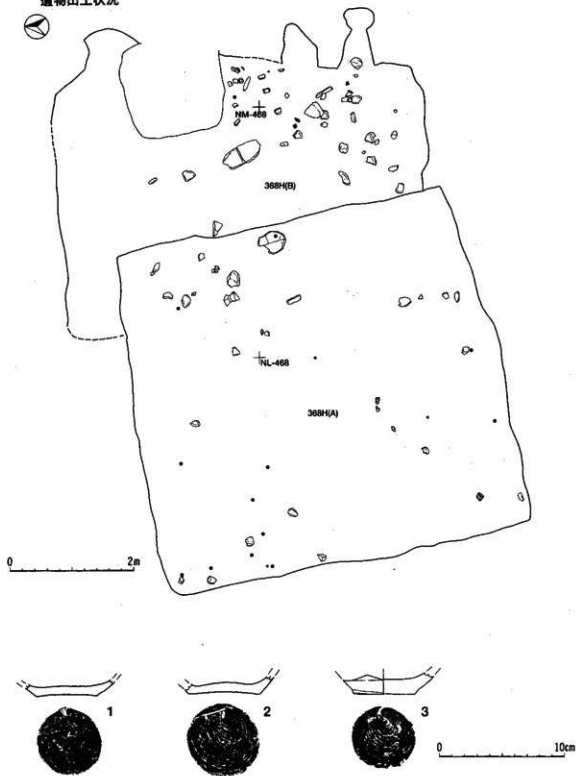


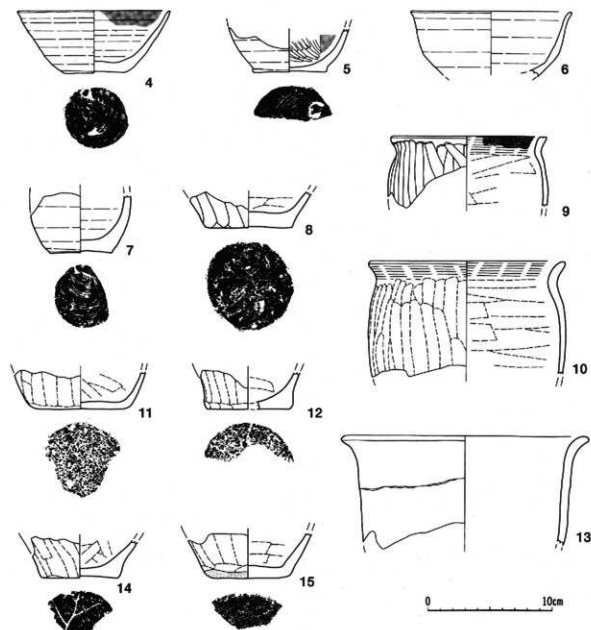
図192 第368号(B)竪穴住居跡(1)

遺物出土状況



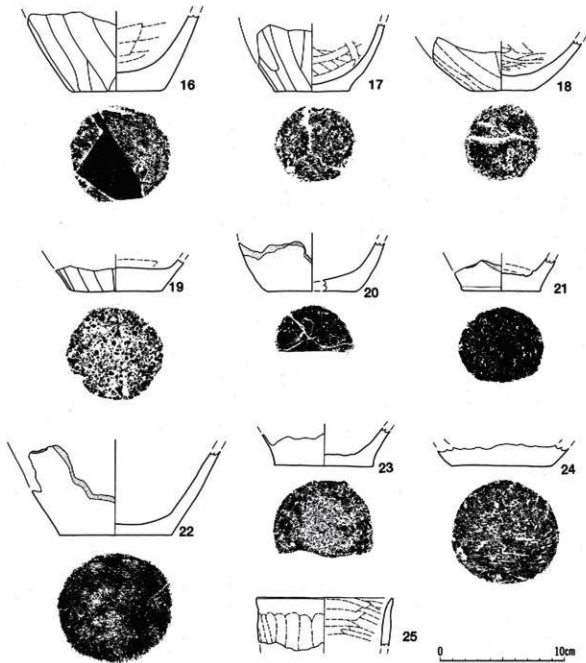
図物番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)		外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半				体部下半
1	土師器	坏	フク土	—	(1.2)	(5.0)	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ	回転成形	B II	
2	土師器	坏	フク土	—	(1.4)	(5.8)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転成形	B I	内面黒色処理
3	土師器	坏	フク土	—	(1.7)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転成形	B II	

図193 第368号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



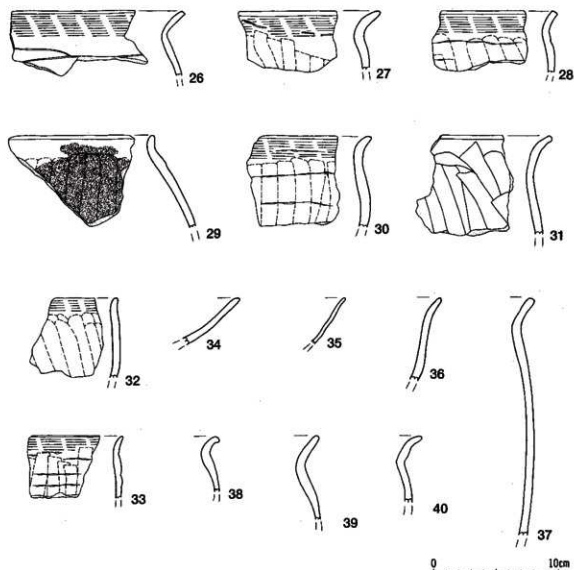
図版番号	種別	器種	出土部位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
4	土師器	坏	フク土	(12.2)	5.0	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	B II b	
5	土師器	坏	フク土	—	(3.6)	(6.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	刷毛目	B I	内面黒色処理
6	土師器	坏	フク土	13.0	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
7	土師器	甕	フク土	—	(4.8)	5.0	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	刷毛目	B	
8	土師器	甕	フク土	—	(3.9)	7.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
9	土師器	甕	カマド フク土	(12.5)	(5.8)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	口縁部スズ状 高台付付着 P-101
10	土師器	甕	フク土	15.9	(8.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-22
11	土師器	甕	フク土	—	(3.1)	(7.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-53
12	土師器	甕	フク土	—	(3.1)	(7.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ?	砂底	A	
13	土師器	甕	床面	(20.0)	(8.7)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪縁部 P-13, 44
14	土師器	甕	フク土	—	(3.3)	(6.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	木炭灰	A	
15	土師器	甕	床面	—	(3.6)	6.0	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-32

図194 第368号竪穴住居跡出土遺物(2)



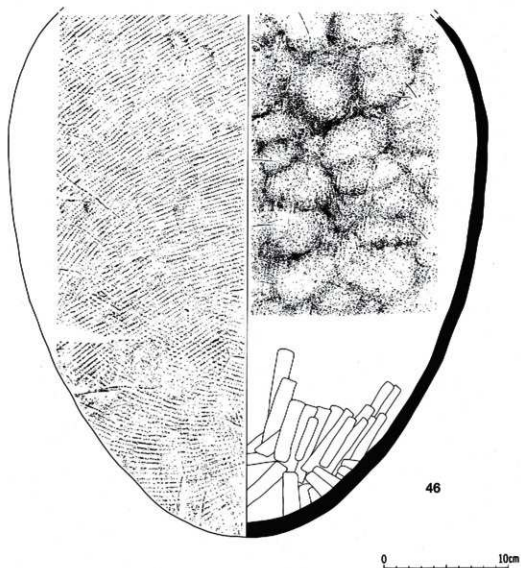
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
16	土師器	甕	フク土	—	(6.4)	7.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	F-1
17	土師器	甕	フク土	—	(5.2)	6.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
18	土師器	甕	カマド内灰圧面	—	(4.3)	5.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
19	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	8.2	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
20	土師器	甕	Pn1 フク土	—	(4.0)	(7.0)	—	—	不明	—	—	不明	ナデツケ	A	P-54
21	土師器	甕	フク土	—	(2.6)	8.4	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
22	土師器	甕	床直	—	(3.1)	8.0	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A	P-6
23	土師器	甕	床直	—	(1.8)	(8.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-5
24	土師器	甕	床直	—	(7.2)	9.0	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A	F-83, F-26
25	土師器	甕	カマド内灰圧面	(11.0)	(4.2)	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	A

図195 第368号竪穴住居跡出土遺物(3)



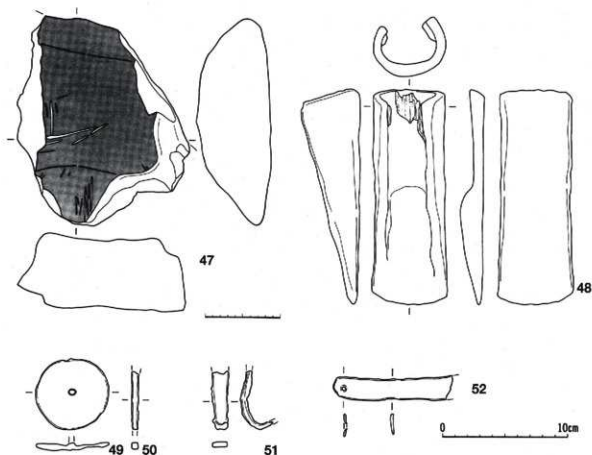
図録番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			表面調整	分類	備考
				口径	高さ	底径	口縁部	体上半部	体部下半部	口縁部	体上半部	体部下半部			
26	土師器	甕	カマド軸	(24.0)	(5.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪襷底 P-103
27	土師器	甕	フク土	(21.0)	(4.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	不明	不明	—	—	A	
28	土師器	甕	カマド軸	(15.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	不明	—	—	A	輪襷底 P-102
29	土師器	甕	フク土	(26.0)	(7.3)	—	ヨコナデ?	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外周粘土付着 P-51
30	土師器	甕	カマド 穴底周	(18.0)	(7.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪襷底
31	土師器	甕	床面	(20.0)	(8.0)	—	ヘラナズリ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	—	A	P-37
32	土師器	甕	床底	(12.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪襷底
33	土師器	甕	フク土	(24.0)	(4.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪襷底
34	土師器	杯	フク土	(15.0)	(5.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
35	土師器	杯	フク土	(12.8)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
36	土師器	杯	フク土	(20.0)	(6.9)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	B?	
37	土師器	甕	フク土	(17.2)	(18.5)	—	不明	ヘラナズリ	—	不明	ヘラナデ	—	—	A	
38	土師器	甕	カマド フク土	(16.0)	(4.5)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
39	土師器	甕	フク土	(20.0)	(6.8)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
40	土師器	甕	床底	(23.0)	(5.4)	—	ヨコナデ	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図196 第368号竪穴住居跡出土遺物(4)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面観察			内面観察			表面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
41	須恵器	甕	フク土	(15.8)	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
42	須恵器	環	フク土	—	(4.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外面火ガス半痕
43	須恵器	壺	フク土	—	(4.1)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
44	須恵器	甕	フク土	—	(2.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
45	須恵器	甕	フク土	—	(5.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-8
46	須恵器	甕	灰面	—	(41.8)	—	—	タタキ目	タタキ目	—	—	層深 ハラナフ	丸底	—	—

図197 第368号竪穴住居跡出土遺物 (5)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
47	床底	27.5	22.5	9.7	7,890	波	砥石	S-9 被熱、炭化物付着
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考	
		長さ	幅	厚さ				
48	フク土	17.2	5.7	1.0	847.0	鉄斧	Fe-1 木質部残存	
49	フク土	5.7	5.9	0.6	23.3	銅鏃	Fe-2	
50	フク土	4.6	0.5	0.6	3.4	銅鏃	Fe-2	
51	フク土	4.7	1.2	0.5	10.9	鉤状	Fe-4	
52	床底	9.5	1.6	0.3	8.5	字引金	Fe-3	

図198 第368号竪穴住居跡出土遺物(6)

第368号(A) 竪穴住居跡 (図191~図198)

【位置】 NK・NL-467・468グリッドに位置する。

【重複】 第368号(B)・第456号住居跡・第307号溝と重複し、第368号(B)・第456号住居跡より新しく、第307号溝より古い。本住居跡は第368号住居跡として調査していたが、床面で重複が確認されたため、本住居跡を368号(A)住居跡とした。

【平面形・規模】 東壁5m38cm、西壁5m90cm、南壁5m58cm、北壁5m54cmのほぼ方形である。床面積は28.15㎡である。

【壁・床面】 東壁は重複により検出できなかった。壁高は、西壁46cm、南壁69cm、北壁40cmである。床面は、粘土とロームが混入した黒褐色土を踏みしめており、南から北に40cm傾斜している。

[周溝] 幅9～34cm、深さ2～23cmの周溝がほぼ一巡する。本住居を一巡する周溝によって第368号(B)住居跡との重複が確認できた。

[ピット] 検出されたピットは8つで、このうちピット1・ピット2・ピット3が柱穴と考えられる。ピット1は径41cm、深さ68cmの円形で、ピット2は50×44cm、深さ32cmの不整な円形、ピット3は50×38cm、深さ23cmの楕円形である。

[カマド] 東壁北側に構築されている。礫を芯材とし、粘土で覆って築いている。第368号(B)住居跡と重複していたためカマドが設置されている東壁は検出できず、煙道・煙出しが確認できなかった。検出できた部分から、煙道は半地下式で、底面は煙出し方向に緩やかに上昇すると推定される。

[その他の施設] 南壁ほぼ中央に70cm、深さ10cmの不整楕円形のピット4が検出された。

[堆積土] 15層に分層される。黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が混入する。自然堆積である。

[出土遺物] 土師器の坏・甕・壺、須恵器の坏・壺・大甕のほか、砥石、鉄斧・紡錘車・お引金・鈎状鉄製品などの鉄製品が出土している。

[時期] 出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

第368号(B)竪穴住居跡(図191～図198)

[位置] NL・NM-467・468グリッドに位置する。

[重複] 第368号(A)・第455号・第456号住居跡・第387号土坑・第307号溝と重複し、第456号住居跡より新しく、第368号(A)・第455号住居跡・第387号土坑・第307号溝より古い。本住居跡は第368号住居跡として調査していたが、床面で重複が確認されたため、本住居跡を第368号(B)住居跡とした。

[平面形・規模] 西壁は第368号(A)住居跡との重複により残存せず、南壁は2m残存する。東壁5m50cm、北壁5mである。床面積は16.20㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁14cm、南壁77cm、北壁12cmである。床面は地山粘土を堅く踏みしめており、ほぼ平坦で、かなり堅緻である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] ピットは6つ検出されたが、柱穴とは考えられない。

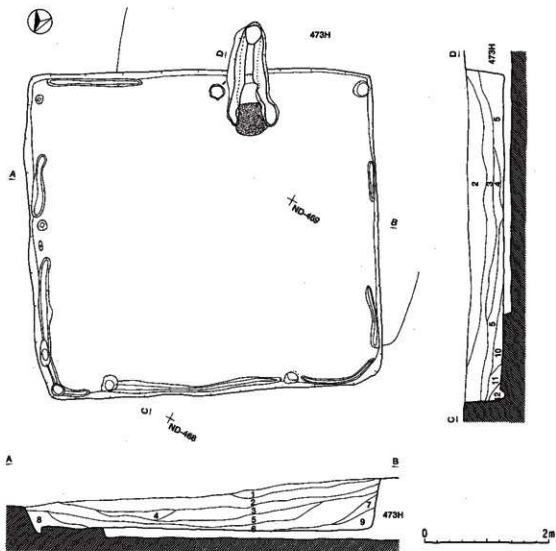
[カマド] 東壁南側に2つのカマドが検出された。南側のカマドAは袖は粘土で築かれている。芯材に用いたと考えられる礫が出土している。カマドの周辺は床面より6～7cm低く掘りくぼめられている。北側のカマドBは火床面のみ検出され、袖は残存しなかった。このことからカマドAがカマドBより新しいことがわかる。2つのカマドの煙道・煙出しは、第457号住居跡と重複しているため、明確には検出できなかったが、第457号住居跡の床面に溝状の掘り込みがみとめられ、これが本住居跡の煙道の底面と考えられる。

[その他の施設] 南壁直下に1m4cm×44cm、深さ20cmの不整な楕円形のピット6、東壁中央に40×31cm、深さ19cmの不整な楕円形のピット7、北東隅に一辺60cm、深さ17cmの方形のピット8が検出された。

[堆積土] 7層に分層される。黒褐色土を主体とするが、7層は粘土質土である。

[時期] 重複関係から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)



第369号住居跡

- | | | | | | | |
|------|------|---------|------|------|------|--------|
| 第1層 | 黑褐色土 | 10YR3/2 | 焼土粒 | L.B. | 炭化物 | To-a混入 |
| 第2層 | 黒色土 | 10YR3/1 | 焼土 | L.B. | | |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物 | 焼土粒 | L.B. | |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物 | 焼土 | L.B. | |
| 第5層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物 | 焼土 | L.B. | B-Tm混入 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物 | 焼土 | L.B. | |
| 第7層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物 | 焼土 | L.B. | To-a混入 |
| 第8層 | 暗褐色土 | 10YR3/2 | 焼土 | L.B. | 炭化物 | |
| 第9層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | L.B. | 炭化物 | | |
| 第10層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 炭化物 | 焼土 | | |
| 第11層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土 | 炭化物 | L.B. | |
| 第12層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 炭化物 | 焼土 | | |

図199 第369号竪穴住居跡(1)

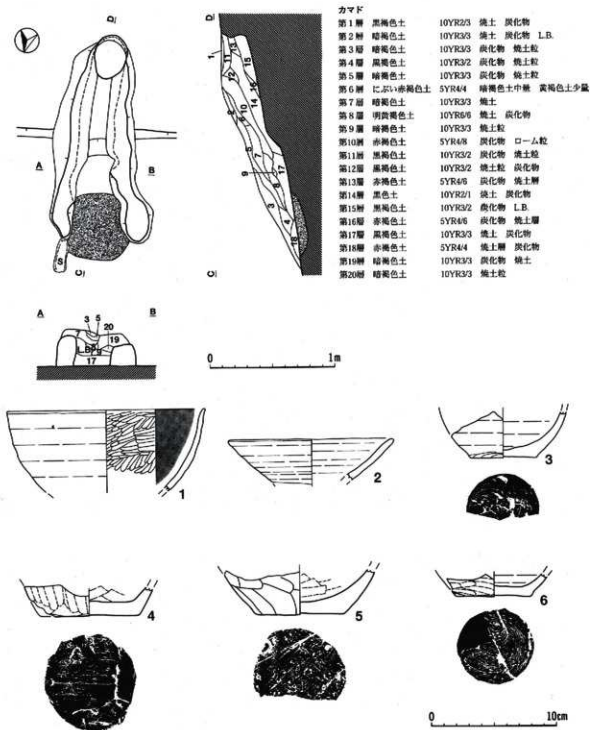
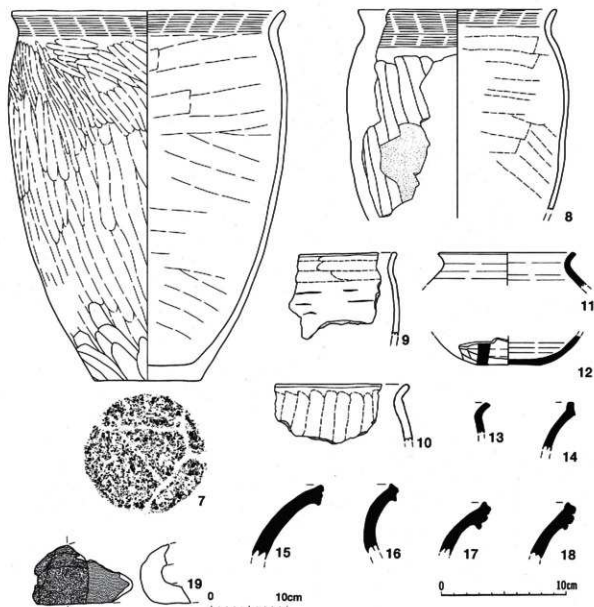


図200 第369号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			分類	備考	
				口径	器高	底径	口径部	体部上半	体部下半	口径部	体部上半	体部下半			外面調整
7	土師器	甕	床面	22.1	29.7	8.6	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂流	A I 6	F-3
8	土師器	甕	床面	(16.0)	(16.7)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A II	F-3
9	土師器	甕	フク土	(14.0)	(6.8)	—	ヘラナデ	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内外面輪襷痕
10	土師器	甕	フク土	(16.0)	(4.8)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
11	須恵器	甕	フク土	(10.4)	(2.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
12	須恵器	坏	フク土	—	(2.4)	(5.0)	—	—	ロクロ ヘラナズリ	—	—	ロクロ	切離し後 ヘラナズリ	—	外面火ダスキ痕
13	須恵器	甕	フク土	—	(2.5)	—	—	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
14	須恵器	甕	フク土	(12.0)	(4.0)	—	—	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
15	須恵器	甕	フク土	—	(6.0)	—	—	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
16	須恵器	甕	フク土	(19.4)	(6.6)	—	—	—	—	ロクロ	—	—	—	—	輪襷痕
17	須恵器	甕	フク土	—	(3.7)	—	—	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
18	須恵器	甕	フク土	—	(4.4)	—	—	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
19	床面	(13.5)	(7.8)×(6.8)	—	(320)	B	—	羽口-I

図201 第369号竪穴住居跡出土遺物(2)

第369号竪穴住居跡 (図199～図201)

〔位置〕 NC～NE-469グリッドに位置する。

〔重複〕 第473号・第495号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁5m20cm、西壁4m85cm、南壁5m50cm、北壁5m35cmで北西隅が丸い方形である。床面積は21.07㎡である。主軸方位はN-154'-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁42cm、西壁78cm、南壁63cm、北壁34～72cmである。床面は東側にやや凸凹する面があるが、ほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅7～21cm、深さ1～18cmの周溝が断片的にみられる。

〔ピット〕 検出されたピットは6個である。いずれも浅く柱穴とは考えられない。

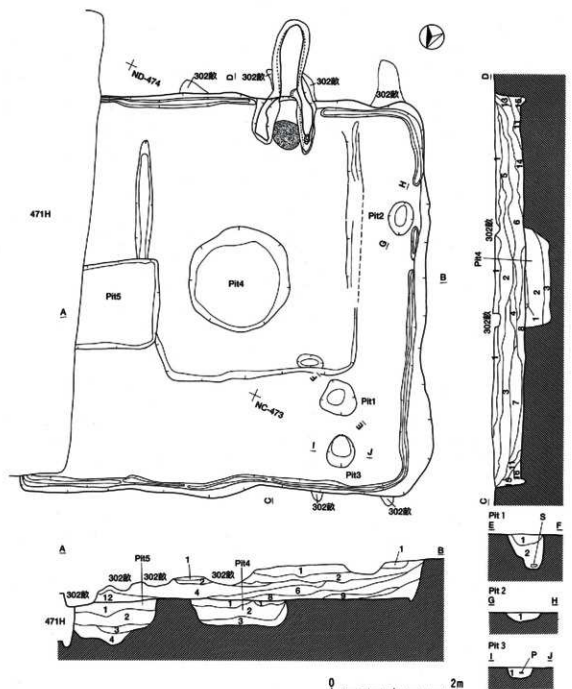
〔カマド〕 南壁西側に構築されている。礫を芯材に転用し、粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で住居跡外に78cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は12層に分層され、1、7層にT₀-a、5層にB-T_m火山灰が混入している。自然堆積と考える。

〔出土遺物〕 床面及び床面直上から土師器の坏、甕や羽口が出土しているほか、覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏、甕、壺が出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第370号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・焼土粒・ローム粒少量	B-Tm多量	
第2層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物・焼土粒・ローム粒少量		
第3層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・ローム粒中量	焼土粒少量	
第4層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物少量	焼土粒・ローム粒中量	
第5層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・焼土粒・ローム粒少量		
第6層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物・ローム粒中量	焼土粒少量	
第7層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・ローム粒中量	焼土粒少量	
第8層	褐色土	10YR4/6	炭化物・焼土粒・ローム粒少量		
第9層	黒色土	10YR2/1	炭化物・焼土粒・ローム粒微量		
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量	炭化物少量	
第11層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・ローム粒中量	焼土粒少量	
第12層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物微量	ローム粒中量	
第13層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・ローム粒・焼土粒微量		
第14層	褐色土	10YR4/6	炭化物中量	焼土粒微量	ローム粒多量
第15層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・ローム粒少量		
第16層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物少量	ローム粒中量	

Ph 1

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量	
第2層	褐色土	10YR4/4	粘土粒多量	
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土ブロック層	
Ph 2				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量	
第2層	黄褐色土	10YR5/6	L.B.層	
Ph 3				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・粘土粒微量	
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒微量	
第3層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒中量	
第4層	褐色土	10YR4/4	ローム粒多量	粘土粒中量

図202 第370号竪穴住居跡(1)

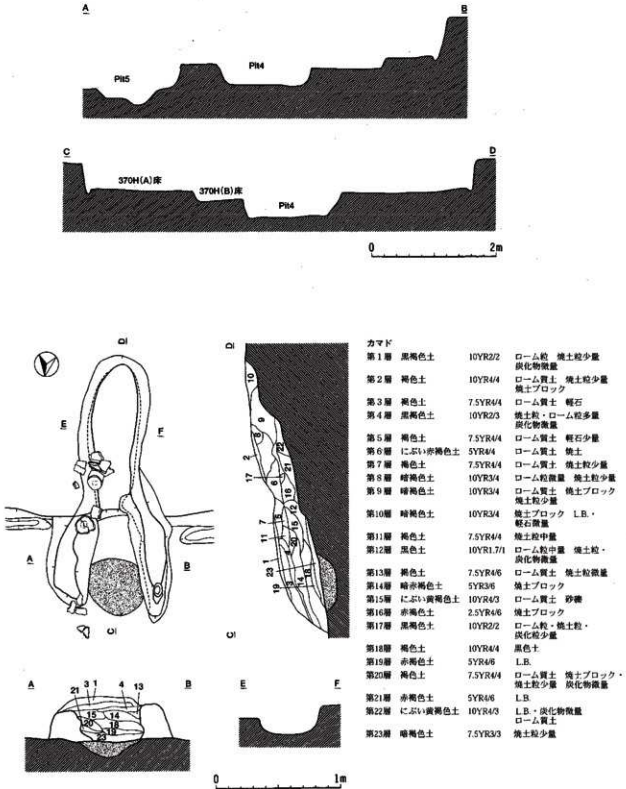
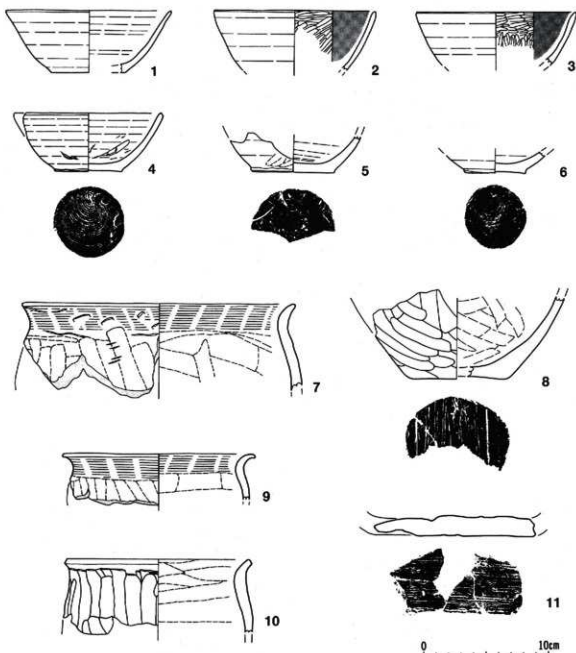
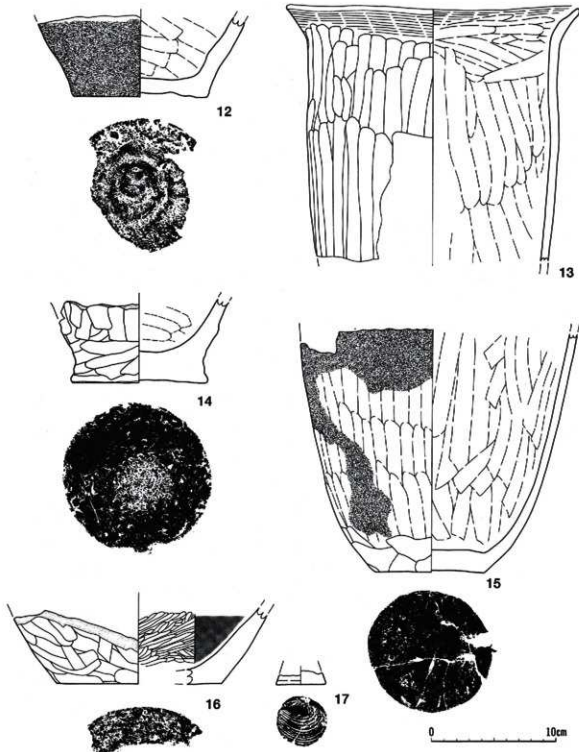


図203 第370号竪穴住居跡(2)



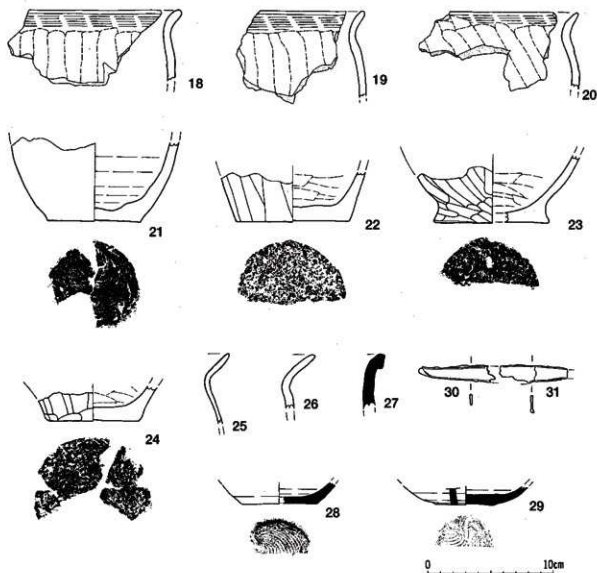
図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	フク土	(13.2)	5.0	(8.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	同編織型	BⅡ	
2	土師器	杯	フク土	(13.0)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミダキ	ヘラミダキ	—	—	BⅠ	内面黑色処理
3	土師器	杯	フク土	(13.0)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミダキ	ヘラミダキ	—	—	BⅠ	内面黑色処理
4	土師器	杯	フク土	(12.0)	4.7	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	同編織型	BⅡ		
5	土師器	杯	フク土	—	(3.1)	(6.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	同編織型	BⅡ	
6	土師器	杯	フク土	—	(1.7)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	同編織型	BⅡ	
7	土師器	壺	フク土	(22.0)	(7.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内面輪積底
8	土師器	壺	フク土	—	(7.2)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
9	土師器	壺	フク土	(15.6)	(4.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
10	土師器	壺	フク土	15.0	(6.0)	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	
11	土師器	壺	フク土	—	—	(13.0)	—	—	—	—	—	—	板目底	—	製塩土器

図204 第370号竪穴住居跡出土遺物(1)



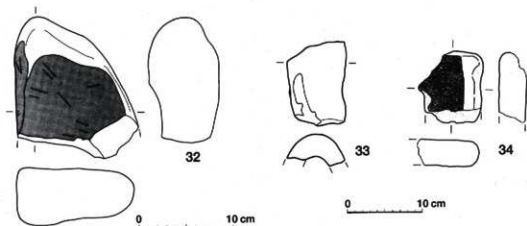
段版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調査			内面調査			底面調査	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
12	土師器	杯	フク土	—	(6.5)	10.8	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	—	砂底	A	粘土付着
13	土師器	甕	カマドノクサ 底土	23.6	(20.6)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	AI	P-6
14	土師器	甕	カマドノクサ 底土	—	(6.5)	11.0	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	—	砂底	A	外底一部に灰褐色塗料層 付着
15	土師器	甕	カマドノクサ 底土	—	(19.5)	8.8	—	ヘラナデ	ヘラナズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	—	AI	外底粘土付着 付着
16	土師器	甕	フク土	—	(5.8)	(13.2)	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラミガキ	—	砂底	A	内面黒色処理
17	土師器	小型土甕	フク土	—	—	4.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	陶板刷	—	—	柱状高台付

図205 第370号竪穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	胴高	底径	口径部	体部上半	体部下半	口径部	体部上半	体部下半			
18	土師器	甕	フク土 (16.2)	(5.6)	—	不明	—	ヘラナデ	—	—	—	—	A		
19	土師器	甕	フク土 (21.0)	(7.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A		
20	土師器	甕	フク土 (22.0)	(6.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A		
21	土師器	甕	ヨコナデ調整 フク土	(6.6)	7.6	—	—	不明	—	—	ロクロ	図版非明り	B	外製刺座 P.7	
22	土師器	甕	フク土	(3.9)	(9.0)	—	—	ヘラナデ	—	ヘラナデ	—	—	A		
23	土師器	甕	フク土	(5.5)	(9.2)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂敷	A		
24	土師器	甕	フク土	(2.8)	7.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナツク?	A		
25	土師器	甕	フク土 (16.2)	(5.6)	—	不明	—	ヘラナデ	—	—	—	—	A		
26	土師器	甕	フク土 (21.8)	(4.4)	—	ヨコナデ	—	ヘラナデ	—	—	—	—	A		
27	須恵器	甕	フク土	(4.4)	—	ロクロ	—	ロクロ	—	—	—	—	—	輪焼痕 P-13, 44	
28	須恵器	甕	フク土	(1.7)	(6.0)	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ロクロ	図版非明り	—	自然釉	
29	須恵器	甕	フク土	(1.4)	4.8	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	図版非明り	—	丸ダス巾肌	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
30	床直	6.0	1.2	0.5	4.3	刀子	Fe-1	刀子							
31	床直	5.5	1.4	0.3	8.3	刀子	Fe-1	刀子							

図206 第370号竪穴住居跡出土遺物(3)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
32	床直	13.4	12.6	6.0	1.630	流	磁石	S-4
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
33	カマドフク土	(11.3)	(7.8)×(4.3)	—	(507)	不明	ナデ	羽口-2
図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
34	焼成粘土板	カマドフク土	(8.4)	(9.6)	3.5	—		

図207 第370号竪穴住居跡出土遺物(4)

第370号竪穴住居跡 (図202～図207)

【位置】 NB～ND-472～474グリッドに位置する。

【重複】 第471号住居跡・第2号畝状遺構と重複し、第2号畝状遺構が第471号住居跡と本住居跡より新しく、第471号住居跡が本住居跡より新しい。

【平面形・規模】 東壁が第471号住居跡に切られて削平されているが、西壁6m28cm、南壁5m10cm、北壁6m30cmで、残存する部分から方形と推定する。床面積は33.01㎡で、主軸方位はN-157°-Eである。

【壁・床面】 壁高は西壁69cm、南壁49cm、北壁13～44cmである。床面はほぼ平坦である。

【周溝】 残存する部分から幅6～19cm、深さ1～51cmの周溝がほぼ一巡すると推定される。

【ピット】 検出されたピットは6個である。柱穴はピット1(56cm)で、第471号住居跡に切られている部分にも柱穴があると推定される。

【カマド】 カマドは、南壁西側に構築され、羽口、土師器を芯材として用い粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に123cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。また、煙道から芯材に使われたと思われる土師器、羽口が出土した。

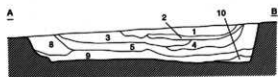
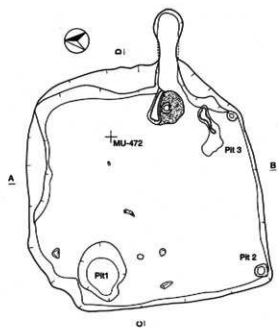
【その他の施設】 住居跡中央に、径170cm、深さ41cmのピット4、東壁中央に、径138cm、深さ68cmで方形と推定されるピット5を検出した。中央から東側に、長さ3m70cm、西側に、長さ4m26cm、北側に、長さ2m86cmの溝を検出した。検出状況から、拡張前に構築された周溝と考える。

【堆積土】 堆積土は、16層に分層される。1層にB-Tm火山灰が多量に混入している。

【出土遺物】 覆土中から、土師器の坏、甕、小型土器や須恵器の坏、甕が出土しているほか、刀子や磁石、羽口、焼成粘土板などが出土している。

【時期】 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

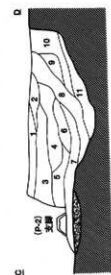
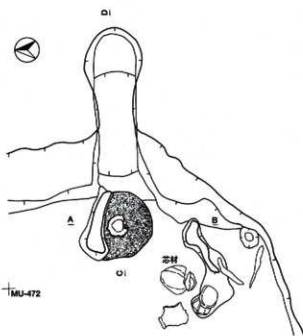
(相馬良仁)



第371号住居跡

- | | | | |
|------|------|----------|--|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭化物・
焼土粒、
ローム粒中量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 炭化物・
焼土粒、
ローム粒多量 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | ローム質土
焼土粒
炭化物多量 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 炭化物・
焼土粒多量 |
| 第5層 | 黒褐色土 | 7.5YR2/2 | B-Tm
炭化物・
焼土粒、
ローム粒多量
B-Tm
焼土ブロック少量 |
| 第6層 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | 焼土粒・
炭化物少量
L多量 |
| 第7層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | ローム質土
炭化物・
焼土粒中量 |
| 第8層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 焼土粒・
炭化物中量
ローム粒中量
B-Tm混入 |
| 第9層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 焼土粒・炭化物 |
| 第10層 | 褐色土 | 10YR4/4 | |

0 2m



カマダ

- | | | | |
|------|------|----------|----------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 炭化物・
ローム粒少量
LB・焼土粒中量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物・
ローム粒少量
焼土粒少量 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 7.5YR4/4 | 炭化物・
ローム粒微量
焼土粒多量 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 炭化物・
ローム粒中量
焼土粒少量 |
| 第5層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 炭化物少量
焼土粒中量
ローム粒多量 |
| 第6層 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | 炭化物・
焼土粒微量
ローム粒多量 |
| 第7層 | 暗褐色土 | 7.5YR2/3 | 炭化物・
ローム粒・
焼土粒少量 |
| 第8層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 炭化物微量
焼土粒少量
ローム粒多量 |
| 第9層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 炭化物・
ローム粒中量
焼土粒少量 |
| 第10層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土粒微量
炭化物少量
ローム粒中量 |
| 第11層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒・
焼土粒少量
炭化物中量 |

0 1m

図208 第371号竪穴住居跡(1)

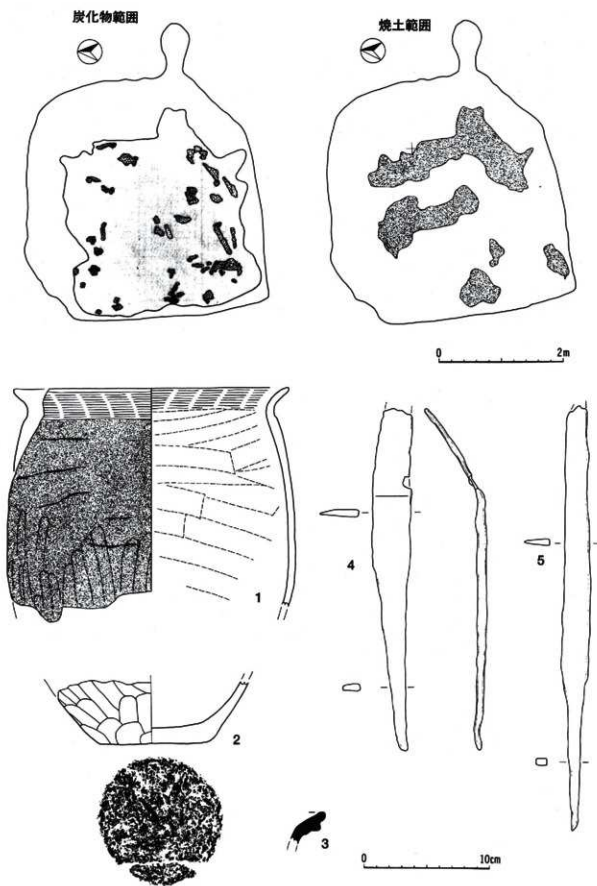


圖209 第371号壑穴住居跡(2)・出土遺物(1)

図版番号	種別	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	甕	フク土	(22.0)	(18.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1	輪縁甕	P-1
2	土師器	甕	フク土	—	(5.2)	8.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	不明	ヘラナデ	A		
3	須恵器	甕	フク土	—	(2.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—		

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
4	床直	17.4	3.1	0.6	*56.3	鉾	Fe-1
5	カマドフク土	34.0	2.0	0.5	*71.7	小刀	Fe-2

図210 第371号竪穴住居跡出土遺物(2)

第371号竪穴住居跡 (図208～図210)

【位置】 MT・MU-471・472グリッドに位置する。

【重複】 認められなかった。

【平面形・規模】 東壁3m30cm、西壁3m20cm、南壁2m95cm、北壁3m65cmで、北壁が北側へ広がり、南東隅の壁が内側に入る不正方形である。床面積は10.31㎡で、主軸方位はN-92°-Eである。

【壁・床面】 壁高は、東壁28cm、西壁51cm、南壁61cm、北壁33cmで、東壁が緩やかに立ち上がる。床面は東側がやや上昇し、南側がややくぼむ。

【周溝】 検出されなかった。

【ビット】 検出されたビットは2個である。いずれも柱穴とは考えられない。

【カマド】 東壁南側に構築されている。礫を芯材として用い粘土を覆って築いている。焚き口には、土師器が伏せた状態で置かれ、支脚としていた。煙道は半地下式で、住居跡外に84cmのびる。煙道底面は煙道中央までは緩やかに下降し、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。ソデ付近から鉄製品が出土した。

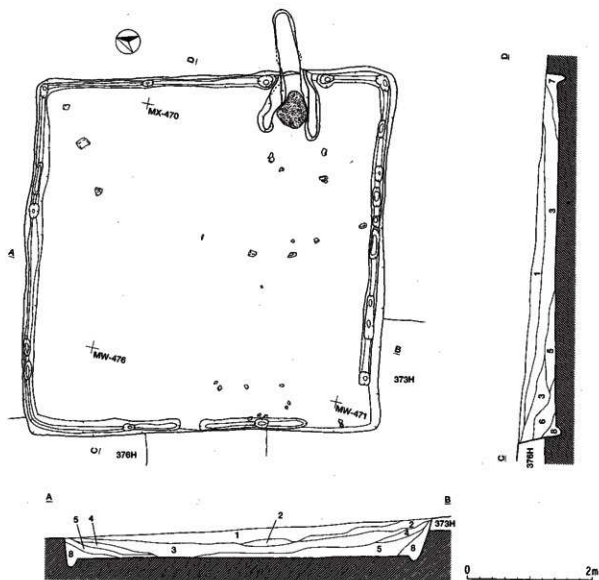
【その他の施設】 北西隅に、長軸96cm、短軸76cmのビット1を検出した。4、5、8層にB-Tmが混入している。

【堆積土】 堆積土は、10層に分層され、4、5、8層にB-Tm火山灰が混入している。また、床面から炭化材と焼土が検出された。検出状況から、焼失家屋と考える。

【出土遺物】 覆土中から、土師器の甕や須恵器の甕が出土しているほかに、床面直上から、小刀、鉾が出土している。

【時期】 火山灰の堆積状況や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第372号住居跡

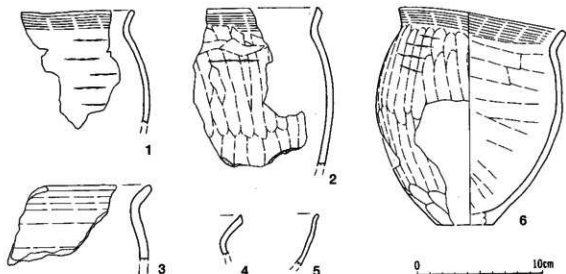
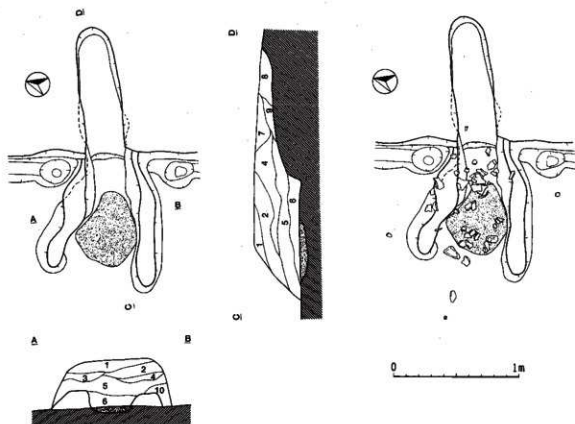
第1層	黒色土	10YR1.2/1	ローム粒・焼土粒・炭化物微量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・焼土粒・炭化物微量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・焼土粒・炭化物少量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物少量 ローム粒多量
第5層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒少量 ローム粒・炭化物粒中量
第6層	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒・炭化物少量 ローム粒多量
第7層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土粒少量 ローム粒多量
第8層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量

カマド

第1層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物少量 ローム粒多量
第2層	褐色土	10YR4/4	焼土粒・炭化物中量 ローム粒多量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物・LB中量
第4層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物少量 焼土粒中量 ローム質土
第5層	赤褐色土	5YR4/6	炭化物粒少量
第6層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒・炭化物中量
第7層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物中量 ローム粒多量
第8層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物少量 ローム粒多量
第9層	暗褐色土	10YR3/3	焼土ブロック・炭化物少量 ローム粒多量
第10層	褐色土	7.5YR4/6	焼土ブロック少量

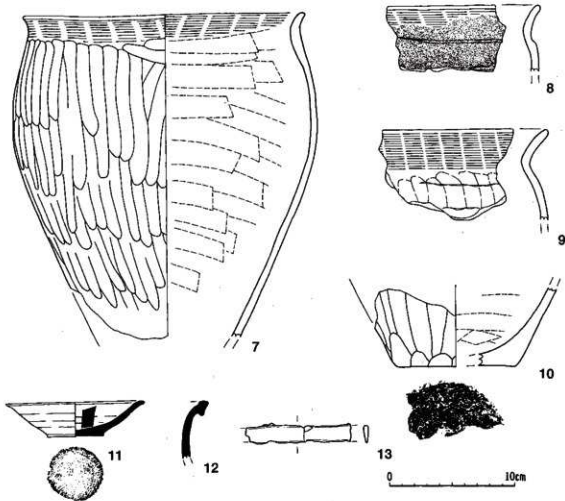
図211 第372号竪穴住居跡(1)

カマド遺物出土状況



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド フク土	(14.0)	(9.1)	—	ヨコナデ	不明	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	—	—	A	輪郭図 P-12
2	土師器	甕	カマド フク土	(14.0)	(12.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪郭図 P-12 P-31
3	土師器	甕	床面	(11.0)	(6.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラナデ?	ヨコナデ	—	—	B	P-30
4	土師器	甕	フク土	(24.0)	(4.1)	—	ヨコナデ	—	—	ヘラナデ?	—	—	—	A	P-34
5	土師器	杯	フク土	—	(4.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	BⅡ	
6	土師器	甕	床底	13.4	17.4	(4.4)	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ?	ヨコナデ?	ヘラナデ?	ヘラナデ?	砂底	AⅡc	輪郭図 P-4

図212 第372号壘穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			表面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	土師器	甕	カマド 高座	(22.6)	(26.0)	—	ヨコナチ	ヘラナリ	—	ヨコナチ	ヘラナチ	—	—	A 1a	P.38
8	土師器	甕	カマド	—	(5.3)	—	ヨコナチ	不明	—	不明	—	—	—	A	P.12
9	土師器	甕	フク土	(22.0)	(7.3)	—	ヨコナチ	ヘラナチ	—	ヨコナチ	ヘラナチ	—	—	A	P.8
10	土師器	甕	カマド	—	(6.2)	(9.6)	—	—	ヘラナリ	—	—	ヘラナチ	ナゲツケ	A	P.8, 10
11	須恵器	瓶	床下	(11.0)	2.8	4.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	→ ミガキ?	図版未収録	内面に黒色滑石粉を塗布
12	須恵器	壺	フク土	—	(4.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
13	フク土	3.2	1.0	0.4	8.9	刀子	-----

図213 第372号竪穴住居跡出土遺物(2)

第372号竪穴住居跡 (図211～図213)

【位置】 MV～MX-469～471グリッドに位置する。

【重複】 第373号・第376号住居跡と重複し、本住居跡が最も新しい。

【平面形・規模】 東壁5m75cm、西壁5m62cm、南壁5m80cm、北壁5m70cmの方形である。床面積は31.32㎡で、主軸方位はN-76°-Eである。

【壁・床面】 壁高は、東壁17cm、西壁63cm、南壁47cm、北壁29cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅10～21cm、深さ6～26cmの周溝がほぼ一巡する。

[ピット] 検出されたピットは18個で全て壁柱穴である。

[カマド] 東壁南側に構築されている。礫と土師器を芯材として使い、粘土で覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に103mのびる。煙道底面は緩やかに立ち上がる。焚き口から多量の土師器、礫が出土した。

[堆積土] 堆積土は、8層に分層される。

[出土遺物] 床面から、土師器の坏、甕や刀子が出土しているほか、覆土から、須恵器の甕や皿、礫が出ている。

[時期] 重複関係や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第373号竪穴住居跡 (図214～図218)

[位置] MV～MW-470～472グリッドに位置する。

[重複] 第372号・第374号住居跡、第373号土坑、第314号溝と重複し、本住居跡は第372号住居跡、第373号土坑、第314号溝より古く、第374号住居跡より新しい。

[平面形・規模] 西壁4m95cm、南壁4m35cm、北壁東側、東壁北側が第372号住居跡に切られ、西壁が第314号溝に切られている。残存する東壁は2m68cm、北壁は2m90cmである。残存部分からはほぼ方形と推定する。床面積は18.08㎡で、主軸方位はN-168°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁15cm、西壁54cm、南壁54cm、北壁33cmである。床面は平坦である。

[周溝] 幅8～20cm、深さ2～20cmの周溝が断片的に検出された。

[ピット] ピットが2個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に構築されている。羽口、礫を芯材として転用し、この上に粘土を覆って本体を築いている。焚口には底部を上にした状態で土師器が2個検出され、支脚としていた。煙道は半地下式で住居跡外に58cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道から多量の土師器や芯材に使われたと思われる礫が出土した。

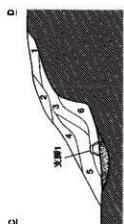
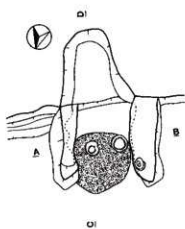
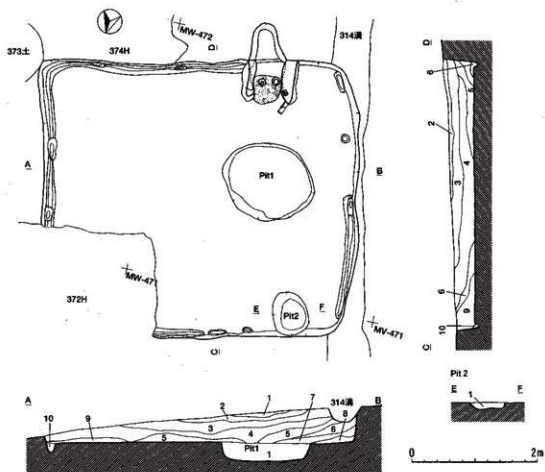
[その他の施設] 中央から西側に径145cm、深さ26cmのピット1を検出した。

[堆積土] 堆積土は10層に分層され、1、2層にB-Tm火山灰が混入している。

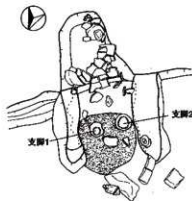
[出土遺物] 覆土から、土師器の坏、甕、埴や須恵器の小型甕や壺が出土している。また、カマドから芯材に使われた礫や羽口のほか土製品が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



カマド遺物出土状況



カマド

- | | | | | | |
|-----|------|---------|----------------|--------|--------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物微量 | 焼土粒中量 | ローム粒多量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 焼土粒微量 | 炭化物少量 | LB多量 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 炭化物・焼土粒微量 | ローム粒中量 | |
| 第4層 | 濃褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒・炭化物・焼土粒中量 | | |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒・炭化物・焼土粒微量 | | |
| 第6層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土粒微量 | ローム粒少量 | 炭化物中量 |

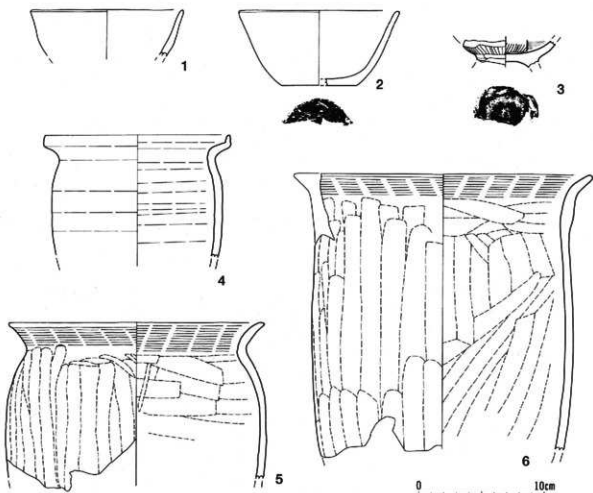
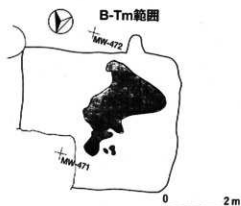
0 1m

図214 第373号竪穴住居跡(1)

野木遺跡Ⅱ

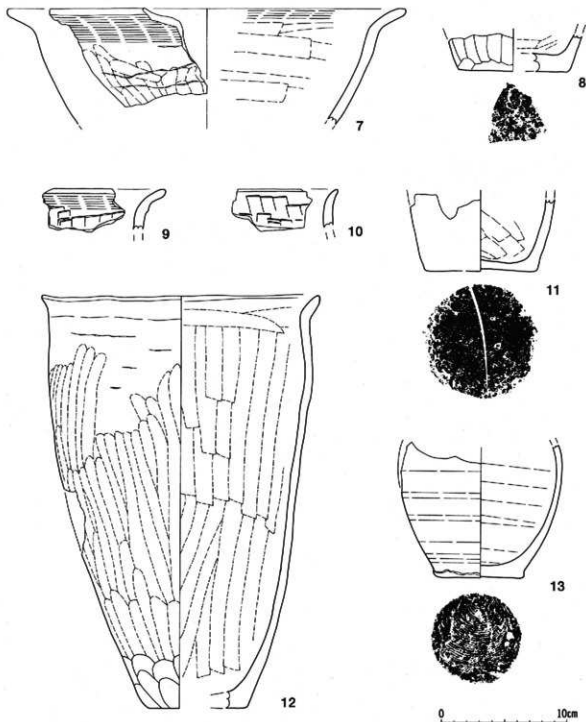
第373号住居跡

第1層 暗褐色土	10YR3/3	小礫・焼土粒・炭化物微量 B-Tm
第2層 暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物・B-Tm多量 ローム粒少量
第3層 暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物多量
第4層 暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・焼土粒・炭化物多量
第5層 黒褐色土	10YR2/1	ローム粒・焼土粒・炭化物粒多量
第6層 褐色土	10YR4/1	ローム質土 焼土粒・炭化物中量
第7層 暗褐色土	10YR3/4	ローム質土 焼土粒・炭化物中量
第8層 褐色土	7.5YR4/4	炭化物少量 焼土ブロック多量 ローム質土
第9層 黒褐色土	10YR2/3	焼土粒・炭化物少量 ローム粒多量
第10層 黒褐色土	7.5YR2/3	焼土粒・炭化物微量 ローム粒中量
PH1		
第1層 暗褐色土	10YR3/4	ローム粒多量
PH2		
第1層 にごい黄褐色土	10YR4/3	炭化物微量
第2層 褐色土	10YR4/5	



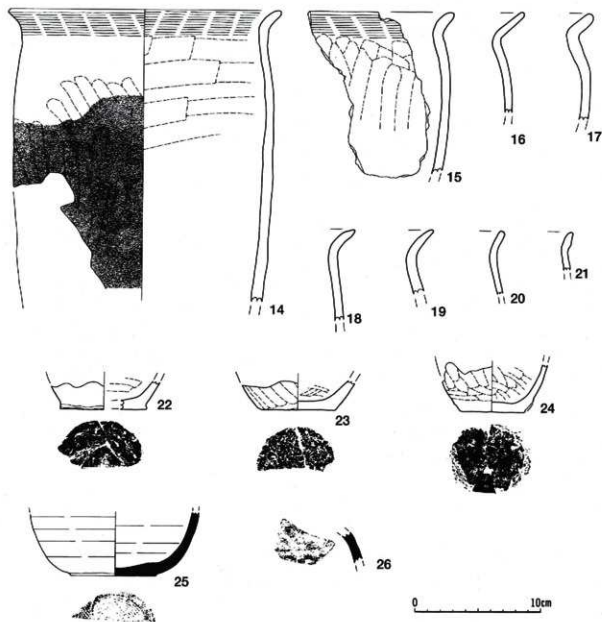
採取 層時	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坪	フク土	(12.4)	(3.7)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	B?	
2	土師器	坪	フク土	12.5	6.0	(6.0)	不明	不明	不明	不明	不明	—	不明	B?	
3	土師器	萬台付塚	フク土	—	(2.0)	—	ヘラミダキ	ヘラミダキ	—	ヘラミダキ	ヘラミダキ	—	—	—	内蔵黒曲形
4	土師器	壺	フク土 産層	(15.0)	(9.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
5	土師器	壺	カマド フク土	(20.4)	(13.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P5
6	土師器	壺	カマド フク土	(24.0)	(22.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P3

図215 第373号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



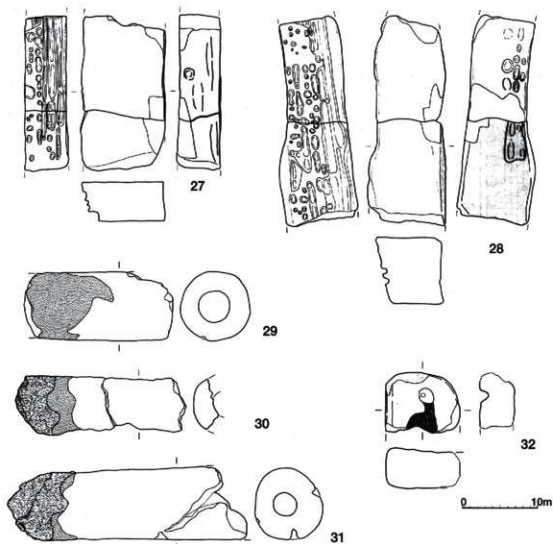
図取 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	土師器	埴	フク上	(32.0)	(9.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	輪切面 P1
8	土師器	甕	フク土	—	(3.4)	(8.7)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	—
9	土師器	甕	フク土	(14.0)	(3.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	—
10	土師器	甕	カマド フク土	(12.0)	(3.4)	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	—
11	土師器	甕	カマド フク土	—	(6.1)	9.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	文庫2
12	土師器	甕	カマド フク土	22.2	33.1	(8.0)	ナデ?	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ?	A1e	P2
13	土師器	甕	カマド フク土	—	(10.8)	7.0	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	糸切り	B	文庫1

図216 第373号竪穴住居跡出土遺物(2)



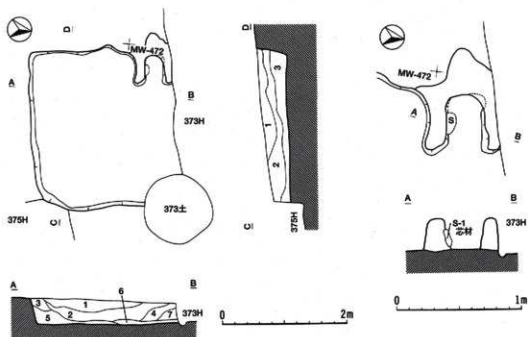
図録番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面形状			内面形状			底面形状	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(23.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1e	P3
15	土師器	甕	フク土	(22.0)	(13.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
16	土師器	甕	フク土	(20.0)	(8.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
17	土師器	甕	カマド フク土	(15.0)	(8.7)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	線刻痕
18	土師器	甕	灰青 フク土	(23.0)	(7.0)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	線刻痕
19	土師器	甕	カマド フク土	(20.0)	(5.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P1
20	土師器	甕	灰面	(12.0)	(5.0)	—	不明	—	—	不明	—	—	—	A?	
21	土師器	甕	フク土	(9.0)	(3.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A?	
22	土師器	甕	フク土	—	(2.2)	(7.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
23	土師器	甕	フク土	—	(2.3)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ?	A	
24	土師器	甕	灰面	—	(3.9)	(5.4)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
25	須恵器	小甕?	フク土	—	(5.1)	(7.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切	—	自然発
26	須恵器	甕?	フク土	—	(2.3)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面刻痕

図217 第373号竪穴住居跡出土遺物(3)



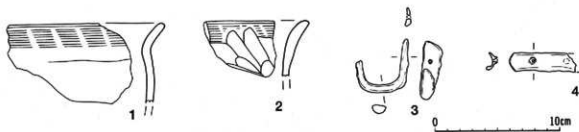
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
27	カマド芯材	20.2	11.2	5.5	1,475	安	磨	
28	カマド芯材	27.8	10.5	8.8	2,194	安	磨	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
29	カマド芯材	(18.7)	9.3	4.2	(1,490)	B		羽口4
30	カマド芯材	(22.7)	(6.7) × (3.3)	—	(482)	不明		ナデ
31	Fl1フク土	(32.0)	9.4 × 9.1	3.1	(2,230)	B		ナデ
図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
32	土製品	カマド芯材	(7.4)	(9.8)	4.7	401		スス付着

図218 第373号竪穴住居跡出土遺物 (4)



第374号住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 □-ム粒微量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 □-ム粒微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 □-ム粒微量
 第4層 暗褐色土 10YR4/4
 第5層 暗褐色土 10YR3/4 □-ム粒微量
 第6層 暗褐色土 7.5YR3/3
 第7層 暗褐色土 10YR3/3



図版番号	種類	面積	出土層位	計測値 (cm)				外面調整				内面調整				底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半						
1	土師器	甕	フク土	(21.0)	(6.4)	—	ヨコナデ	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	—	A	P-1	
2	土師器	甕	フク土	(18.0)	(4.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	A			
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考											
		長さ	幅	厚さ														
3	フク土	4.6	1.5	0.7	*9.2	鈎状	貫通孔											
4	フク土	5.4	1.4	0.2	*6.8	板状	貫通孔											

図219 第374号竪穴住居跡・出土遺物

第374号竪穴住居跡 (図219)

〔位置〕 MV・MW-471・472グリッドに位置する。

〔重複〕 第373号・第375号住居跡、第373号土坑と重複し、本住居跡は、第373号住居跡、第373号土坑より古く、第375号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 北壁が第373号住居跡と第373号土坑に、西壁北側が第373号住居跡に、東壁北側が第373号土坑に切られており、東壁1m65cm、西壁2m25cm、南壁2m40cmである。平面形は不明で、床面積は4.93㎡である。主軸方位はN-99°-Wである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁23cm、西壁39cm、南壁34cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 西壁北側に構築されているが、北側のソデの一部が第373号住居跡に切られている。ソデは礫を芯材として転用し、粘土で覆って構築している。煙道は半地下式で住居跡外に38cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は7層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から、土師器の甕や鉄製品が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第375号竪穴住居跡 (図220・図221)

〔位置〕 MV～MX-472・473グリッドに位置する。

〔重複〕 第374号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 東壁2m60cm、西壁2m70cm、南壁3m10cm、北壁3m30cmでほぼ長方形である。床面積は7.57㎡で、主軸方位はN-166°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁35cm、西壁47cm、南壁46cm、北壁36cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されたピットは1個である。柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。火床面と煙道のみが残存し、煙道は地下式で住居跡外に112cmのびる。煙道底面は煙出し方向にほぼ水平に掘り込まれ、煙出して立ち上がる。

〔その他の施設〕 カマドの東側に、長軸52cm、短軸46cm、深さ32cmのピット1を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は10層に分層され、10層にB-Tm火山灰が混入している。床面のほぼ中央部分から炭化材と焼土が検出されていることから、焼失家屋と考えられる。

〔出土遺物〕 覆土から、土師器の坏、甕が出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

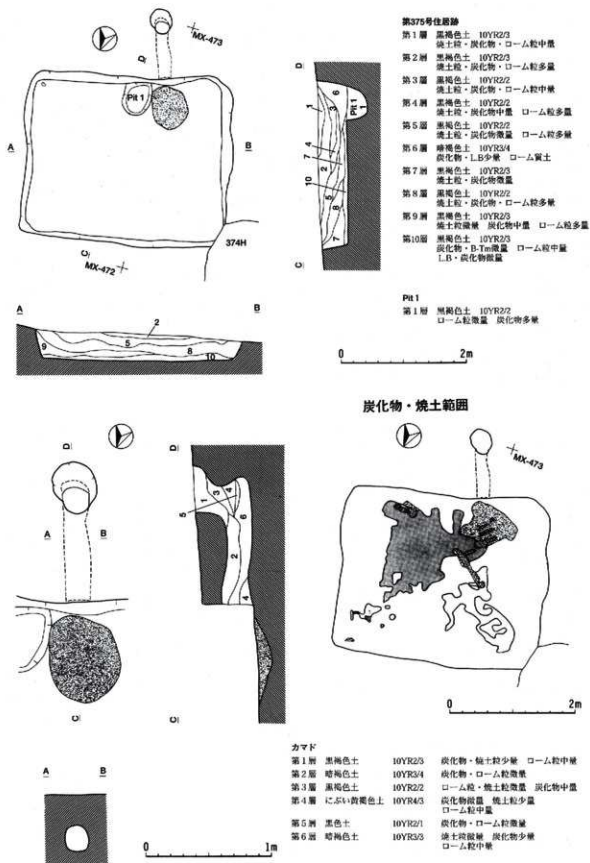
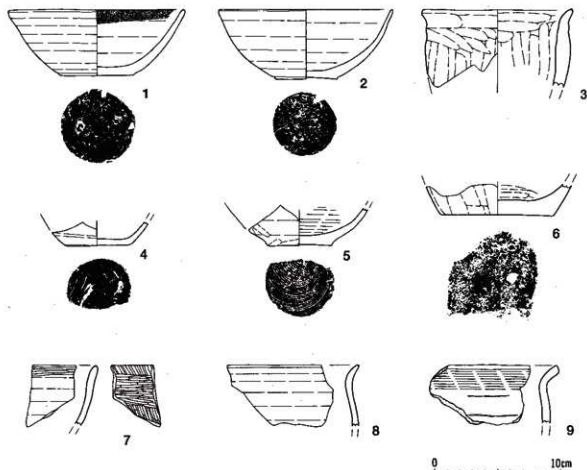
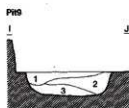
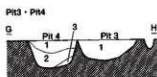
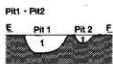
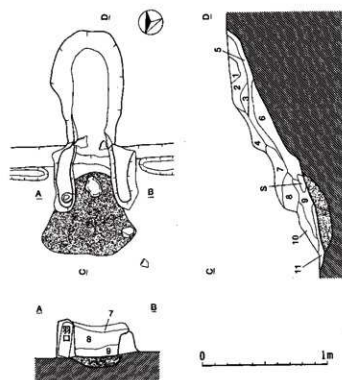
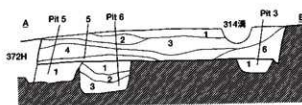
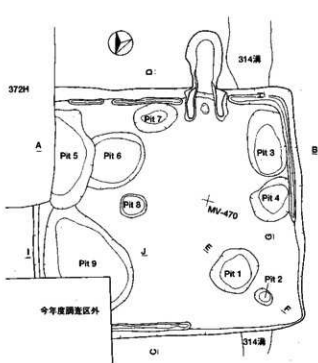


図220 第375号竪穴住居跡



図取 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分期	備考
				口径	口高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	フク土	14.0	5.8	5.3	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	黒切方ヘラナデ	B II b	P-2
2	土師器	杯	フク土	14.0	5.6	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	黒切方ヘラナデ	B II b	
3	土師器	鉢	フク土	(12.0)	(6.8)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
4	土師器	杯	カマド フク土	—	(1.5)	(5.0)	—	—	—	ロクロ?	—	—	不明	B I	
5	土師器	杯	フク土	—	(3.2)	5.2	—	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ロクロ	B II	
6	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	9.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	黒切方 ナデツケ	A	
7	土師器	杯	フク土	(14.0)	(4.8)	—	ヘラミガキ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B I	内面黒色処理
8	土師器	甕	フク土	(13.0)	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B	P-1
9	土師器	甕	フク土	(18.0)	(4.8)	—	ヨコナデ	ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪縁取

図221 第375号竪穴住居跡出土遺物



第376号住居跡

- 第1層 褐色土 10YR4/4
- 第2層 褐色土 10YR4/4
- 第3層 褐色土 10YR4/4
- 第4層 褐色土 10YR4/4
- 第5層 褐色土 10YR4/4
- 第6層 褐色土 10YR4/4

Pit 1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物微量
- 焼土粒少量 LB多量

Pit 2

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒・炭化物少量
- ローム粒多量

Pit 3

- 第1層 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム質土・焼土・炭化物多量

Pit 4

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 LB多量 焼土粒微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒微量
- 第3層 褐色土

Pit 5

- 第1層 褐色土 10YR4/4

Pit 6

- 第1層 褐色土 10YR4/4
- 第2層 褐色土 10YR4/4
- 第3層 褐色土 10YR4/4

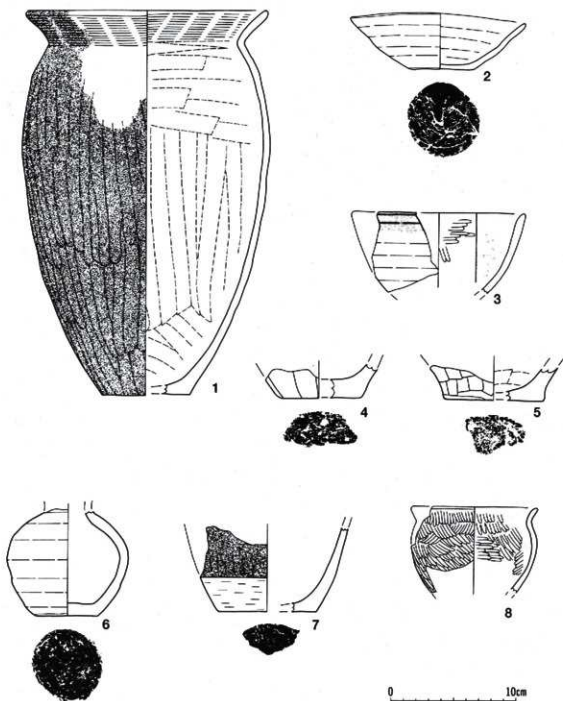
Pit 9

- 第1層 褐色土 10YR4/4
- 第2層 褐色土 10YR4/4
- 第3層 褐色土 10YR4/4

カマド

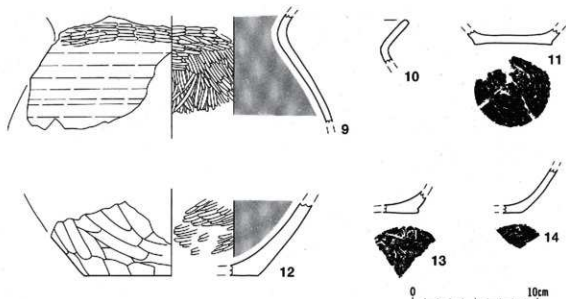
- 第1層 褐色土 7.5YR4/4 焼土粒・ローム粒・炭化物微量
- ローム質土
- 第2層 褐色土 10YR1.7/1 焼土ブロック・ローム粒微量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 焼土ブロック・LB少量 炭化物微量
- ローム質土
- 第4層 赤褐色土 5YR4/6 ローム粒少量
- 焼土粒・炭化物
- 第5層 赤褐色土 5YR4/6 焼土ブロック
- 第6層 褐色土 7.5YR4/4 ローム質土
- 焼土ブロック LB
- 第7層 褐色土 7.5YR4/4 ローム粒・小礫
- 第8層 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土ブロック多量
- ローム質土微量 炭化物粒・小礫微量
- 第9層 黒褐色土 10YR2/2 LB・炭化物粒微量
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・ローム粒・焼土粒
- 第11層 褐色土 7.5YR4/4 ローム粒・炭化物・焼土粒微量

図222 第376号壑穴住居跡



図番 番号	種類	器種 出土部位	計測値 (cm)			外面調査			内面調査			底面調査	分類	備考	
			口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	甕	カマド フタ	19.4	30.8	7.0	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A 1a	平7, 8, 12, 13 外面黒土付裏
2	土師器	杯	フク土	14.1	4.5	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	B 1b	
3	土師器	杯	Pa3 フク土	(14.0)	(6.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B 1	内面黒色処理
4	土師器	甕	フク土	—	(2.7)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	不明	ナデツケ	A	
5	土師器	甕	Pa2 フク土	—	(2.7)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	野札	A	
6	土師器	甕	フク土	—	(8.6)	5.0	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-10
7	土師器	甕	Pa5 フク土	—	(6.7)	(8.0)	—	ナデ	ヘラケズリ	—	不明	不明	ナデツケ	A?	内面黒色処理
8	土師器	甕	Pa2 フク土	10.2	(6.9)	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	A	

図223 第376号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
9	土師器	甕	床面	—	(9.5)	—	ヘラミガキ	ロクロ	—	—	—	—	—	B	内面黒色処理 P-7
10	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(3.5)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
11	土師器	甕	フク土	—	(1.3)	(6.0)	—	—	不明	—	—	ロクロ?	回転糸切り	B	
12	土師器	甕	フク土	—	(5.0)	(14.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラミガキ	ナデツケ?	B	内面黒色処理
13	土師器	杯	フク土	—	(1.9)	(6.8)	—	—	不明	—	—	ロクロ?	糸切り?	B	
14	土師器	杯	フク土	—	(3.7)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	ナデツケ	B	

図224 第376号竪穴住居跡出土遺物(2)

第376号竪穴住居跡(図222～図224)

〔位置〕 MU・MV-469・470グリッドに位置する。

〔重複〕 第372号住居跡、第314号溝と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 東壁は調査区外にかかる部分と第372号住居跡に切れ、南壁は、第372号住居跡と第314号溝に、北壁は、調査区外にかかる部分と第314号溝に切られている。残存する東壁1m16cm、西壁3m78cm、南壁3m78cm、北壁3m12cmで、ほぼ方形と推定する。床面積は13.89㎡で、主軸方位はN-165°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、西壁49cm、南壁54cm、北壁28cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅7～15cm、深さ2～12cmの周溝が断片的に検出された。

〔ビット〕 検出されたビットは6個である。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。羽口を芯材としてこの上に粘土を覆って築いている。焚口には礫を使用して支脚としている。煙道は半地下式で、住居外へ92cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

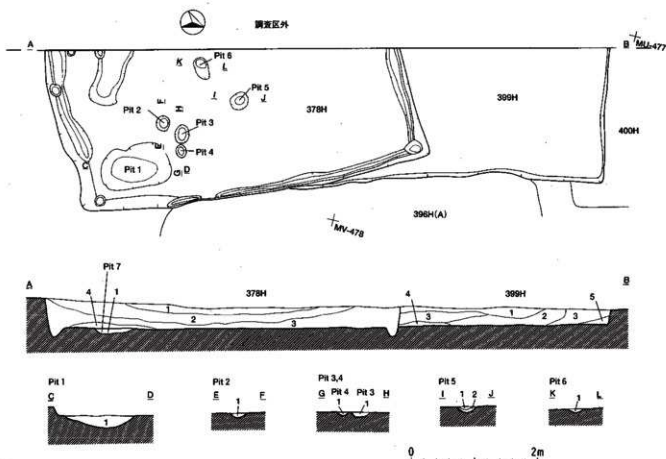
〔その他の施設〕 長軸108cm、短軸60cm、深さ34cmのビット3、径158cm、深さ32cmのビット5、径142cm、深さ38cmのビット9が検出された。

〔堆積土〕 堆積土は6層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から、土師器の杯、甕、小型土器が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀前半～後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第378号住居跡

第1層 黒褐色土	10YR22	ローム粒、炭化物、焼土粒微量
第2層 褐色土	10YR1.7/1	炭化物、焼土粒少量、ローム粒微量
第3層 暗褐色土	10YR3/4	ローム粒、炭化物、焼土粒中量
第4層 暗褐色土	10YR3/3	ローム粒、炭化物少量、焼土粒微量

Pr 1

第1層 にごい黄褐色土	10YR6/4	にごい黄褐色土 (10YR/3) 混入 L.B、炭化物、焼土粒混入
-------------	---------	--------------------------------------

Pr 2

第1層 褐色土	10YR4/4	にごい黄褐色土 (10YR/3) 混入 炭化物、焼土粒混入
---------	---------	----------------------------------

Pr 3

第1層 暗褐色土	10YR3/3	炭化物、焼土粒混入
----------	---------	-----------

Pr 4

第1層 暗褐色土	10YR3/3	炭化物、焼土粒混入
----------	---------	-----------

Pr 5

第1層 黒褐色土	10YR22	黄褐色土 (10YR5/4) 混入 炭化物、焼土粒混入
第2層 にごい黄褐色土	10YR5/4	炭化物、焼土粒混入

Pr 6

第1層 黒褐色土	10YR22	黄褐色土 (10YR5/4) 混入 炭化物、焼土粒混入
----------	--------	--------------------------------

Pr 7

第1層 暗褐色土	10YR3/3	にごい黄褐色土 (10YR5/4) 混入 炭化物、焼土粒混入
----------	---------	-----------------------------------

第399号住居跡

第1層 褐色土	10YR4/4	ローム粒中量、炭化物微量
第2層 暗褐色土	10YR3/3	L.B中量、炭化物、焼土粒微量
第3層 にごい黄褐色土	10YR4/3	暗褐色土 (10YR3/3) 混入 炭化物、焼土粒微量
第4層 暗褐色土	10YR3/4	L.B少量、炭化物、焼土粒微量
第5層 にごい黄褐色土	10YR4/3	にごい黄褐色土 (10YR5/4) 混入

図225 第378号・第399号型穴住居跡

第378号竪穴住居跡 (図225)

[位置] MT・MU-477~479グリッドに位置する。

[重複] 第396号・第399号住居跡、第320号溝、第321号溝と重複し、本住居跡は、第396号住居跡、第320号・第321号溝より古く、第399号住居跡より新しい。

[平面形・規模] 西壁が調査区外にかかり、東壁が第396号住居跡に切られる。残存する東壁5m50cm、南壁2m62cm、北壁1m88cmで、平面形は不明で、床面積は12.09㎡である。

[壁・床面] 壁高は東壁48cm、南壁50cm、北壁34cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 北壁と東壁の一部に幅8~26cm、深さ1~9cmの周溝を検出した。

[ピット] 検出されたピットは12個である。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 西壁が調査区外にかかり未調査のため、不明である。

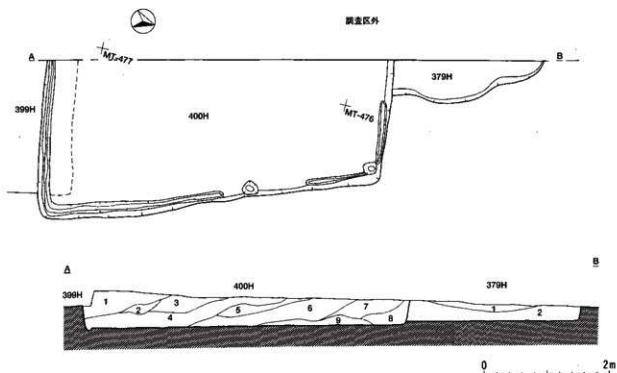
[その他の施設] 南東隅に、長軸110cm、短軸8cm、深さ18cmのピット1、南壁北側に、径88cmのピット7を検出した。

[堆積土] 堆積土は4層に分層される。全体的に炭化物、焼土を含む。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 時期は不明である。

(相馬良仁)



第379号住居跡

- 第1層 褐色土 10YR4/4 ローム粒少量
 第2層 褐色土 10YR4/6 暗褐色土混入
 ローム粒少量

第400号住居跡

- | | | |
|-------------|---------|------------------|
| 第1層 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量 |
| 第2層 褐色土 | 10YR4/4 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第3層 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒・焼土粒少量 炭化物微量 |
| 第4層 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒・炭化物少量 |
| 第5層 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒少量 |
| 第6層 にぶい黄褐色土 | 10YK5/4 | ローム粒多量・焼土粒少量 |
| 第7層 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒少量 |
| 第8層 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒少量 |
| 第9層 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒・炭化物少量 |

図226 第379号・第400号竪穴住居跡

第379号竪穴住居跡 (図226)

〔位置〕 MS-475グリッドに位置する。

〔重複〕 第400号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 本住居跡は東壁の一部を検出したが、第400号住居跡に切られ、残りは調査区外にかかるため、平面形及び規模は不明である。床面積は5.63㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は東壁36cm、北壁27cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

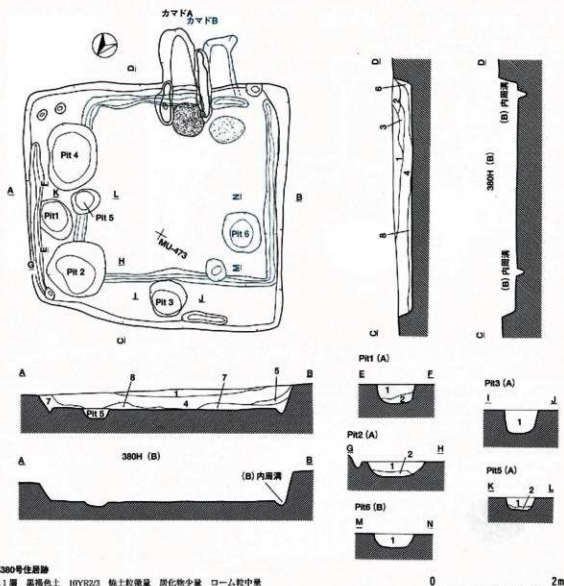
〔ピット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層される。

〔時期〕 時期は不明である。

(相馬良仁)



第380号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒微量 炭化物少量 ローム粒中量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・焼土粒微量 ローム粒少量
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒少量 炭化物・ローム粒中量
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒微量 炭化物中量 ローム粒多量
 第5層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物少量 ローム粒・焼土粒中量
 第6層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物少量 ローム粒中量
 第7層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量 ローム粒中量
 第8層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒微量 炭化物少量 ローム粒中量

カマドA

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・炭化物・ローム粒中量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・炭化物・ローム粒微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 To-a・L-B・炭化物微量
 第4層 褐色土 10YR4/4 焼土粒・炭化物銀灰
 第5層 褐色土 7.5YR4/4 ローム質土
 第6層 赤褐色土 5YR4/6 ローム質土 焼土ブロック多量 炭化物微量
 第7層 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒・炭化物微量 ローム粒多量

カマドB

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・炭化物・ローム粒中量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・炭化物・ローム粒微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 To-a・L-B・炭化物微量

PR1

- 第1層 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム粒・炭化物少量 焼土ブロック
 第2層 黒褐色土 10YR2/3

PR2

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 L.B少量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・ローム粒少量

PR3

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒・炭化物微量

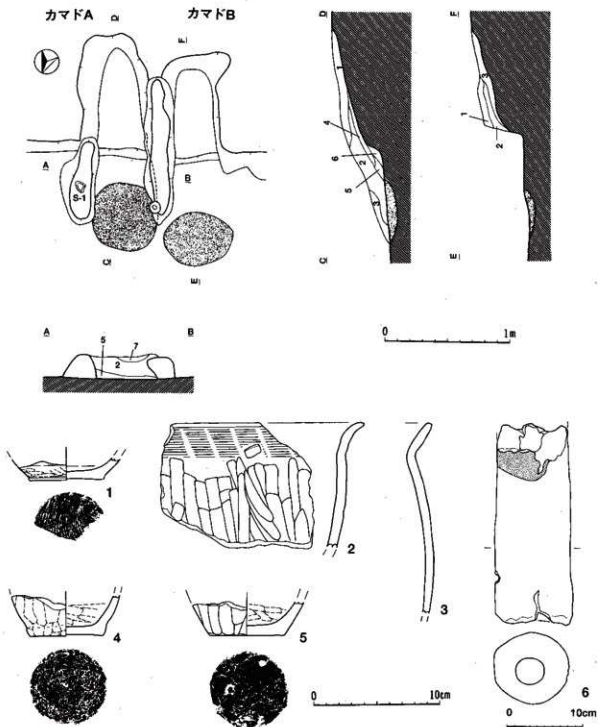
PR5

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒・炭化物微量
 第2層 暗褐色土 10YR3/4

PR6

- 第1層 黒褐色土 10YR4/4

図227 第380号竪穴住居跡(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	カマド	—	(1.7)	(6.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ロクロ	面取縁取り	BⅡ	
2	土師器	壺	フク土	(22.0)	(10.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
3	土師器	壺	PhB カマド	(19.0)	(15.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
4	土師器	壺	PhB フク土	—	(3.3)	6.0	—	—	ヘラナデ	—	ヘラナデ	—	砂底→ ナデナゲ	A	
5	土師器	壺	フク土	—	(2.7)	6.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	—	A	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考							
		長さ	外径	内径											
6	カマドAフク土	(26.6)	10.0×9.5	3.8	(2,160)	B	ナデ, 指痕	羽口-201							

図228 第380号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分期	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	須恵器	坏	床面	(13.2)	5.3	(5.4)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	羅敷瓦張り	—	大だすき裏下子
8	須恵器	甕	カマド	—	(3.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	前煎物
9	須恵器	甕	カマド	—	(5.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図229 第380号竪穴住居跡出土遺物(2)

第380号(A) 竪穴住居跡(図227~図229)

[位置] MT・MU-472・473グリッドに位置する。

[重複] 本住居跡は第380号(B)住居跡を拡張したと考える。

[平面形・規模] 東壁3m40cm、西壁3m90cm、南壁4m15cm、北壁3m90cmで、北壁東側がやや内側に入る方形である。床面積は、13.99㎡で、主軸方位はN-149°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁31cm、西壁40cm、南壁31cm、北壁23cmで、床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅10~23cm、深さ4~10cmの周溝が東壁と北壁の一部に断片的に検出された。

[ビット] ビットは6個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に構築され、袖は粘土で築いており、礫、羽口を芯材として使い、本体を構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に91cmのびる。煙道部底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

[その他の施設] 北東隅に、長軸94cm、短軸88cm、深さ24cmのビット2、東壁南側に、長軸106cm、短軸76cmのビット4を検出した。

[堆積土] 堆積土は8層に分層され、4層には炭化物が、5層には焼土がそれぞれ中量混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕、坏や須恵器の甕、坏、羽口が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、10世紀前半~後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第380号(B) 竪穴住居跡(図227~図229)

[位置] MT・MU-472・473グリッドに位置する。

[重複] 第380号(A)住居跡は、本住居跡を拡張したものとする。

[平面形・規模] 西壁2m96cm、南壁2m94cm、東壁と北壁東側が、第380号(A)住居跡ビット2、ビット4、ビット5に切られており残存する北壁は2m88cmで、ほぼ方形と推定する。床面積は

9. 52㎡で、主軸方位はN-150°-Eである。

[壁・床面] 拡張のため、壁は残存しない。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅12~24cm、深さ1~18cmの周溝が断片的に検出された。

[ピット] 検出されたピットは2個である。柱穴とは考えられない。

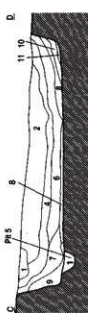
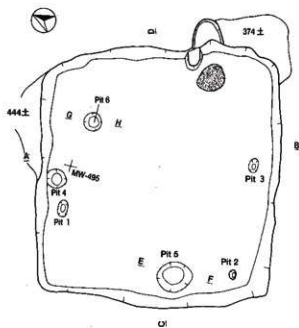
[カマド] 南壁西側に構築されている。火床面と煙道部のみ残存し、煙道は半地下式で、住居跡外に82cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 第380号(A)住居跡と重複しているため、確認できなかった。

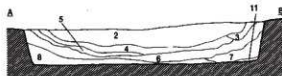
[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 重複関係から、10世紀前半~中葉に構築されたと考えられる。

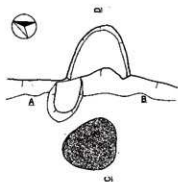
(相馬良仁)



- 第381号住居跡**
- 第1層 埴褐色土 10YR3/3
焼土・炭化物微量 □-ム粒中量
 - 第2層 埴褐色土 10YR3/3
焼土・炭化物、□-ム粒中量
 - 第3層 暗褐色土 10YR3/4
L.B.少量 焼土・炭化物中量
 - 第4層 黒褐色土 10YR2/2
焼土微量 L.B.少量 炭化物多量
 - 第5層 にぶい黄褐色土 10YR4/3
焼土・炭化物微量 □-ム質土
L.B.多量
 - 第6層 褐色土 10YR4/4
L.B.中量
 - 第7層 黒褐色土 10YR2/3
□-ム、L.B.少量
 - 第8層 黒褐色土 10YR2/3
埴褐色土 7.5YR3/3
 - 第9層 □-ム、焼土微量
 - 第10層 明褐色土 7.5YR5/6
粘土 焼土・炭化物微量
 - 第11層 黒褐色土 10YR2/3
粘土



0 2m



- PH 5**
- 第1層 褐色土 10YR4/4 □-ム微量 炭化物・焼土少量
- PH 6**
- 第1層 暗赤褐色土 5YR3/6 炭化物少量

カマド

- 第1層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 炭化物・焼土微量
□-ム粒、炭微量
- 第2層 褐色土 7.5YR4/6 □-ム粒、炭微量
炭化物少量 焼土中量
- 第3層 埴褐色土 7.5YR3/4 炭化物、□-ム、炭微量
焼土少量
- 第4層 黒褐色土 7.5YR2/2 炭化物・焼土中量
□-ム、炭中量



0 1m

図230 第381号竪穴住居跡

第381号竪穴住居跡（図230・図231）

〔位置〕 MU・MV-473・474グリッドに位置する。

〔重複〕 第374号・第444号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁3m58cm、西壁3m54cm、南壁3m60cm、北壁3m34cmの方形である。床面積は12.89㎡で、主軸方位はN-77°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁46cm、西壁70cm、南壁64cm、北壁58cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 6個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

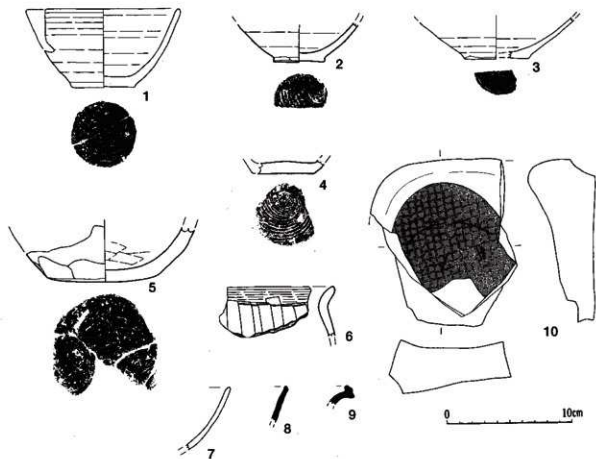
〔カマド〕 東壁南側に構築されているが残存状態が不良で、焚き口は火床面と北側のソデが残存するのみである。煙道は半地下式で、住居跡外に40cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は11層に分層され、4層に炭化物が多量に混入している。

〔出土遺物〕 覆土から、土師器の甕、杯や須恵器の杯、壺のほか、砥石が出土している。

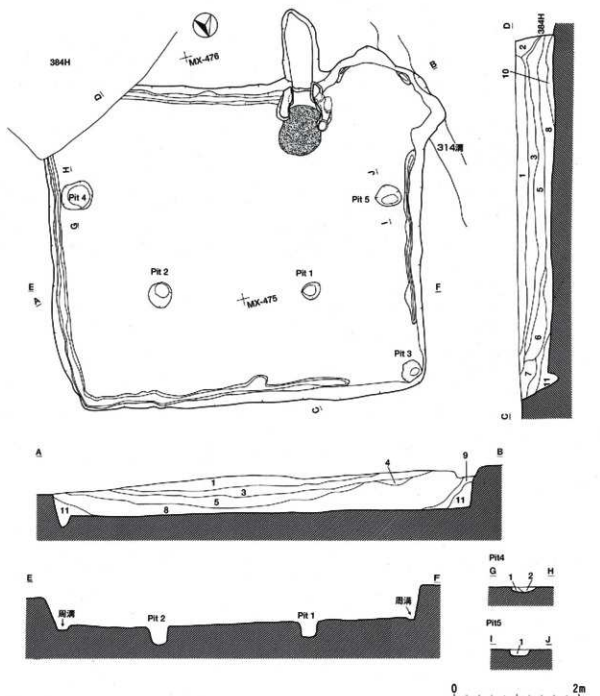
〔時期〕 重複関係や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口徑	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	フク土	12.4	6.3	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り?	BIIb	
2	土師器	杯	フク土	—	(3.1)	(4.2)	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ロクロ	糸切り?	BII	
3	土師器	杯	フク土	—	(3.2)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	臼板湯取り	BII	
4	土師器	杯	フク土	—	(1.1)	(5.0)	—	—	不明	—	—	ヘラミガキ	臼板湯取り	BI	内面黒色処理
5	土師器	甕	フク土	—	(4.5)	(8.6)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
6	土師器	甕	フク土	(14.0)	(4.0)	—	ヨコナデ ヘラナデ	—	—	ヨコナデ ヘラナデ	—	—	—	A	
7	土師器	杯	フク土	(12.0)	(5.0)	—	ロクロ	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	BII	
8	須恵器	杯	フク土	—	(2.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
9	須恵器	壺	フク土	—	(1.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
10	フク土	13.4	10.7	4.3	750	凝灰岩	灰石	炭化物付着							

図231 第381号竪穴住居跡出土遺物



第382号(A)住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・炭化物・焼土粒中量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物少量 ローム粒・焼土粒微量
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 B-Tm混入 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
 第6層 暗褐色土 10YR3/4 黒褐色土(10YR2/3)混入 ローム粒中量
 炭化物・焼土
 第7層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
 第8層 黒褐色土 10YR2/3 黒褐色土(10YR2/2)混入 ローム粒中量
 炭化物・焼土粒微量
 第9層 黒褐色土 10YR2/2 暗褐色土(10YR3/3)混入
 第10層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物少量 焼土粒微量
 第11層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量

Pit 4

- 第1層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物・焼土粒微量
 第2層 にごり黄褐色土 10YR5/4

Pit 5

- 第1層 にごり黄褐色土 10YR4/3 焼土粒微量 炭化物微量

図232 第382号(A)竪穴住居跡(1)

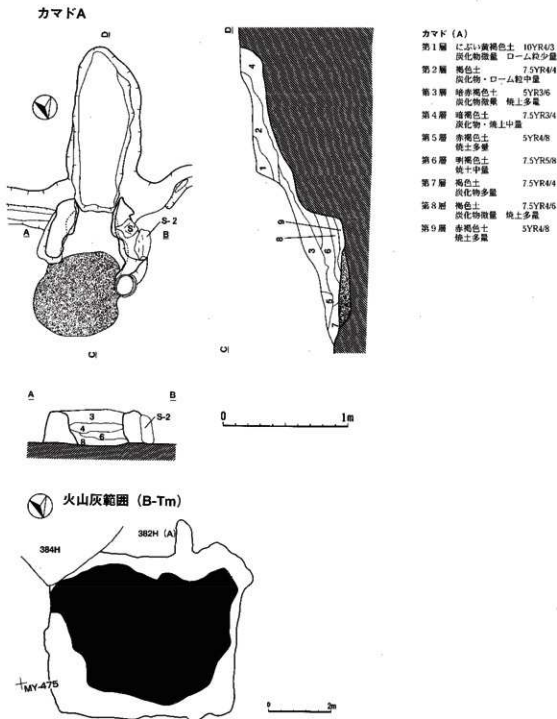


図233 第382号(A) 竪穴住居跡 (2)

第382号 (A) 竪穴住居跡 (図232～図237)

[位置] MW・MX-474・475グリッドに位置する。

[重複] 第384号住居跡、第314号溝と重複し、本住居跡は第384号住居跡、第314号溝より古い。
また、本住居跡は第382号 (B) 住居跡を拡張したものとする。

〔平面形・規模〕 北壁5m34cm、東壁北側と南壁東側が第384号住居跡に切られ、南西隅の貼り出し部が第314号溝に切られており、残存する東壁3m96cm、西壁3m82cm、南壁3m38cmで、ほぼ長方形と推定される。床面積は27.73㎡で、主軸方位はN-169°-Wである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁32cm、西壁54cm、南壁63cm、北壁15cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅6～22cm、深さ1～15cmの周溝が断片的に検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは5個である。柱穴はピット1(23cm)、ピット2(31cm)と考える。

〔カマド〕 南壁西側に構築される。礫と土師器を芯材に転用し、粘土で覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に126cmのびる。煙道底面は緩やかに立ち上がる。

〔その他の施設〕 北東隅に長軸1m72cm、短軸78cmで南西に突き出す張り出しを検出した。径34cmのピット3、長軸50cm、短軸42cm、深さ8cmのピット4、長軸42cm、短軸34cm、深さ10cmのピット5を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は11層に分層され、3層にB-Tm火山灰が混入する。

〔出土遺物〕 土師器の甕、坏や須恵器の甕、砥石が出土した。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第382号(B) 壁穴住居跡(図232～図237)

〔位置〕 MW・MX-474・475グリッドに位置する。

〔重複〕 第382号(A)住居跡は、本住居跡を拡張したものとする。

〔平面形・規模〕 東壁南側と西壁南側は確認されなかった。北壁4m30cm、残存する東壁2m60cm、西壁1m98cmである。平面形は不明で、床面積は19.3㎡である。

〔壁・床面〕 残存する壁高は、東壁12cm、西壁10cm、北壁8cmで、床面はほぼ平坦で、主軸方位はN-169°-Wである。

〔周溝〕 幅10～22cm、深さ4～26cmの周溝が北壁、東壁、西壁の一部に検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは8個である。いずれも柱穴とは考えられない。

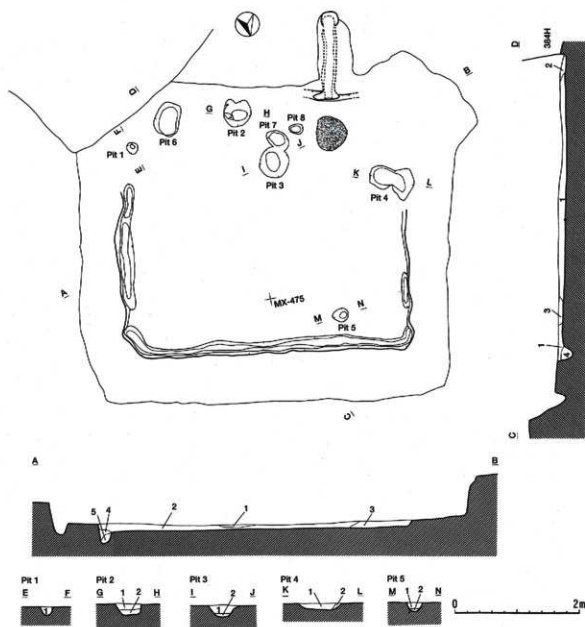
〔カマド〕 南壁西側に構築されており、火床面と煙道のみ残存する。煙道は地下式で、住居跡外に138cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに下降する。

〔その他の施設〕 南東隅に、径18cm、深さ12cmのピット1、南壁中央に、径44cm、深さ18cmのピット2、南壁中央に、径50cm、深さ18cmのピット3、西壁南側に、径72cm、深さ10cmのピット4、北壁西側に、径14cm、深さ14cmのピット5、南東隅に、長軸52cm、短軸38cmのピット6が検出された。

〔堆積土〕 堆積土は5層に分層される。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



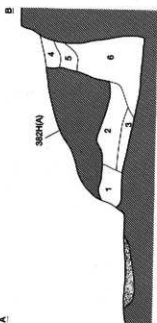
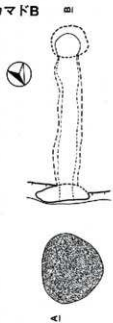
第382号(B)住居跡

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物・焼土粒、ローム粒少量
第2層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒、炭化物、ローム粒中量
第3層	暗赤褐色土	5YR3/6	炭化物微量、焼土粒多量
第4層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土粒中量
第5層	赤褐色土	5YR4/8	焼土粒

PH 1	第1層	褐色土	7.5YR4/4	焼土・炭化物微量
PH 2	第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭土・炭化物微量
	第2層	褐色土	10YR4/4	炭土微量
PH 3	第1層	黒褐色土	10YR2/2	焼土・炭化物微量
	第2層	褐色土	10YR4/4	
PH 4	第1層	明褐色土	10YR5/6	炭化物・焼土微量
	第2層	褐色土	10YR4/4	
PH 5	第1層	黒褐色土	10YR2/2	焼土微量 炭化物中量
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	

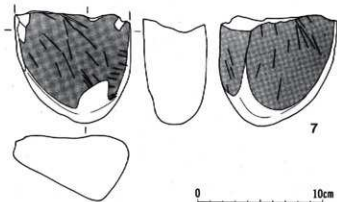
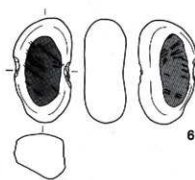
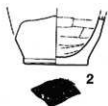
図234 第382号(B)竪穴住居跡(1)

カマドB



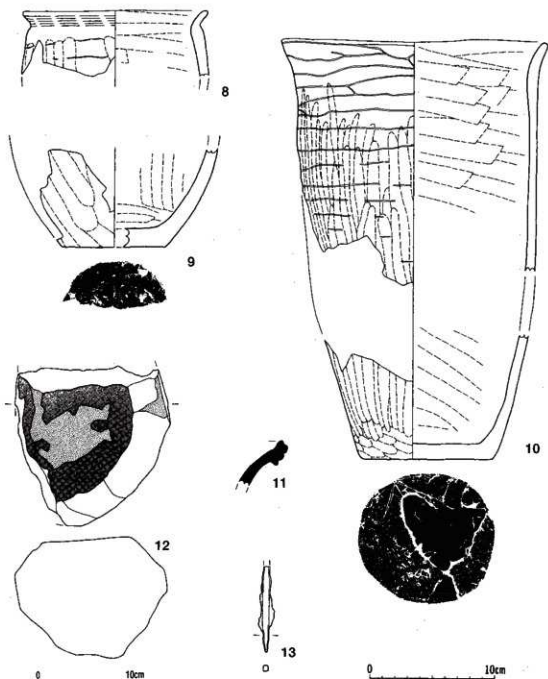
カマドB

- 第1層 褐色土 7.5YR4/4 黒色土 (10YR2/1) 混入
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 焼土ブロック多量
 第3層 暗褐色土 7.5YR2/3 焼土ブロック多量
 第4層 褐色土 10YR4/6 ローム質土
 第5層 褐色土 10YR4/4
 第6層 黒褐色土 7.5YR2/2 焼土ブロック微量



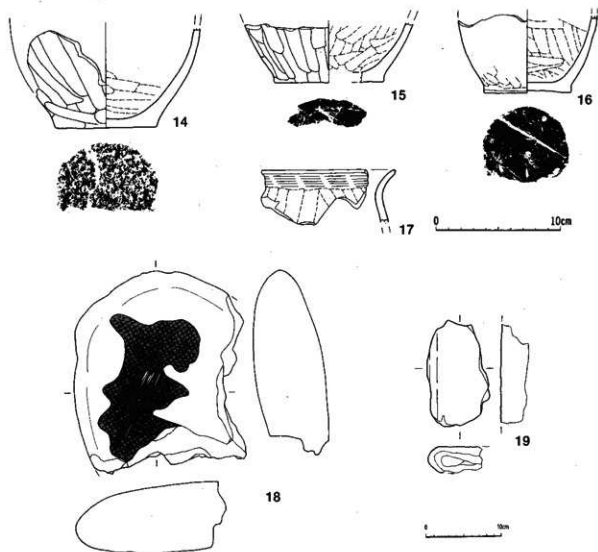
図版番号	種別	器種	出土層位	計測値 (cm)		外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半				体部下半
1	土師器	杯	フク土	—	(1.5)	(4.8)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	目取決切り	BⅡ	
2	土師器	鉢	フク土	—	(3.9)	(5.2)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナゲツケ	A	
3	土師器	甕	フク土	(23.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
4	土師器	甕	フク土	(18.0)	(5.1)	—	ヘラナデ	ヘラナデ?	—	ヘラナデ	ヘラナデ?	—	—	A	
5	土師器	甕	フク土	(24.0)	(5.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	材質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
6	貼床下	8.4	4.3	3.3	120	磁器	磁石								
7	貼床下	8.6	9.4	5.3	665	流	磁石								

図235 第382号(B)竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



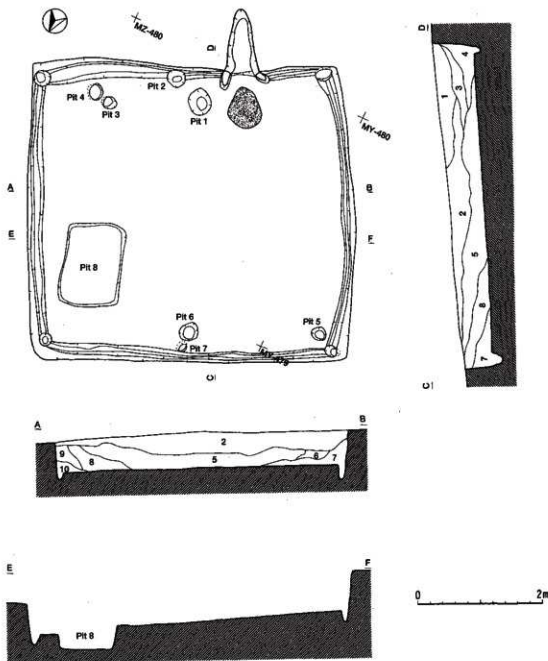
図版番号	種類	図類	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			肌面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	I調整	II調整	体部上半	体部下半	I調整	体部上半			
8	土師器	甕	カマドフ上	(15.0)	(5.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積層P-2
9	土師器	甕	フク土	—	(7.9)	(18.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	—
10	土師器	甕	フク土	21.4	(33.8)	10.4	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A Le	外面輪積層 P-3
11	須恵器	甕	フク土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
12	カマドフ上	16.6	16.2	12.2	3,310	安	台石	S-1	—						
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
13	フク土	6.9	0.4	0.5	8.4	棒状	—	—							

図236 第382号竪穴住居跡出土遺物(2)



図録番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			表面調整	分類	備考
				口径	口径	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	カマド フク土	—	(7.8)	8.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-4
15	土師器	甕	フク土	—	(4.7)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
16	土師器	甕	フク土 貼底	—	(6.3)	7.0	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	外面割傷 P-1
17	土師器	甕	アホネ 貼底	(16.0)	(4.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
図録番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
18	カマドフク土	25.5	20.2	8.8	8,700	宍	砥石								
図録番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考							
			長さ	幅	厚さ										
19	焼成粘土板	Pn4フク土	(14.3)	(7.4)	(3.8)	403	ヘラナデ調整								

図237 第382号竪穴住居跡出土遺物 (3)



第383号住居跡

- | | | | |
|------|------|---------|-----------------|
| 第1層 | 黑褐色土 | 10YR2/2 | 焼土・炭化物微量 |
| 第2層 | 黑褐色土 | 10YR2/3 | 焼土微量 |
| 第3層 | 黑褐色土 | 10YR3/2 | □—△粒微量 |
| 第4層 | 黑褐色土 | 10YR2/3 | □—△粒・炭化物微量 |
| 第5層 | 黑褐色土 | 10YR2/3 | □—△粒多量 焼土・炭化物微量 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | □—△粒微量 |
| 第7層 | 黑褐色土 | 10YR3/2 | □—△粒少量 焼土・炭化物微量 |
| 第8層 | 黑褐色土 | 10YR3/2 | □—△粒・焼土・炭化物微量 |
| 第9層 | 黑褐色土 | 10YR2/2 | □—△粒微量 |
| 第10層 | 黑褐色土 | 10YR2/3 | □—△粒微量 |

図238 第383号竪穴住居跡(1)

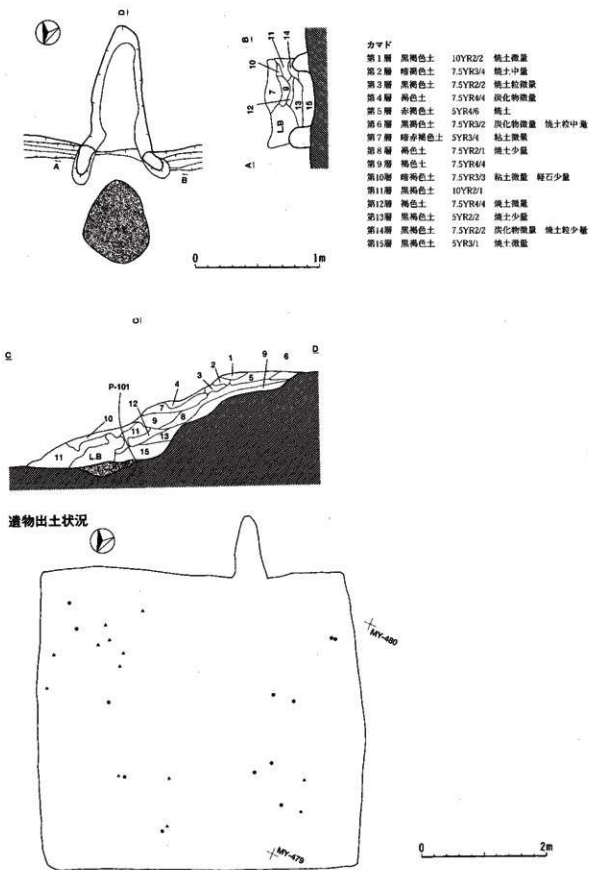
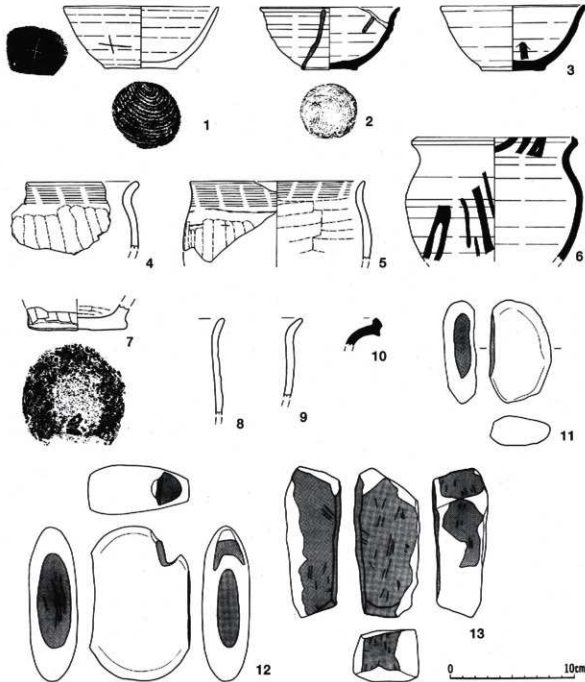


図239 第383号竪穴住居跡(2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	フク土	(12.5)	5.0	5.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	B1b	刻畫+or×側面
2	須恵器	杯	フク土	(11.2)	5.0	4.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	滑塗研	—	内外面火だすき痕
3	須恵器	杯	フク土	(11.6)	5.2	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	滑塗研	—	内面火だすき痕
4	土師器	甕	フク土	(14.0)	(5.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	—
5	土師器	甕	フク土	(14.0)	(6.2)	—	ヘラナデ	ナデ	—	ナデ	—	—	—	A	輪紋痕
6	須恵器	甕	フク土	(12.6)	(9.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	内外面火だすき痕
7	土師器	甕	フク土	—	8.0	(1.9)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂塵→ナデツケ	—	P-8
8	土師器	甕	フク土	(23.0)	(7.8)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	輪紋痕
9	土師器	甕	フク土	(14.0)	(6.3)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	—
10	須恵器	甕	フク土	—	(2.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—

図240 第383号竪穴住居跡出土遺物 (1)

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	材質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
11	フク土	8.8	4.9	2.4	140	流	砥石	S-12
12	フク土	12.3	8.0	3.8	460	凝	砥石	S-13
13	フク土	11.7	5.2	4.0	400	凝	砥石	S-7

図241 第383号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第383号竪穴住居跡 (図238～図241)

〔位置〕 MX～MZ-478～480に位置する。

〔重複〕 確認されなかった。

〔平面形・規模〕 東壁4m80cm、西壁4m70cm、南壁4m90cm、北壁5m10cmの方形である。床面積は23.23㎡で、主軸方位はN-157°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁38cm、西壁59cm、南壁58cm、北壁60cmである。床面は東側へ緩やかに傾斜する。

〔周溝〕 幅9～29cm、深さ4～30cmの周溝が一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットは12個である。柱穴は、ピット2 (21cm)、5 (24cm)、6 (30cm)、7 (33cm)、10 (21cm)、11 (36cm) と考える。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。煙道は半地下式で、住居跡外に100cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

〔その他の施設〕 東壁北側に、長軸134cm、短軸94cm、深さ38cmの長方形のピット12を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は10層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から、土師器の甕、坏や須恵器の甕、壺のほか、砥石が出土している。

〔時期〕 出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第384号竪穴住居跡 (図242～図245)

〔位置〕 MW～MY-475～477グリッドに位置する。

〔重複〕 第382号・第392号住居跡と重複し、本住居跡が第382号・第392号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 東壁6m66cm、西壁6m80cm、南壁5m5cm、北壁5m25cmの方形と考える。主軸方位はN-143°-Eである。床面積は33.17㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁45cm、西壁75cm、南壁58cm、北壁69cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅7～39cm、深さ6～11cmの周溝が一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットは20個である。柱穴は、ピット12 (34cm)、ピット13 (28cm)、ピット18 (35cm)、ピット19 (30cm) と考えられる。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。煙道は地下式で、住居跡外に120cmのびる。煙道は、煙出し方向に緩やかに下降する。

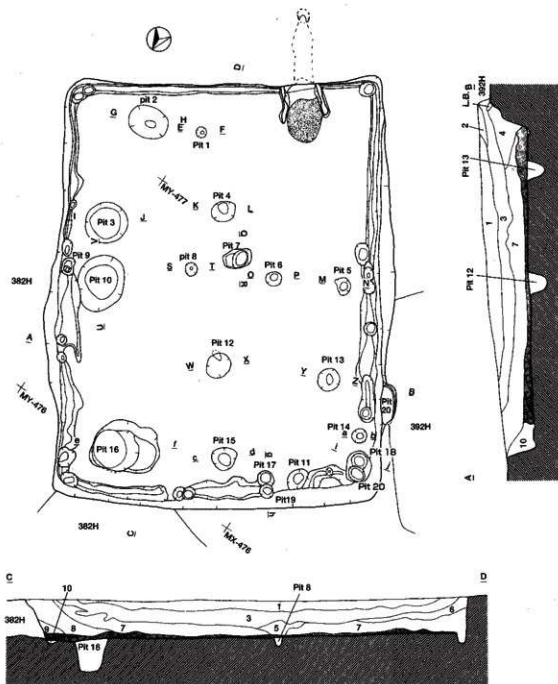
〔その他の施設〕 北東隅に、長軸108cm、短軸80cm、深さ72cmのピット16を検出した。

[堆積土] 堆積土は10層に分層される。カマド周辺から北壁にかけて炭化材を検出したことから、焼失家屋と考える。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕、坏や須恵器の甕、壺のほか、鎌が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、10世紀後半～中葉に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第384号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR1/7/1 焼土・炭化物微量
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 □-ム質土 L.B・焼土・炭化物少量
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 □-ム質土 L.B・焼土・炭化物少量
 第4層 黒褐色土 10YR2/2 □-ム質土 焼土・炭化物微量
 第5層 暗褐色土 10YR3/3 □-ム質土 焼土・炭化物・L.B中量
 第6層 暗褐色土 10YR3/4 □-ム質土 焼土・炭化物・小礫微量
 第7層 褐色土 10YR4/4 □-ム質土 焼土・炭化物微量
 第8層 暗褐色土 10YR3/3 焼土・炭化物少量
 第9層 褐色土 10YR4/4 焼土・炭化物微量 □-ム質土
 第10層 暗褐色土 10YR3/3 焼土・炭化物少量

0 2m

图242 第384号竖穴住居跡(1)

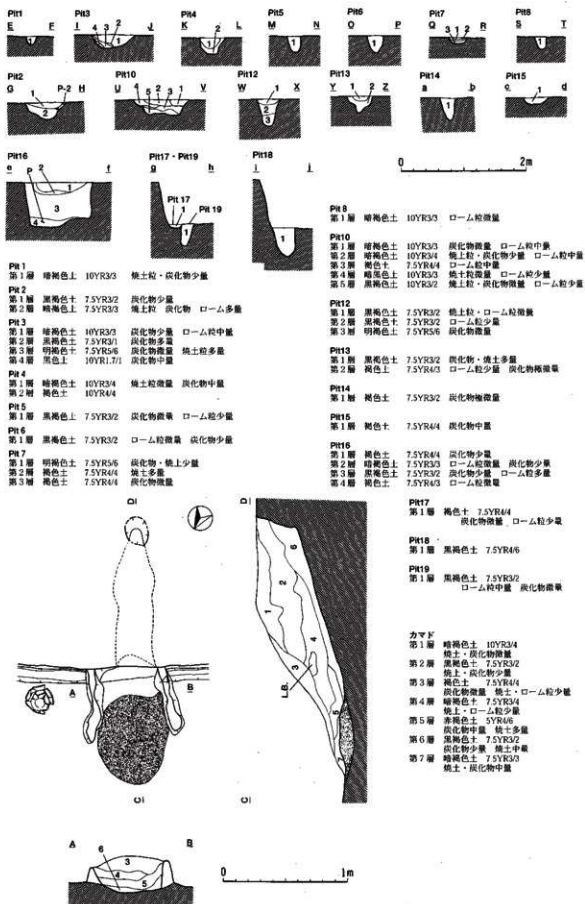
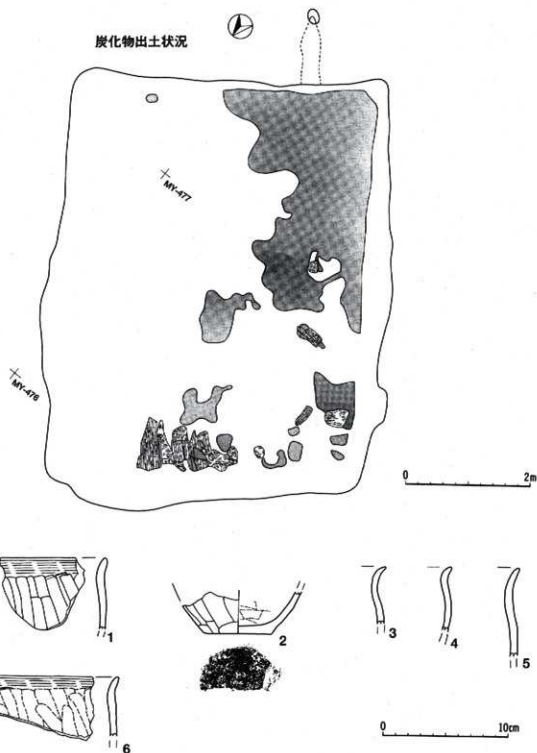
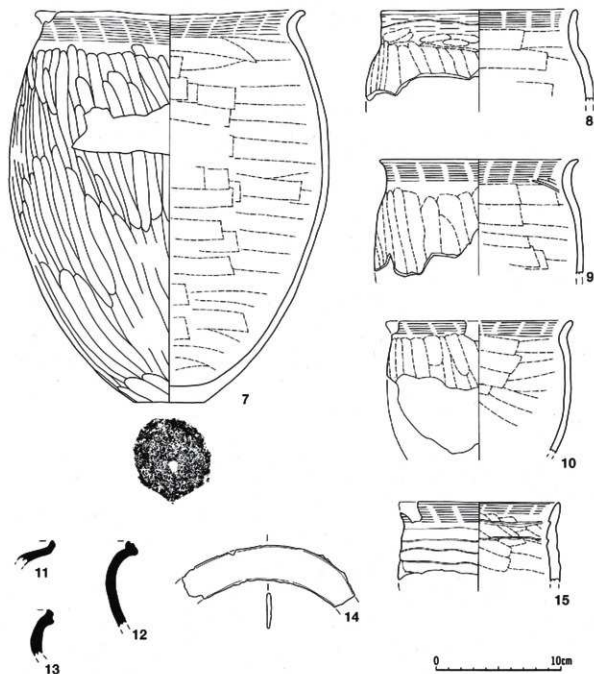


図243 第384号竪穴住居跡(2)



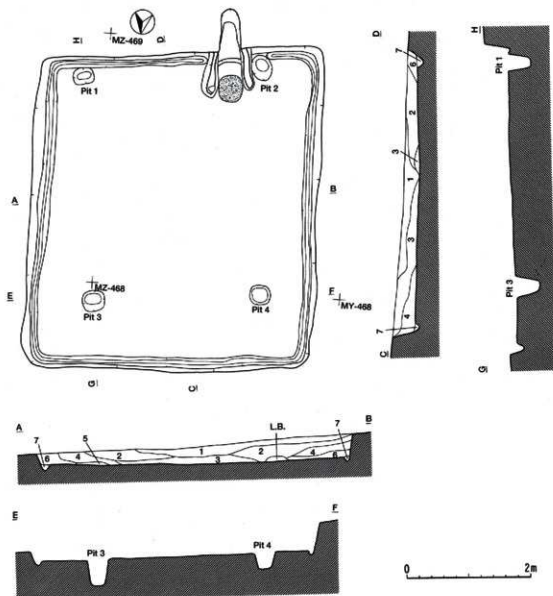
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上平	体部下平	口縁部	体部上平	体部下平			
1	土師器	甕	フク土	(12.0)	(5.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
2	土師器	甕	フク土	—	(3.5)	(6.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	FW10
3	土師器	甕	フク土	(22.0)	(4.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	不明	不明	—	—	A	
4	土師器	甕	かまど フク土	(15.0)	(5.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内面ニス状 炭化物付着
5	土師器	甕	フク土	(16.0)	(7.1)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
6	土師器	甕	フク土	(18.0)	(5.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図244 第384号竪穴住居跡(3)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調査			内面調査			表面調査	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	土師器	甕	フクナ 床面	(21.8)	31.5	5.8	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A1d	F-104 F-105
8	土師器	甕	カマド フクナ	(16.0)	(7.2)	—	ナデ?	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
9	土師器	甕	フク土	(16.0)	(9.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	—
10	土師器	甕	フク土	(15.0)	(10.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	—
11	須恵器	壺	フク土	—	(2.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
12	須恵器	甕	不明	—	(6.9)	—	ロクロ	—	—	須恵下部 312-ヘラナデ	—	—	—	—	—
13	須恵器	壺	フク土	—	(3.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
15	土師器	壺	フク土	(13.0)	(7.0)	—	ヨコナデ	ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内外面輪積痕
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	種類	備考								
		高さ	幅	厚さ											
14	床面直上	14.0	2.8	0.5	38.7	罐	Fe-I								

図245 第384号竪穴住居跡出土遺物(2)



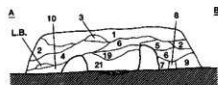
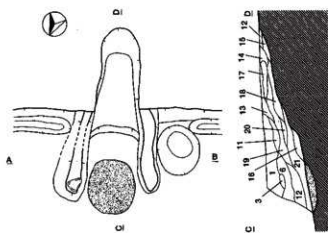
第385号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3
ローム粒中量 焼土・炭化物多量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3
焼土 炭化物
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2
焼土・炭化物多量 L.B.
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4
焼土・炭化物少量 ローム質土
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3
焼土・炭化物少量 ローム粒中量
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4
焼土・炭化物少量 ローム粒多量
- 第7層 褐色土 10YR4/4

カマド

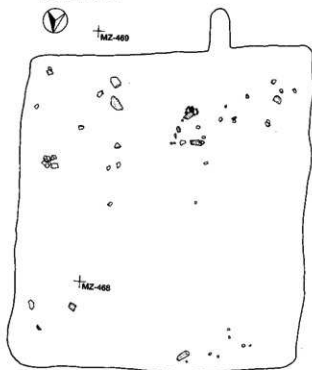
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土微量 炭化物・ローム粒少量 To a少量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 焼土微量 炭化物少量 ローム粒多量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 焼土・炭化物微量 ローム粒多量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 焼土微量 炭化物中量 ローム粒多量
- 第5層 褐色土 10YR4/4 焼土・炭化物微量
- 第6層 にぶい暗褐色土 10YR4/3 焼土微量 炭化物・ローム粒少量
- 第7層 褐色土 10YR4/4 焼土・炭化物微量
- 第8層 黒褐色土 10YR3/2 L.B.多量
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3 焼土・炭化物微量 ローム粒多量
- 第10層 暗褐色土 10YR3/3 焼土・炭化物少量 ローム粒多量
- 第11層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物少量 焼土粒・ローム粒中量
- 第12層 黒褐色土 10YR2/2 焼土・炭化物少量 ローム粒中量
- 第13層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量 焼土・炭化物少量
- 第14層 黒褐色土 7.5YR3/2 ローム粒微量 炭化物中量 焼土多量
- 第15層 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒微量 焼土・炭化物少量
- 第16層 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土・炭化物・ローム粒多量
- 第17層 赤褐色土 5YR4/6 L.B.多量
- 第18層 褐色土 7.5YR4/4 焼土・炭化物少量
- 第19層 暗褐色土 7.5YR3/4 炭化物微量 焼土ブロック多量
- 第20層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・焼土粒・炭化物多量
- 第21層 褐色土 7.5YR4/4 ローム・焼土粒微量

図246 第385号竪穴住居跡(1)



0 1m

遺物出土状況



0 2m

图247 第385号竖穴住居跡(2)

第385号竪穴住居跡（図247～図249）

〔位置〕 MY・MZ-467～469グリッドに位置する。

〔重複〕 確認されなかった。

〔平面形・規模〕 東壁4 m95cm、西壁5 m15cm、南壁4 m53cm、北壁4 m55cmの方形である。床面積は21.7㎡で、主軸方位はN-176°-Wである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁10～20cm、西壁39cm、南壁33cm、北壁6～27cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅9～20cm、深さ1～19cmの周溝が一巡する。

〔ビット〕 検出されたビットは4個である。柱穴は、ビット1（29cm）、ビット2（25cm）、ビット3（32cm）、ビット4（26cm）である。

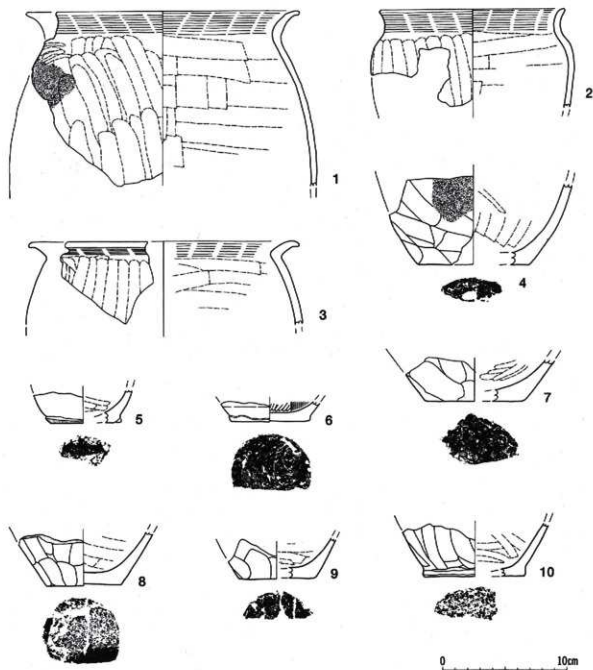
〔カマド〕 南壁西側に構築されている。礫を芯材として用い、粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に71cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は7層に分層される。

〔出土遺物〕 床面から、土師器の甕、鉢や須恵器の坏のほか、羽口、礫が出土している。

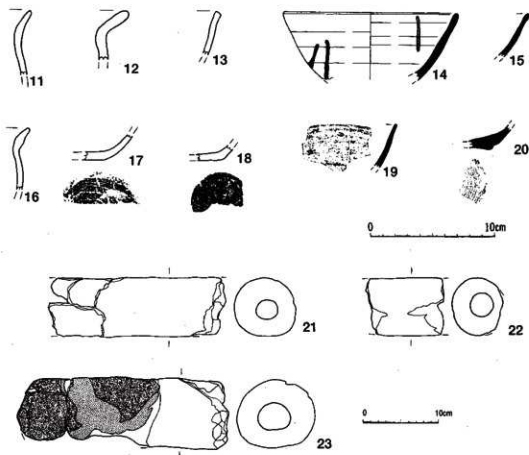
〔時期〕 出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	床面	(22.0)	(14.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	外面粘土付着
2	土師器	甕	床面	(15.0)	(7.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-27
3	土師器	甕	床面	(22.0)	(6.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-20
4	土師器	甕	フク土	—	(7.1)	(9.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナツツケ	A	P-24
5	土師器	甕	フク土	—	(2.2)	(5.2)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナツツケ	A	
6	土師器	埴	フク土	—	(1.7)	6.0	—	—	口クロ	—	—	ヘラナデ	ナツツケ	B I	内面黒色焼酎 P-32
7	土師器	甕	フク土	—	(8.0)	(3.5)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
8	土師器	甕	カマド マダキ	—	(4.2)	(6.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
9	土師器	甕	フク土	—	(3.3)	(6.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-13
10	土師器	甕	フク土	—	(4.2)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	Pi

図248 第385号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上平	体部下平	口縁部	体部上平	体部下平			
11	土師器	甕	フク土	(16.0)	(5.2)	—	不明	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	内外面輪痕
12	土師器	甕	床直	—	(3.8)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-31
13	土師器	鉢?	フク土	(9.0)	(3.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B	P-7
14	須恵器	坏	フク土	(13.8)	(5.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	内外面火だすき痕 下層
15	須恵器	坏	フク土	—	(3.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-11
16	土師器	甕	胎床	(12.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
17	土師器	坏	フク土 2層	—	(2.1)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り	B	P-1
18	土師器	坏	フク土	—	(1.2)	(5.0)	—	—	不明	—	—	不明	擦れ	B?	
19	須恵器	坏	フク土	—	(3.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外面、縦線付着 内外面火だすき痕
20	須恵器	坏	フク土	(2.1)	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	擦れ	—	内外面火だすき痕
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考							
		長さ	外径	内径											
21	床直	(23.9)	7.8×8.3	2.6	(1,290)	B	ナデ	弱口-3							
22	床直	(10.5)	7.6×(6.8)	3.1	(420)	不明	ナデ	弱口-1							
23	Patフク土	28.5	9.2×10.4	3.7×4.4	(1,640)	B									

図249 第385号竪穴住居跡出土遺物(2)

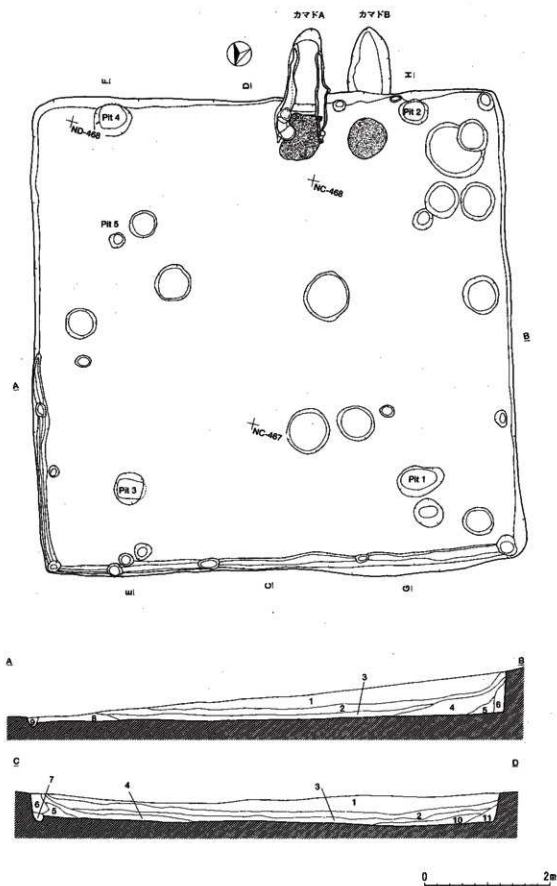
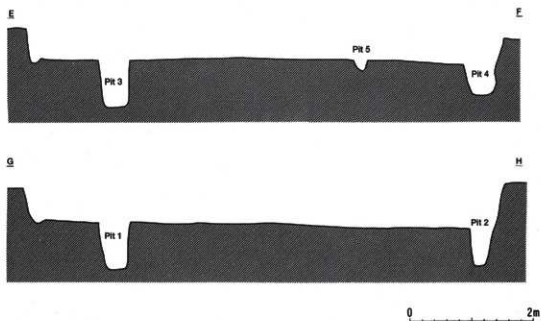


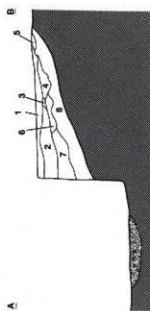
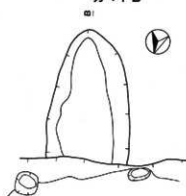
図250 第386号竪穴住居跡(1)



第386号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 B-Tm混入 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 B-Tm混入 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
 第4層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
 第5層 黒色土 10YR2/1 ローム粒多量
 第6層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量
 第7層 黒色土 10YR2/1 ローム粒多量 L.B.少量
 第8層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量 炭化物・焼土粒微量
 第9層 黒褐色土 10YR2/1 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
 第10層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量 炭化物微量
 第11層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量 焼土粒少量 炭化物微量

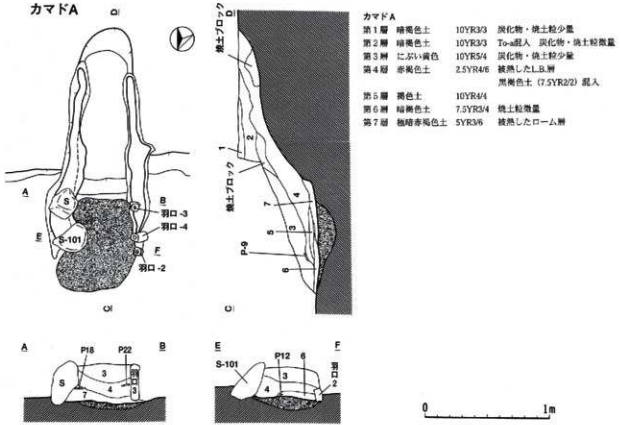
カマドB



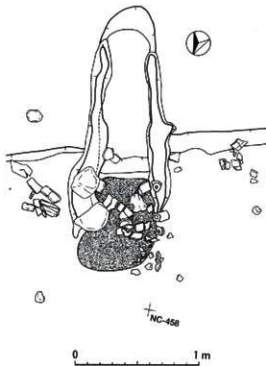
カマドB

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.・焼土微量
 第2層 暗褐色土 10YR3/2 焼土微量
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 B-Tm少量
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 B-Tm多量
 第5層 赤褐色土 5YR4/6 焼土層
 第6層 褐色土 10YR4/4
 第7層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒少量
 第8層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量

図251 第386号竪穴住居跡(2)



カマドA遺物出土状況



火山灰範囲

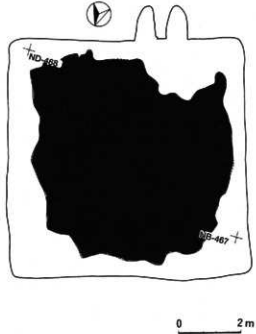
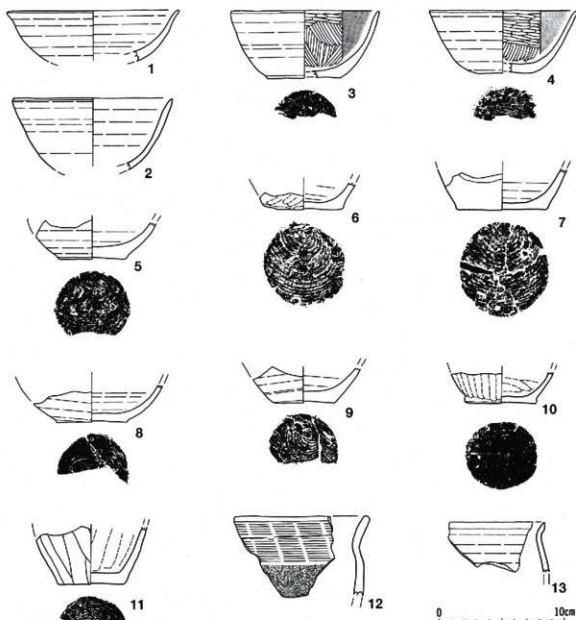
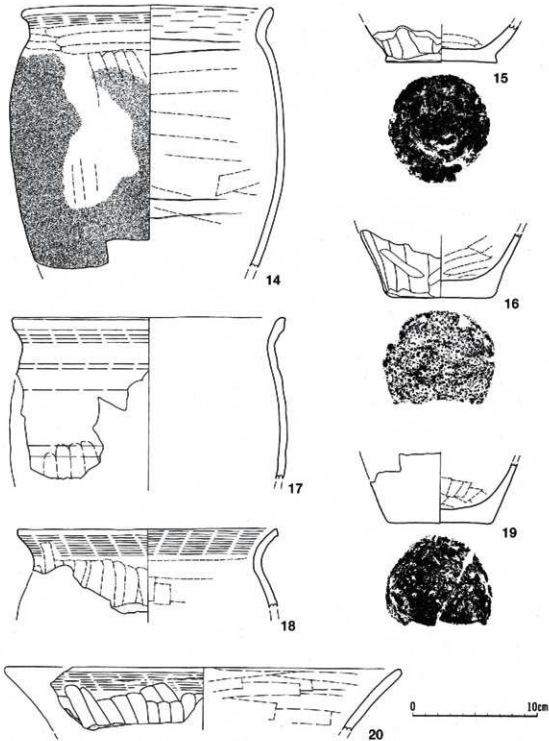


図252 第386号竪穴住居跡(3)



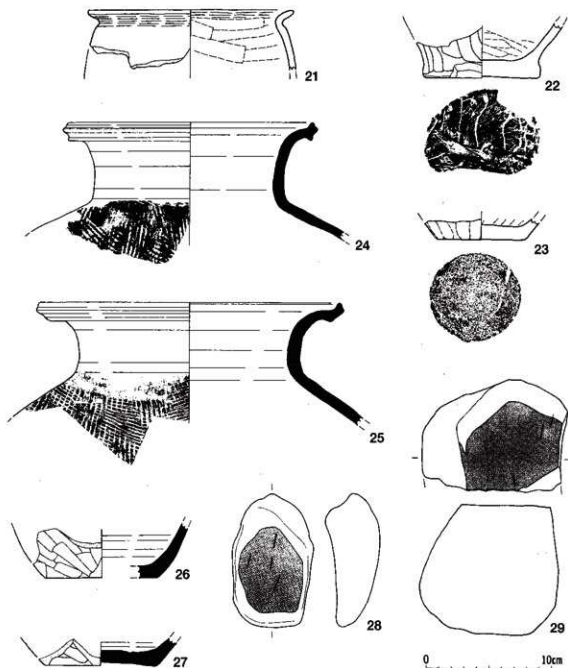
図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			表面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体上半	体下半	口縁部	体上半	体下半			
1	土師器	杯	火山灰上	(13.8)	(4.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
2	土師器	杯	フク土	(13.0)	(5.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
3	土師器	杯	火山灰中	(12.0)	5.4	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	糸切り	B I b	内面黒色処理
4	土師器	杯	火山灰中	(12.0)	5.0	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	斜線彫り	B I b	内面黒色処理
5	土師器	杯	灰面	—	(3.2)	(5.6)	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ	斜線彫り	BⅡ	外面磨減、P-33
6	土師器	杯	灰床下	—	(2.5)	(6.2)	—	—	ナデ?	—	—	ロクロ	糸切り	BⅡ	P-35
7	土師器	鉢	古ササ フク土	—	(3.3)	(7.2)	—	—	不明	—	—	ロクロ?	糸切り	B	P-4, P-6
8	土師器	杯	フク土	—	(2.5)	5.8	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り	BⅡ	外面磨減
9	土師器	甕?	火山灰中	—	(3.9)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	斜線彫り ヘラミガキ	BⅡ	FIG.33, P-204
10	土師器	甕	灰面	—	(2.6)	(5.4)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
11	土師器	杯	火山灰中	—	(1.3)	(5.6)	—	—	ヘラミガキ	—	—	ヘラミガキ	糸切り	B	
12	土師器	甕	火山灰上	(19.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	特殊陶 器土師器
13	土師器	甕	火山灰上	(10.0)	(4.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B	

図253 第386号竪穴住居跡出土遺物(1)



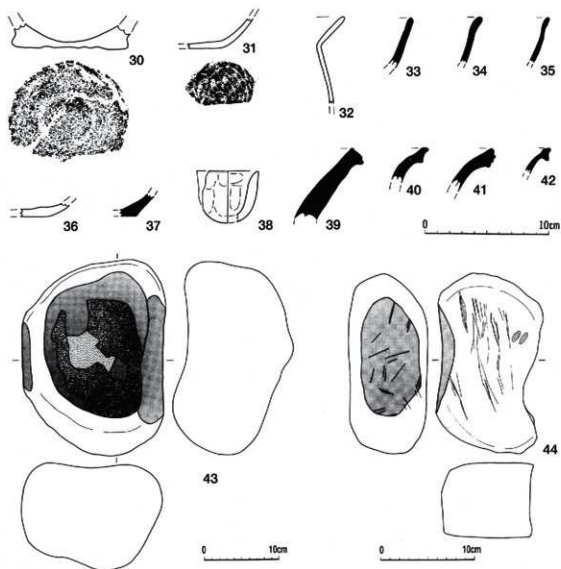
図版番号	種別	面種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			表面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	カマド フタ土	(20.4)	(21.0)	—	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ?	ヘラナデ	—	—	A I	P.8, 9 表面筋子付新 P.10 内面筋子付新
15	土師器	甕	カマド フタ土	—	(3.3)	(3.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ナデ	ナデツケ	A	表面スス状痕 P.14
16	土師器	甕	フタ土	—	(5.0)	(3.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
17	土師器	甕	床面	(22.0)	(13.0)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B I	
18	土師器	甕	Pu2 床面	(21.0)	(6.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P.202
19	土師器	甕	床面	—	(3.2)	(5.6)	—	—	ロクロ?	—	—	ヘラナデ	糸切り	B	表面筋線 P.20
20	土師器	甕	Pu2 敷底	(32.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	

図254 第386号竪穴住居跡出土遺物 (2)



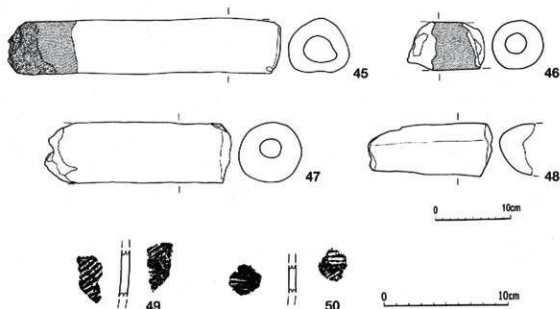
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
21	土師器	甕	カマド フタキ	(18.6)	(4.7)	—	ヨコナデ	不明	—	ヨコナデ	不明	—	—	A	P-20
22	土師器	甕	床面	—	(5.2)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	不明 ヘラナデ	A	
23	土師器	甕	火山灰中	—	(1.8)	(7.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ナデ?	砂底	A	
24	須恵器	甕	火山灰中	(19.6)	(9.5)	—	ロクロ	タタキ目	—	ロクロ	あて其處	—	—	—	自然跡
25	須恵器	甕	火山灰中	—	(9.9)	—	ロクロ	タタキ目	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	—	
26	須恵器	甕	フタキ	—	(3.8)	(9.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	明確な ヘラケズリ	—	
27	須恵器	甕	火山灰中	—	(2.2)	(9.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	明確な ヘラケズリ	—	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	材質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
28	火山灰上	10.6	6.4	4.2	340	凝	磁石								
29	床面	8.1	11.1	10.4	1,310	流	磁石								

図255 第386号竪穴住居跡出土遺物(3)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
30	土師器	甕	マドフク土	—	(2.4)	(9.6)	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A?	P-11, P-13	
31	土師器	坪	火床面下	—	(2.3)	(5.0)	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ	糸切り	B	外面調整 P-26	
32	土師器	甕	マドフク土 点集層下 (14.0)	(6.7)	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	A	
33	須恵器	坪	床面	—	(4.0)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	内面火だすき痕
34	須恵器	坪	火山灰上	—	(3.6)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面火だすき痕
35	須恵器	坪	フク土	—	(3.6)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面火だすき痕
36	土師器	坪	火山灰中	—	(1.3)	(5.6)	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ?	糸切り	B		
37	須恵器	坪	床直	—	(1.8)	(5.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	網糸切り	—	—	外面火だすき痕
38	土師器	小型土器	火山灰	(5.0)	(4.2)	(2.0)	コビ圧痕	コビ圧痕	コビ圧痕	コビ圧痕	コビ圧痕	コビ圧痕	コビ圧痕	コビ圧痕	—	
39	須恵器	甕	火山灰上	—	(5.6)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	
40	須恵器	甕	火山灰中	—	(2.7)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	
41	須恵器	甕	火山灰上	—	(3.8)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	
42	須恵器	釜	フク土	—	(2.5)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	材質	分類	備考								
		長さ	幅	厚さ												
43	床面	26.2	19.1	13.9	8,700	安	台石	S-1 スス炭化物付着								
44	床面	18.6	9.9	8.3	2,370	甌	磁石	S-10								

図256 第386号竪穴住居跡出土遺物(4)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
45	カマド芯材	36.6	7.3×8.2	3.5×4.0	(2,250)	C	ナデ	羽口-3
46	カマド芯材	(10.5)	7.8×8.3	2.6	(313)	B	ナデ	羽口-2
47	カマド芯材	(25.0)	8.0×8.4	2.5	(1,590)	B	ナデ	羽口-1
48	カマドフタ土	(18.7)	(6.9)×(4.8)	—	(425)	不明	ナデ・指痕	羽口-2

図版番号	種類	図種	出土層位	計測値 (cm)				外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
49	土師器	甕	火山灰上	—	—	—	—	夕タキ目	—	—	アテ具痕	—	—	—	—	—
48	土師器	甕	火山灰中	—	—	—	—	夕タキ目	—	—	アテ具痕	—	—	—	—	—

図257 第386号竪穴住居跡出土遺物 (5)

第386号竪穴住居跡 (図250～図257)

〔位置〕 NA～ND-466～468グリッドに位置する。

〔重複〕 確認されなかった。

〔平面形・規模〕 東壁4m20cm、西壁4m16cm、南壁3m98cm、北壁4m31cmである。主軸方位はN-165°-Eで、床面積は56.32㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁16cm、西壁64cm、南壁30～60cm、北壁48cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅10～26cm、深さ3～18cmの周溝が東壁・北壁の一部から検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは34個である。柱穴は、ピット1 (38cm)、ピット2 (43cm)、ピット3 (46cm)、ピット4 (41cm) である。

〔カマド〕 南壁西側に2つ構築されている。東側をカマドA、西側をカマドBとし、カマドAが新しい。カマドAは、礫、羽口を芯材としてこの上に粘土を覆って築いている。焚き口部とその周辺から、多量の土師器、羽口が出土した。煙道は半地下式で、住居跡外に115cmのびる。カマドBは火床面と煙道のみ残存する。煙道は半地下式で、住居跡外に104cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩

やかに立ち上がる。また、覆土3、4層にB-Tm火山灰が混入している。

[その他の施設] 南壁西側でカマド付近に、長軸18cm、短軸10cmのビット33と径20cmのビット34を検出した。

[堆積土] 堆積土は11層に分層され、1、2層にB-Tm火山灰が堆積している。床面のほぼ全面に炭化材が検出されたことから、焼失家屋と考える。

[出土遺物] 土師器の甕、坏、埴、小型土器や須恵器の坏、甕、壺のほか、砥石、台石、羽口などが出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀前半～後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第388号竪穴住居跡 (図258～図262)

[位置] MZ～NB-476～478グリッドに位置する。

[重複] 確認されなかった。

[平面形・規模] 東壁3m90cm、西壁4m5cm、南壁4m40cm、北壁4m25cmの方形である。床面積は16.28㎡で、主軸方位はN-146°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁15cm、西壁57cm、南壁36cm、北壁23cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅6～21cm、深さ1～19cmの周溝が断片的に検出された。

[ビット] 検出されたビットは13個である。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に構築されている。礫、土師器を芯材としてこの上に粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に94cmのびる。1、2、5、6層にT-o-a火山灰が混入している。

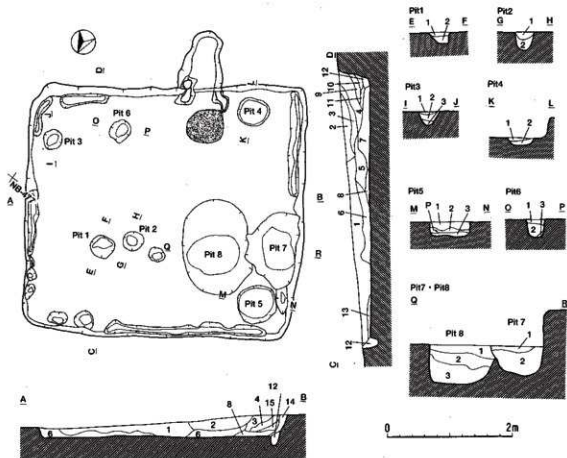
[その他の施設] 西壁北側に、長軸120cm、短軸98cm、深さ45cmのビット7、径150cm、深さ58cmのビット8を検出した。

[堆積土] 堆積土は15層に分層され、1～5、8～15層にT-o-a火山灰が混入していた。また、ビット1の1・2層、ビット3の1・2層、ビット5の3層、ビット6の2層、ビット7の1層、ビット8の1層にもT-o-a火山灰が混入していた。

[出土遺物] 床面及び床面直上から、土師器の坏、甕、覆土からは多数の土師器の坏、甕や砥石が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築したと考えられる。

(相馬良仁)

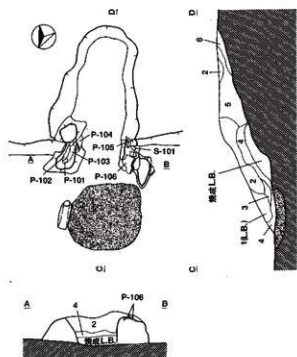


第388号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 To-a混入 粘土粒混入 炭化物微量
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 To-a混入 炭化物・焼土粒微量
 第3層 黒褐色土 10YR3/2 To-a混入 粘土粒微量 炭化物微量
 第4層 黒褐色土 10YR3/1 To-a混入 赤い黄褐色土 (10YR5/4)
 第5層 褐色土 10YR4/4 To-a混入 炭化物微量
 第6層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物・焼土粒微量
 第7層 黒褐色土 10YR2/2 黒色土 (10YR1/7) 混入 粘土粒微量 炭化物微量
 第8層 黒褐色土 10YR2/3 To-a混入 赤い黄褐色土 (10YR5/4) 混入 炭化物微量
 第9層 暗褐色土 10YR3/3 To-a混入 炭化物・焼土粒微量
 第10層 黒褐色土 10YR2/2 To-a混入 炭化物・焼土粒微量
 第11層 黒褐色土 10YR2/2 To-a混入 炭化物・焼土粒微量
 第12層 黒褐色土 10YR2/3 褐色土 (10YR4/6) 混入 炭化物微量
 第13層 黒色土 10YR2/1 To-a混入 黒褐色土 (10YR3/2) 混入 炭化物・焼土粒微量
 第14層 黒色土 10YR2/1 To-a混入 明黄褐色土 (10YR6/6) 混入 炭化物・焼土粒微量
 第15層 黒褐色土 10YR3/2 To-a混入 明黄褐色土 (10YR6/6) 混入 炭化物微量
 PH 1
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 To-a混入 明黄褐色土 (10YR7/6) 混入 焼土粒微量
 第2層 明黄褐色土 10YR6/6 To-a混入 黒褐色土 (10YR3/2) 混入 粘土粒微量
 PH 2
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒混入 炭化物微量 浮石粒微量
 第2層 暗褐色土 10YR3/2 粘土粒混入 粘土粒微量

- PH 3
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 To-a混入 炭化物・焼土粒微量
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 To-a混入 ローム粒微量
 第3層 明黄褐色土 10YR6/6 浮石粒
 PH 4
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物微量
 第2層 赤褐色土 5YR4/8 暗褐色土 (7.5YR3/4) 混入 焼土ブロック混入 炭化物微量
 PH 5
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 粘土粒混入 炭化物・焼土粒微量
 第2層 暗褐色土 7.5YR3/3 黄褐色土 (10YR5/6)・赤褐色土 (5YR4/8) 混入 炭化物少量 焼土微量
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 To-a混入 ローム粒・粘土粒混入 炭化物・焼土粒微量
 PH 6
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒混入 炭化物・焼土粒微量
 第2層 黒色土 10YR2/1 To-a混入 黄褐色土 (10YR7/8)
 第3層 暗褐色土 10YR3/2 炭化物微量 焼土粒微量
 PH 7
 第1層 赤い黄褐色土 10YR4/3 To-a混入 黄褐色土 (10YR7/8) 混入 粘土粒混入 粘土粒微量
 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒混入 炭化物中量
 PH 8
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 焼土微量 炭化物少量 To-a中量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・焼土微量
 第3層 褐色土 7.5YR4/4 焼土微量 炭化物微量

図258 第388号竪穴住居跡 (1)



カマダ

- 第1層 ぶい黄褐色 10YR5/3
To-a底入 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 暗褐色上 10YR3/3
To-a底入 焼土粒少量 炭化物微量
- 第3層 ぶい黄褐色 10YR5/4
赤褐色土 (5YR4/6) 混入 焼土粒微量
- 第4層 褐色上 7.5YR4/6
黄褐色土 (10YR5/6)・褐色土 (7.5YR4/4) 混入 浮石微量
- 第5層 ぶい黄褐色 10YR4/3
To-a底入 褐色土 (7.5YR4/6) 混入 焼土粒微量
- 第6層 褐色土 7.5YR4/4
To-a底入 褐色土 (10YR1/1) 混入 炭化物微量

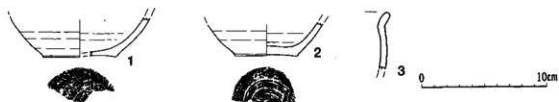
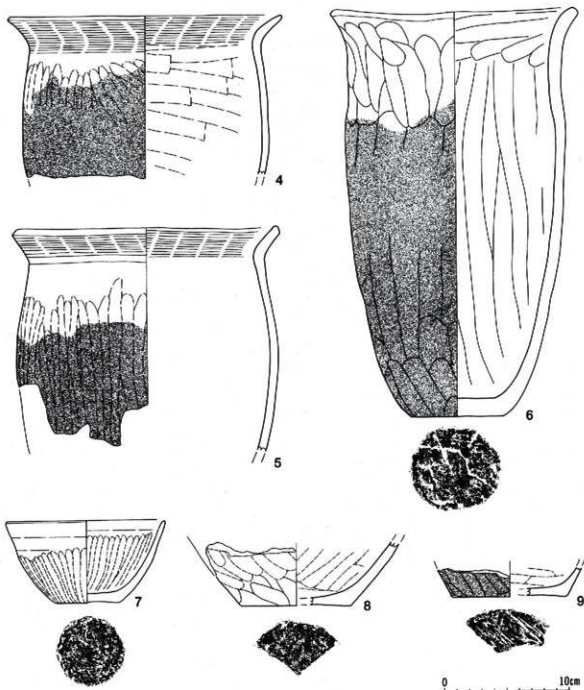
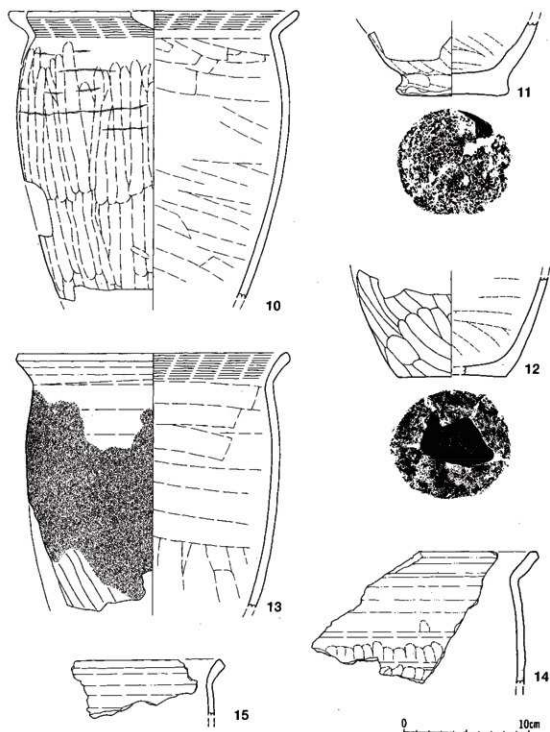


図259 第388号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



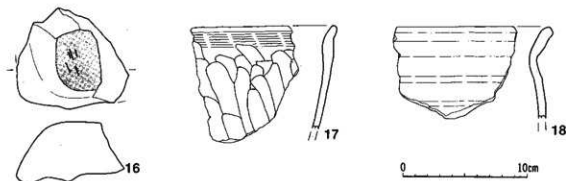
図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	胴高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	—	(3.7)	(6.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り?	B II b	
2	土師器	坏	床蔵	—	(2.8)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転成形?	B II b	P-12
3	土師器	甕	カマド	(10.8)	(4.8)	—	不明	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面削落
4	土師器	甕	カマド ツケ土	(22.0)	(13.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-103 外面粘土付着
5	土師器	甕	カマド	(20.0)	32.8	7.4	ヘラナデ?	ヘラナデ?	ヘラナデ?	ヘラナデ?	ヘラナデ?	ヘラナデ?	ヘラナデ?	A I e	P-19 外面粘土付着
6	土師器	坏	床蔵	12.8	6.6	5.0	ロクロ	ヘラナデ?	ヘラナデ?	ロクロ	ヘラナデ?	ヘラナデ?	糸切り?	B I a	P-22
8	土師器	甕	フク土	—	(5.4)	(8.6)	—	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	A	外面粘土付着
9	土師器	甕	フク土	—	(2.2)	(9.4)	—	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	A	外面粘土付着

図260 第388号竪穴住居跡出土遺物(2)



図番 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	鋳高	底径	口縁様	体部上半	体部下半	口縁様	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	床直	(23.0)	(23.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1c	P-5 P-8 P-2輪破損
11	土師器	甕	フク土	—	(6.0)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	ヘラナデ	—	砂裏— ナデツク	A1c	—
12	土師器	甕	カマド フタ	—	(8.6)	(8.8)	—	—	ヘラナデ	—	ヘラナデ	—	砂裏— ナデツク	A	P-105
13	土師器	甕	カマド フタ	(22.0)	(20.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-104 P-102 外底動土付甕
14	土師器	甕	床直	(24.0)	(10.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-11
15	土師器	甕	フク土	(20.0)	(4.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	—

図261 第388号竪穴住居跡出土遺物 (3)



図録番号	輪郭	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上平	体部下平	口縁部	体部上平	体部下平			
17	土師器	甕	床直	(18.0)	(9.3)	—	ヨコナデ	ヘタズリ	—	ヨコナデ	ヘタナデ	—	—	A	P-1
18	土師器	甕	フク土	(22.0)	(7.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	

図録番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
16	フク土	8.9	8.0	4.8	440	流	砥石	炭化物付着

図262 第388号竪穴住居跡出土遺物(4)

第389号竪穴住居跡 (図263～図265)

〔位置〕 NB・NC-476・477グリッドに位置する。

〔重複〕 確認されなかった。

〔平面形・規模〕 東壁3 m42cm、西壁3 m30cm、南壁3 m38cm、北壁3 m47cmの方形である。床面積は10.51㎡で、主軸方位はN-162°-Wである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁31cm、西壁50cm、南壁57cm、北壁38cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されたピットは2個である。いずれも柱穴とは考えられない。

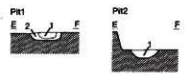
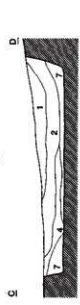
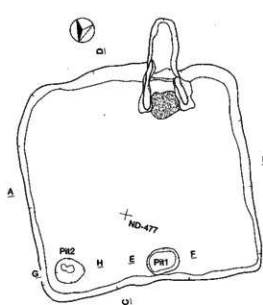
〔カマド〕 南壁西側に構築されている。ソデは、芯材を使わず、粘土を用いて構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に74cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は7層に分層され、1、2、6層にB-Tm火山灰が混入している。

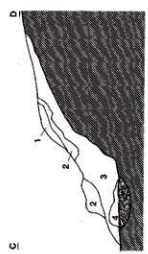
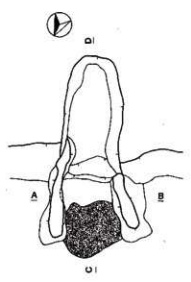
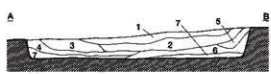
〔出土遺物〕 床面から、土師器の甕、小型土器や須恵器の鉢、壺が出土し、覆土からは、土師器の甕や砥石が出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



- 第389号住居跡**
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 B-Tm混入 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
 - 第2層 黒褐色土 10YR2/2 B-Tm混入 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
 - 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム質土 炭化物・焼土粒微量
 - 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒 炭化物・焼土粒微量
 - 第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
 - 第6層 黒褐色土 10YR2/2 B-Tm混入 黒色土 (10YR2/1) 混入
 - 第7層 黒褐色土 10YR2/1 炭化物・焼土粒少量 ローム粒微量
- PH1**
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・焼土粒中量
 - 第2層 褐色土 10YR4/6 炭化物微量
- PH2**
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量



- カマド**
- 第1層 暗褐色土 10YR2/2 焼土粒微量
 - 第2層 黒色土 7.5YR1.7/1 ローム粒・焼土粒少量
 - 第3層 黒色土 7.5YR2/1 焼土粒中量 ローム粒少量
 - 第4層 にぶい黄褐色土 7.5YR5/4 焼土粒少量 暗赤褐色土 (5YR3/4)

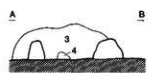
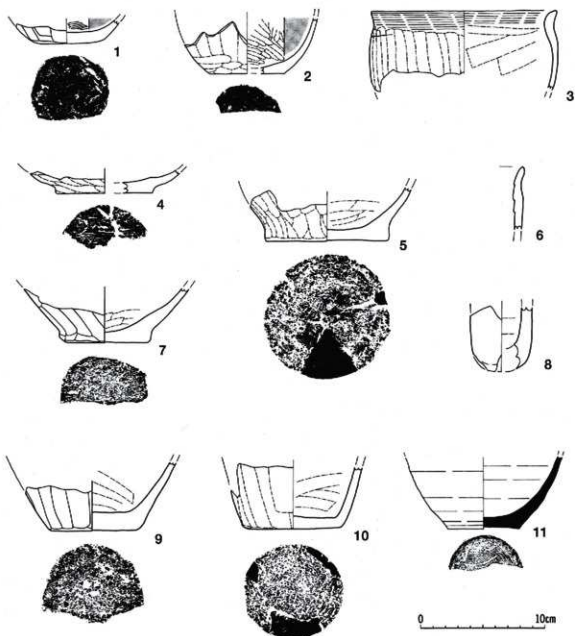
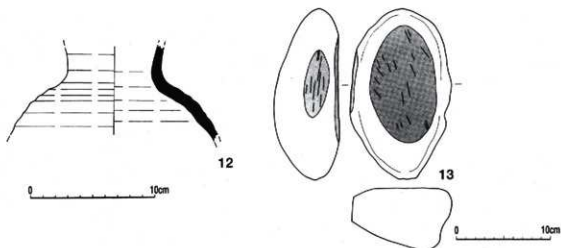


図263 第389号竪穴住居跡



図版 番号	種 類	器 種	出土部位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	—	(2.8)	5.0	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラミヤコ	ヘラナズリ	A	内面黒色処理
2	土師器	甕	フク土	—	(4.2)	(6.0)	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラミヤコ	ナデツケ	A	内面黒色処理
3	土師器	甕	床面	(15.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	—	A	
4	土師器	埴?	フク土	—	(7.8)	(1.8)	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナズリ	ヘラナズリ	A	
5	土師器	甕	フク土	—	(4.2)	10.0	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナズリ	砂底	A	
6	土師器	甕	フク土	(15.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	—	A	外面数珠 内面粘着
7	土師器	甕	フク土	—	(4.3)	(7.0)	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナズリ	砂底	A	
8	土師器	小型土器	フク土	—	(5.2)	(3.0)	—	不明	不明	—	ヘラナズリ	ヘラナズリ	—	—	外面磨減
9	土師器	甕	フク土	—	(5.4)	7.0	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナズリ	砂底	A	
10	土師器	甕	床面	—	(5.2)	(7.0)	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナズリ	砂底	A	
11	須恵器	鉢?	フク土	—	(5.8)	(5.8)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	焼未切	—	

図264 第389号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	胴径	底径	口縁傾	体傾上半	体傾下半	口縁部	体傾上半	体傾下半			
12	灰土器	壺	フク土	—	(7.8)	—	—	口クロ	—	—	口クロ	—	—	—	—
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
13	床面	18.1	10.7	6.6	1650	炭	炭石								

第265 第389号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第390号竪穴住居跡 (図266～図270)

〔位置〕 NB・NC-477・478グリッドに位置する。

〔重複〕 第376号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁5m10cm、西壁5m20cm、南壁4m90cm、北壁5m15cmの方形である。床面積は25.26㎡で、主軸方位はN-77°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁20～30cm、西壁52cm、南壁67cm、北壁30cmである。床面は北側に緩やかに傾斜する。

〔周溝〕 幅8m～12cm、深さ7～22cmの周溝がほぼ一巡する。

〔ビット〕 検出されたビットは13個である。柱穴は、ビット7 (28cm)、ビット8 (33cm)、ビット11 (27cm)、ビット13 (25cm) と考える。

〔カマド〕 東壁西側に構築されている。礎をソデや天井部の芯材として転用し、この上に粘土を覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に83cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。焚き口及び周辺から、多量の土師器や礫が出土している。

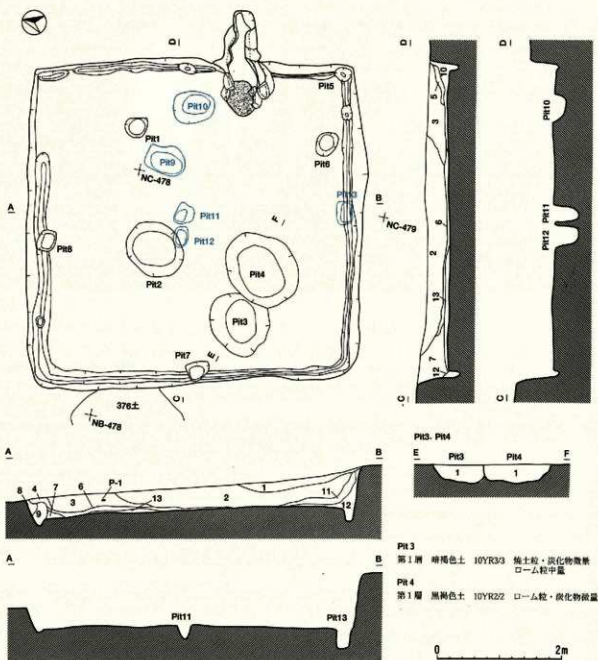
〔その他の施設〕 南西隅付近に、径96cm、深さ30cmのビット3と長軸130cm、短軸106cmのビット4、中央やや北側に、長軸96cm、短軸80cmのビット2を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は13層に分層され、6層は、炭化物層である。

〔出土遺物〕 床面及び床面直上から、土師器の坏、甕や小刀、鉄製紡錘社が出土し、覆土から土師器の坏、甕が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築したと考えられる。

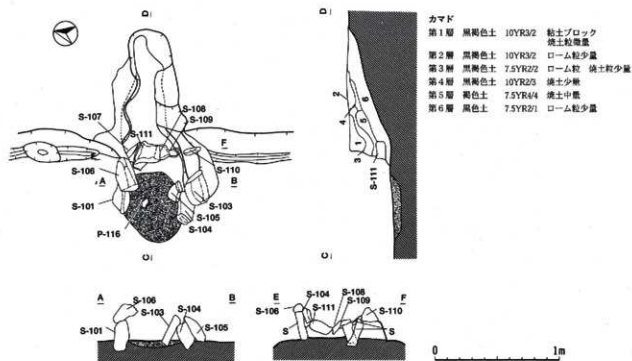
(相馬良仁)



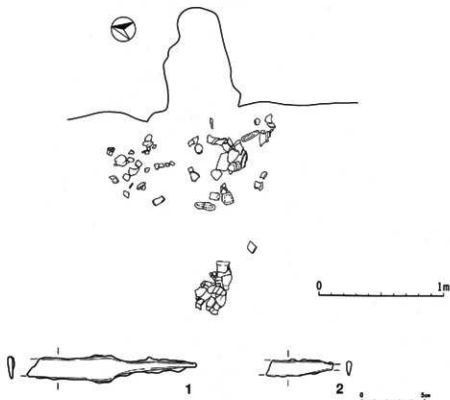
第390号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR2/2	□—ム粒微量 炭化物微量
第2層	黒色土	10YR2/1	□—ム粒少量 炭化物微量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	□—ム粒少量 炭化物微量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	□—ム粒微量
第5層	暗褐色土	10YR3/3	□—ム粒微量
第6層	黒色土	10YR1/2/1	炭化物
第7層	紅赤い黄褐色土	10YR4/3	粘土微量 □—ム粒少量
第8層	暗褐色土	10YR3/4	□—ム粒少量
第9層	赤褐色土	10YR2/2	□—ム粒中量 炭化物微量
第10層	赤褐色土	10YR2/2	□—ム粒微量 炭化物微量
第11層	暗褐色土	10YR3/3	粘土微量 炭化物微量
第12層	褐色土	10YR4/4	□—ム粒少量 粘土中量
第13層	黒色土	10YR1/3/1	□—ム粒中量 炭化物微量

図266 第390号竪穴住居跡(1)

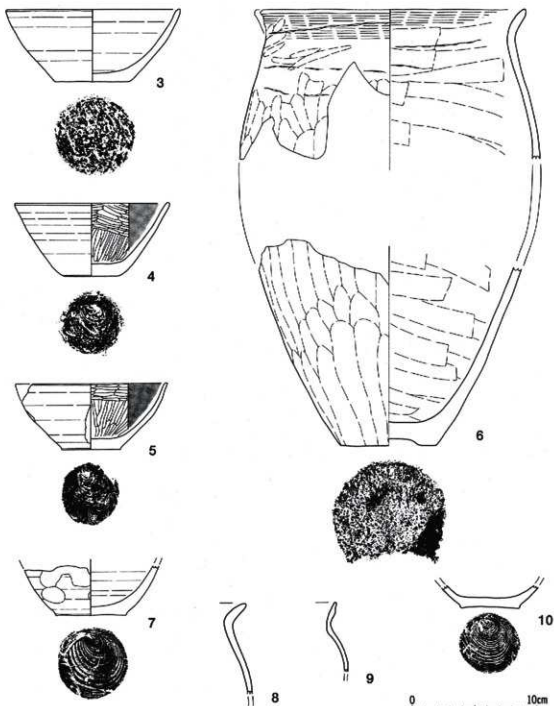


カマド 遺物出土状況



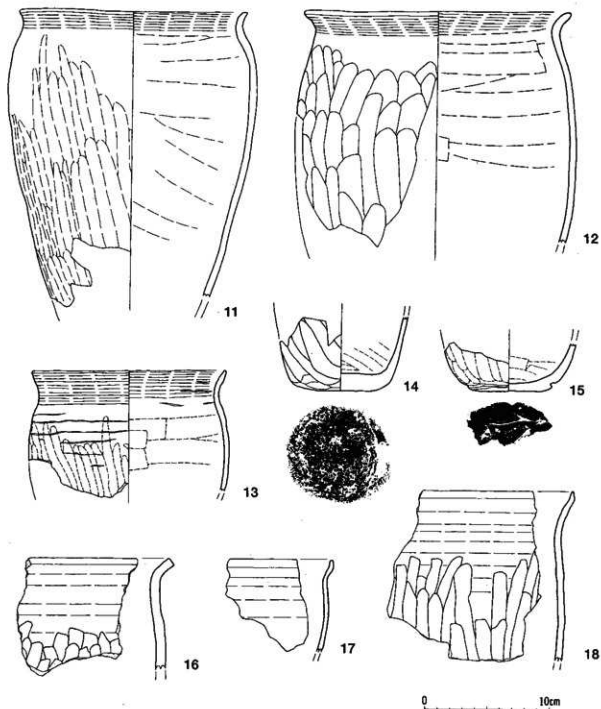
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
1	床直	13.6	1.7	0.5	29.8	小刀	Fe-2
2	カマド	5.2	1.1	0.4	4.4	刀子	Fe-1

図267 第390号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



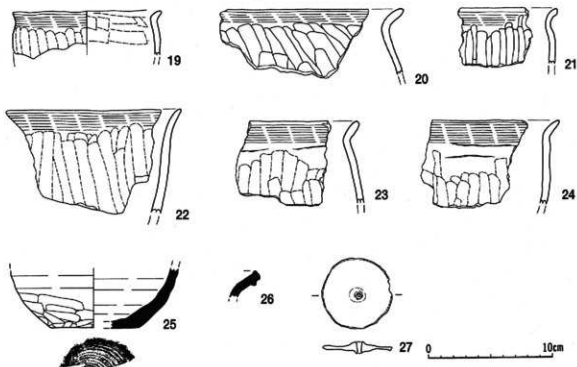
図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
3	土師器	杯	カマド	(14.1)	(5.7)	(6.0)	ロクロ	ロクロ	不明	ロクロ	ロクロ	ロクロ	不明	BⅡb	P-13
4	土師器	杯	フク土	(12.6)	(5.9)	(4.4)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミダキ	ヘラミダキ	ヘラミダキ	黒切り ヘラミダキ	BⅠb	内面黒色粘埋 欠
5	土師器	杯	床底	(13.0)	(5.4)	(4.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミダキ	ヘラミダキ	ヘラミダキ	黒切り ヘラミダキ	BⅠb	内面黒色粘埋
6	土師器	壺	床底 カマド	22.0	(35.0)	7.6	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂造	AⅠc	輪模造
7	土師器	杯	フク土	—	(4.5)	(5.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	刷毛刷り	BⅡ	P-120
8	土師器	葉	カマド	(22.0)	(7.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-122
9	土師器	杯	カマド	(14.0)	(5.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内面欠付層 欠
10	土師器	杯	フク土	—	(1.8)	(4.8)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミダキ	刷毛刷り	BⅠ	内面黒色粘埋

第268 第390号竪穴住居跡出土遺物(2)



図録 番号	種類	胎種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
11	土師器	斐	床面	18.2	(28.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1c	P-3, 8, 9
12	土師器	斐	カマド	21.6	(19.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1	P-101, 111, 139
13	土師器	斐	カマド	15.6	(9.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ ナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積版, P-146
14	土師器	斐	カマド	—	(6.8)	7.0	—	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ナデツク	—	—	A	P-134, 118
15	土師器	斐	ガツツ	—	(3.9)	(7.0)	—	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ナデツク	—	—	A	
16	土師器	斐	カマド	(20.0)	(9.5)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	P-102
17	土師器	斐	フク土	(13.0)	(7.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
18	土師器	斐	カマド	(22.0)	(13.7)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	P-156

図269 第390号竪穴住居跡出土遺物(3)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整		内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半			
19	土師器	甕	ガマドフク土 (12.0)	(3.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
20	土師器	甕	カマドフク土 (20.0)	(5.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-115
21	土師器	甕	Ph 4 (13.0)	(4.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-201
22	土師器	甕	カマドフク土 (23.0)	(8.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-154
23	土師器	甕	フク土 (19.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪痕直
24	土師器	甕	フク土 (12.0)	(6.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪痕直
25	須恵器	甕?	カマドフク土 (4.0)	(7.7)	—	—	—	—	ロクロ→ケズリ	—	—	ロクロ	—	底部の隅りモケズル
26	須恵器	鏃	フク土	(2.1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
27	床面直上	5.1	5.6	0.9	16.9	紡錘車	Fe-3

図270 第390号竪穴住居跡出土遺物 (4)

第391号竪穴住居跡 (図271・図272)

〔位置〕 MZ・NA-475・476グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁3m6cm、西壁3m12cm、南壁3m54cm、北壁3m9cmで南東隅がやや広がる方形である。床面積は9.95㎡で、主軸方位はN-173°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁8cm、西壁48cm、南壁29cm、北壁24cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されたピットは5個である。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 南壁西側に構築されているものをカマドA、東壁南側に構築されているものをカマドBとし、カマドAが新しい。カマドBは火床面と煙道のみ残存する。カマドAは焚口に土師器の底部を2つ重ねて伏せた状態に置き、支脚としていた。煙道は半地下式で、住居跡外に80cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。カマドBの煙道は残存分から地下式と推定され、住居跡外に94cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに下降する。

〔その他の施設〕 中央に、長軸96cm、短軸66cm、深さ20cmのピット3、南西隅付近に、径92cmのピット7を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は9層に分層され、1層にB-Tm火山灰が混入する。

〔出土遺物〕 覆土から、土師器の坏、甕が出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

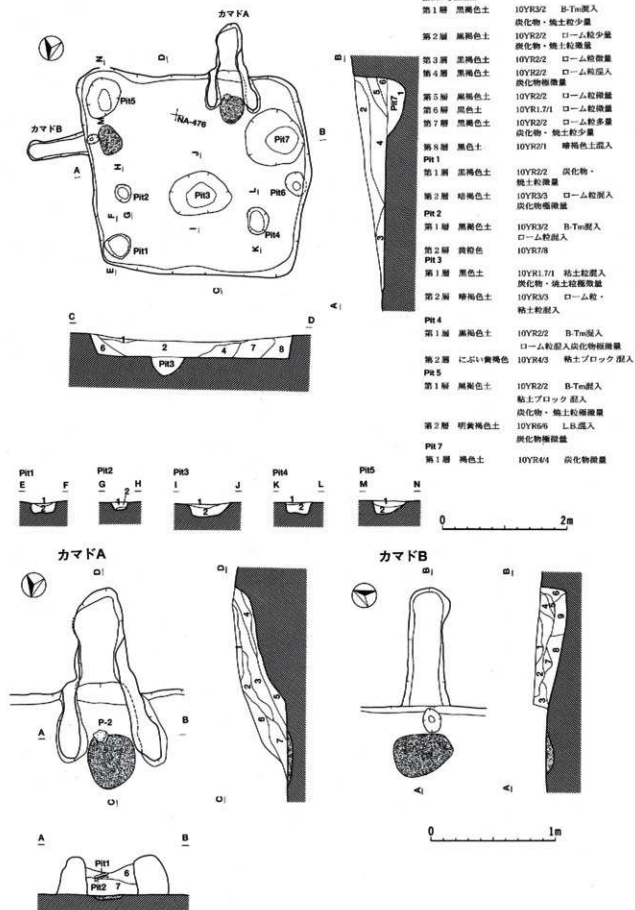


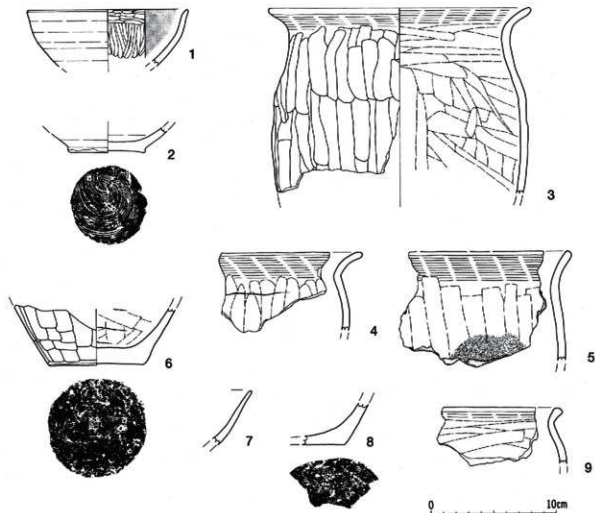
図271 第391号竪穴住居跡

カマドA

第1層	褐色土	10YR4/4	ローム粒少量
第2層	褐色土	7.5YR4/4	
第3層	褐色土	7.5YR4/4	砂塵多量 ローム質土
第4層	褐色土	7.5YR4/3	ローム質土
第5層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物微量
第6層	褐色土	10YR4/6	ローム質土
第7層	暗褐色土	10YR3/5	焼土粒少量

カマドB

第1層	黒褐色土	10YR2/5	焼土・炭化物・浮石微量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・焼土・炭化物微量
第3層	褐色土	7.5YR4/4	焼土・炭化物微量
第4層	黒褐色土	10YR2/2	焼土・炭化物微量
第5層	明褐色土	7.5YR5/6	炭化物微量
第6層	黒褐色土	10YR2/2	焼土微量
第7層	明褐色土	7.5YR5/6	
第8層	暗褐色土	10YR3/3	浮石・焼土・炭化物微量
第9層	黒土	7.5YR2/1	焼土微量 ローム粒極微量



図版番号	種類	器種	出土部位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	口径	高さ	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土 (13.0)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ヘラミダ	—	—	B I	内面黒色処理	
2	土師器	坏	フク土 (24.0)	(2.0)	(6.0)	—	ロクロ	—	ロクロ	—	ロクロ	回転成形	B II		
3	土師器	甕	ガマフク土 (21.0)	(15.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ナデ	ヘラナデ	—	—	A I	輪襷底	
4	土師器	甕	Prフク土 (26.0)	(6.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	—	—	—	A		
5	土師器	甕	ガマフク土 (24.0)	(8.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P.2. 外面粘土付着	
6	土師器	甕	カマド	—	(4.6)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	輪襷底、P.2
7	土師器	坏	フク土 (14.0)	(4.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II		
8	土師器	甕	カマド	—	(3.4)	(9.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
9	土師器	甕	フク土 (20.0)	(4.6)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A		

図272 第391号竪穴住居跡出土遺物

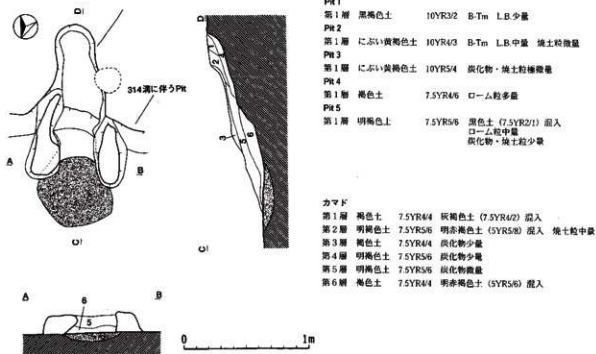
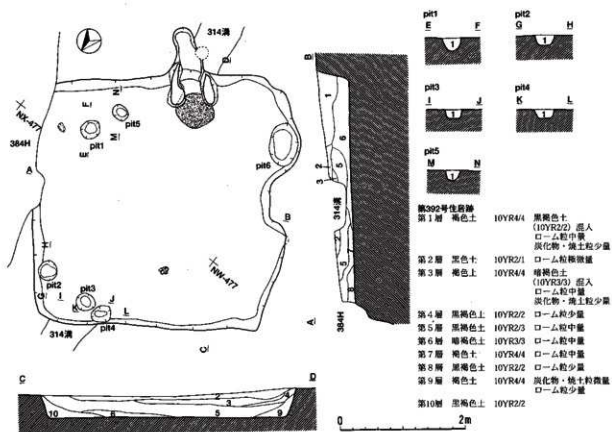
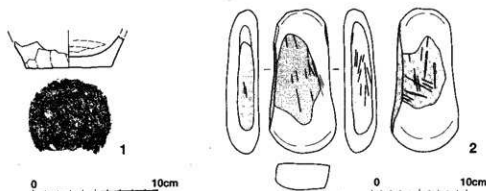


図273 第392号壘穴住居跡



図録番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			分類	備考
				口径	径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半		
1	土師器	甕	床面	—	(2.5)	7.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	A	P-201. 糊皮(内面)
図録番号	出土層位	計測値 (cm)			蓋さ (g)	材質	分類	備考						
		長さ	幅	厚さ										
2	確認面	15.2	7.0	2.9	444	灰	磁石	炭化物付着						

図274 第392号竪穴住居跡出土遺物

第392号竪穴住居跡 (図273・図274)

〔位置〕 MV・MW-476・477グリッドに位置する。

〔重複〕 第384号住居跡、第314号溝と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 東壁南側部分が第384号住居跡に切れ、南壁東側部分から南壁中央部分にかけて第314号溝に切られており、残存する東壁3m80cm、西壁4m5cm、南壁3m70cm、北壁4m10cmで、西壁がややふくらむ方形である。床面積は14.07㎡で、主軸方位はN-139°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁20cm、西壁52cm、南壁31cm、北壁35cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されたピットは6個である。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 南壁ほぼ中央に構築されている。ソデは芯材を使わず、粘土で構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に74cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

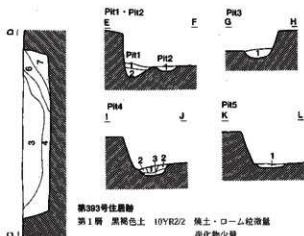
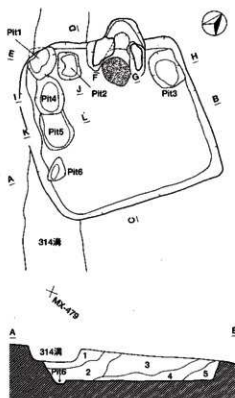
〔その他の施設〕 西壁中央が、幅105cmで、住居跡に48cm半円状に入り込んでいる。用途等については不明である。

〔堆積土〕 堆積土は10層に分層される。また、ピット1・ピット2の1層にはそれぞれB-Tm火山灰が混入している。

〔出土遺物〕 床面から土師器の甕が、確認面からは磁石が出土している。

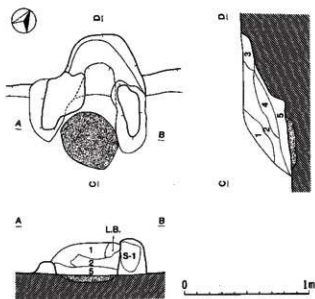
〔時期〕 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第393号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 焼土・ローム粒微量
炭化物少量
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量
炭化物・焼土微量
第3層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・焼土微量
第4層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・L.B.微量
第5層 暗褐色土 10YR3/2 炭化物少量
第6層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量
第7層 褐色土 10YR4/4 炭化物・L.B.微量



PR 1

- 第1層 暗赤褐色土 5YR3/3 焼土多量 炭化物少量
第2層 暗褐色土 7.5YR3/3 炭化物少量 焼土微量

PR 2

- 第1層 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土中量 炭化物微量
PR 3

- 第1層 暗褐色土 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土少量
炭化物微量

PR 4

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物中量
第2層 暗褐色土 10YR3/4 焼土・炭化物少量
第3層 黒褐色土 10YR2/2 焼土少量 炭化物中量

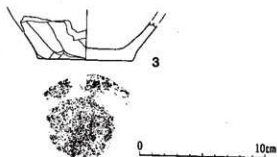
PR 5

- 第1層 褐色土 7.5YR4/4 焼土・炭化物多量

カマド

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 焼土・炭化物微量
第2層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム質土 焼土多量
第3層 暗褐色土 10YR3/3 焼土中量
第4層 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム質土 焼土多量
第5層 褐色土 10YR4/4

図275 第393号竪穴住居跡・出土遺物(1)



図説 番号	種類	群種	出土層位	計測値(cm)			外面調整				内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	甕	フク土	(19.0)	(5.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	不明	—	—	A	外底輪縁痕	
2	土師器	甕	フク土	(16.0)	(5.4)	—	不明	不明	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A		
3	土師器	甕	Ph67ク土	—	(4.3)	7.6	—	—	ヘラナデ?	—	—	不明	底	A	P1	

図276 第393号竪穴住居跡出土遺物(2)

第393号竪穴住居跡(図275・図276)

〔位置〕 MW・MX-477・478グリッドに位置する。

〔重複〕 第314号溝と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 東壁2m40cm、西壁2m70cm、南壁2m70cm、北壁2m50cmの方形である。床面積は6.06㎡で、主軸方位はN-25°-Wである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁28cm、西壁16~54cm、南壁40cm、北壁26cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ビット〕 検出されたビットは2個である。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 北壁東側に構築されている。礫を芯材として用い、粘土を覆って本体を構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に35cmほどのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

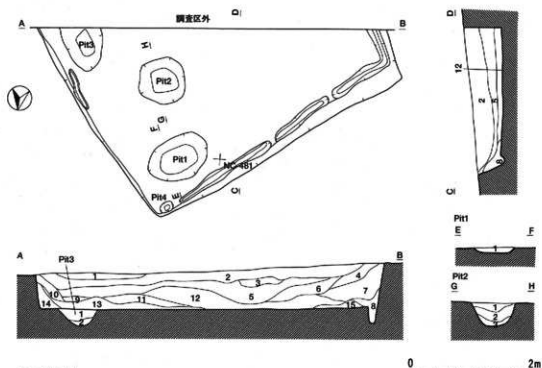
〔その他の施設〕 北東隅に、径52cm、深さ22cmで壁を14cm掘り込んだビット1、北東隅に、長軸62cm、短軸46cm、深さ12cmのビット3、西壁北側に、径46cm、深さ16cmのビット4、西壁中央に、径46cm、深さ6cmのビット5を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は7層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の甕が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第394号住居跡

- 第1層 褐色土 10YR4/4 炭化物極微量
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 黒色土 (10YR2/1) 混入
 ローム粒・炭化物極微量
 第3層 灰黄褐色土 10YR4/2 炭化物極微量
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物極微量
 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物少量
 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
 第7層 灰褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物少量 焼土粒極微量
 第8層 褐色土 10YR4/6 黒褐色土 (10YR2/3) 混入 炭化物少量
 第9層 褐色土 10YR4/6 褐色土 (7.5YR4/6) 混入 炭化物極微量
 第10層 暗褐色土 10YR3/3 焼土ブロッケン混入
 第11層 明褐色土 7.5YR5/6 褐色土 (10YR4/4) 混入 焼土粒少量
 第12層 暗褐色土 10YR3/3 黒色土 (10YR2/1)・黒褐色土 (10YR2/2) 混入 ローム粒・炭化物微量
 第13層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物微量
 第14層 にごい黄褐色土 10YR5/4 ローム粒少量 炭化物微量
 第15層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物微量

PH1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・焼土粒少量 炭化物微量

PH2

- 第1層 明褐色土 7.5YR5/6 褐色土 (10YR4/4) 混入 焼土粒中量 ローム粒・炭化物少量
 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒微量
 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒・炭化物微量



図版番号	種類	方位	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			断面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁座	体上半	体下半	口縁座	体上半	体下半			
1	土師器	東	PH27ヶ土	(20.0)	(6.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪複製

図277 第394号竪穴住居跡・出土遺物(1)

第394号竪穴住居跡（図277・図278）

〔位置〕 NB・NC-480・481グリッドに位置する。

〔重複〕 確認されなかった。

〔平面形・規模〕 南壁と東壁・西壁の南側が調査区外にかかり、残存する東壁3m55cm、西壁95cm、北壁4m54cmである。床面積は9.78㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁33cm、西壁84cm、北壁53cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅8～21cm、深さ1～28cmの周溝が断片的に検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは2個である。

〔カマド〕 本住居跡の南側部分は、調査区外にかかり未調査のため、不明である。

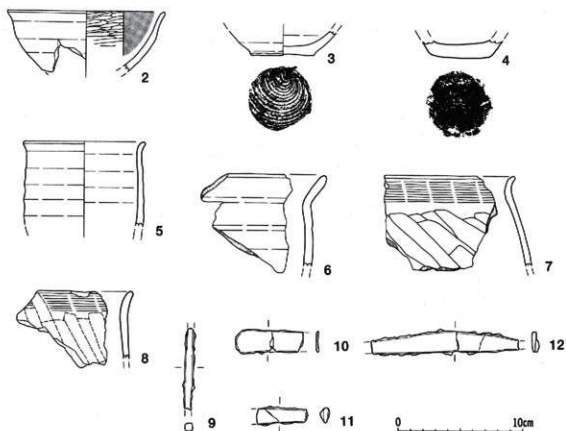
〔その他の施設〕 北東隅に、長軸102cm、短軸70cm、深さ8cmの楕円形のピット1、東壁北側に、径76cm、深さ56cmのピット2を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は15層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の甕、杯や刀子、お引金が、床直からは棒状の鉄製品が出土している。

〔時期〕 出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



図版番号	種類	原種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	胴高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
2	土師器	环	フク土	12.8	(4.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B I	内面黒色施彩
3	土師器	环	Paフク土	—	(1.7)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	羽染め	B II	
4	土師器	甕	フク土	—	(1.5)	(5.0)	—	—	不明	—	—	不明	ナゲツケ	A	
5	土師器	甕	Paフク土	(10.0)	(6.7)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B III	
6	土師器	甕	フク土	(18.0)	(7.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	不明	不明	—	—	B	内面濃緑
7	土師器	甕	フク土	(20.0)	(7.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
8	土師器	甕	フク土	(20.0)	(5.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
9	床底	6.5	0.6	0.7	11.4	棒状	Fe-1								
10	フク土	5.5	1.7	0.2	12.8	お引金									
11	フク土	4.1	1.2	0.8	3.3	刀子									
12	フク土	11.8	1.6	0.6	14.2	刀子									

図278 第394号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第395号(A) 竪穴住居跡(図279~図281)

[位置] MZ・NA-481グリッドに位置する。

[重複] 本住居跡は第395号(B)住居跡を拡張したと考えられる。ただ本住居跡の南側が調査区外にかかり未調査のため、全容は確認できなかった。

[平面形・規模] 北壁5m92cm、南側大半が調査区外にかかり、残存する東壁1m18cm、西壁48cmである。平面形は残存部分が少ないため推定できない。床面積は4.7㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁56cm、西壁70cm、北壁64cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されなかった。

[カマド] 調査区外にかかり、未調査のため、不明である。

[堆積土] 堆積土は6層に分層される。

[時期] 重複関係から、10世紀前半~中葉に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第395号(B) 竪穴住居跡(図279~図281)

[位置] MY~NA-480・481グリッドに位置する。

[重複] 第377号土坑、第379号土坑と重複し、本住居跡は第377号土坑より古く、第379号土坑より新しい。また第395号(A)住居跡は本住居跡を拡張したものとする。

[平面形・規模] 南側部分が調査区外にかかり、第395号(A)住居跡が本住居の南側部分を切っている。また第379号土坑が西北側と北壁西側を切っている。東壁5m86cm、北壁6m4cm、残存する西壁4m6cmであり、方形と推定する。床面積は4.69㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁76cm、西壁14cm、北壁44cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅5~20cm、深さ1~20cmの周溝が断片的に検出された。

[ピット] 検出されたピットは2個である。柱穴はピット2(23cm)、ピット4(29cm)とする。

[カマド] 南側部分が調査区外にかかり、未調査のため不明である。

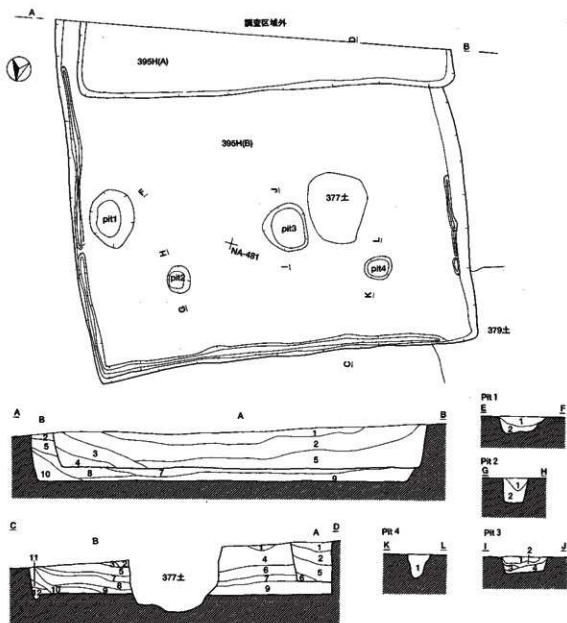
[その他の施設] 東壁北側に、長軸94cm、短軸72cm、深さ16cmのピット1、北壁中央からやや南側に、径76cm、深さ16cmのピット3を検出した。

[堆積土] 堆積土は12層に分層され、7層にB-Tm火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕、坏、鉢や須恵器の坏のほか、刀子、砥石、台石などが出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀後半~10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第395号(B)住居跡

- | | | | | | |
|------|---------|---------|------------------|----------------|-------|
| 第1層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粒中量 | 炭化物少量 | 焼土粒微量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR2/3 | 炭化物中量 | ローム粒微量 | 焼土粒微量 |
| 第3層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 炭化物中量 | ローム粒少量 | 焼土粒微量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ローム粒、炭化物中量 | 焼土粒少量 | |
| 第5層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粒中量 | 炭化物少量 | 焼土粒微量 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒、炭化物、焼土粒中量 | | |
| 第7層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | B-Tm混入 | ローム粒、炭化物、焼土粒少量 | |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ローム粒中量 | 炭化物、焼土粒少量 | |
| 第9層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 黒色土(10YR1.7/1)混入 | ローム粒少量 | 炭化物微量 |
| 第10層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒少量 | 炭化物微量 | |
| 第11層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | L.B.中量 | 炭化物微量 | |
| 第12層 | 暗褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒少量 | | |

第395号(A)住居跡

- | | | | | | |
|-----|---------|---------|-----------------|-----------|-----------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒、焼土粒中量 | 炭化物少量 | |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒、炭化物 | 焼土粒少量 | |
| 第3層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粒中量 | 炭化物、焼土粒少量 | |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒少量 | 炭化物、焼土粒微量 | |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 黒褐色土(10YR3/2)混入 | ローム粒中量 | 炭化物、焼土粒少量 |
| 第6層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 黒褐色土(10YR3/2)混入 | ローム粒中量 | 炭化物、焼土粒少量 |

Pr 1

- | | | | | |
|-----|------|----------|--------|--|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒中量 | |
| 第2層 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | | |

Pr 2

- | | | | | |
|-----|--------|----------|--------|--|
| 第1層 | 黒色土 | 7.5YR2/1 | ローム粒微量 | |
| 第2層 | にぶい褐色土 | 7.5YR3/2 | | |

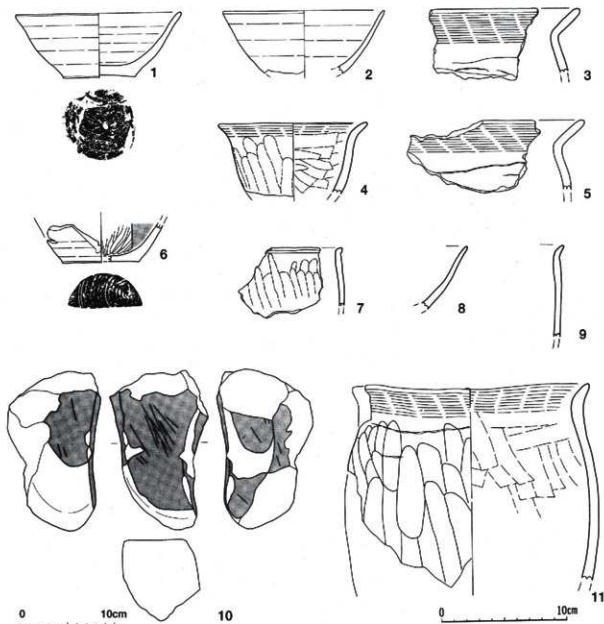
Pr 3

- | | | | | |
|-----|---------|----------|-----------|-----------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 7.5YR2/3 | 炭化物、焼土粒少量 | ローム粒微量 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土粒混入 | |
| 第3層 | にぶい黄褐色土 | 10YR7/3 | 焼土粒多量 | 粘土粒、炭化物微量 |
| 第4層 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | | |

Pr 4

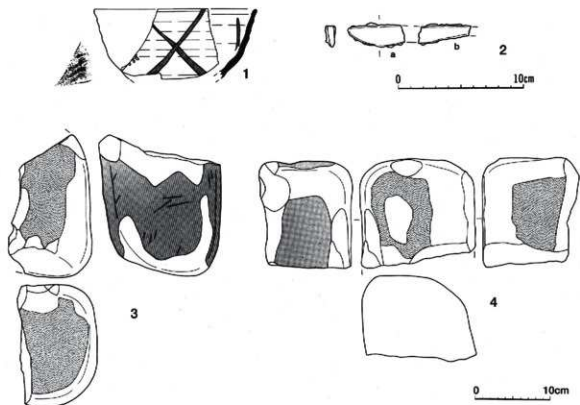
- | | | | | |
|-----|------|---------|-------|--|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム少量 | |
|-----|------|---------|-------|--|

図279 第395号竪穴住居跡



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 装 飾			内 面 装 飾			底面装飾	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	Pt7 フク土	—	(5.1)	(5.8)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	無装飾	BⅡb	
2	土師器	杯	Pt7 フク土	(13.0)	(5.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
3	土師器	甕	フク土	(19.0)	(5.7)	—	ヨコナデ	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面輪襷痕
4	土師器	鉢	フク土	(12.0)	(5.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
5	土師器	甕	フク土	(20.0)	(5.7)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	輪襷底
6	土師器	杯	フク土	—	(3.0)	(6.2)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミダキ	無装飾	BⅠ	内面黒色地層
7	土師器	甕	フク土	(10.0)	(5.6)	—	ナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
8	土師器	杯	Pt3 フク土	(12.0)	(5.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
9	土師器	甕	フク土	(14.0)	(7.4)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
11	土師器	甕	Pt1 フク土	19.0	(16.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	輪襷底
図版 番号	出土層位	計 測 値 (cm)			重さ (g)	石 質	分 類	備 考							
		長 径	外 径	内 径											
10	Pt7 フク土	16.3	9.9	8.6	1,585	泥	磁石								

図280 第395号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	須恵器	坏	フク土	(13.0)	(5.7)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外面 刻線 内面 点状文様
図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
2-a	フク土	4.6	2.0	0.9	11.1	刀子	2-b								
2-b	フク土	4.2	1.5	0.8	4.8	刀子	2-a								
図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	石質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
3	フク土	19.0	11.3	16.7	4.980	安	台石・砥石 黒褐色物質付着								
4	フク土	14.0	15.1	10.8	4.700	石安	台石・砥石 黒褐色褐色物質付着								

図281 第395号竪穴住居跡出土遺物(2)

第396号(A) 竪穴住居跡(図282~図287)

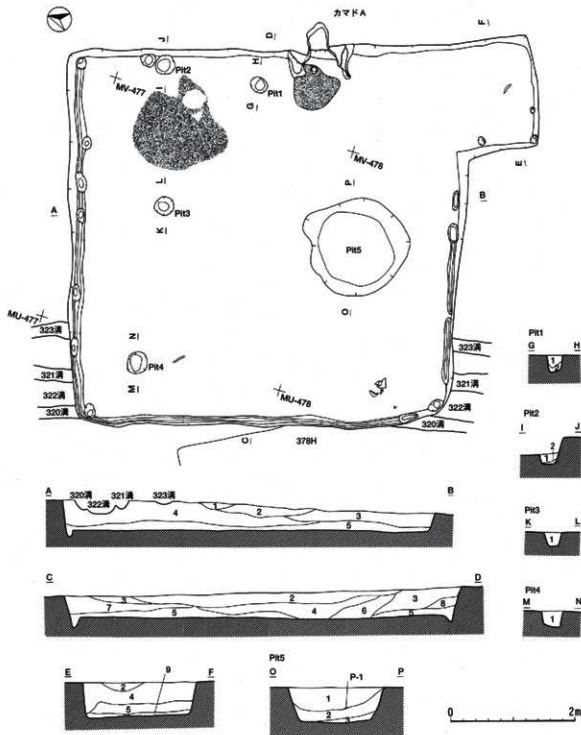
[位置] MT~MV-476~478グリッドに位置する。

[重複] 第320号・第321号・第322号・第323号溝、第378号住居跡と重複し、本住居跡は第320号・第321号・第322号・第323号溝より古く、第378号住居跡より新しい。また本住居跡は、第396号(B)住居跡を拡張したものと考える。

[平面形・規模] 東壁7m45cm、西壁5m96cm、南壁5m96cm、北壁5m95cmで、南東隅に張り出しをもつ方形である。床面積は37.99㎡で、主軸方位はN-71'-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁18~30cm、西壁38cm、南壁41cm、北壁33cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅7~15cm、深さ2~19cmの周溝が北壁、西壁、南壁の一部に断片的に検出された。



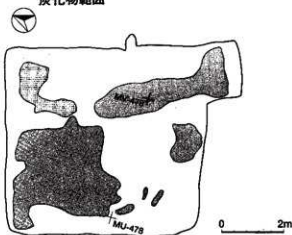
第396号(A)住居跡

第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・ローム粒・粘土粒微量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量 粘土粒・炭化物微量
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物・粘土粒微量 軽石微量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量
第5層	黒色土	10YR1/7	炭化物粒 焼土粒・ローム粒微量
第6層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒・炭化物微量
第7層	褐色土	10YR4/6	炭化物・ローム粒・粘土粒微量
第8層	黒色土	10YR2/1	L.B.混入
第9層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒中量

図282 第396号(A)竪穴住居跡(1)

PH1			
第1層	黒褐色土	7.5YR3/2	ローム粒微量 炭化物中量 焼土少量
第2層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物中量
PH2			
第1層	黒褐色土	7.5YR3/2	ローム粒多量 炭化物中量 焼土少量
第2層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物中量 焼土少量
PH3			
第1層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物少量 焼土微量
PH4			
第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物少量 焼土微量
PH5			
第1層	黒褐色土	10YR3/4	ローム質土 L.B.多量 焼土・炭化物微量
第2層	褐色土	7.5YR2/1	炭化物多量 焼土少量 ローム粒少量
第3層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物中量 ローム粒少量

炭化物範囲



カマドA

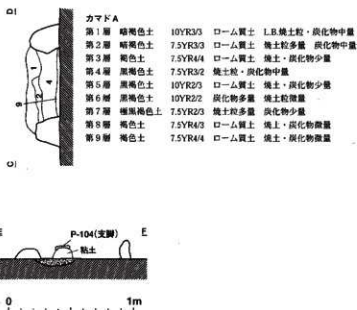
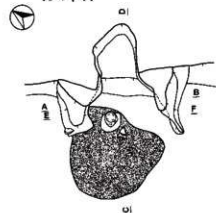


図283 第396号(A)竪穴住居跡(2)

【ビット】 検出されたビットは18個である。柱穴は、ビット2(39cm)、ビット3(36cm)、ビット4(41cm)と考える。

【カマド】 東壁南側に構築されている。火床面の上に高さ8cm、幅15cmの粘土を盛り、その上に土師器底部を伏せた状態で乗せ、支脚としていた。煙道は半地下式で、住居跡外に40cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 南東隅に南壁177cm、西壁114cm、東壁126cmの張り出しを検出した。また、張り出しの西壁に、径12cmのビット18と径14cmのビット19、南壁に、径10cmのビット17を検出し、張り出し部分の柱穴と考える。南壁中央から北側に、長軸176cm、短軸156cm、深さ58cmのビット5を検出し

た。

〔堆積土〕 堆積土は9層に分層され、5層は炭化物層である。床面のほぼ全面から炭化材が検出されたことから、焼失家屋と考える。

〔出土遺物〕 覆土から、土師器の甕、坏、埴や須恵器の甕、壺、が出土している。また、床面及び床直から土師器の埴や砥石、刀子が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第396号(B) 竪穴住居跡 (図282～図287)

〔位置〕 MT～MV-476～478グリッドに位置する。

〔重複〕 第396号(A)住居跡は本住居跡を拡張したものとする。

〔平面形・規模〕 西壁5m55cm、南壁5m20cm、北壁5m57cm、東壁は、一部のみを検出し、その残存部分は3mで、方形と推定する。床面積は29.54㎡で、主軸方位はN-71°-Eである。

〔壁・床面〕 残存する壁高東壁12cm、西壁14cm、南壁16cm、北壁12cmで、床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅9～28cm、深さ1～11cmの周溝が西壁・南壁・北壁の一部に検出された。

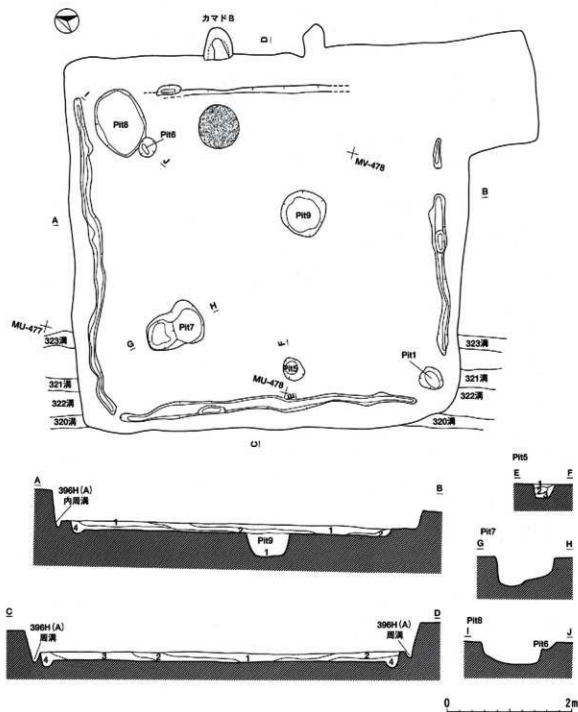
〔ピット〕 検出されたピットは9個である。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 東壁北側に構築されている。火床面と煙道のみが残存する。煙道は半地下式で、住居跡外に45cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。焚き口から礫、土師器が出土している。

〔堆積土〕 堆積土は4層に分層され、2層に炭化物が多量に混入している。

〔時期〕 重複関係から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第396号(B)住居跡

- 第1層 褐色土 7.5YR4/4 ローム粒極微量
- 第2層 黒褐色土 7.5YR3/2 焼土粒中量 炭化物多量 ローム粒少量
- 第3層 褐色土 7.5YR4/4 ローム粒極微量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物中量 焼土粒極微量

Pit 5

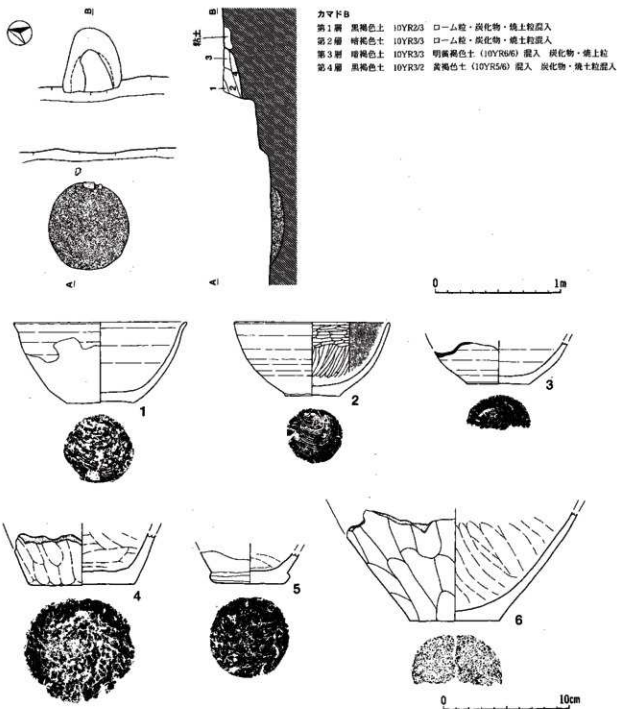
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物中量 焼土粒微量
- 第2層 褐色土 7.5YR4/3 炭化物中量 焼土粒極微量
- 第3層 褐色土 7.5YR4/3 炭化物微量 焼土粒極微量

Pit 9

- 第1層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物少量

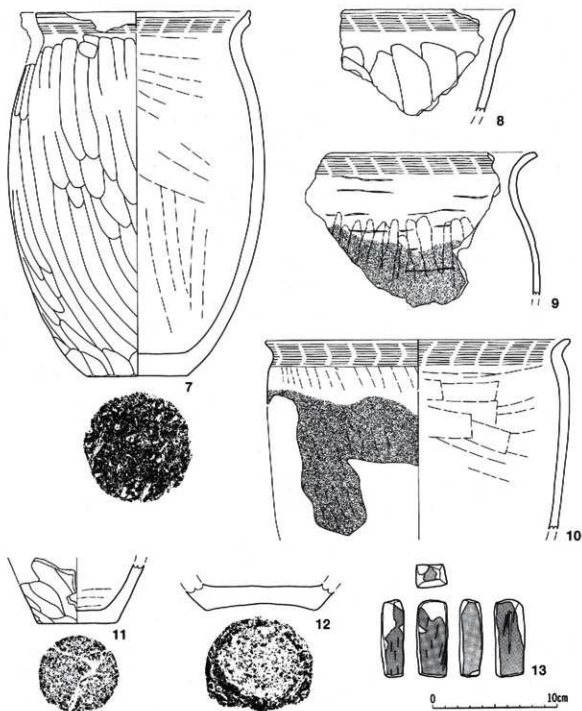
图284 第396号(B)竖穴住居跡(1)

カマドB



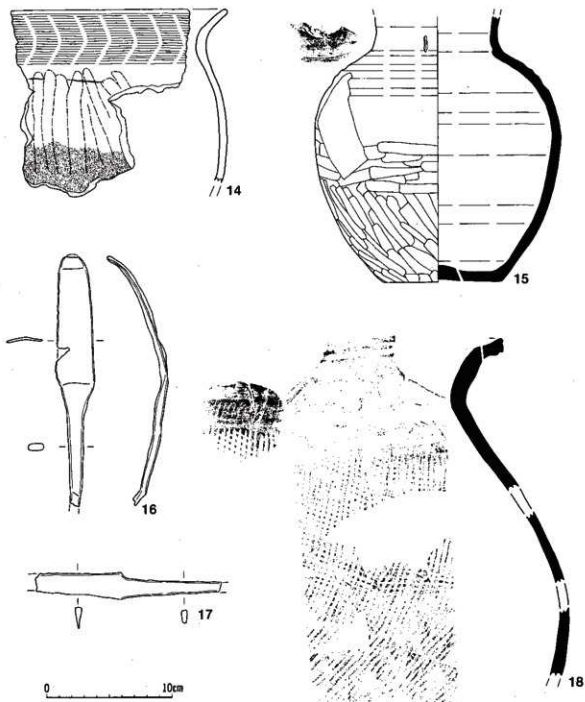
図版番号	構造	土層階位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
			口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坪	カマド フク土	14.0	6.5	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡ	P-101, 火熱による剥落
2	土師器	坪	フク土	12.6	5.9	4.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミ刮	ヘラミ刮	ヘラミ刮	糸切り	BⅡb	内面黒色結核
3	土師器	坪	フク土	—	(3.5)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切りの ヘラミ刮	BⅡ	
4	土師器	壺	カマド フク土	—	(4.1)	8.5	—	—	ヘラミ刮	—	—	ヘラミ刮	ナデツケ	A	P-104
5	土師器	壺	フク土	—	(2.6)	5.2	—	—	不明	—	—	ヘラミ刮	ナデツケ	A	
6	土師器	壺	フク土	—	(8.8)	(7.2)	—	—	ヘラミ刮	—	—	ヘラミ刮	砂底	A	P-5

図285 第396号(B)竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調査			内面調査			底面調査	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	土師器	埴	底面	18.6	29.3	8.0	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A 1e	F-2 F-3
8	土師器	埴	フク土	(30.0)	(8.5)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	—
9	土師器	甕	フク土	(22.4)	(11.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	縁部裏 外縁部底面
10	土師器	甕	カマド フク土	(24.4)	(15.6)	—	ヨコナデ	ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着
11	土師器	甕	フク土	—	(5.3)	6.6	—	—	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	—	砂底	A	—
12	土師器	甕	カマド フク土	—	—	(9.0)	—	—	不明	—	ヘラナデ	—	砂底 →ナデツケ	A	F-105
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
13	灰皿	6.1	2.4	1.8	40	流	礫石	炭灰化物付着							

図286 第396号竪穴住居跡・出土遺物(2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	フク土	(24.0)	(14.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	編織品、貼付等 P.102
15	須恵器	甕	フク土	—	(21.2)	(8.5)	—	ロクロ	羅ケズリ 黒ケズリ	—	ロクロ	ロクロ	切離し ヘラケズリ	—	外面刻畫
18	須恵器	甕	フク土	—	(26.6)	—	ロクロ	平行 タテナ目	—	ロクロ	あて具織	—	—	—	外面刻畫
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
16	フク土	20.2	2.9	0.2	30.1	槍	Fe-1								
17	床底	14.9	1.7	0.5	39.3	刀子	Fe-1								

図287 第396号竪穴住居跡・出土遺物(3)

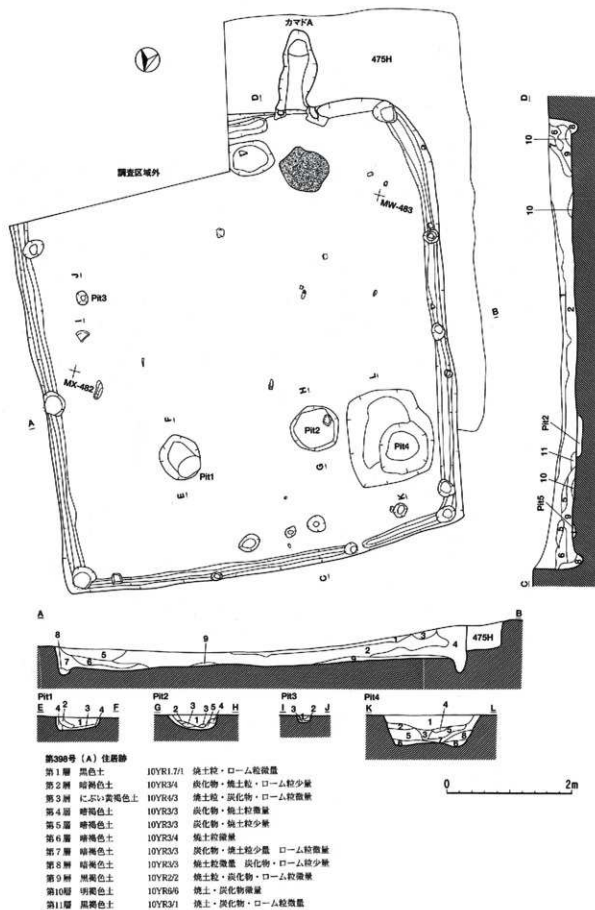
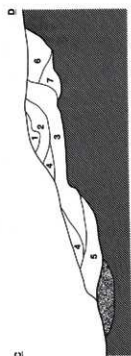
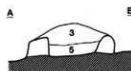
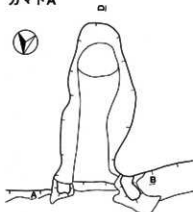


図288 第398号(A)竪穴住居跡(1)

カマドA



カマドA

- | | | | |
|-----|-------|----------|---------------|
| 第1層 | 明赤褐色土 | 5YR5/8 | 焼土 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 炭化物微量 焼土少量 |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 焼土・炭化物・ローム粒微量 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/2 | 焼土・炭化物微量 |
| 第5層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | 炭化物・焼土・L.B.微量 |
| 第6層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土・炭化物微量 |
| 第7層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 焼土・炭化物微量 |

第398号 (A) 住居跡

Pit 1

- | | | | | |
|-----|------|---------|--------------------|-------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 黄褐色土 (10YR5/8) 混入 | 焼土粒多量 炭化物少量 |
| 第2層 | 黄褐色土 | 10YR5/8 | 暗褐色土 (10YR3/4) 混入 | 炭化物・焼土粒極微量 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 明褐色土 (7.5YR5/8) 混入 | 炭化物微量 |
| 第4層 | 褐色土 | 10YR4/6 | | |

Pit 2

- | | | | |
|-----|---------|----------|--------------------|
| 第1層 | 明褐色土 | 7.5YR5/6 | 明赤褐色土 (5YR3/6) 混入 |
| 第2層 | 暗赤褐色土 | 5YR3/6 | 明褐色土 (7.5YR5/6) 混入 |
| 第3層 | 赤褐色土 | 5YR4/8 | 焼土層 |
| 第4層 | いぶい赤褐色土 | 5YR4/4 | 焼土粒少量 |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 炭化物微量 |

Pit 3

- | | | | | |
|-----|------|----------|-------------------|--------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 暗褐色土 (10YR3/4) 混入 | ローム粒少量 炭化物微量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒・炭化物・焼土粒少量 | |
| 第3層 | 褐色土 | 7.5YR4/6 | 焼土粒微量 | |

Pit 4

- | | | | | |
|-----|---------|---------|----------------------|---------------------|
| 第1層 | いぶい黄褐色土 | 10YR5/8 | L.B.・焼土粒微量 | 炭化物微量 |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 暗褐色土 (10YR3/3) 混入 | 炭化物少量 焼土粒微量 |
| 第3層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | 焼土粒中量 | 炭化物微量 |
| 第4層 | 褐色土 | 10YR4/4 | いぶい黄褐色土 (10YR5/8) 混入 | L.B.・焼土粒少量 炭化物微量 |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR4/6 | いぶい黄褐色土 (10YR5/8) 混入 | L.B.少量 焼土粒微量 炭化物極微量 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 炭化物中量 L.B.・ローム粒 | 焼土粒少量 |
| 第7層 | 褐色土 | 10YR4/6 | L.B.中量 焼土粒微量 | 炭化物極微量 |
| 第8層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 黒褐色土 (10YR2/3) 混入 | L.B.少量 炭化物・焼土粒微量 |

Pit 5

- | | | | |
|-----|-----|---------|-------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 焼土粒少量 炭化物微量 |
|-----|-----|---------|-------------|

図289 第398号(A)竪穴住居跡 (2)

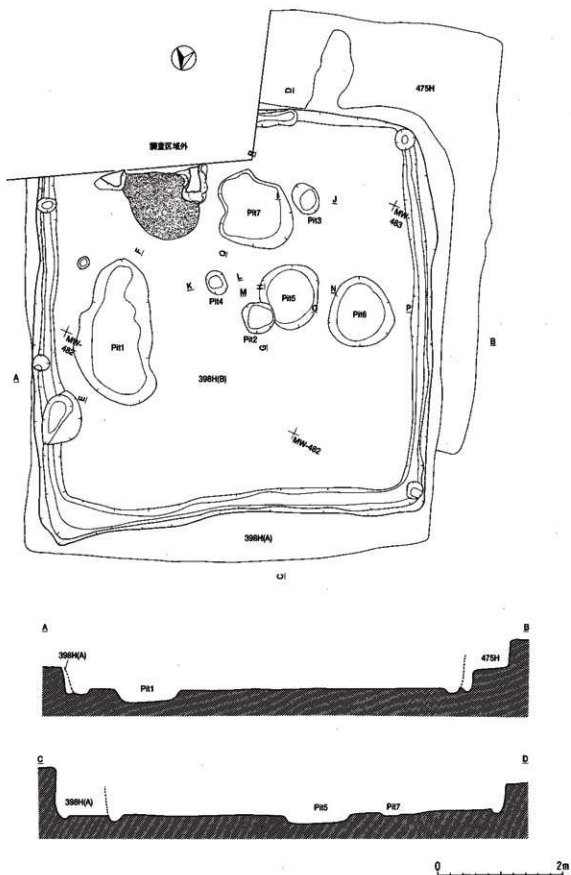
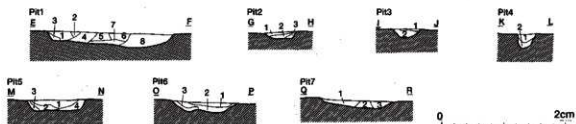


図290 第398号(B)竪穴住居跡(1)



第398号 (B) 住居跡

Pit 1

- 第1層 におい黄褐色土 10YR5/8 L.B.・焼土少量 炭化物微量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 暗褐色土 (10YR4/4) 混入 炭化物少量 焼土微量
- 第3層 黄褐色土 10YR5/6 焼土中量 炭化物微量
- 第4層 褐色土 10R4/4 焼土中量 炭化物微量 L.B.少量
- 第5層 褐色土 10YR4/6 焼土微量 炭化物微量 L.B.少量
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4 焼土・ローム粒・L.B.少量 炭化物中量
- 第7層 褐色土 10YR7/6 L.B.中量 炭化物微量 焼土微量
- 第8層 褐色土 10YR4/4 炭化物・焼土微量 黒褐色土・L.B.少量

Pit 2

- 第1層 明褐色土 7.5YR5/6 暗赤褐色土 (5YR3/6) 中量
- 第2層 明赤褐色土 5YR3/6 明褐色土 (7.5YR5/6) 少量
- 第3層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量 焼土少量

Pit 3

- 第1層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物微量 におい黄褐色土 (10YR7/3) 混入
- 第2層 褐色土 10YR4/4

Pit 4

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・焼土少量
- 第2層 褐色土 10YR4/6

Pit 5

- 第1層 褐色土 10YR4/6 炭化物・焼土少量
- 第2層 におい黄褐色土 10YR4/3 炭化物・焼土粒少量
- 第3層 明褐色土 7.5YR5/6
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物少量 焼土微量

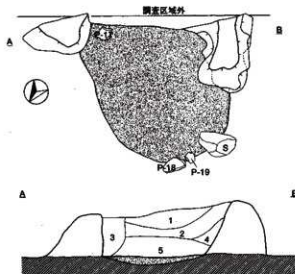
Pit 6

- 第1層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量 L.B.少量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・焼土粒少量
- 第3層 褐色土 7.5YR4/ 焼土微量

Pit 7

- 第1層 褐色土 10YR4/4 炭化物少量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・焼土少量
- 第3層 褐色土 10YR4/6 焼土微量

カマドB



カマドB

- 第1層 明赤褐色土 5YR5/8 焼土
- 第2層 暗褐色土 7.5YR3/3 炭化物微量 焼土少量
- 第3層 褐色土 10YR4/4 焼土・炭化物・ローム粒微量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/2 焼土・炭化物微量
- 第5層 暗褐色土 7.5YR3/4 炭化物・焼土・L.B.微量

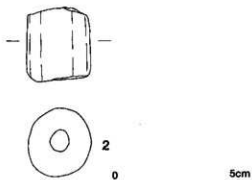
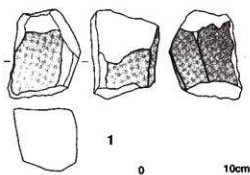
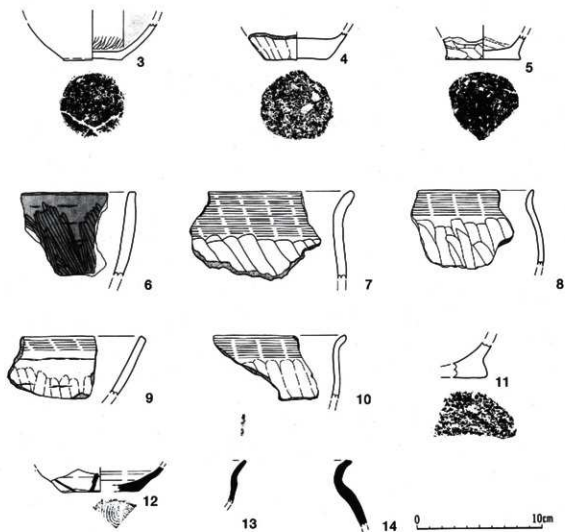


図291 第398号(B)竪穴住居跡 (2)・出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)				外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
3	土師器	坏	床底	—	(3.1)	4.4	—	—	不明	—	—	ヘラミガキ	糸切り	B 1	P-2 内面黒色塗層、内底磨滅	
4	土師器	甕	床底	—	(2.2)	(5.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A		
5	土師器	甕	フク土	—	(2.0)	(6.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A		
6	土師器	埴?	フク土	(32.0)	(6.7)	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	内外面黒色塗層 片断焼痕	
7	土師器	甕	5層	(20.0)	(6.9)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-6	
8	土師器	甕	フク土	(15.0)	(5.9)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	不明	ヘラナデ	—	—	A		
9	土師器	埴?	床下Fp2 フク土	(22.0)	(5.4)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面輪縁痕	
10	土師器	甕	床下Fp3 フク土	(20.0)	(5.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A		
11	土師器	甕	フク土	—	(2.8)	(8.0)	—	—	ヘラナズリ	—	—	不明	砂底	A		
12	須恵器	坏	床底	—	(1.9)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転痕有り	—	片断穴下キズ P-10	
13	須恵器	坏	フク土	—	(3.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—		
14	須恵器	甕	フク土	—	(5.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	—	—	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)				重量 (g)	材質	分類	備考							
1	床面直上	長さ	幅	厚さ	—	532	安	磁石	S-10							
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	特徴	備考									
2	2層	長さ	幅	厚さ	192	縦にせん孔										

図292 第398号竪穴住居跡出土遺物(2)

第398号(A) 竪穴住居跡(図288～図293)

[位置] MV～MX-481～483グリッドに位置する。

[重複] 第475号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。また本住居跡は第398号(B)住居跡を拡張したものである。

[平面形・規模] 東壁6m、西壁6m85cm、南壁2m70cm、北壁6m50cmである。南東側が調査区外にかかっているが、平面形は方形と推定される。床面積は42.49㎡で、主軸方位はN-162°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁40cm、西壁32cm、南壁38cm、北壁33cmである。床面は中央部分がややくぼむ。

[周溝] 幅11～27cm、深さ3～12cmの周溝がほぼ一巡すると推定される。

[ビット] 検出されたビットは20個である。柱穴は、ビット10(27cm)、ビット11(32cm)、ビット14(29cm)、ビット18(28cm)と考える。

[カマド] 南壁西側に構築されている。煙道は半地下式で、住居跡外に132cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

[その他の施設] 北壁東側から南寄りに、長軸72cm、短軸62cm、深さ20cmのビット1、北壁西側から南寄りに、径78cm、深さ24cmのビット2、北西隅付近に、長軸150cm、短軸136cm、深さ44cmのビット4、南壁西側に、径54cmのビット7を検出した。

[堆積土] 堆積土は11層に分層される。

[出土遺物] 床面及び床面直上から、土師器の甕、坏や須恵器の坏が出土している。また、覆土から土師器の甕、埴や須恵器の小型甕、坏などが出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第398号(B) 竪穴住居跡(図288～図293)

[位置] MB・MC-294・295グリッドに位置する。

[重複] 第398号(A)住居跡は本住居跡を拡張したものである。

[平面形・規模] 東壁5m90cm、西壁6m20cm、南壁2m70cm、北壁6m13cmで、方形と推定される。床面積は36.12㎡で、主軸方位はN-151°-Eである。

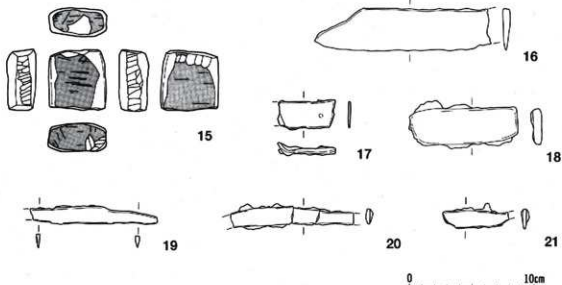
[壁・床面] 拡張のため、壁は残存しない。

[周溝] 幅15～44cm、深さ2～16cmの周溝がほぼ一巡すると推定される。

[ビット] 検出されたビットは13個である。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁東側に構築されているが、調査区外にかかり煙道は未調査のため、不明である。焚き口から礫が出土していることから、礫を芯材として転用し本体を構築していたと推定する。

[その他の施設] 東壁中央に、長軸232cm、短軸126cm、深さ22cmのビット1、中央から西寄りに、長軸104cm、短軸94cm、深さ16cmのビット5、西壁中央に、径110cm、深さ16cmのビット6、南壁西側から北寄りに、長軸126cm、短軸108cm、深さ12cmのビット7を検出した。



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
15	フク土	4.8	4.6	2.3	76	流	砥石	炭化物付着
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考	
16	フク土	13.9	3.3	0.6				89.2
17	フク土	4.7	2.4	0.2	6.9	お引金		
18	床面	8.6	2.9	1.0	80.4	板状	Fe-2	
19	フク土	10.2	1.1	0.3	12.7	刀子		
20	床面	9.8	1.2	0.6	15.5	刀子	Fe-1	
21	フク土	5.2	1.6	0.6	6.9	刀子		

図293 第398号竪穴住居跡出土遺物（3）

〔出土遺物〕 床面直上から刀子、板状の鉄製品が出土しているほか、覆土からお引金、刀、刀子などが出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第399号竪穴住居跡 (図225)

〔位置〕 MT-477・478グリッドに位置する。

〔重複〕 第378号・第396号・第400号住居跡と重複し、本住居跡は第378号・第396号住居跡より古く、第400号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 西側が調査区外にかかり、南側が第378号住居跡に、東側が第396号住居跡に切られている。残存する東壁4m82cm、北壁2m14cmである。

〔壁・床面〕 壁高は、北壁24cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ビット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 調査区外にかかり、未調査のため不明である。

〔堆積土〕 堆積土は5層に分層される。

〔時期〕 時期は不明である。

(相馬良仁)

第400号竪穴住居跡 (図226)

〔位置〕 MS・MT-475～477グリッドに位置する。

〔重複〕 第379号・第399号住居跡と重複し、本住居跡は第399号住居跡より古く、第379号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 東壁5m52cm、西側が調査区外にかかり、調査可能な南壁2m52cm、北壁1m94cmで床面積12.02㎡である。平面形及び主軸方位は不明である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁32cm、南壁34cm、北壁40cmである。床面は平坦である。

〔周溝〕 幅6～18cm、深さ2～7cmの周溝が断片的に検出された。

〔ビット〕 検出されたビットは2つである。

〔カマド〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は、9層に分層される。

〔時期〕 時期は不明である。

(相馬良仁)

第401号竪穴住居跡 (図294・図295)

〔位置〕 NJ・NK-447・448グリッドに位置する。

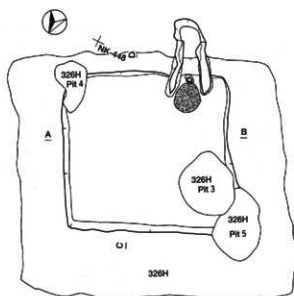
〔重複〕 第326号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 第326号住居跡により削平され、東壁(2m18cm)、西壁(2m50cm)、南壁1m46cm、北壁2m2cmで、ほぼ方形である。床面積は㎡で、主軸方位はN-154°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁10cm、西壁16cm、南壁16cm、北壁10cmで緩やかに立ち上がる。床面は、やや起伏を持ち、北側がくぼむ。

〔周溝〕 検出されなかった。

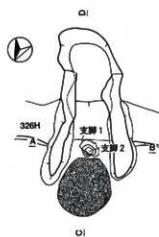
〔ビット〕 検出されなかった。



- 第401号住居跡
- | | | | | |
|-----|------|---------|-----------|--------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 炭化物・焼土粒微量 | ローム粒中量 |
| 第2層 | 淡褐色土 | 10YR5/6 | ローム層 | |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 焼土粒少量 | 炭化物微量 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒中量 | |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR4/6 | | |



0 2m



- カマド
- | | | | | |
|-----|-------|---------|----------------|-------------|
| 第1層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | 砂粒混入 炭化物・焼土粒微量 | |
| 第2層 | 暗赤褐色土 | 5YR3/6 | 炭化物・焼土粒微量 | |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 焼土粒多量 | 炭微量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 焼土粒中量 | パミ少量 ローム粒微量 |

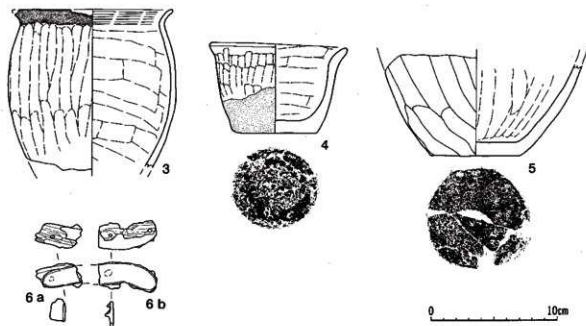


0 1m



0 10cm

図294 第401号竖穴住居跡・出土遺物(1)



図録番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	胎高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(13.0)	(4.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	刻書「父」
2	土師器	坏	フク土	14.0	(4.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅢ	P-1
3	土師器	甕	Pw 5 残片	(13.0)	(13.6)	—	剥落	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅡ	P-5
4	土師器	鉢	カマド 床面	10.8	7.2	6.4	ヘラナデ	ヘラナデ	不明	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A	外面剥落
5	土師器	甕	カマド 床面	—	(8.0)	7.2	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	新底 (ヘラナデ)	A	

図録番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
6a	フク土	3.6	1.8	1.2	4.9	茅引金	Fa-1 木質部残存
6b	フク土	4.6	2.1	0.6	6.1	茅引金	Fa-1 木質部残存

図295 第401号竪穴住居跡出土遺物(2)

〔カマド〕 カマドは、南壁西側に構築されている。袖部は粘土で築き、芯材は使われていない。焚き口部には、土師器を伏せた状態で置いた上に土師器の底部を重ねて置き、支脚としていた。煙道は半地下式で、住居跡外に58cmほど延びる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は5層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の坏や甕が、カマド床面から刻書土器(図294-1)が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀中葉に構築されたと考えられる。

(齋藤由美子)

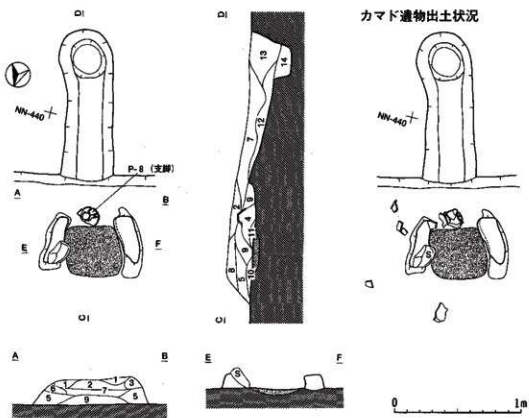
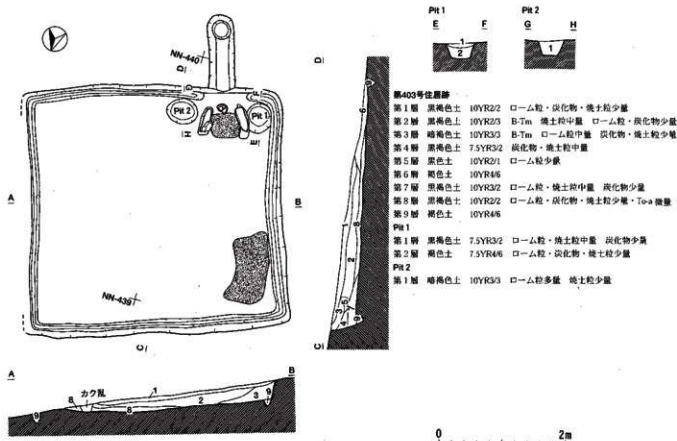
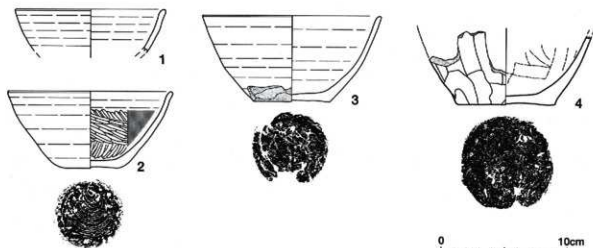
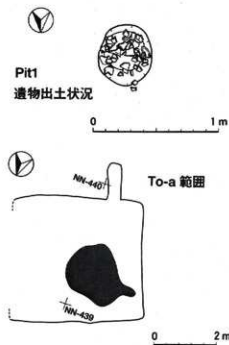
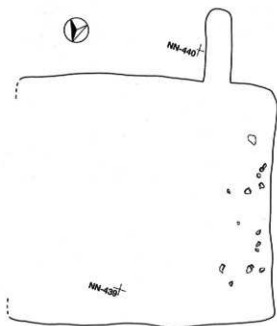


図296 第403号竪穴住居跡(1)

カマド

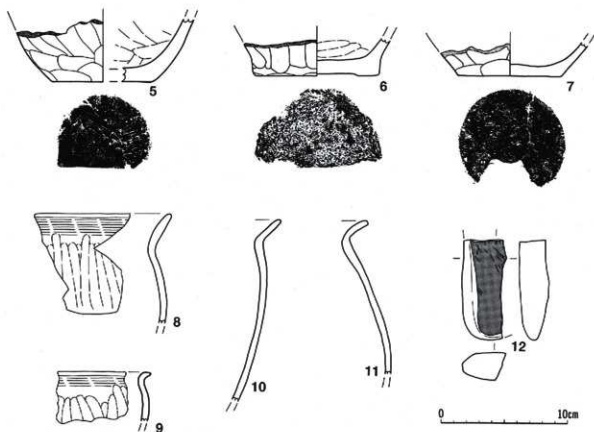
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒中量
 第2層 褐色土 5YR5/5 炭化物微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/2
 第4層 黒褐色土 7.5YR3/4 焼土粒中量 ローム粒・炭化物少量
 第5層 褐色土 10YR4/6 炭化物微量
 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 炭化物少量
 第7層 黒色土 7.5YR2/1 To-a ローム粒・焼土粒中量 炭化物少量

- 第8層 黒褐色土 7.5YR2/2 炭化物中量 ローム粒・焼土粒少量
 第9層 褐色土 7.5YR4/6 炭化物・焼土粒少量 ローム粒微量
 第10層 黒褐色土 7.5YR2/2 焼土粒多量 炭化物微量
 第11層 褐色土 7.5YR3/6
 第12層 黒褐色土 10YR3/2 褐色土 (10YR4/4) 混入 ローム粒少量
 第13層 褐色土 10YR2/2 To-a 褐色土 (10YR4/4) 混入 ローム粒少量
 第14層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	口径	高さ	口径	調整	調整	調整	調整	調整			
1	土師器	杯	フク土	(12.0)	(3.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
2	土師器	杯	フク土	(13.2)	6.1	4.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘクミヤキ	ヘクミヤキ	回転糸織り	B I b	内面黒色処理
3	土師器	杯	カマド フク土	(14.2)	6.8	8.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り ヘラナデ	B II b	P-S (支脚)
4	土師器	甕	フク土	—	(5.7)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツク	A	P-23 P-31 P-27

図297 第403号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面観察			内面観察			底面観察	分類	備考
				口径	胴高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
5	土師器	甕	フク土	—	(4.7)	(8.0)	—	—	ヘラケズ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
6	土師器	甕	フク土	—	(3.1)	(10.0)	—	—	ヘラケズ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-4
7	土師器	甕	Fl1 フク土	—	(2.7)	(8.2)	—	—	ヘラケズ	—	—	不明	ナデツケ	A	P-42
8	土師器	甕	Fl1 フク土	(13.0)	(8.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-20, P-15, 28, 30
9	土師器	甕	カマド フク土	(11.0)	(4.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-9
10	土師器	甕	カマド 灰産	(20.0)	(14.5)	—	不明	不明	—	不明	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着P-1
11	土師器	甕	Fl1 フク土	(21.0)	(11.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着P-1
図版番号	出土層位	計測値 (cm)				重量 (g)	材質	分類	備考						
		長さ	幅	厚さ											
12	Fl1 フク土	7.9	3.3	2.2	90	泥	磁石	S-1							

図298 第403号竪穴住居跡出土遺物(2)

第403号竪穴住居跡（図296～図298）

〔位置〕 調査区北東部のNM・NN-438～440グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 斜面のため東側が削平されているが西壁3m75cm、南壁（4m5cm）、北壁（4m15cm）を測り残存部分からほぼ方形と考えられる。床面積は約14.85㎡で、主軸方位はN-165°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、西壁30cm、南壁12cm、北壁42cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられ、北西隅に焼土が検出されている。

〔周溝〕 幅8～18cm、深さ5～17cmの周溝がカマド部分を除いて一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットはカマドの両脇のピット1（29cm）、ピット2（31cm）である。柱穴とは考えられず、用途などについては不明である。

〔カマド〕 南壁西側に粘土を用いて構築されている。焚口部には、土師器の坏を支脚として転用している。煙道部の上部は、削平されており、住居跡外に110cmほど延び、煙道底面は、煙出部に向かって緩やかに下がり、煙出部でピット（深さ65cm）につながり、急に立ち上がる。煙出部をもつ構造から煙道部は地下式と思われる。

〔堆積土〕 堆積土は9層に分層され、2層・3層・8層にT o - a 火山灰が混入している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の坏、甕などのほか砥石が出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

第404号竪穴住居跡（図299・図300）

〔位置〕 NK・NL-438・439グリッドに位置する。

〔重複〕 第405号・第407号住居跡、第327号溝と重複し、本住居跡は、第407号住居跡、第327号溝より古い。第405号住居跡との新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 本住居跡は、第407号住居跡、第327号溝に削平され、東壁（1m48cm）、西壁2m30cm、南壁2m22cmで、平面形は不明である。床面積は4.56㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、西壁52cm、南壁34cmでやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 南壁東側に構築されているが、火床面と煙道が残存するのみである。煙道は、残存する覆土が浅く、構築は不明である。住居跡外に50cmほどのびる。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層される。

〔出土遺物〕 カマド覆土から須恵器の壺が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）

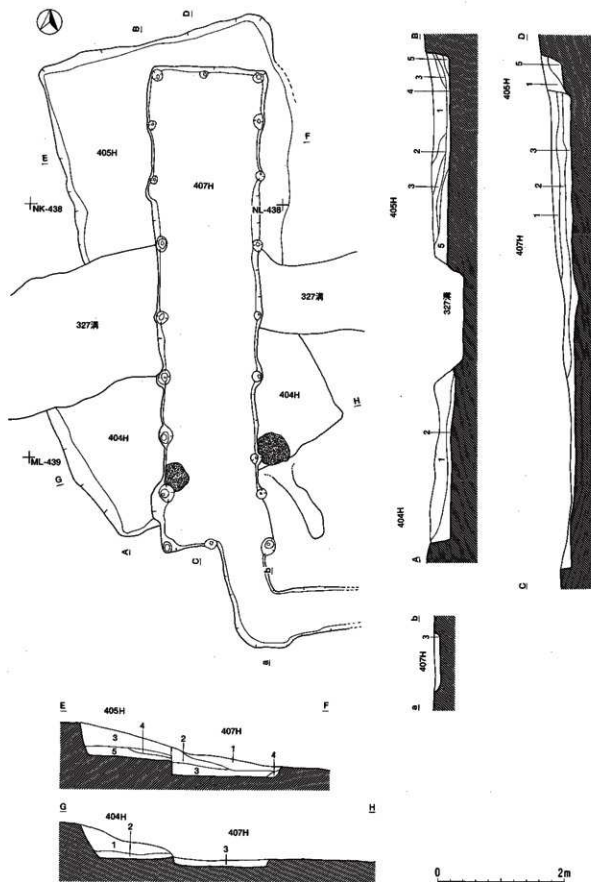
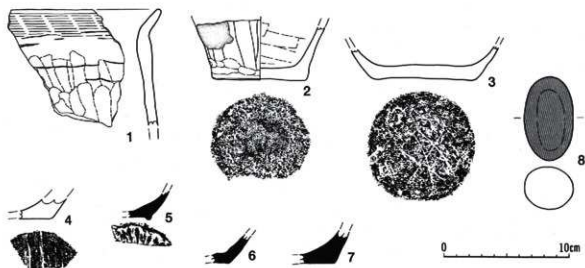
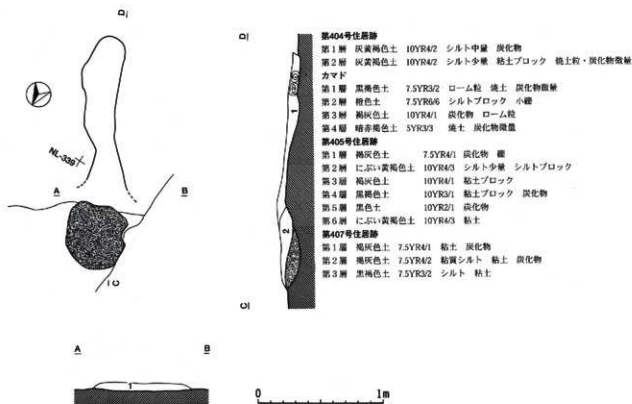


図299 第404号・第405号・第407号竪穴住居跡(1)



図録番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面測定			内面測定			表面測定	分類	備考	
				口径	胴高	底径	口径部	体部上半	体部下半	口径部	体部上半	体部下半				
1	土師器	甕	フク上	(21.0)	(9.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪線図P.3	404H
2	土師器	甕	床直	—	(4.7)	7.4	—	—	ヘラナデ ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	—	A	P.2	405H
3	土師器	甕	フク上	—	(2.7)	8.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	—	A	P-1 製書	405H
4	土師器	甕	フク上	—	(1.6)	(7.0)	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	ナゲツク	A	—	405H
5	須恵器	壺	カマド フク上	—	(2.2)	—	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	菊花文	—	—	404H
6	須恵器	壺	フク上	—	(2.3)	—	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切歯状 ヘラナズリ	—	—	404H
7	須恵器	壺	カマド フク上	—	(2.6)	—	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切歯状 ヘラナズリ	—	—	404H

図録番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
8	フク上	6.7	3.9	3.4	94	凝	磨石 S-1	404H

図300 第404号壺穴住居跡(2)・第404号・第405号出土遺物

第405号竪穴住居跡 (図299)

[位置] NK・NL-437・438グリッドに位置する。

[重複] 第404号・第407号住居跡、第327号溝と重複し、本住居跡は、第407号住居跡、第327号溝より古い。第404号住居跡との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 北壁3m42cm、南側が第327号溝に切られ、第407号住居跡が、本住居跡を南北に切っている。また、東側の大半が削平されている。残存する東壁86cm、西壁3m12cmで平面形は不明である。床面積は6.22㎡である。

[壁・床面] 壁高は、西壁52cm、北壁38cmでやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ビット] 検出されなかった。

[カマド] 確認されなかった。

[堆積土] 堆積土は5層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器の瘻が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(齋藤由美子)

第407号竪穴住居跡 (図299・図300)

[位置] NK-439グリッドに位置する。

[重複] 第404号・第405号住居跡、第327号溝と重複し、本住居跡が最も新しい。

[平面形・規模] 東壁7m58cm、西壁7m68cm、南壁1m78cm、北壁1m80cmで、長方形である。

[壁・床面] 壁高は、東壁14~18cm、西壁12~44cm、南壁18cm、北壁36cmで垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ビット] 壁の周りに、径35cm~50cm、深さ25cm~30cmの壁柱穴が20個検出された。

[カマド] 確認されなかった。

[その他の施設] 南壁東側から、幅68~88cm、深さ10cmの溝が東側へのびる。

[堆積土] 堆積土は3層に分層される。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 時期は不明である。

(齋藤由美子)

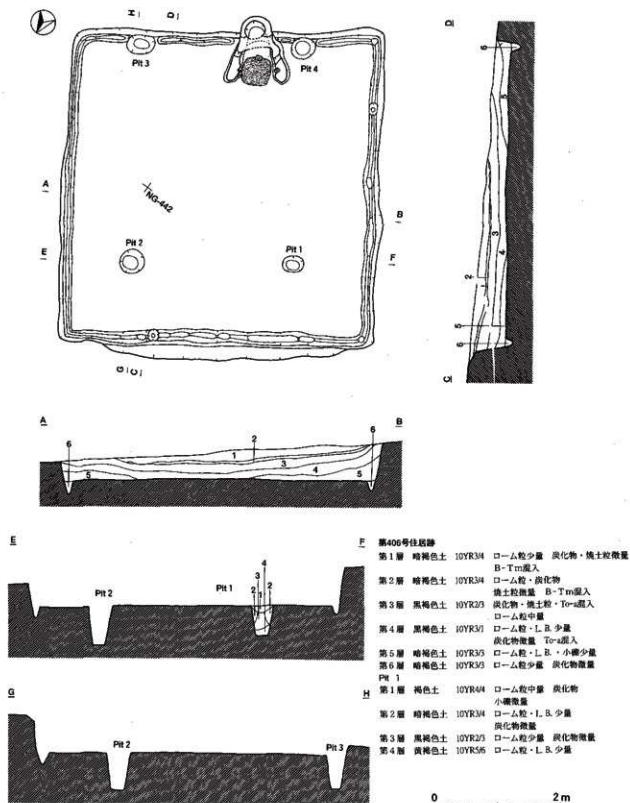


图301 第406号壑穴住居跡(1)

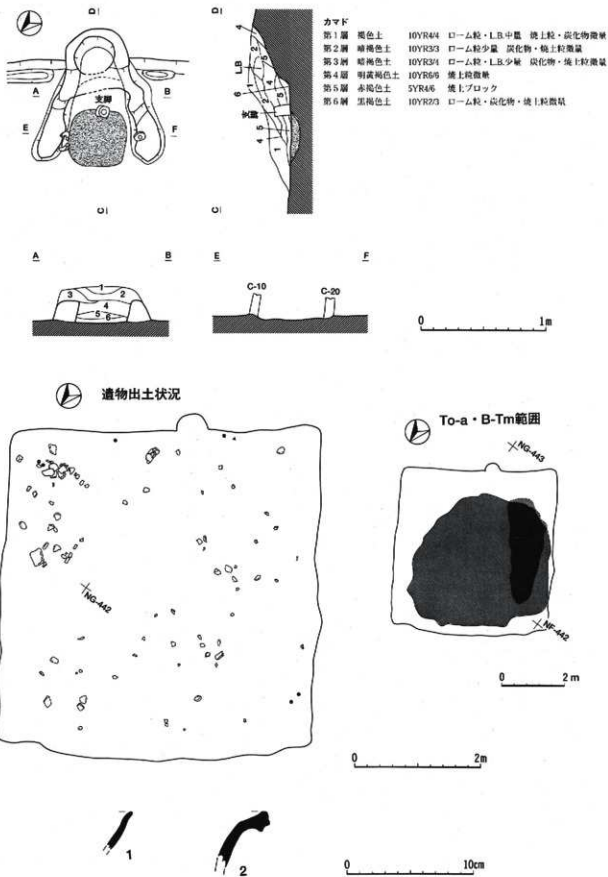
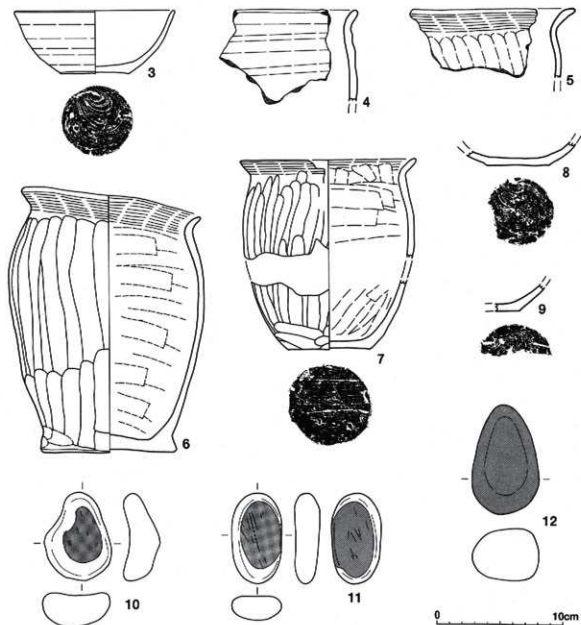
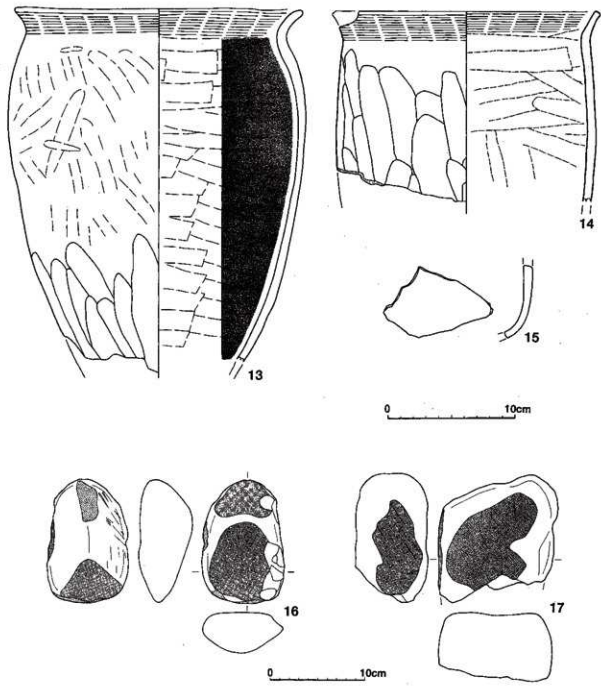


図302 第406号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



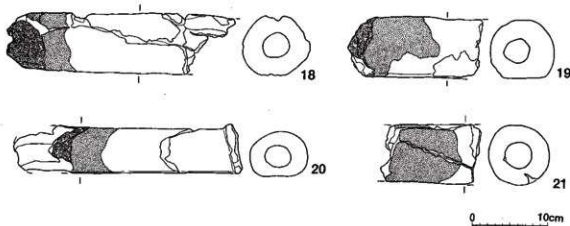
図録 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考		
				口径	胎高	底径	口縁部	体部上平	体部下平	口縁部	体部上平	体部下平					
1	須恵器	坏	フク土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	—	
2	須恵器	壺	フク土	—	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	—	
3	土師器	坏	カマド フク土	(12.8)	5.0	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	不明	不明	不明	不明	不明	B II	P-?	
4	土師器	壺	Pr1 フク土	(16.2)	(7.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	B	P-26	
5	土師器	壺	床直 改フク土	(22.0)	(5.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	A	P-33	
6	土師器	壺	床直 改フク土	14.0	21.0	10.8	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A II e	P-44, 54
7	土師器	壺	Pr17721 床直 改フク土	14.0	15.0	6.6	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A II e	P-53, 13, 26, 31	
8	土師器	坏	床直 改フク土	—	(4.4)	5.5	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	砂底	B II	P-35	
9	土師器	坏	フク土	—	(2.3)	(5.6)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	砂底	B II	P-1	
図録 番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考									
		長さ	幅	厚さ													
10	フク土	6.9	5.3	2.5	90	流	礫石	S-2									
11	床直	7.2	3.9	1.9	75	流	礫石	S-25									
12	床直	8.6	5.4	4.2	240	流	礫石	S-6									

図303 第406号壺穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	脛部上	体部下	口縁部	脛部上	体部下			
13	土師器	甕	フタ土 底底	23.0	(29.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナズリ	—	A 1	P.26 内面黒色処理
14	土師器	甕	底底	(21.4)	(15.1)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P.12, 55, 56
図版番号	出土層位			計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考					
16	床面	長さ	幅	厚さ	13.0	8.5					4.2	660	滝	磁石	S-15
17	床底	長さ	幅	厚さ	11.6	12.0	7.1	1,640	滝	磁石	S-5				
図版番号	出土層位			計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考						
15	フク土	長さ	幅	厚さ	8.6	5.7				0.7	105.4	鍋?	Fe-6		

図304 第406号竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版 番号	出土層位	計 測 値 (cm)			重さ (g)	分 類	調 整	備 考	
		長 寸	外 径	内 径					
18	カマドフク土 (30.2)	7.9	9.0	3.3	(1,300)	B	ナデ	羽口・13	
19	カマドフク土 (17.9)	7.8	8.6	3.2	(980)	B	ナデ	羽口・20	
20	床面 カマドフク土	30.2	6.0	7.7	2.9	3.5	(880)	C	羽口・6・羽口・7・羽口・10
21	カマドフク土 (13.1)	7.9	8.2	3.5	(888)	B	ナデ	羽口・14・支脚	

図305 第406号壁穴住居跡出土遺物(4)

第406号壁穴住居跡 (図301～図305)

〔位置〕 調査区北側NE～NG-441～443グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁4m94cm、西壁5m6cm、南壁4m92cm、北壁5mのほぼ方形である。床面積は約23.71㎡で、主軸方位はN-145°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁35cm、西壁60cm、南壁25cm、北壁55cmで床面から急に立ち上がる。床面は平坦で堅く締まっている。

〔周溝〕 幅10～21cm、深さ5～20cmの周溝が一巡する。周溝内には、ビット(深さ15～34cm)が検出されている。

〔ビット〕 検出されたビットは4個でいずれも柱穴と思われる。ビット1(49cm)、ビット2(60cm)、ビット3(51cm)、ビット4(59cm)で4本の柱のうちカマド寄りの2本が壁側に位置している。

〔カマド〕 南壁中央のやや西寄りに、羽口を芯材として転用し、粘土を用いて本体を構築している。焚口部に、羽口を支脚としている。煙道は半地下式で、住居跡外に30cmほど延びる。煙道底面は、煙出部に向かってやや急に立ち上がる。

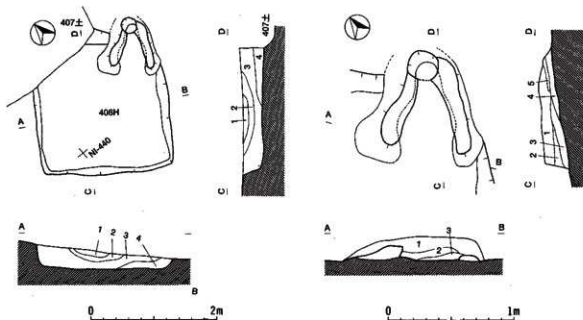
〔その他の施設〕 北壁に長さ3m60cm、幅20cm、深さ5～12cmのテラス状の施設を検出した。用途などについては不明である。

〔堆積土〕 堆積土は6層に分層される。1層にB-Tm火山灰が、3層・4層にT-o-a火山灰がブロック状に混入している。

〔出土遺物〕 覆土から、多量の遺物が出土し(図302)、土師器の坏、甕などのほか砥石がみられる。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)



遺物出土状況



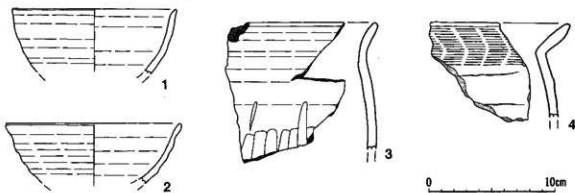
第408号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 粘土 焼土 炭化物
 第2層 黒褐色土 10YR3/1 粘土ブロック 炭化物
 第3層 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒 粘土粒 To=火山灰
 第4層 灰黄褐色土 10YR4/2 焼土

カマド

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 粘土
 第2層 灰黄褐色土 10YR4/2 粘土 焼土粒
 第3層 濃い黄褐色土 5YR4/4 粘土
 第4層 灰黄褐色土 10YR4/2
 第5層 褐色土 10YR4/4

0 2m



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外部調整			内部調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁径	体部上半径	体部下半径	口縁径	体部上半径	体部下半径			
1	土師器	杯	カマド3層	(14.0)	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	P-24
2	土師器	杯	カマドフクエ	(14.8)	(4.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	P-16
3	土師器	甕	カマド3層	(24.0)	(10.6)	—	ロクロ	ヘラケリ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-13 輪郭底
4	土師器	甕	カマド3層 カマド2層	(17.0)	(7.1)	—	ヨコナデ	ナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-12, P-14 輪郭底

図306 第408号竪穴住居跡・出土遺物

第408号竪穴住居跡 (図306)

[位置] NH・NI-439・440グリッドに位置する。

[重複] 第407号土坑と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 東壁2m20cm、南壁2m6cm、北西隅が第407号土坑に切られており、残存する西壁1m36cm、北壁86cmで、平面形は不整形と推定する。床面積は、3.48㎡で、主軸方位はN-149°-Wである。

[壁・床面] 壁高は、東壁32cm、西壁16cm、南壁30cmでやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されなかった。

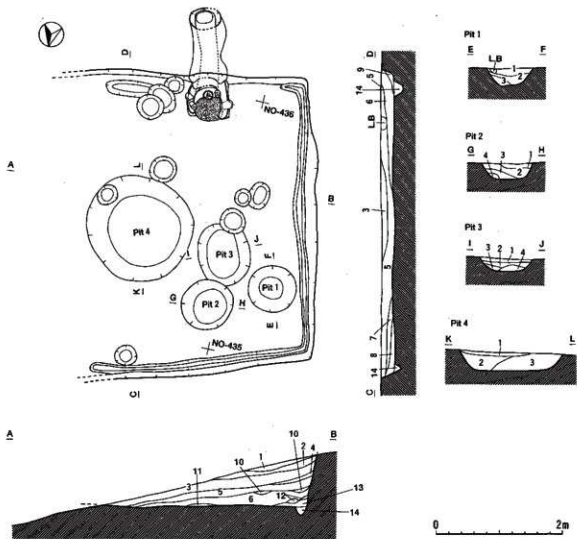
[カマド] 北東隅に構築されており、煙出しに一部が削平されている。本体は芯材を使わず、粘土で築かれている。煙道は半地下式で、住居跡外に157cmほど延びる。煙道底面は煙出部向かってに緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は5層に分層され、3層にT o - a 火山灰が含まれている。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕や坏が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(齋藤由美子)



第409号住居跡

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第4層	黒色土	10YR2/1	焼土粒中量 ローム粒・炭化物少量
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量 焼土粒少量 炭化物微量
第6層	暗褐色土	10YR3/3	褐色土(10YR4/4)混入 炭化物・焼土粒少量
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物少量
第8層	黒褐色土	10YR3/2	褐色土(10YR4/6)混入 ローム粒中量
第9層	黒褐色土	7.5YR2/2	褐色土(10YR4/4)混入 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第10層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物中量 焼土粒少量
第11層	暗褐色土	10YR3/3	褐色土(10YR4/6)混入 炭化物・焼土粒少量
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量
第14層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物中量 ローム粒・焼土粒少量

PH 1

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒中量 炭化物少量
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量 炭化物少量

PH 2

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量 炭化物少量
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒・炭化物中量
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量
第4層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒少量

PH 3

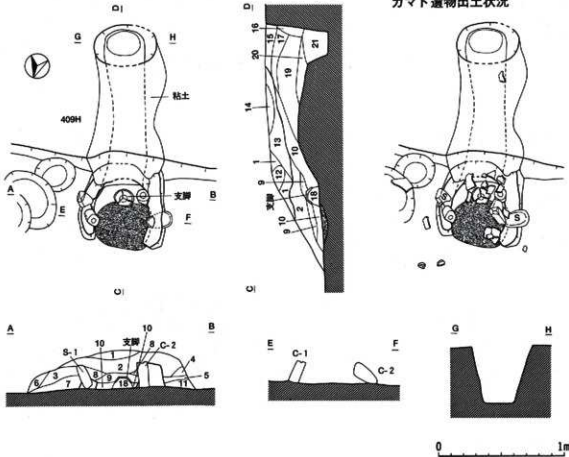
第1層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒・炭化物中量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物多量 ローム粒少量
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物少量
第4層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒中量 ローム粒少量

PH 4

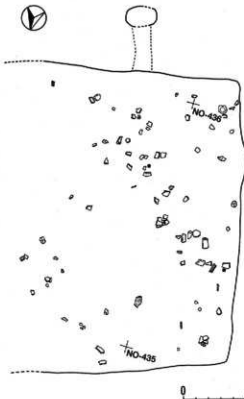
第1層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)混入 ローム粒少量 炭化物少量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	L.B.多量 ローム粒・炭化物中量 焼土粒少量
第3層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量

図307 第409号竪穴住居跡(1)

カマド遺物出土状況



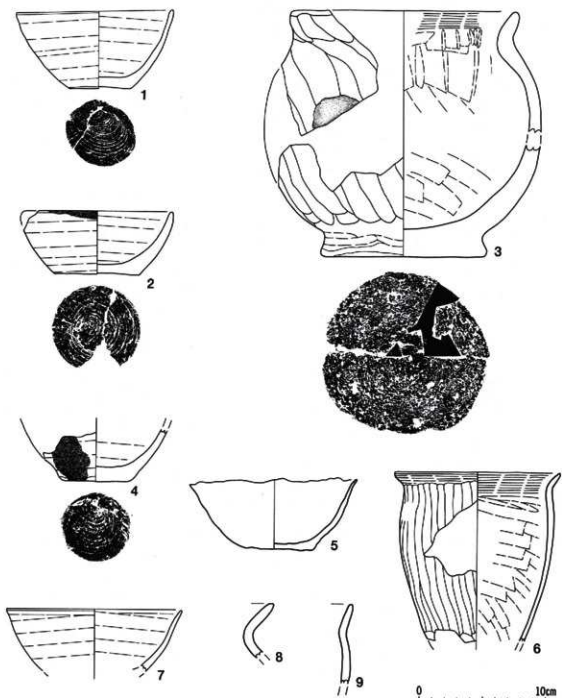
遺物出土状況



カマド

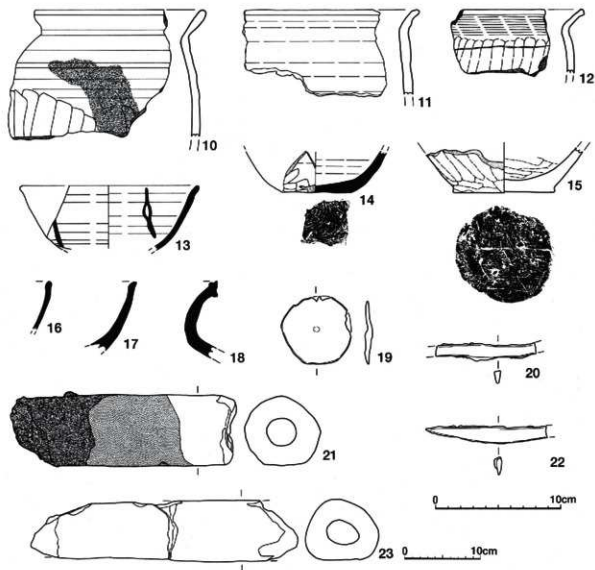
- | | | |
|--------------|----------|-------------------|
| 第1層 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒少量 |
| 第2層 黒褐色土 | 10YR3/2 | 暗褐色土(10YR3/2)混入 |
| 第3層 褐色土 | 7.5YR4/4 | 暗褐色土(10YR3/2)混入 |
| 第4層 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒少量 |
| 第5層 黒色土 | 10YR2/1 | ローム粒微量 |
| 第6層 赤褐色土 | 5YR4/6 | 褐色土(7.5YR4/4)混入 |
| 第7層 暗褐色土 | 10YR3/4 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第8層 赤褐色土 | 5YR4/8 | にぶい赤褐色土(5YR4/4)混入 |
| 第9層 褐色土 | 7.5YR4/4 | ローム粒・炭化物・焼土粒微量 |
| 第10層 黒褐色土 | 7.5YR3/4 | 炭化物・焼土粒微量 |
| 第11層 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒少量 |
| 第12層 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒・炭化物・焼土粒微量 |
| 第13層 にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 焼土粒少量 |
| 第14層 褐色土 | 7.5YR4/4 | ローム粒・炭化物・焼土粒微量 |
| 第15層 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | ローム粒・炭化物・焼土粒微量 |
| 第16層 黒褐色土 | 10YR3/2 | ローム粒・炭化物・焼土粒微量 |
| 第17層 黄褐色土 | 10YR5/6 | ローム粒少量 |
| 第18層 褐色土 | 7.5YR4/6 | 炭化物少量 |
| 第19層 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 褐色土(7.5YR4/6)混入 |
| 第20層 黒褐色土 | 7.5YR2/2 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第21層 暗褐色土 | 7.5YR3/2 | 炭化物中量 |

図308 第409号竪穴住居跡(2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調査			内面調査			底面調査	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	Pa3 フク土	12.5	6.3	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	BⅡb	P-32, 37
2	土師器	坏	フク土	(12.0)	5.0	6.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	BⅡb	鳥取県文書館 P-18, 33
3	土師器	甕	フク土 床底	(18.4)	(19.5)	13.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツグ	ナデツグ	AⅡe	P-23, 31, 32
4	土師器	坏	フク土	(4.5)	5.0	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	BⅡ	鳥取県文書館 P-21 本館に土師器 P-1
5	土師器	坏	方町下 フク土	(13.3)	(5.5)	(8.0)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	—	—
6	土師器	甕	床底	(13.2)	(13.5)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	AⅡ	P-24
7	土師器	坏	フク土	(14.0)	(4.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	BⅡ	—
8	土師器	甕	床底	(22.0)	(4.4)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	—	A	P-27
9	土師器	甕	フク土	(22.0)	(6.9)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	—	A?	P-11

図309 第409号竪穴住居跡出土遺物(1)

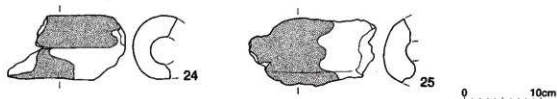


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	胴高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	カマドフク土	(21.0)	(10.3)	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	外面加工痕 P-13
11	土師器	甕	フク土	(18.0)	(6.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-10
12	土師器	甕	唐直	(20.0)	(4.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪縁部 P-22 外口縁 尖だす痕 P-5
13	須恵器	坏	フク土	(14.0)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—
14	須恵器	坏	フク土	—	(3.3)	(5.6)	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	—
15	土師器	甕	フク土	—	(3.6)	8.0	—	—	—	ヘラナデ	—	—	ユビナデ	回転痕 A	P-22
16	須恵器	坏	フク土	—	(3.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	ナデツケ	—	内面 尖だす痕
17	須恵器	坏	フク土	—	(5.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—
18	須恵器	甕	フク土	—	(6.1)	—	ロクロ	タタキ用	—	ロクロ	沓具	—	—	—	P-17

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	外径	厚さ			
19	フク土	5.2	5.0	0.5	27.4	紡錘車	Fe-9
20	フク土	7.9	1.0	0.5	7.2	刀子	Fe-3
21	フク土	9.6	1.4	0.6	10.7	刀子	Fe-8

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
22	カマドソデ	30.0	9.2×10.2	3.6×4.0	2,380	B	ナデ、ケズリ	羽口-1 (芯材)
23	カマドソデ	(35.4)	8.1×9.7	3.2×4.1	(2,170)	C		羽口-2、3

図310 第409号竪穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
24	フク土	(17.5)	8.4×(6.0)	—	(454)	B	ナデ	羽口3, 8
25	フク土	(17.0)	8.5×(4.3)	—	(490)	B	ナデ, 西側	羽口2

図311 第409号竪穴住居跡出土遺物 (3)

第409号竪穴住居跡 (図307～図311)

〔位置〕 調査区北東部のNN・NO-434～436グリッドに位置する。

〔重複〕 第317号溝と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 斜面のため東側が削平されており、西壁4m50cm、南壁(3m50cm)、北壁(3m20cm)で、平面形は不明である。残存部分の床面積は約(18.69㎡)で、主軸方位はN-166°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、西壁84cm、南壁20cm、北壁24cmで床面からほぼ垂直に立ち上ると思われる。床面は、やや起伏がみられる。

〔周溝〕 幅9～26cm、深さ6～18cmの周溝が西壁に、南壁と北壁は一部に検出された。南壁の周溝は壁面から10cmほど離れている。

〔ピット〕 ピットが9個検出されたが、いずれも柱穴とは考えられない。ピット4は住居跡中央に、径170cm、深さ30cmの円形である。

〔カマド〕 南壁西側に羽口と竈を芯材として、粘土を用いて本体を構築している。焚口部には土師器の坏を伏せて支脚としている。煙道は地山を掘り粘土で覆った地下式で、住居跡外に100cmほど延び、煙道底面は、中央付近までは緩やかに上り、その後煙出部に向けて緩やかに下り、煙出部でピット(深さ97cm)につながり、ほぼ垂直に立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は14層に分層され、黒褐色主体で、焼土粒が全体的に含まれている。

〔出土遺物〕 覆土から多量の遺物が出土し(図308)、土師器や須恵器の坏、甕などのほか鉄製の紡錘車や刀子がみられる。

〔時期〕 出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

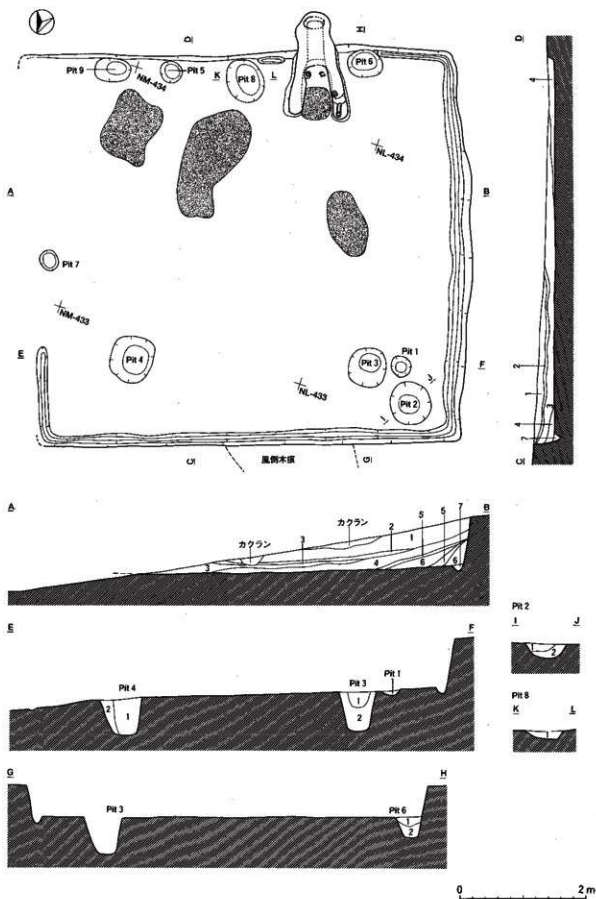


図312 第410号壑穴住居跡 (1)

第410号壁穴住居跡（図312～図316）

〔位置〕 調査区北東部のNK～NM-432～434グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 斜面のため東側が削平されてが、東壁（6 m10cm）、西壁6 m12cm、南壁（6 m78 cm）、北壁は（6 m60cm）で、残存部分からほぼ方形と思われる。床面積は約（41.50㎡）で、主軸方位はN-161°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、西壁81cm、南壁45cm、北壁55cmで、床面から急に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、カマド寄りに床面の焼けている部分のみられる。

〔周溝〕 幅8～24cm、深さ2～10cmの周溝が西壁と南壁に、東壁と北壁には一部に検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは9個で、そのうち柱穴と考えられるものは、ピット3（56cm）、ピット4（58cm）、ピット6（36cm）、ピット9（54cm）である。また、カマド脇のピット8（長軸72cm、短軸56cm、深さ14cm）から土師器などが出土している。

〔カマド〕 南壁西側に羽口を芯材にして粘土を用いて構築している。焚口部には、土師器の甕と礎を支脚としている。煙道は半地下式で、住居跡外に60cmほど延びる。煙道底面は、煙出部の向かって緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は7層に分層され、2層にB-Tm火山灰が混入している。

〔出土遺物〕 床面から多量の遺物が出土し（図314）、土師器や須恵器の坏、甕などのほか砥石のみられる。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

第410号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒混入 炭化物・焼土粒少量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 B-Tm 炭化物・焼土粒微量
 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
 第5層 褐色土 10YR4/4 ローム層
 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量 焼土粒微量
 第7層 褐色土 10YR4/6 炭化物・焼土粒中量
- PI#1
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物微量
- PI#2
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒混入 炭化物微量
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物多量 ローム粒少量

PI#3

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物微量
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物微量

PI#4

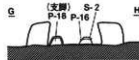
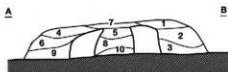
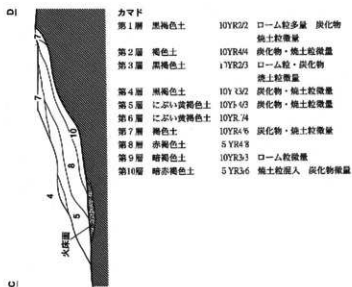
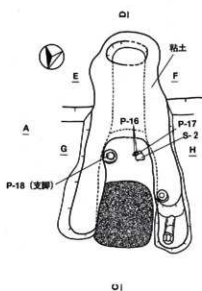
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 To-a混入 ローム粒多量
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量

PI#6

- 第1層 褐色土 10YR4/4 焼土・炭微粒
 第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/5 焼土・炭中量 パリス殻量

PI#8

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量



Pit 8 遺物出土状況

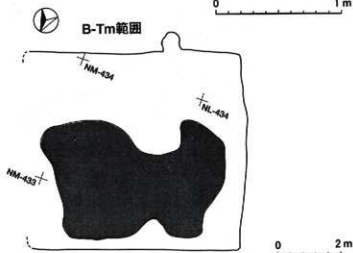
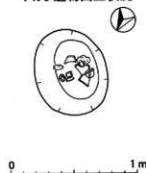
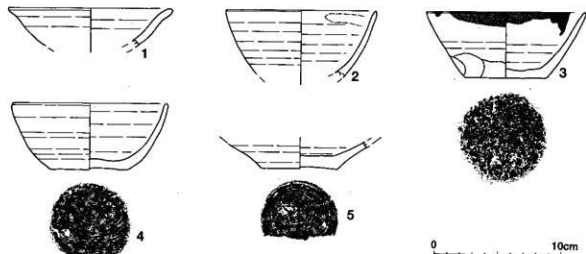
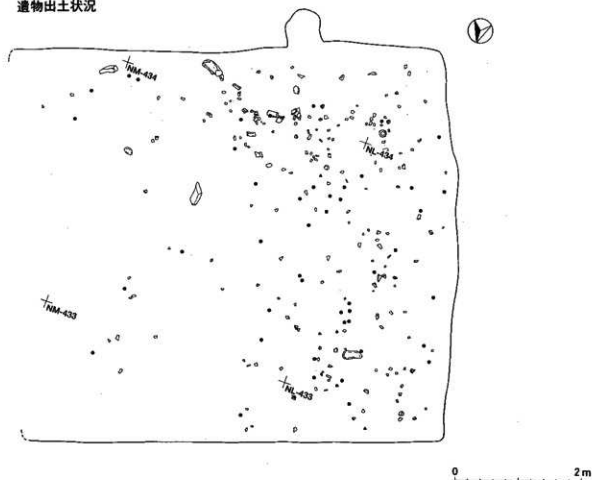


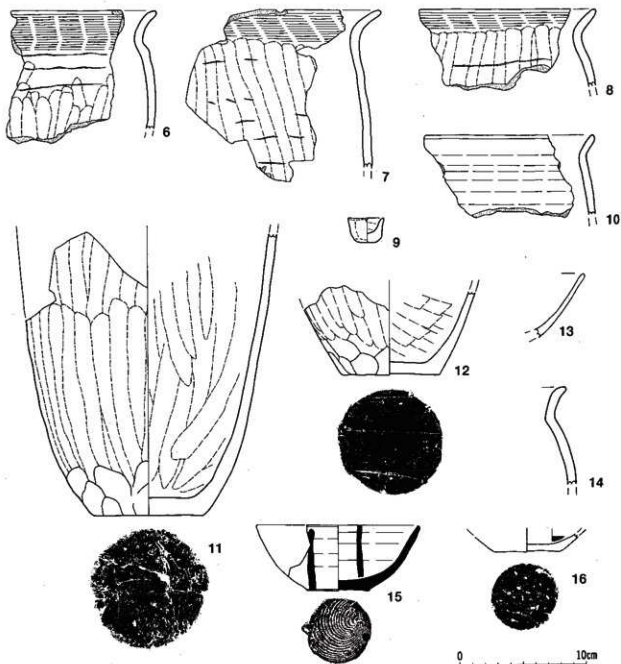
図313 第410号竪穴住居跡 (2)

遺物出土状況



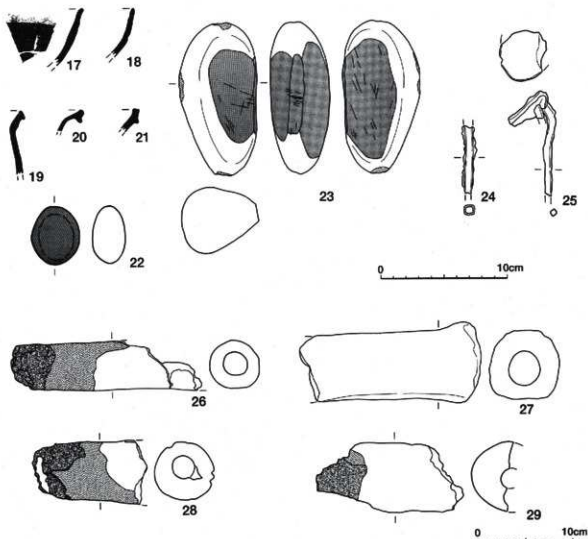
図版番号	種類	土器種別	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁厚	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	床面	(13.0)	(3.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-3
2	土師器	坏	床面	(12.0)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-118
3	土師器	坏	床面	12.4	5.2	6.4	ロクロ	ロクロ	ヘラズリ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	不明	BⅡa	2ヶ所底面化粧土層 付属品 P-31
4	土師器	坏	床面	—	(5.3)	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡb	P-18
5	土師器	坏	カマド フタ土	—	(2.1)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り	BⅡ	P-1

図314 第410号竪穴住居跡(3)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体座上平	体部下平	口縁部	体座上平	体部下平				
6	土師器	甕	フク上	(18.0)	(10.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪郭線 P-84	
7	土師器	甕	床直	(16.0)	(13.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪郭線 P-15, 12, 38	
8	土師器	甕	Pr8 フク上	(16.0)	(6.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪郭線 P-4	
9	土師器	小型土器	床直	2.9	1.8	1.8	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	—	—
10	土師器	甕	床直	(20.0)	(6.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-33	
11	土師器	甕	フク土	—	(22.5)	8.6	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A I	P-89, 110	
12	土師器	甕	Pr8 床直	—	(7.1)	8.0	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-18 (支脚)	
13	土師器	坏	フク上	(13.0)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	P-38	
14	土師器	甕	フク土	(23.6)	(7.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪郭線 P-85	
15	須恵器	坏	Pr8	(12.8)	5.2	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切	—	外内面火だすき痕	
16	土師器	坏	フク土	—	(1.5)	(5.2)	—	—	不明	—	—	不明	糸切り	B I ?	内面黒色処理 P-116	

図315 第410号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	種別	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
17	須臾器	坏	フク土	—	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	外面調整 内面調整 P-76
18	須臾器	坏	フク土	—	(3.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-46
19	須臾器	壺	フク土	—	(5.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-88
20	須臾器	壺	床直	—	(1.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-1
21	須臾器	壺	フク土	—	(1.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考							
		長さ	外径	内径											
22	床直	4.6	3.9	2.6	50	凝	磨石	S-1	炭化物付着						
23	カマド床面	12.2	0.2	5.0	385	流	砥石	S-1	炭化物付着						
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
24	フク土	5.4	0.8	0.8	5.4	棒状	Fe-1	—							
25	フク土	8.4	3.1	0.6	32.5	紡錘形	Fe-1	—							
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考							
		長さ	外径	内径											
26	カマド芯材	(25.3)	6.3×6.6	3.1	(722)	B	ナデ	割口-8 (芯材)							
27	カマド 床面	(24.1)	9.3	4.6	(1,762)	D ₁	ナデ	割口-7							
28	フク土	(15.2)	7.6×7.9	3.0	(710)	A	ナデ	割口-5、10、11							
29	カマド 床面	(19.5)	(9.2)×(5.7)	—	(606)	不明	ナデ	割口-2							

図316 第410号竪穴住居跡出土遺物 (3)

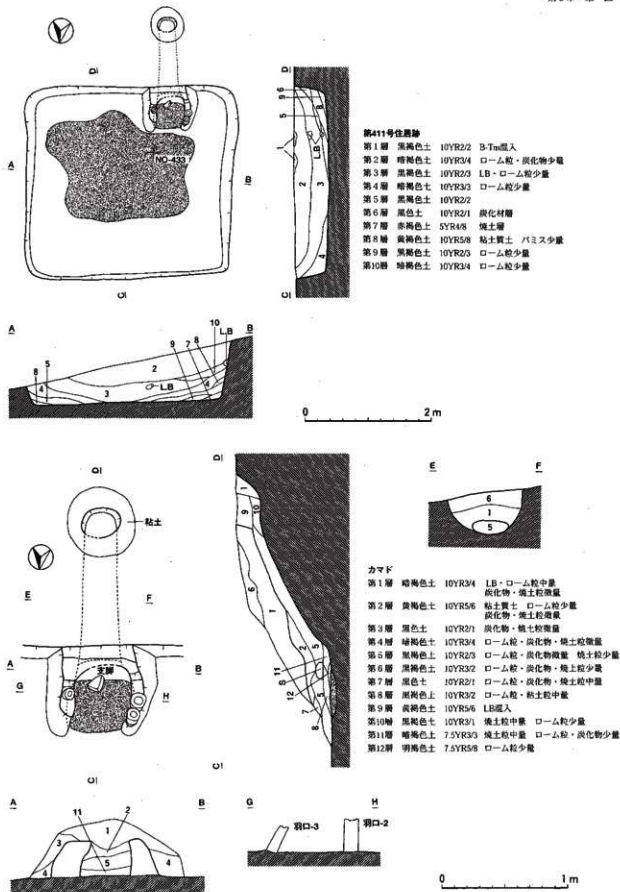
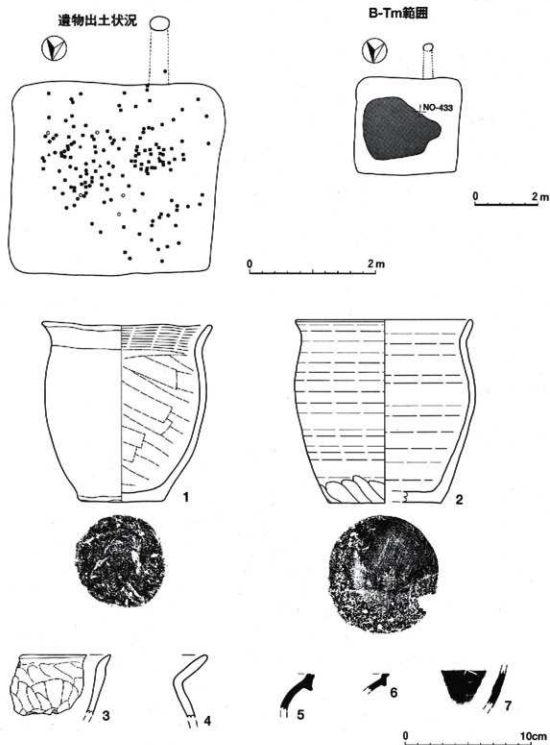
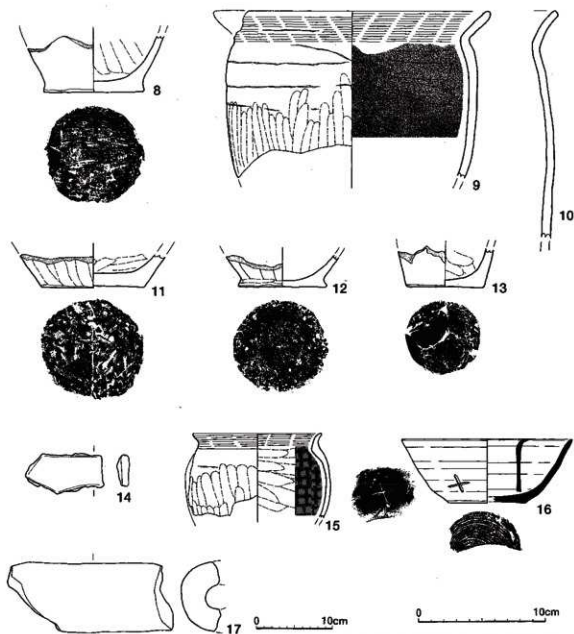


図317 第411号竪穴住居跡(1)



図表番号	種別	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	方マド ツク土 底面	(13.6)	14.3	6.8	不明	不明	不明	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A II e	P-5
2	土師器	甕	ツク土 底面	14.2	14.5	(9.0)	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ナデツケ	B II	P-78, 109, 30
3	土師器	埴	フク土	(10.0)	(4.8)	—	ユビ正張	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	P-87
4	土師器	甕	方マド ツク土	(22.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-3
5	須恵器	壺	フク土	—	(2.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
6	須恵器	壺	フク土	—	(1.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	自然輪
7	須恵器	埴	埴面	—	(2.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面調整 大底平巻

図318 第411号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)

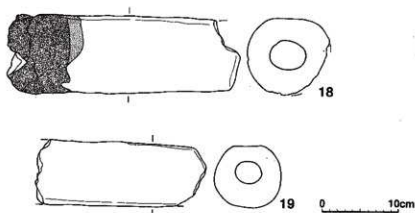


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口徑	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
8	土師器	甕	カマド フク土	—	4.4	8.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-7	
9	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(13.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-9	
10	土師器	甕	カマド フク土	(24.0)	(18.0)	—	不明	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-4	
11	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	8.2	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り ヘラナデ	A	P-36	
12	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	7.0	—	—	ヘラナデ ヘラナデ	—	—	不明	ナデツケ	A		
13	土師器	鉢	フク土	—	(3.2)	6.0	—	—	ナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A		
15	土師器	甕	フク土	(10.2)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-103 不明褐色粘土	
16	須恵器	坏	フク土	(13.4)	5.1	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	刷毛削り	—	P-103 不明褐色粘土
17																

図版番号	出土層位	計測値 (cm)		重さ (g)	種類	備考
		長さ	厚さ			
14	フク土	8.2	3.1	33.2	板状	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
17	カマド芯材	(21.8)	(9.1) × (5.2)	—	(768)	不明	ナデ	羽口-1 砂粒多量

図319 第411号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)		重さ (g)	分類	調査	備考	
		長さ	外径					内径
18	カマド芯材	30.9	10.2(10.4)	3.9×4.8	(2,260)	B	ナデ	羽口-2 砂粒多量
19	カマド芯材	(22.6)	8.3×8.9	3.0×3.6	(1,637)	Dz	ナデ	羽口-3

図320 第411号竪穴住居跡出土遺物 (3)

第411号竪穴住居跡 (図317～図320)

[位置] 調査区北東部のNN・NO—432・433グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁3m8cm、西壁が2m98cm、南壁3m30cm、北壁3m20cmのほぼ方形である。床面積は約8.52㎡で、主軸方位はN-176°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁32cm、西壁84cm、南壁47cm、北壁49cmで床面から急に立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で焼土が広がる。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されなかった。

[カマド] 南壁西側に羽口を芯材として粘土で用いて構築している。焚口部には礎を支脚としている。煙道は地山を掘り下げ粘土で上部を覆う地下式で、住居跡外に120cmほど延びる。煙道底面は、煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は10層である。1層にB-Tm火山灰が混入し、7層は焼土層である。

[出土遺物] 覆土から多量の遺物が出土している (図318)。土師器や須恵器の坏、甕などがみられる。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

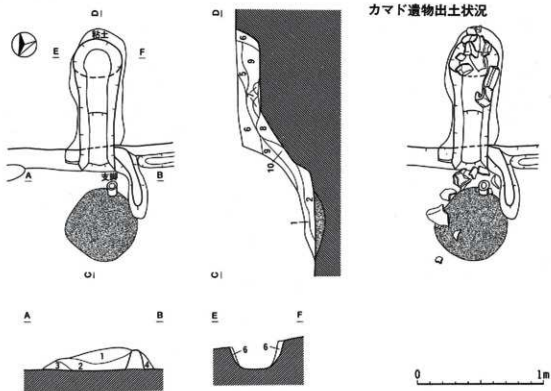
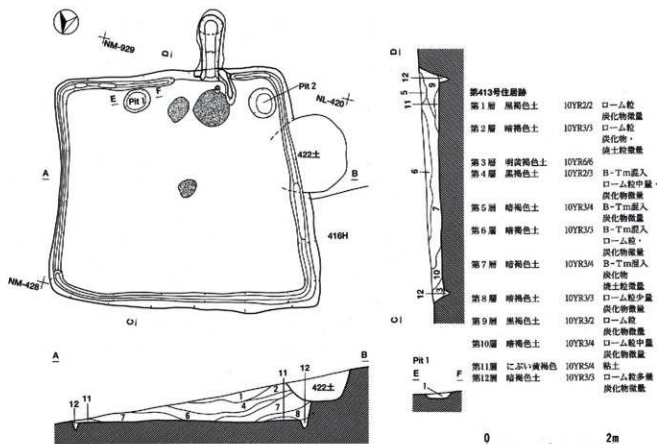
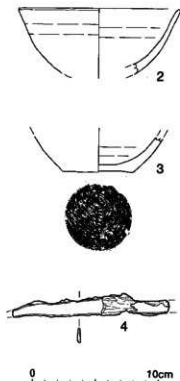
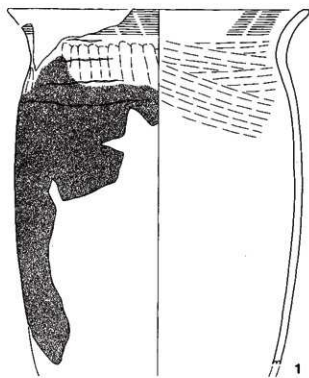
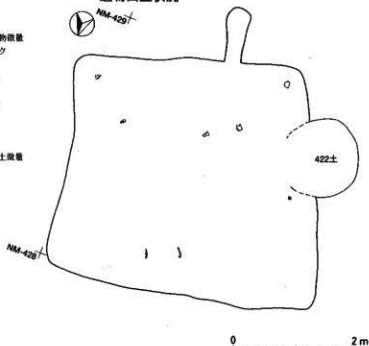


図321 第413号竪穴住居跡 (1)

遺物出土状況

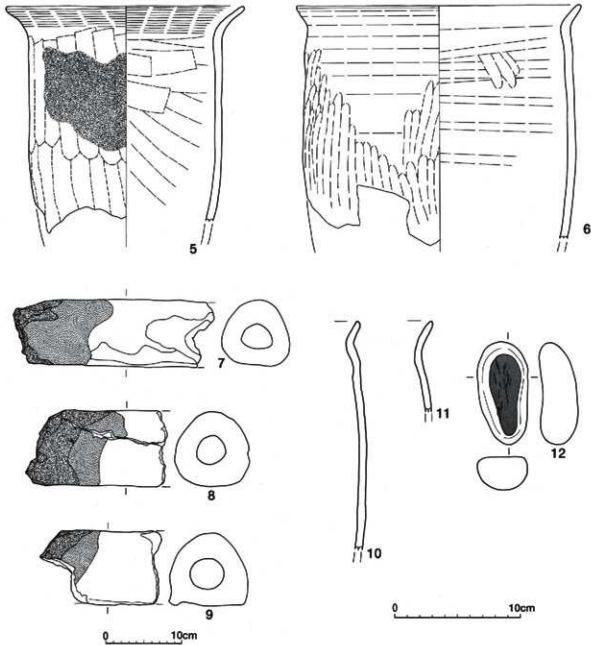
カマド

第1層	褐色土	7.5YR4/4	焼土・炭化物微量
第2層	暗赤褐色土	5YR3/4	焼土ブロック
第3層	にぶい褐色土	10YR4/3	粘土
第4層	にぶい黄褐色土	10YR4/5	炭化物微量
第5層	褐色土	10YR4/4	
第6層	明褐色土	7.5YR5/6	炭化物微量
第7層	暗褐色土	10YR3/3	焼土微量
第8層	暗褐色土	10YR3/4	
第9層	赤褐色土	5YR4/6	
第10層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土微量



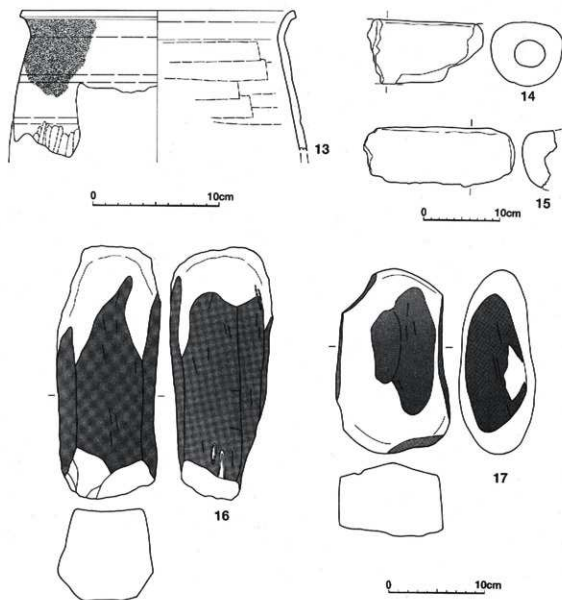
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	甕	カマド ツク土	(24.0)	(28.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-4, 13, 外底粘土付着 なし、無縁部	
2	土師器	埴	床直	(13.0)	(5.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B II	P-3	
3	土師器	埴	カマド ツク土	—	(2.8)	5.4	—	—	—	不明	—	—	ロクロ	縁部残存あり	B II	P-7
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	種類	備考									
		長さ	幅	厚さ												
4	床直	12.4	1.2	0.2	18.2	刀子	本質部残存									

図322 第413号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外徑調整			内径調整			底面調整	分類	備考
				口径	高さ	底径	口径部	体部上半	体部下半	口径部	体部上半	体部下半			
5	土師器	甕	カマドフタ	(19.0)	(17.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1	外産粘土付着 P-2
6	土師器	甕	カマド11層	(22.6)	(19.0)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B1	F-1-1, F-1-2, F-1-3
7	土師器	甕	カマド11層	(20.0)	(18.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	A	F-1-4
8	土師器	甕	カマドフタ	(20.0)	(17.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-6
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	調整	備考						
		長さ	幅	厚さ											
12	床底	8.1	4.0	2.6	10.0	硬質	磁石	S-1							
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考							
		長さ	外径	内径											
7	カマド床直	(26.6)	8.6×9.0	3.3×4.0	(1,080)	D1	ナデ	茶口-1							
8	カマド床直	(18.5)	8.9×10.1	3.8	(1,560)	B	ナデ	支脚							
9	フタ土	(16.0)	9.6×10.6	4.1	(922)	C	ナデ	茶口-4							

図323 第413号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面測型		内面測型		底面測型	分類	備考	
				口径	胴高	底径	口縁径	体部上半	体部下半	口縁径				体部上半
13	土師器	甕	カマドフク土	(21.6)	(11.6)	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	B	P-1 外周粘土付着
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	調査	備考					
		長さ	外径	内径										
16	灰塗	23.5	10.1	9.5	3,875	安	硝石	S-2						
17	カマド11層	19.9	11.3	7.7	2,272	流	硝石	S-1						
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調査	備考						
		長さ	外径	内径										
14	カマドフク土	(15.4)	8.4×9.8	3.5×4.1	(880)	B	—	羽口-1						
15	カマドフク土	(19.9)	(7.5)×(4.6)	—	(640)	B	ナデ、指痕	羽口-3						

図324 第413号竪穴住居跡出土遺物 (3)

第413号竪穴住居跡 (図321～図324)

〔位置〕 調査区北東部のNL-428グリッドに位置する。

〔重複〕 第416号住居跡、第422号土坑と重複し、本住居跡は、第422号土坑より古く、第416号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 東壁は3 m50cm、西壁が3 m83cm、南壁は3 m65cm、北壁は4 m35cmで北西隅が張り出す不正方形である。床面積は約13.54㎡で、主軸方位はN-162°-Eである。

〔壁・床面〕 斜面のため東側は削平されているが西壁89cm、南壁30cm、北壁27cmを測り、急に立ち上がる。床面は平坦でカマド脇と住居跡中央に焼土がみられる。

〔周溝〕 幅9～21m、深さ5～29cmの周溝が一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットはカマドの両脇のピット1 (17cm) とピット2 (16cm) で、いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 南壁西側に粘土を用いて構築されている。焚口部に羽口を置き支脚とし、ソデ部は西側のみ検出した。煙道は半地下式で、住居跡外の90cmほど延びる。煙道底面は、中央付近までやや急に上がり、その後、煙出部にまで水平に進み急に立ち上がる。煙出部から土師器や羽口などの遺物が出土している。

〔堆積土〕 堆積土は12層に分層される。4層から7層にB-Tm火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 カマドから土師器の坏、甕などのほか床直から鉄製の刀子が出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第415号竪穴住居跡 (図325・図326)

〔位置〕 調査区北東部のNM～NO-441～443グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 斜面のため南側と東側が削平され、残存する部分は、西壁4 m80cm、北壁5 m10 cmである。平面形及び規模は不明である。

〔壁・床面〕 壁高は、西壁20cm、北壁26cmを測り、床面からやや急に立ち上がる。床面は、やや起伏がみられ、中央部分にやや堅い貼床がみられる。

〔周溝〕 幅12～18cm、深さ10cmの周溝を北壁と西壁寄りに検出している。

〔ピット〕 ピットは、11個検出した。いずれも柱穴 (深さ20～55cm) と考えられるが配置などについては、不明である。

〔カマド〕 検出されなかったが床面に焼土が検出され、火床面の可能性が考えられる。

〔堆積土〕 堆積土は、5層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の坏などが出土している。

〔時期〕 出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

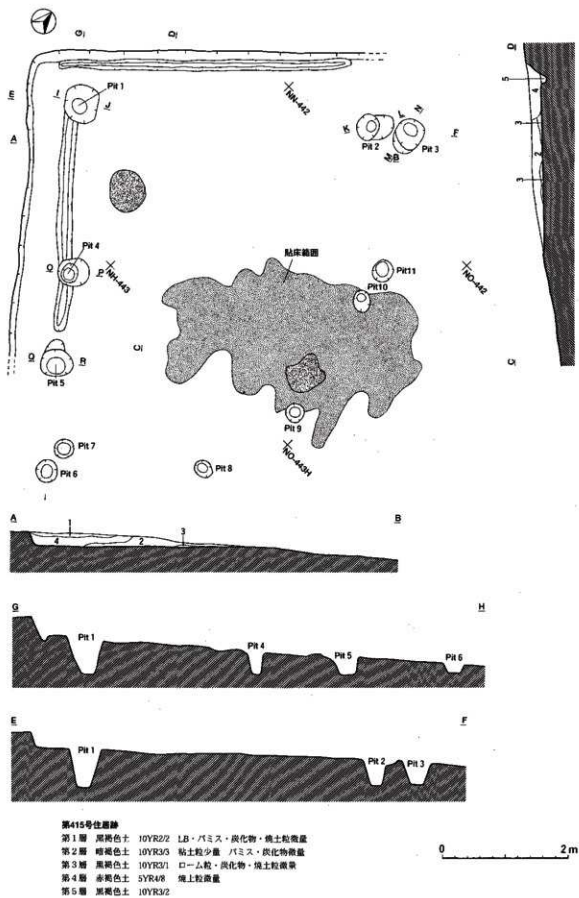
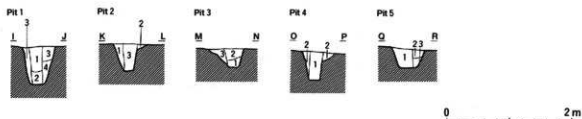
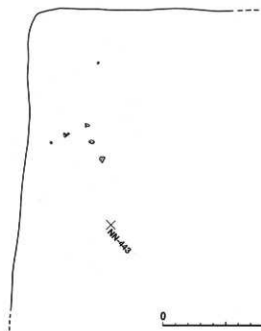


図325 第415号竪穴住居跡(1)



遺物出土状況



Pit 1

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・バミス・粘土粒微量
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 暗褐色土(10YR3/4)混入
 ローム粒・粘土粒微量
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 褐色土(10YR4/4)混入
 粘土粒少量

Pit 2

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量 バミス微量
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物微量

Pit 3

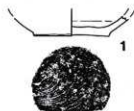
- 第1層 黒色土 10YR1.2/1 ローム粒・粘土粒微量
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物・粘土粒微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物微量

Pit 4

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒・バミス・炭化物・
 粘土粒微量
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・バミス微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物微量

Pit 5

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物微量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・粘土ブロック微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 LB・炭化物・粘土粒微量

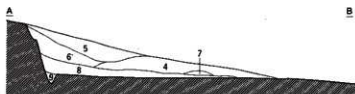
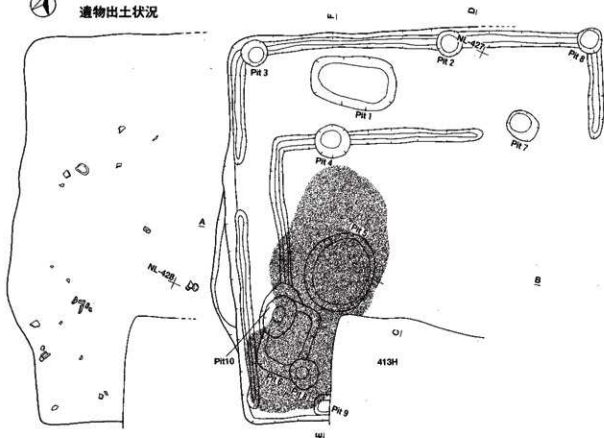


図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	フク土	—	(1.6)	(6.0)	—	—	不明	—	—	口ク口	別紙添付	B II	P-4

図326 第415号竪穴住居跡(2)・出土遺物

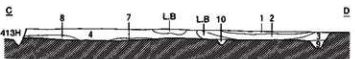


遺物出土状況



B

- 第416号住居跡
- | | | | |
|------|---------|----------|------------------------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物・焼土粒微量 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 焼土粒微量 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 焼土ブロック |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒 |
| 第5層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物・焼土粒微量 |
| 第6層 | 褐色土 | 10YR4/4 | |
| 第7層 | にぶい黄褐色土 | 7.5YR5/4 | To ₂ 混入
炭化物
焼土粒微量 |
| 第8層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | |
| 第9層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | |
| 第10層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物微量 |



D



F

0 2m

図327 第416号竪穴住居跡

第416号竪穴住居跡 (図327・図328)

〔位置〕 調査区北東部のNK~NL-426~428グリッドに位置する。

〔重複〕 第413号住居跡と重複し、本住居跡が古い。また、本住居跡は拡張された可能性が高い。

〔平面形・規模〕 住居跡に切られていることと斜面のために東側と南側が削平されているが、残存する西壁6m20cm、北壁(5m90cm)を測り、平面形はほぼ方形と考えられる。床面積及び主軸方位は不明である。

〔壁・床面〕 壁高は西壁76cm、南壁70cm、北壁45cmで、南北壁は垂直に、西壁はやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられ、南西隅に焼土が拡がる。

〔周溝〕 幅12~24cm、深さ10~16cmの周溝が南壁を除いて残存する壁に沿ってみられる。また、周溝の内側に幅16~25cm、深さ8~15cmの周溝が検出され、拡張前の周溝と考えられる。

〔ピット〕 検出されたピットは11個で、そのうち柱穴は、ピット4(52cm)、ピット7(14cm)、ピット9(35cm)と考えられ、もう1つの柱穴は、重複している第413号住居跡によって壊されている。その他のピットについては用途など不明である。

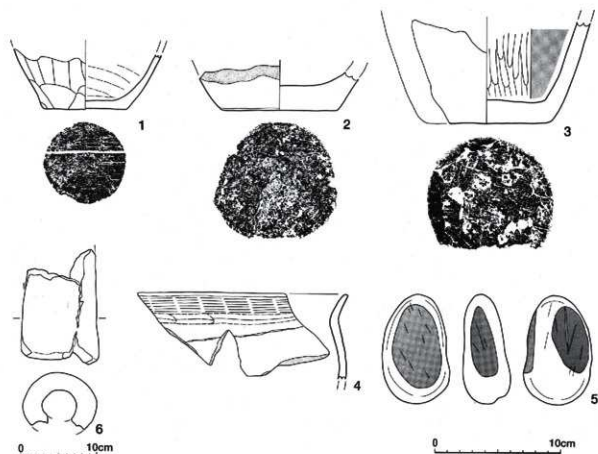
〔カマド〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は10層に分層され、7層にT o - a火山灰が混入している。

〔出土遺物〕 床直から土師器の甕などのほか、ピット5から羽口が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀中葉~後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)



図版番号	種別	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	床直	—	(4.8)	5.4	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナチ	ヘラ切り	A	P-1	
2	土師器	甕	床直	—	(3.6)	9.0	—	—	不明	—	—	ヘラナチ?	ナデツケ	A	P-2	
3	土師器	甕	床直	—	(8.2)	10.0	—	—	不明	—	—	ヘラミボキ	ナデツケ	A	内面黒色処理	
4	土師器	甕	フク土	(20.0)	(6.6)	—	—	ココナチ ヘラナチ	ナチ?	—	ココナチ	ヘラナチ	—	—	A	輪郭直、P-5
図版番号	出土層位	計測値 (cm)				重さ (g)	材質	分類	備考							
		長さ	外径	内径												
5	フク土	8.7	5.1	3.2	180	凝	凝石									
図版番号	出土層位	計測値 (cm)				重さ (g)	分類	調整	備考							
		長さ	外径	内径												
6	床直	(13.2)	9.7×(7.5)	—	(830)	不明		羽口-3								

図328 第416号竪穴住居跡出土遺物

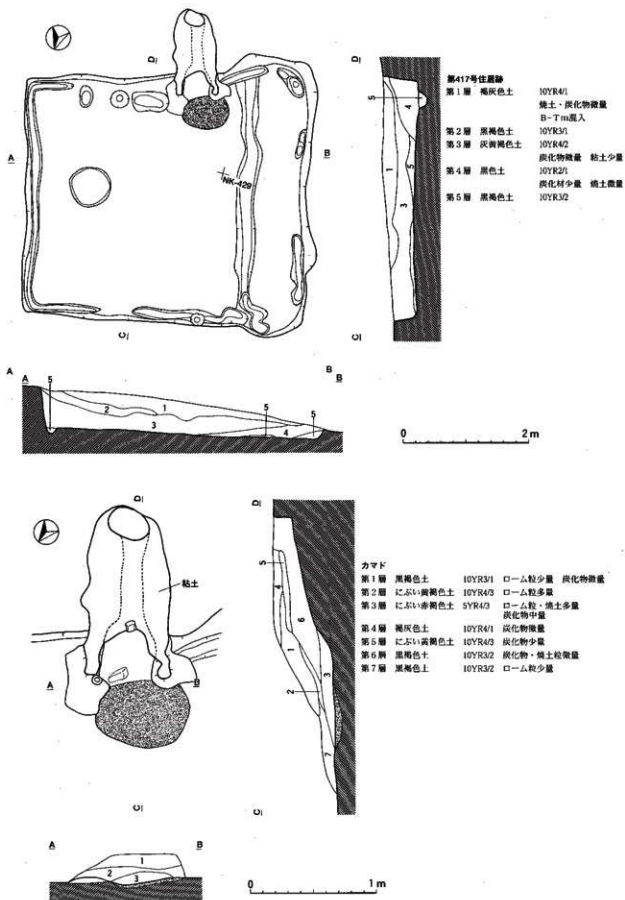
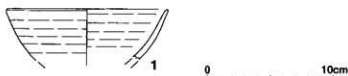


図329 第417号竪穴住居跡



図数 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外形調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半部	体部下半部	口縁部	体部上半部	体部下半部			
1	土師器	坏	フク土	(12.8)	(4.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BII	P-1

図330 第417号竪穴住居跡出土遺物

第417号竪穴住居跡 (図329・図330)

[位置] NI・NJ-428・429グリッドに位置する。

[重複] 確認されなかった。

[平面形・規模] 東壁3m60cm、西壁4m2cm、南壁4m38cm、北壁4m36cmであり、南西隅がやや広がる不整長方形である。床面積は、 m^2 で、主軸方位はN-161°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁18cm、西壁67cm、南壁40~64cm、北壁43cmである。床面は西側へ緩く傾く。

[周溝] 幅12~20cm、深さ8cmの周溝が断片的に検出された。

[ピット] ピットは3個検出された。東壁中央に、長軸64cm、短軸62cmのピット(ピット2)を検出した。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に構築されている。羽口を芯材としてこの上に粘土を覆って本体を築いている。煙道は、床面から12cm上の壁を削って構築した半地下式で、住居跡外に102cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

[その他の施設] 西側に、南北に掘り込まれた幅16~34cmの溝が検出された。

[堆積土] 堆積土は7層に分層され、1層にB-Tm火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(齋藤由美子)

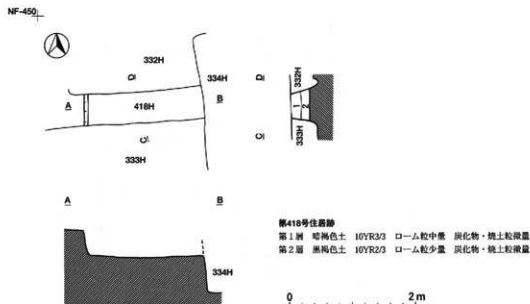
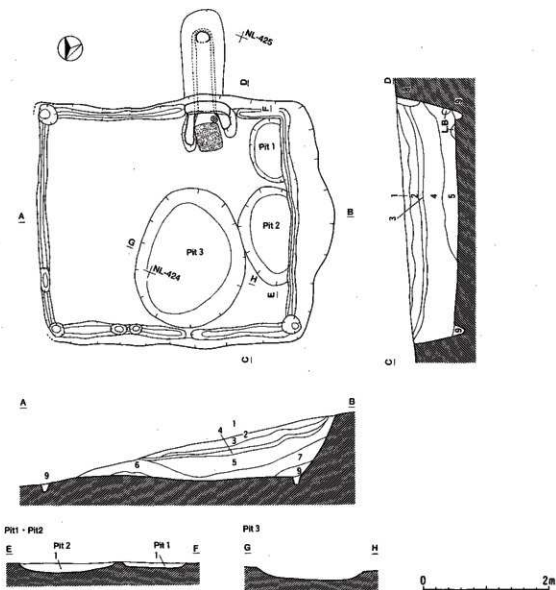


図331 第418号竪穴住居跡

第418号竪穴住居跡（図331）

- [位置] 調査区中央部のNF・NG-450・451グリッドに位置する。
- [重複] 第332号・第333号・第334号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。
- [平面形] 重複しているため平面形及び主軸方位は不明である。
- [壁・床面] 一部残存する西壁の壁高は、31cmでやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。
- [周溝] 検出されなかった。
- [ピット] 検出されなかった。
- [カマド] 検出されなかった。
- [堆積土] 堆積土は2層に分層される。
- [出土遺物] 遺物は出土しなかった。
- [時期] 重複関係から、9世紀前半に構築したと考えられる。

(中嶋友文)



第419号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR2/1	ローム殻、炭化物、焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム殻、炭化物、焼土粒微量 B-Tm微量
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム殻、炭化物、焼土粒微量 B-Tm少量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量 炭化物、焼土粒微量
第5層	褐色土	10YR4/6	ローム粒、L.B.中量 炭化物微量
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒、L.B.炭化物、焼土粒微量
第7層	黄褐色土	10YR5/8	暗褐色土少量 粘土質土
第8層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒
第9層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒、炭化物微量
PH 1	明褐色土	7.5YR5/6	焼土粒中量、ローム粒、L.B.少量
PH 2	明褐色土	7.5YR5/6	焼土粒中量、ローム粒、L.B.少量
第1層	にき4)黄褐色土	10YR5/4	炭化物、焼土粒中量、ローム粒、L.B.中量

カマド

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒、炭化物、焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒、炭化物、焼土粒微量
第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物、焼土粒微量、粘土質土
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒、炭化物、焼土粒微量
第5層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒、炭化物微量 焼土粒少量
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒、炭化物微量 焼土粒少量
第7層	黒褐色土	10YR3/3	ローム粒微量 B-Tm少量
第8層	褐色土	7.5YR4/6	ローム出土 焼土微量
第9層	褐色土	10YR4/6	焼土粒中量 ローム粒少量
第10層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土、粘土微量

図332 第419号竪穴住居跡(1)

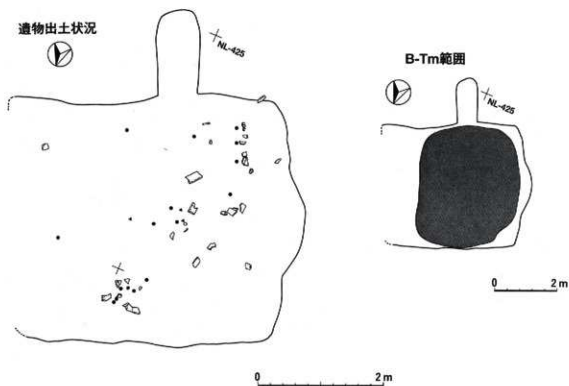
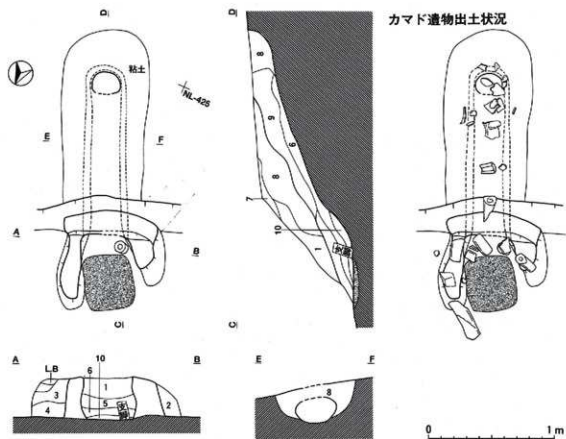
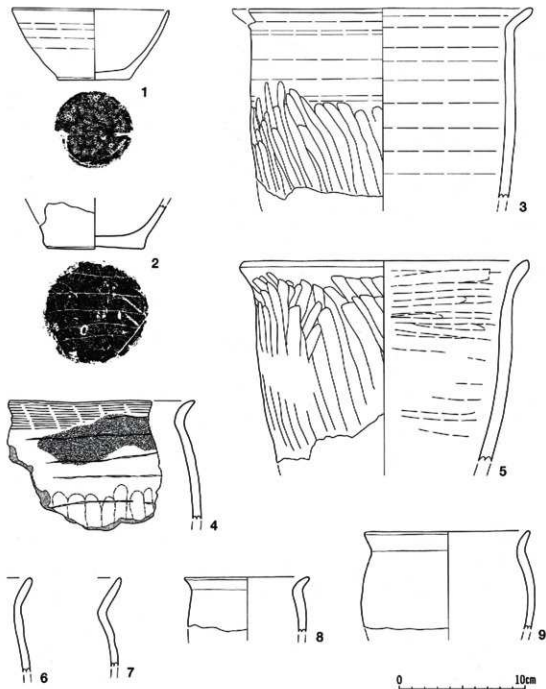
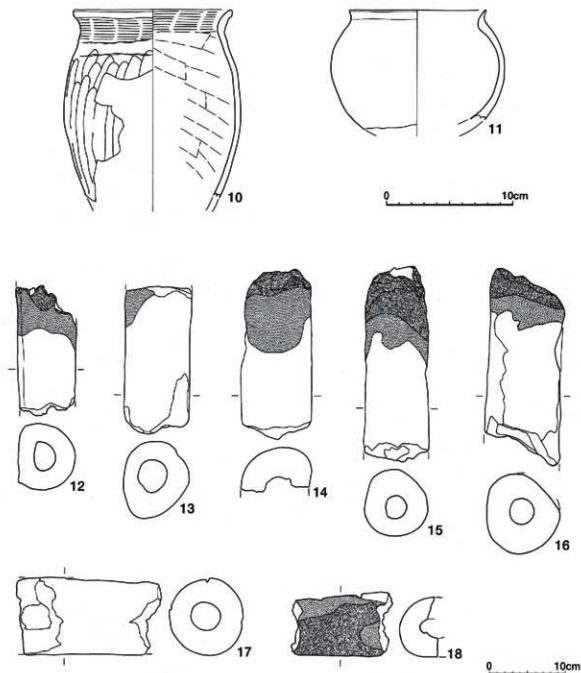


図333 第419号竪穴住居跡(2)



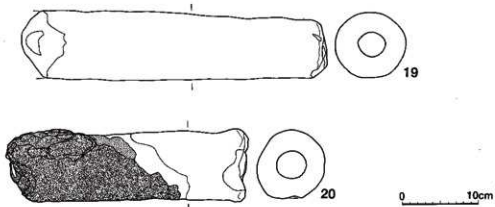
図録番号	種類	部位	出土層位	計測値 (cm)			外面調査			内面調査			表面調査	分類	備考	
				口径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	杯	ガマド フク土	12.5	5.8	5.8	ロクロ	ロクロ	不明	不明	不明	不明	不明	糸切り	B II b	P-5.8.20
2	土師器	甕	B-Tm下	—	(3.7)	8.0	—	—	不明	—	不明	不明	木炭痕	A	F-10	
3	土師器	甕	ガマド フク土	(24.0)	(15.1)	—	ロクロ	ロクロ ヘラケズリ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	B I	P-11
4	土師器	甕	ガマド フク土	(18.0)	(10.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪縁部、粘土付着 P-6	
5	土師器	甕	B-Tm下	(23.0)	(16.0)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	F-4.6	
6	土師器	甕	P12 フク土	(18.0)	(6.5)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A7		
7	土師器	甕	フク土	(20.0)	(6.9)	—	ヨコナデ	不明	—	不明	不明	—	—	A7	輪縁部	
8	土師器	甕	P12 フク土	(10.0)	(4.3)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A7		
9	土師器	甕	P12 フク土	(13.2)	(7.7)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A7		P-1

図334 第419号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)				外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
10	土師器	甕	古7DFク土	(12.8)	(15.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	縁部 欠片	
11	土師器	甕	古1フク土	11.0	(9.4)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	P-1, 2	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	分類	調整	備考								
		長さ	外径	内径												
12	床直	(17.1)	7.5×8.7	2.9×3.6	(855)	C	ナデ	須口-9								
13	カマドフク土	(19.4)	8.7×10.0	3.9×4.4	(1,690)	C	指板	須口-6								
14	カマドフク土	(22.5)	9.3×(5.4)	—	(1,040)	C	ケズ	須口-9								
15	カマドフク土	(25.7)	8.4×8.7	2.8	(1,705)	B	ケズ	須口-8								
16	カマドフク土	(26.0)	9.8×10.3	3.3	(1,890)	B		須口-7、砂粒多数								
17	カマドフク土	(19.2)	10.1×9.8	3.6	(1,150)	A	ナデ	C-5								
18	カマドフク土	(13.4)	(7.8)×(5.2)	—	(465)	B	ナデ	C-4								

図335 第419号竪穴住居跡出土遺物(2)



図版 番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
19	床直・床面	(40.6)	8.7×9.4	3.4	(3,306)	B	ヘアネズ ナブ 羽口	羽口-6.11
20	カマドフク土	32.1	9.0	3.7	2,506	B		C-1:砂粒多量

図336 第419号竪穴住居跡出土遺物 (3)

第419号竪穴住居跡 (図332～図336)

【位置】 調査区北東部のNK・NL-423～425グリッドに位置する。

【重複】 認められなかった。

【平面形・規模】 斜面のため東側が削平されているが東壁 (3 m80cm)、西壁 3 m85cm、南壁 4 m30 cm、北壁 4 m10cmを測り、床面積は、約15.26㎡で、主軸方位はN-159°-Eである。

【壁・床面】 壁高は、西壁94cm、南壁92cm、北壁86cmで、床面からやや急に立ち上がる。床面は緩やかな起伏がみられる。

【周溝】 幅12～27cm、深さ5～24cmの周溝がカマド部分を除いて、一巡する。周溝内には小ピットがみられる。

【ピット】 検出したピットは3個で、いずれも柱穴とは考えられない。

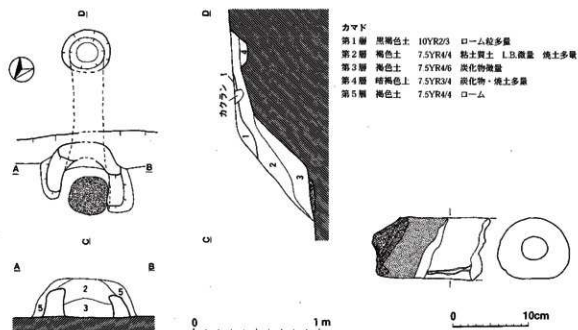
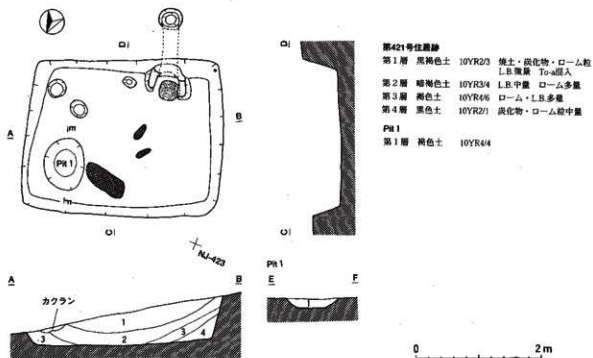
【カマド】 南壁西側に羽口を芯材にして粘土を用いて構築されている。焚口部にも羽口を置いて支脚としている。煙道は上面を粘土で覆った地下式で、住居跡外に110cmほど延びる。煙道底面は、煙出部に向かって緩やかに上がり、煙出部で立ち上がる。

【堆積土】 堆積土は9層に分層され、2層・3層にB-Tm火山灰が混入する。

【出土遺物】 カマドから土師器の甕などが出土している。

【時期】 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)



四角番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
1	フク土	(15.0)	8.0×9.6	3.1	(1.021)	B	羽口-1 砂粒多	

図337 第421号竪穴住居跡・出土遺物

第421号竪穴住居跡 (図337)

[位置] 調査区北東部のN I・N J-424グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁2 m40cm、西壁2 m50cm、南壁2 m90cm、北壁3 m5cmの長方形である。床面積は約5.72㎡で、主軸方位はN-157°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁27cm、西壁70cm、南壁44cm、北壁44cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、北壁寄りに炭化材が検出されている。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] ピットが4個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に粘土を用いて構築している。煙道は上面を粘土で覆った地下式で、住居跡外に70cmほど延びる。煙道底面は、中央付近までやや急に上がりその後水平に進み、煙出部でピット(深さ12cm)つながり、急に立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は、4層に分層され、1層にT o - a火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器の破片と羽口が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第451号竪穴住居跡 (図338～図340)

[位置] NK・NL-469・470グリッドに位置する。

[重複] 第452号住居跡、第307号溝と重複し、本住居跡は第307号溝より古く、第452号住居跡より新しい。

[平面形・規模] 東壁4 m10cm、西壁4 m7cm、南壁4 m17cm、北壁4 m30cmの方形である。床面積は16.85㎡で、主軸方位はN-160°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁34cm、西壁58cm、南壁44cm、北壁26cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅11～16cm、深さ2～4cmの周溝が西壁の一部に断片的に検出された。

[ピット] 検出されたピットは9個である。いずれも柱穴とは考えられない。

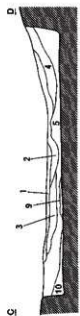
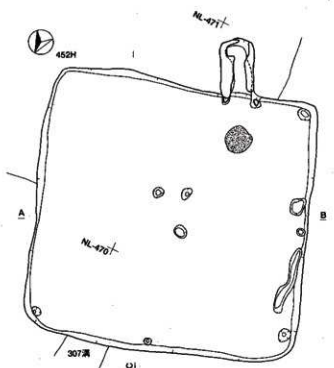
[カマド] 南壁西側に構築されている。芯材を使わず、粘土で本体を構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に90cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は10層に分層され、9層に焼土が多量に混入している。

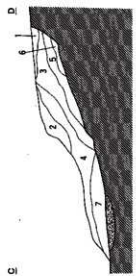
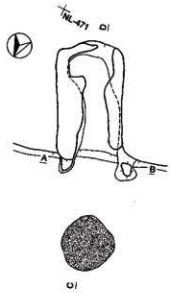
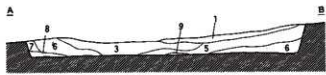
[出土遺物] 覆土から、土師器の甕や須恵器の甕、坏、壺のほかには砥石が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



- 第451号住居跡**
- | | | | |
|------|-------|----------|-------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒・炭化物微量 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒少量 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒・焼土粒少量 |
| 第5層 | 極暗褐色土 | 7.5YR2/3 | 焼土粒少量 |
| 第6層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒少量 |
| 第7層 | 褐色土 | 7.5YR4/6 | ローム粒・焼土粒少量 |
| 第8層 | 暗暗褐色土 | 7.5YR2/3 | ローム粒・炭化物少量 |
| 第9層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物微量 L.B中層 焼土粒多量 |
| 第10層 | 褐色土 | 10YR4/4 | L.B多量 炭化物・焼土粒微量 |



- カマド**
- | | | | |
|-----|---------|-----------|---------------|
| 第1層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | ローム粒・炭化物極微量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR2/3 | 焼土粒・炭化物微量 |
| 第3層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 焼土粒・炭化物極微量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 焼土粒・炭化物・L.B微量 |
| 第5層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 焼土粒・炭化物・L.B少量 |
| 第6層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 焼土粒・炭化物・L.B少量 |
| 第7層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土粒極微量 |
| 第8層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物・焼土粒極微量 |

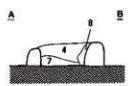
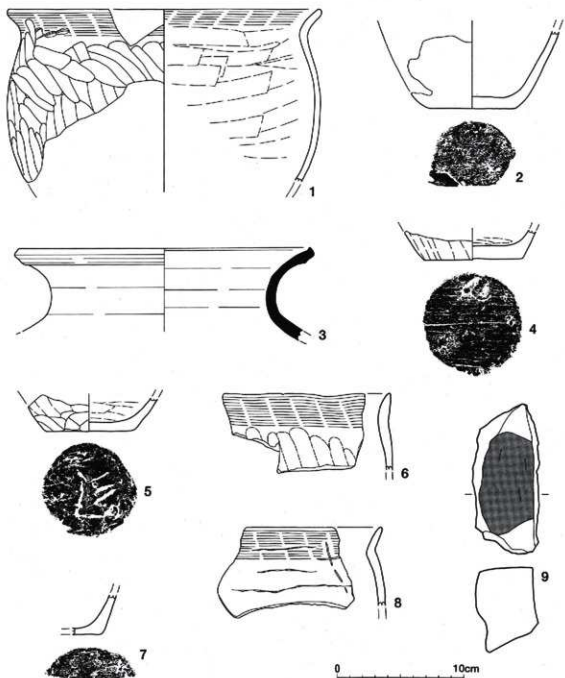
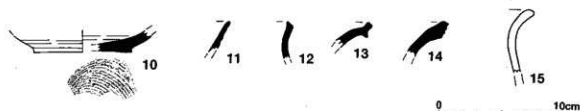


図338 第451号壁穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			分類	備考	
				口径	器高	底径	口径脛	体脛上半	体脛下半	口径脛	体脛上半	体脛下半			底面調整
1	土師器	甕	カマド フクナ	(25.0)	(13.7)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	A	P-105	
2	土師器	甕	フク土	—	(5.8)	7.0	—	不明	—	不明	不明	ナデツケ	A	濃減	
3	須恵器	甕	フク土	(23.0)	(7.3)	—	ロクロ	肩部 削(ナデツケ)	—	ロクロ	肩部 削(ナデツケ)	—	—	—	内面繊維付着
4	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラ切り	A	—	
5	土師器	甕	カマド ノ縁	—	(2.9)	7.0	—	—	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-102	
6	土師器	甕	カマド フクナ	(22.0)	(6.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	A	—	
7	土師器	甕	フク土	—	(3.4)	(10.0)	—	—	ヘラナズリ	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	輪模底	
8	土師器	甕	カマド フクナ	(20.0)	(7.2)	—	ヨコナデ	ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	A	割書? 輪模底	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
9	フク土	11.9	5.1	5.9	600	凝	硯石								

図339 第451号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図録 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口徑	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	須恵器	甕?	フク土	—	(1.7)	(7.8)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転成形	—	—
11	須恵器	杯	フク土	—	(2.1)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
12	須恵器	甕	フク土	—	(2.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
13	須恵器	壺	フク土	—	(2.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
14	須恵器	甕	フク土	—	(2.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
15	土師器	甕	フク土	(19.0)	(5.3)	—	ヨコナデ	—	—	不明	—	—	—	A	—

図340 第451号竪穴住居跡出土遺物(2)

第452号竪穴住居跡 (図341・図342)

【位置】 NK・NL-470・471グリッドに位置する。

【重複】 第451号・第482号住居跡、第307号溝と重複し、本住居跡は第451号住居跡、第307号溝より古く、第482号住居跡より新しい。

【平面形・規模】 東壁4 m74cm、南壁4 m20cm、北壁と西壁が第451号住居跡に切られており、残存する西壁2 m10cm、北壁1 m4 cmで、方形と推定する。主軸方位はN-82°-Eで、床面積は、12.3 m²である。

【壁・床面】 壁高は、東壁34cm、西壁74cm、南壁54cm、北壁12cmである。床面はほぼ平坦である。

【周溝】 幅5~19cm、深さ7~20cmの周溝が断面的に検出された。

【ビット】 検出されたビットは7個である。柱穴とは考えられない。

【カマド】 東壁北側に構築されている。焚口には、礎が置かれ支脚としている。芯材を使わずに、粘土でソデを構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に12cmのびる。

【その他の施設】 南東隅に、140、74cm、深さ10cmのビット1、南壁中央やや北側に、長軸60cm、短軸58cm、深さ12cmのビット3、カマド南側に、長軸54cm、短軸52cm、深さ18cmのビット4を検出した。

【堆積土】 堆積土は9層に分層され、2層に焼土、炭化物が多量に混入している。

【出土遺物】 覆土から、土師器の甕や土製紡錘車、砥石などが出土している。

【時期】 重複関係や出土遺物から、9世紀後半~10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

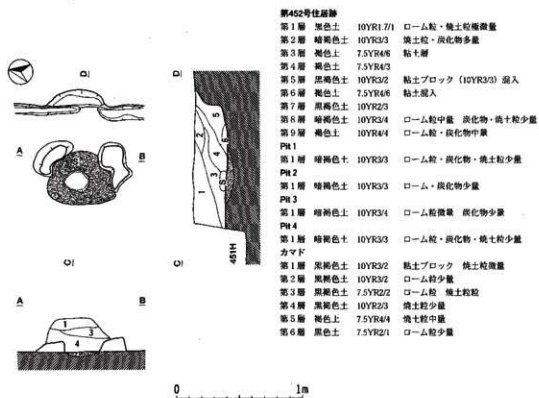
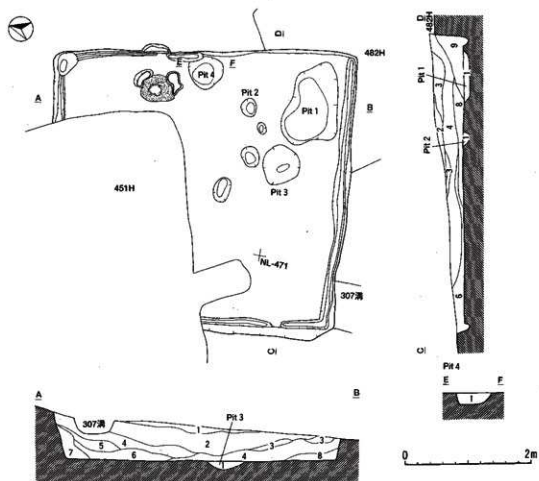
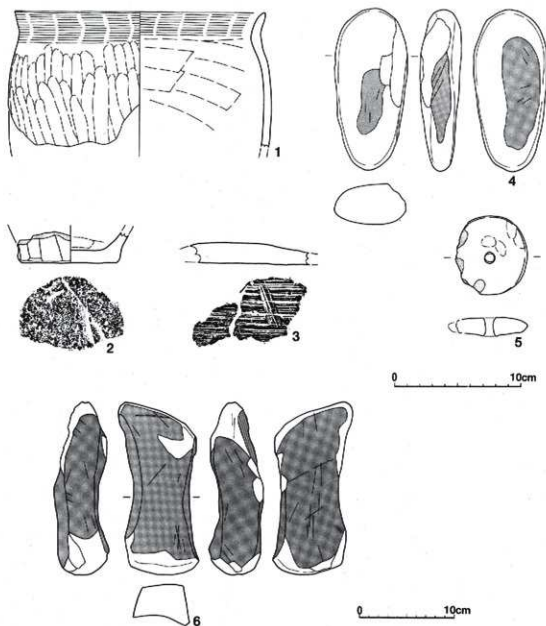


図341 第452号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面形状			内面形状			底面形状	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(20.0)	(11.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	F60
2	土師器	甕	ビット1 フク土	—	(2.5)	—	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂本 ヘラナデ	A	
3	土師器	甕	フク土	—	—	—	—	—	不明	—	—	不明	板目紙	A	図版189
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
4	フク土	12.8	5.7	3.3	308	磁	磁石	炭化物付着							
6	Plu 1 フク土	17.2	7.4	4.1	912	磁	磁石								
図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	特徴	備考							
			長さ	幅	厚さ										
5	土器 土師器	フク土	—	6.3	1.3	52.0									

図342 第452号竪穴住居跡出土遺物

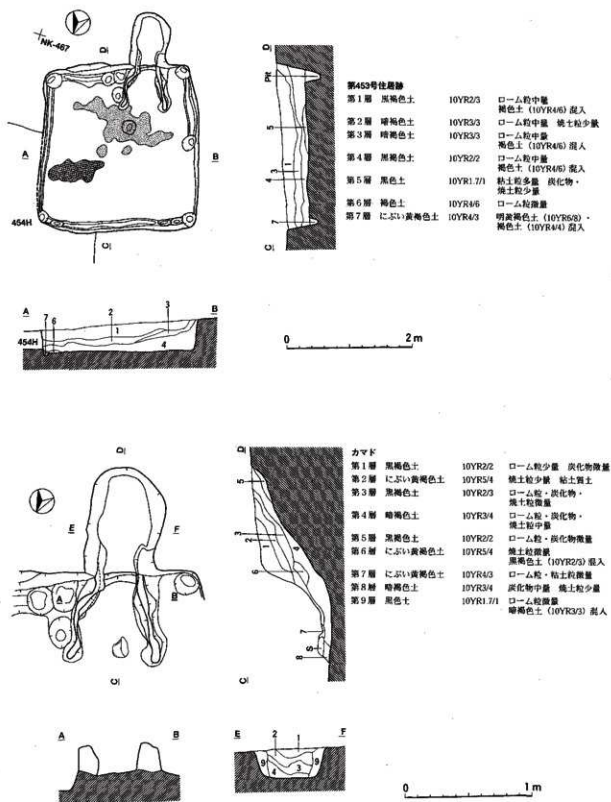
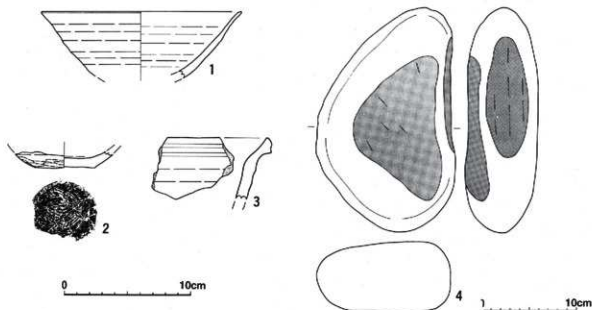


図343 第453号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	注	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	床直	16.0	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	BII	P-3
2	土師器	杯	フク土	—	(1.2)	4.8	—	—	ロクロ ヘスナデ	—	—	ロクロ	糸切り?	BII	
3	土師器	壺	フク土	(30.0)	(4.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
4	カマドフク土	23.7	14.2	7.4	3,775	安	礫石	S-2

図344 第453号竪穴住居跡出土遺物

第453号竪穴住居跡 (図343・図344)

〔位置〕 N J-467・468グリッドに位置する。

〔重複〕 第454号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁2 m42cm、西壁2 m60cm、南壁2 m30cm、北壁2 m50cmのほぼ方形である。床面積は5.96㎡である。主軸方位はN-159°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁30cm、西壁50cm、南壁44cm、北壁36cmである。掘り方を踏みしめた床面で、ほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅5~20cm、深さ9~13cmの周溝が西壁北側を除いて一巡する。

〔ビット〕 ビットは9つ検出された。周溝内の径16~26cm、深さ26~40cmの円形のビットが柱穴と考えられる。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。袖は粘土で築かれている。煙道は半地下式で、住居外に1 m70cmのびる。煙道底面は煙出し方向に向かって緩やかに上昇する。

〔その他の施設〕 住居ほぼ中央に径22cm、深さ15cmの円形のビット、カマド袖脇に径16~26cm、深さ13~26cmの不整形のビットが3つ検出された。

〔堆積土〕 堆積土は7層に分層される。黒褐色土を主体とし、堆積土全体にはローム粒が混入する。

〔出土遺物〕 土師器の杯・甕、砥石が出土している。

[時期] 出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

第454号竪穴住居跡 (図345)

[位置] N J・NK-465・466グリッドに位置する。

[重複] 第453号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 西壁と南壁の一部は第453号住居跡との重複により残存しない。東壁2m80cm、北壁2m40cmで、西壁1m60cm、南壁1m35cmが残存する。南北に長い長方形と考えられる。床面積は5.20㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁13cm、西壁30cm、南壁22cm、北壁8cmである。床面は黒褐色土と褐色土の混入する掘り方を踏みしめたもので、ほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されたピットは1つで、柱穴とは考えられない。

[カマド] 検出されなかった。

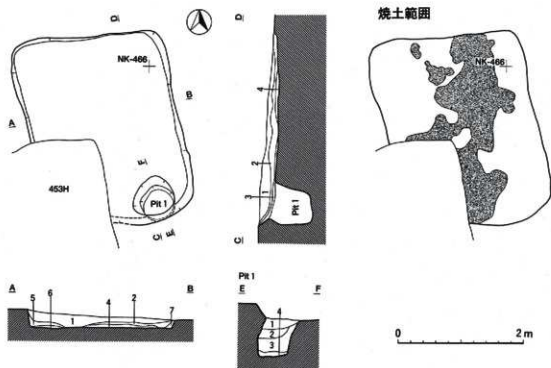
[その他の施設] 南壁直下に65×59cm、深さ54cmの不整な楕円形のピット1が検出された。

[堆積土] 堆積土は9層に分層され、暗褐色土を主体とする。4層には焼土が多量に含まれる。

[出土遺物] 土師器の甕、羽口が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀後半以前に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

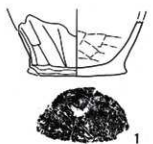


第454号住居跡

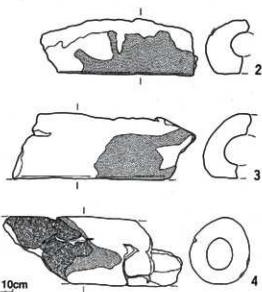
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・粒土粒微量
 第4層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒多量
 第5層 暗褐色土 10YR3/3 黒褐色土(10YR3/1)・明黄褐色土(10YR5/6)混入
 第6層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒微量
 第7層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒微量

PR1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量
 第2層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒中量
 第3層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量 黒褐色土(10YR3/1)混入
 第4層 黄褐色土 10YR4/6 炭化物粒微量



0 10cm



0 10cm

図版番号	種類	図様	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	壺	フク土	—	(4.8)	(7.8)	—	—	ヘタガスリ	—	—	ヘタナデ	ヘタナデ	A	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	分類	調整	備考							
		長さ	外径	内径											
2	フク土	(20.8)	(7.2) × (5.8)	—	(705)	C	—	羽口-2							
3	4層	(24.1)	(8.5) × (6.4)	—	(832)	C	ナデ	羽口-1, 4							
4	フク土	(23.7)	8.8 × 7.9	4.2 × 3.5	(992)	B	—	羽口-2 砂粒多							

図345 第454号竪穴住居跡・出土遺物

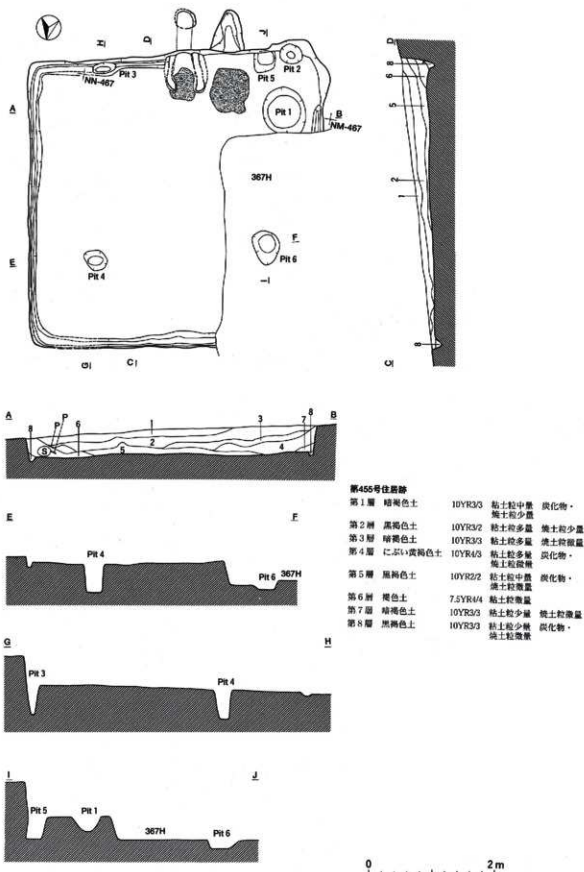


図346 第455号竪穴住居跡(1)

第455号竪穴住居跡（図346～図349）

〔位置〕 NM・NN-465～467グリッドに位置する。

〔重複〕 第367号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 第367号住居跡との重複により西壁と北壁の一部は残存しない。東壁4m50cm、南壁4m55cmで、西壁1m50cm、北壁2m90cmが残存する。ほぼ方形と考えられる。床面積は15.89㎡である。主軸方位はN-166°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁13cm、西壁40cm、南壁34cm、北壁6cmである。床面はほぼ平坦で、粘土と黒褐色土が混入する貼床が施される。

〔周溝〕 幅7～24cm、深さ2～12cmの周溝がほぼ一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットは5つで、このうちピット3～5と第367号住居跡の貼床下から検出されたピット6が本住居跡の主柱穴と考えられる。ピット3は37×17cm、深さ45cmの楕円形、ピット4は39×31cm、深さ44cmの楕円形、ピット5は一辺35cm、深さ33cmの方形である。ピット6は55×41cmの不整な楕円形で、検出面からの深さは13cmである。

〔カマド〕 南壁やや西側およびほぼ中央に2つのカマドが構築されている。ほぼ中央のカマドBは袖に芯材を用いず、粘土で築かれている。煙道は地下式で、住居外に65cmのびる。煙道底面は煙出し方向に向かってやや上昇する。西側に位置するカマドBは袖は残存せず、火床面のみが検出された。煙道は半地下式で、住居外に70cmのびる。煙道底面は煙出し方向に急勾配で上昇する。カマドAがカマドBより新しい。

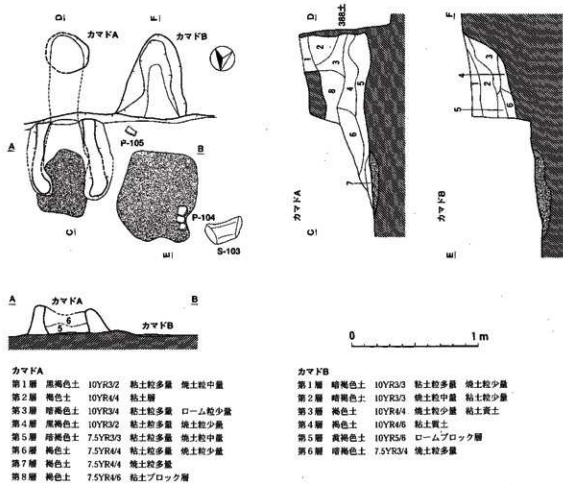
〔その他の施設〕 住居南西隅に72×68cm、深さ12cmのピット1、カマドBの西側、住居の南西隅に焼土が堆積した36×30cm、深さ12cmのピット2が検出された。ピットおよび周辺からは土師器・礫・羽口が出土している。

〔堆積土〕 8層に分層される。黒褐色土・暗褐色土を主体とし、堆積土全体には粘土が混入する。自然堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の甕、砥石が出土している。

〔時期〕 重複関係と出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）



遺物出土状況

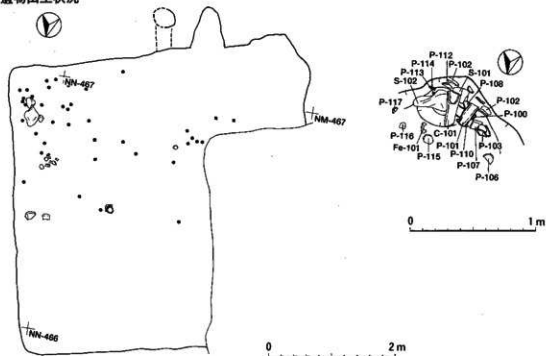
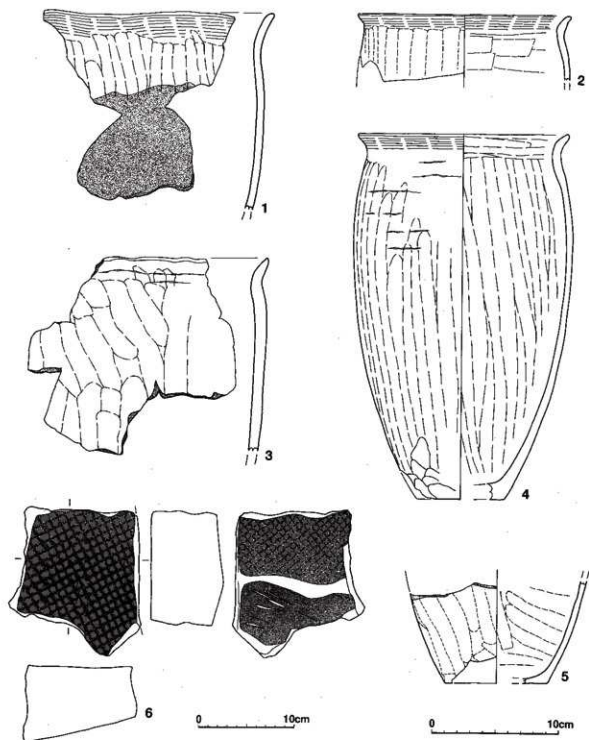
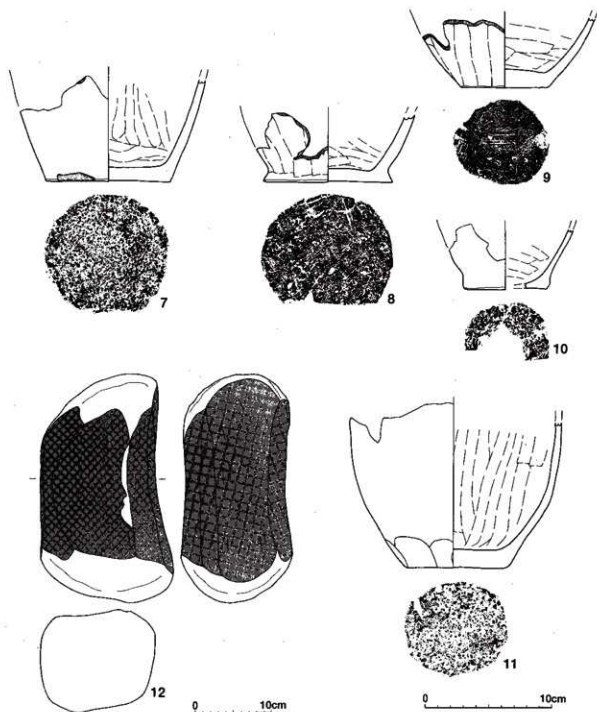


図347 第455号竪穴住居跡(2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁径	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(22.0)	(15.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外周輪上付線 P-1, 2, 3
2	土師器	甕	床間 階上フク土	(17.0)	(5.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1, 27
3	土師器	甕	フク土	(21.0)	(15.4)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	外周輪部線 P-4, 204
4	土師器	甕	フク土・床間 階上フク土	(17.0)	(29.0)	(7.0)	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ?	A I e	外周輪部線 P-101, 102, 25
5	土師器	甕	階上フク土 階下フク土	—	(8.6)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考							
6	フク土	長さ	幅	厚さ	2,408	石安	砥石	S-101, 焼熱							

図348 第455号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	II線部	体部七平	体部下平	II線部	体部上平	体部下平			
7	土師器	甕	フク土	—	(8.3)	(9.6)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-14, 103
8	土師器	甕	床直	—	(5.4)	10.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-0
9	土師器	甕	床直	—	(5.4)	7.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-24
10	土師器	甕	ク コト土直 M10-792 S17A222	—	(5.2)	(6.6)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
11	土師器	甕	—	—	(8.6)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
12	フク土	30.2	17.6	12.7	8,600	安	礫石	S-103							

図349 第455号竪穴住居跡出土遺物(2)

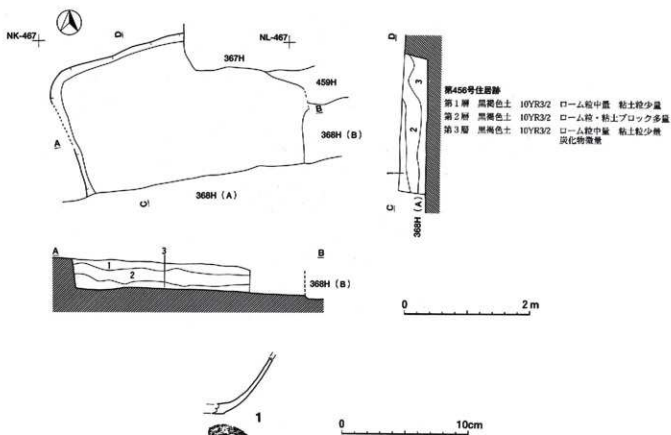


図350 第456号竪穴住居跡・出土遺物

第456号竪穴住居跡 (図350)

〔位置〕 NK・NL-466・467グリッドに位置する。

〔重複〕 第367号・第368号・第464号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 重複により東壁・南壁は残存せず、西壁2m、北壁4m30cmが残存する。床面積は6.66㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は西壁46cm、北壁36cmである。床面は黒色土と粘土が混入する貼床が施され、ほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 検出されなかった。

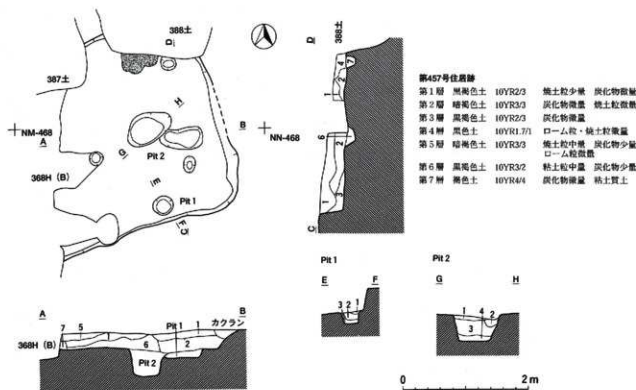
〔その他の施設〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 3層に分層され、堆積土全体にローム粒を多く含む。人為堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器の坏が出土している。

〔時期〕 重複関係から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

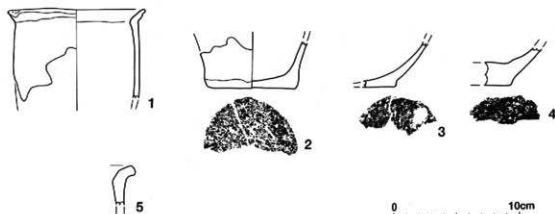


PH1

第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・粘土粒少量
 第2層 褐色土 10YR4/4 炭化物少量 粘土質土
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・粘土粒微量

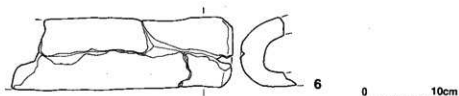
PH2

第1層 褐色土 10YR4/5 ローム粒微量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 粘土粒中量 粘土粒微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量
 第4層 赤褐色土 2.5YR4/8 炭化物微量
 褐色土 (10YR4/6) 混入



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半部	体部下半部	口縁部	体部上半部	体部下半部			
1	土師器	甕	ピット3-4層	11.0	(7.2)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	黒灰
2	土師器	甕	フク土	—	(4.0)	(7.0)	—	—	不明	—	不明	不明	砂底	A?	黒灰
3	土師器	甕	フク土	—	(3.5)	(6.0)	—	—	不明	—	不明	不明	砂底?	A?	赤灰
4	土師器	甕	フク土	—	(3.0)	(6.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナゲナ?	A	
5	土師器	甕	フク土				ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	

図351 第457号竪穴住居跡・出土遺物(1)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
6	床面 東壁	(29.2)	(9.1)×(7.4)	—	(1,290)	C	ケズリ、指痕	羽口-1, 2

図352 第457号竪穴住居跡出土遺物(2)

第457号竪穴住居跡 (図351・図352)

[位置] NM-467・468グリッドに位置する。

[重複] 第464号住居跡、第388号・第390号土坑と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 第464号住居跡、第388号・第390号土坑との重複により、東壁と南壁の一部が残存するのみである。東壁3m25cm、南壁3m20cmが残存する。ほぼ方形であると考えられる。床面積は6.12㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁20cm、南壁38cmである。床面は地山粘土を堅く踏みしめており、ほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されたピットは5つであるが、いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 検出されなかった。住居北壁東側の床面に焼土が検出され、火床面と考えられる。

[その他の施設] 南壁ほぼ中央に径30cm、深さ19cmの円形のピット1、住居ほぼ中央に76×46cm、深さ44cmのピット2、東壁ほぼ中央に68×35cm、深さ15cmの不整な楕円形のピット3が検出された。ピット2の堆積土には焼土が混入し、土師器・羽口が出土している。

[堆積土] 7層に分層される。黒褐色土・暗褐色土を主体とし、堆積土全体に焼土・炭化物が含まれる。

[出土遺物] 土師器の裏、羽口が出土している。

[時期] 重複関係から、10世紀前半と考えられる。

(田中珠美)

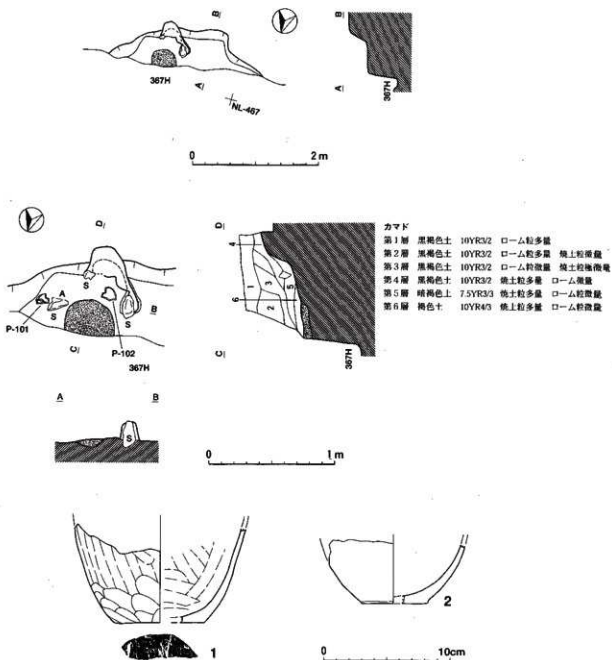


図353 第459号竪穴住居跡・出土遺物

図面番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外形調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド フク土	—	(7.8)	(7.0)	—	—	ヘラナデ ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-101
2	土師器	甕	フク土	—	(5.0)	(5.2)	—	—	不明	—	—	不明	角切り?	A?	

第459号竪穴住居跡 (図353)

〔位置〕 NK・NL-467グリッドに位置する。

〔重複〕 第367号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 重複のため、南壁の一部とカマドが検出されたのみである。南壁が1m80cm残存する。床面積は0.69㎡である。

〔壁・床面〕 南壁の壁高は30cmである。床面は重複によりほとんど残らないが、地山粘土を床面としていたと推定される。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ビット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 南壁に構築されている。袖は芯材に礫を用い、粘土で覆って築いている。煙道は半地下式で、住居外に14cmのびる。煙道底面は煙出し方向に向かって緩やかに上昇する。

〔その他の施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 土師器の甕が出土している。

〔時期〕 重複関係と出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

第460号竪穴住居跡 (図354～図357)

〔位置〕 NB～ND-464・465グリッドに位置する。

〔重複〕 第461号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁5m18cm、西壁5m20cm、南壁4m55cm、北壁4m40cmの南北にやや長い長方形を呈する。床面積は23.3㎡である。主軸方位はN-73°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁26cm、西壁62cm、南壁50cm、北壁31cmである。黒褐色土とロームが混入する貼床が南壁中央部を除いて施される。貼床がない部分は黒褐色土を床面としており、あまり堅緻ではない。出入口等の施設があったと考えられる。

〔周溝〕 幅9～24cm、深さ1～29cmの周溝が断片的に検出された。

〔ビット〕 ビットは6つ検出されたが、柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 東壁南側に構築される。袖は粘土で築かれている。煙道は半地下式で、住居外に34cmのびる。

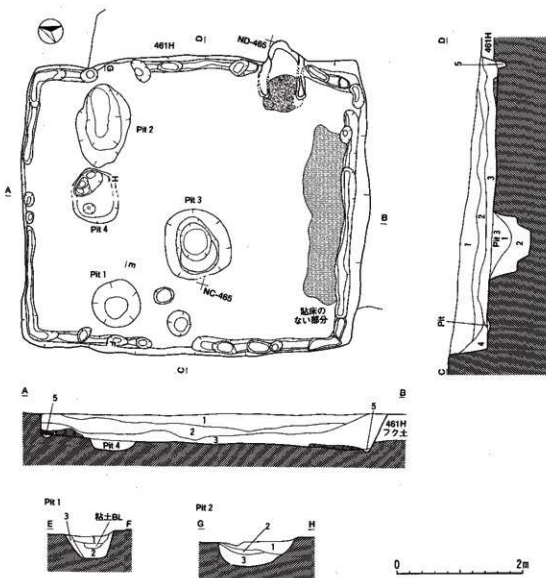
〔その他の施設〕 北西隅に径68cm、深さ46cmの円形のビット1、北東隅に1m34cm×86cm、深さ28cmの楕円形のビット2、ほぼ中央に径1m10cm、深さ67cmの円形のビット3、北側中央に86×72cm、深さ19cmの方形のビット4が検出された。

〔堆積土〕 5層に分層される。床面で多量の炭化材が出土しており、焼失家屋と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器の甕、須恵器の坏・壺、砥石、刀子・紡錘車・棒状鉄製品が出土している。

〔時期〕 出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)



第460号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒中量	炭化物・焼土粒少量
第2層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	炭化物少量 焼土粒微量
第3層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物・焼土粒多量	粘土粒中量
第4層	灰褐色土	10YR2/2	粘土粒中量	炭化物少量
第5層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	炭化物少量
PR1				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物多量	粘土粒中量
第2層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	
第3層	明褐色土	7.5YR5/6	粘土粒多量	
PR2				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	炭化物・焼土粒少量
第2層	褐色土	7.5YR4/4	粘土粒多量	
第3層	にがい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量	炭化物少量
PR3				
第1層	褐色土	7.5YR4/4		
第2層	黒褐色土	7.5YR3/2	炭化物微量	

図354 第460号壁穴住居跡(1)

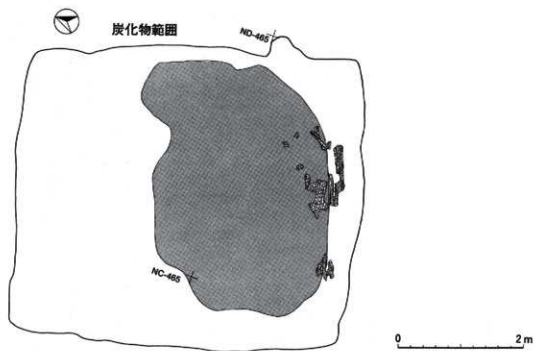
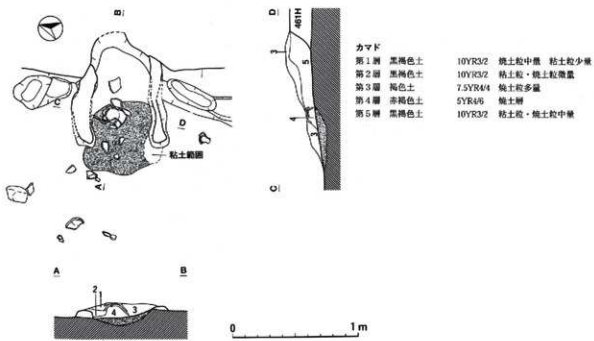
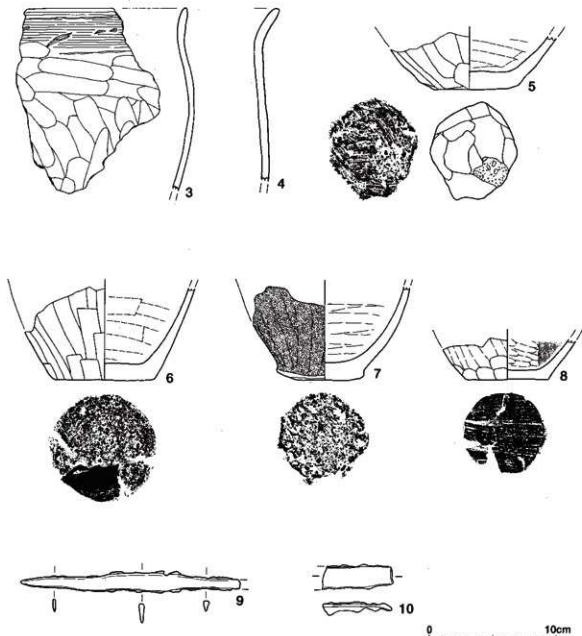
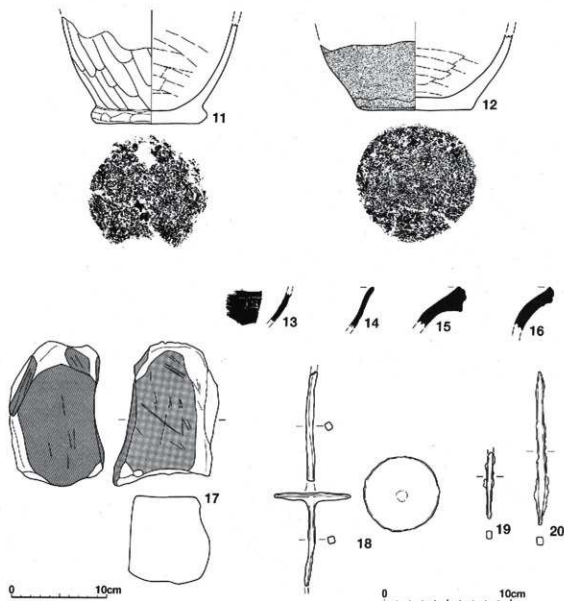


図355 第460号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	胴高	取付	口縁部	体部上半	体部下半	11縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	古ワド灰土	(13.6)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	F-114, 116
2	土師器	甕	フク土	(15.8)	(6.1)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	—	A	
3	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(14.7)	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	—	A	F-109, 112 輪縁部
4	土師器	甕	フク土	—	(15.0)	(21.6)	ヨコナデ	ヘラナズリ	—	不明	不明	—	—	A	F-3
5	土師器	甕	フク土	—	(4.5)	7.8	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	砂底 ヘラナズリ	A	
6	土師器	甕	古ワド灰土	—	(7.4)	8.0	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	F-113
7	土師器	甕	フク土	—	(7.4)	7.0	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	片割粘土付着
8	土師器	甕	フク土	—	(3.3)	6.4	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	砂上灰土? (黒色粘土?)	A	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			長さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
9	床底	17.4	1.5	0.4	17.1	小刀	Fe-3								
10	床底	5.7	0.8	1.0	16.2	飯杖	Fe-2								

図356 第460号竪穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
11	土師器	甕	サトウ大塚	—	(8.4)	8.4	—	—	ヘラズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	F-115
12	土師器	甕	カマド	—	(5.4)	8.6	—	—	ナデ?	—	—	ヘラナデ	砂底 ヘラナデ	A	内蔵品上打層 F-137
13	須恵器	坏	フク土	—	(2.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面調整
14	須恵器	坏	フク土	—	(3.2)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	内蔵品九千基道
15	須恵器	甕	フク土	—	(3.2)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	自然形 F-5
16	須恵器	甕	フク土	—	(3.5)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
17	床直	14.0	9.1	9.2	2,072	凝	磁石	炭化物付着							
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
18	フク土	15.4	6.1	0.6	40.1	粘棘草	Fe-1								
19	フク土	5.2	0.5	0.6	2.2	棒状									
20	フク土	12.1	0.5	0.4	12.0	棒状	Fe-101								

図357 第460号竪穴住居跡出土遺物 (3)

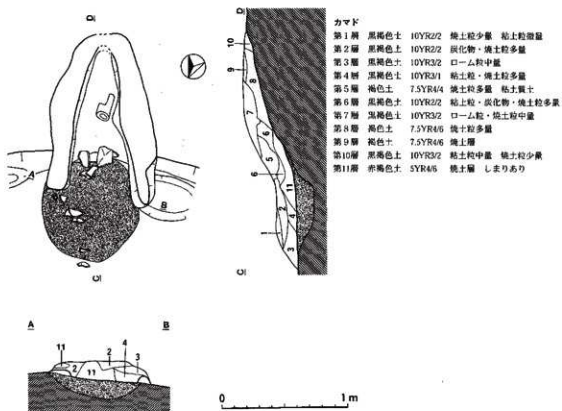
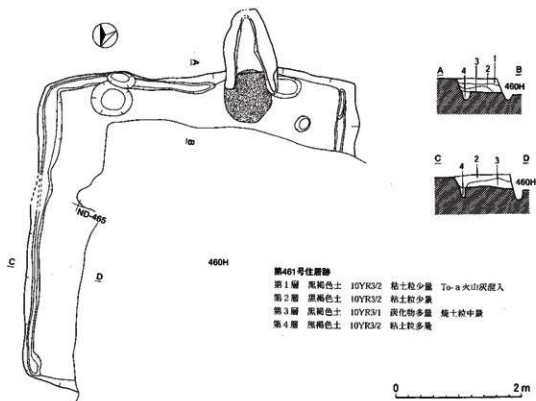
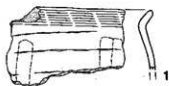


図358 第461号竪穴住居跡



0 10cm

図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上平	体部下平	口縁部	体部上平	体部下平			
1	土師器	甕	フク土	(20.0)	(6.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	特殊形

図359 第461号竪穴住居跡出土遺物

第461号竪穴住居跡 (図358・図359)

[位置] NC・ND-464・465グリッドに位置する。

[重複] 第460号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 第460号住居跡との重複により、西壁と北壁の大部分は残存しない。東壁4m66cm、南壁4m96cmである。床面積は7.17㎡である。主軸方位はN-157°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁12cm、南壁24cmである。床面は、ほぼ平坦で黒褐色土とロームが混入した貼床が施される。

[周溝] 幅9~30cm、深さ2~20cmの周溝がほぼ一巡する。

[ピット] ピットは3つ検出され、このうちピット1・ピット2が柱穴の可能性がある。ピット1は46×34cm、深さ37cmの楕円形、ピット2は64×56cm、深さ29cmの楕円形である。

[カマド] 南壁ほぼ中央に構築される。袖は粘土で築かれている。煙道は半地下式で、住居外に1mのびる。煙道底面は煙出し方向に向かって緩やかに上昇する。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 4層に分層され、1層には十和田a火山灰が微量混入する。自然堆積と考えられる。

[出土遺物] 土師器の甕が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や重複関係・出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

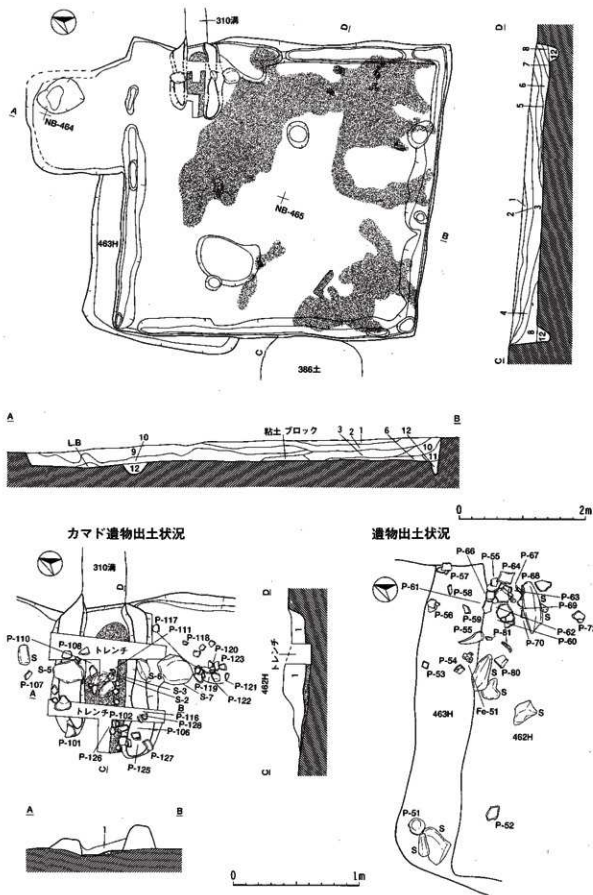


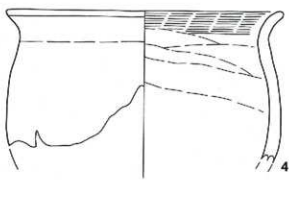
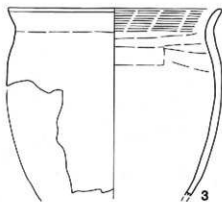
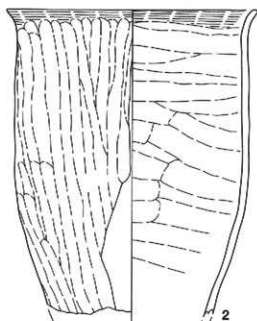
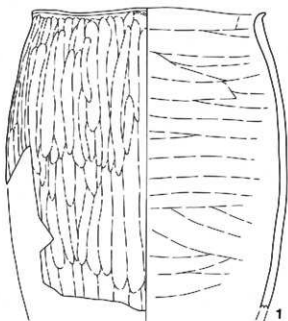
図360 第462号・第463号竪穴住居跡(1)

第462号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	粘土粒少量 煨土粒微量
第3層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量 炭化物少量
第4層	黒褐色土	10YR3/1	粘土粒・炭化物少量
第5層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量
第6層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量 炭化物少量
第7層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量
第8層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量
第9層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒中量 炭化物・煨土粒少量
第10層	黒褐色土	10YR2/2	粘土粒微量
第11層	黒褐色土	10YR2/2	粘土粒微量
第12層	黒褐色土	10YR3/1	粘土粒多量 炭化物少量

カマド

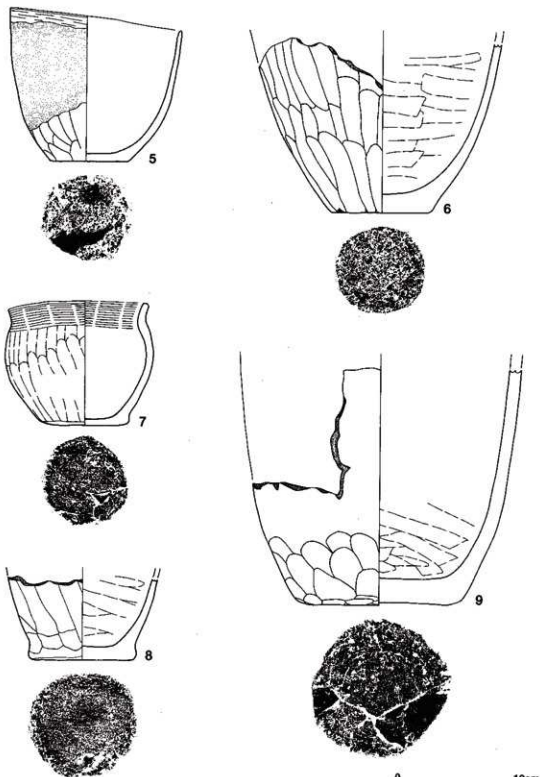
第1層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒少量 煨土粒微量
-----	------	---------	-------------



0 10cm

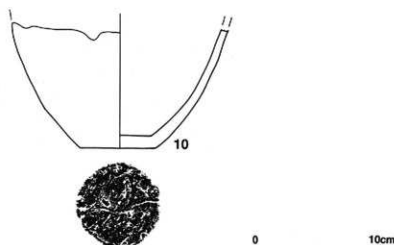
図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土器器	甕	フク土	18.6	(24.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	AI	F-54, 73, 90, 95
2	土器器	甕	フク土	(20.0)	(24.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	F-56, 40, 5
3	土器器	甕	カマド フク土	(17.0)	(14.8)	—	不明	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	F-9, 75, 82, 88, 75
4	土器器	甕	床底	(22.0)	(11.9)	—	不明	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	F-2

図361 第462号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版 番号	種 類	部 位	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 観 整			内 面 観 整			底面調整	分 類	備 考	
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
5	土師器	鉢	カマド フク土	13.6	12.1	6.2	ヨコナデ?	不明	ヘラナズリ	不明	不明	不明	不明	砂底	AⅠ	F-124, 65, 113, 125 内外表別産
6	土師器	壺	フク土	—	(13.8)	(8.0)	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	—	砂底	A	F-99, 78, 66, 69, 71, 53, 54
7	土師器	鉢	カマド フク土	11.2	9.8	6.5	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	不明 (磨滅)	不明 ナゲツケ	砂底	AⅠ	F-127, 115, 121, 119	
8	土師器	壺	フク土	—	(7.6)	8.0	—	—	ヘラナズリ	—	—	ヘラナデ	—	砂底	A	F-79
9	土師器	壺	成産 カマドフク土	—	(18.8)	(13.0)	—	不明	ヘラナズリ	—	不明	ヘラナデ	ナゲツケ	—	A	F-9, 1, 122, 144

図362 第462号竪穴住居跡出土遺物(2)



図録 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整				内面調整			外面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上平	体部下平	口縁部	体部上平	体部下平				
10	土師器	甕	フク土	—	(10.0)	6.0	—	不明	不明	—	不明	不明	不明	ヘラナデ	A	P-54, 57, 58, 62

図363 第462号竪穴住居跡出土遺物(3)

第462号竪穴住居跡 (図360～図363)

〔位置〕 NA・NB-463～465グリッドに位置する。

〔重複〕 第463号住居跡、第386号土坑、第310号溝と重複し、第463号住居跡、第386号土坑より新しく、第310号溝より古い。

〔平面形・規模〕 東壁6m70cm、西壁4m85cm、南壁4m65cm、北壁4m65cmである。床面積は24.50㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁18cm、西壁48cm、南壁30cmである。床面は地山粘土を堅く踏みしめた床面である。

〔周溝〕 幅11～41cm、深さ7～29cmの周溝がほぼ一巡する。

〔ピット〕 ピットは5つ検出されたが、いずれも浅く、柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 住居東壁北側に構築されている。礫を芯材とし、粘土で覆って築かれている。煙道は第310号溝との重複により残存しない。

〔その他の施設〕 住居北側に北壁1m45cm、東壁1m55cm、西壁1m30cmの張り出しをもつ。調査時は第387号土坑としていたが、堆積土が類似しており、セクション面で壁の立ち上がりを確認できなかった点、床面が同じで、掘り方をもつ点、住居の周溝が土坑の部分では検出されなかった点などから住居の張り出しとした。

〔堆積土〕 12層に分層され、6層には焼土が多量に含まれる。全体的に粘土が混入する。

〔出土遺物〕 流れ込みと考えられる土師器・礫が多量に出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

第463号竪穴住居跡 (図360)

[位置] NA-464・465グリッドに位置する。

[重複] 第462号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 第462号住居跡との重複により北壁2m45cm、西壁2m36cmが残存する。床面積は1.05㎡である。

[壁・床面] 壁高は、西壁35cm、北壁16cmである。地山を床面とし、ほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は1層で、第462号住居跡の堆積土との区別はつかなかった。

[時期] 重複関係から、9世紀後半から10世紀前半以前に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

第471号(A) 竪穴住居跡 (図364～図371)

[位置] NE・NF-471～474グリッドに位置する。

[重複] 第370号住居跡、第2号畝状遺構と重複し、本住居跡は第2号畝状遺構より古く、第370号住居跡より新しい。また本住居跡は、第471号(B)住居跡を拡張したものである。

[平面形・規模] 東壁7m10cm、西壁7m22cm、南壁7m40cm、北壁7m10cmの方形である。床面積は39.57㎡で、主軸方位はN-71°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁18cm、西壁60cm、南壁64cm、北壁46cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅10～28cm、深さ3～19cmの周溝が東壁、西壁、南壁の一部に断片的に検出された。

[ピット] 検出されなかった。

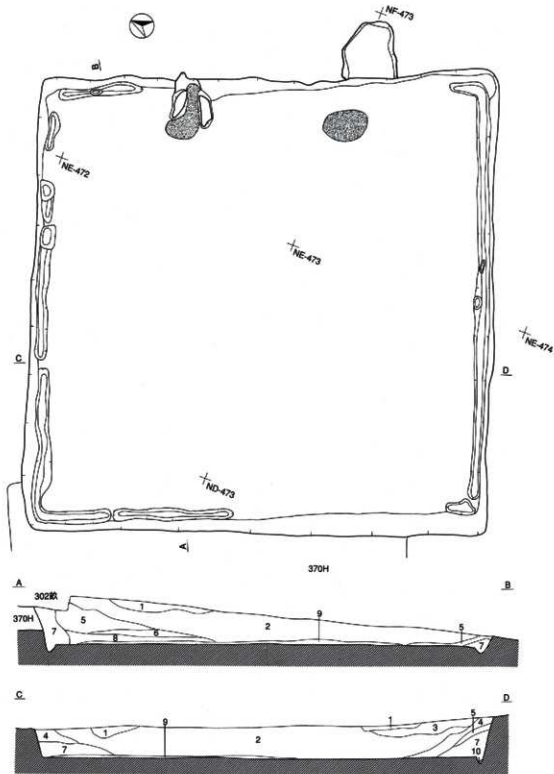
[カマド] 東壁北側に構築されている。煙道は半地下式で、住居跡外に15cmのびる。煙道底面は煙出し方向にやや急勾配に立ち上がる。カマド周辺から、芯材に使われたと思われる礫、土師器が出土している。

[堆積土] 堆積土は10に分層される。

[出土遺物] 土師器の甕、坏、小型土器や須恵器の壺、鉢のほかに、鑷先や刀子、小刀、釣針などの鉄製品、砥石、磨石が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第471号住居跡

第1層 黒褐色土 10YR2/2 におい・黄褐色土(10YR7/4)・ローム粒・炭化物混入

第2層 褐色土 7.5YR5/4

第3層 黒褐色土 10YR3/2 におい・黄褐色土(10YR6/4)・ローム粒混入

第4層 黒褐色土 10YR3/2 明黄褐色土(10YR7/6) 炭化物混入

第5層 黒褐色土 10YR2/2 におい・褐色土(7.5YR5/4)・L.B・炭化物混入

第6層 暗褐色土 10YR3/3 明黄褐色土(10YR7/6)・黒褐色土(10YR3/2)・粘土粒混入

第7層 暗褐色土 10YR3/3 におい・褐色土(7.5YR5/4)混入

第8層 黒褐色土 10YR2/2 明黄褐色土(10YR7/6)・

におい・褐色土(7.5YR5/4)・粘土粒混入

第9層 黒褐色土 10YR2/2 におい・褐色土(7.5YR5/4)混入

第10層 黒褐色土 10YR2/2 明黄褐色土(10YR7/6)・炭化物混入

図364 第471号(A) 竪穴住居跡

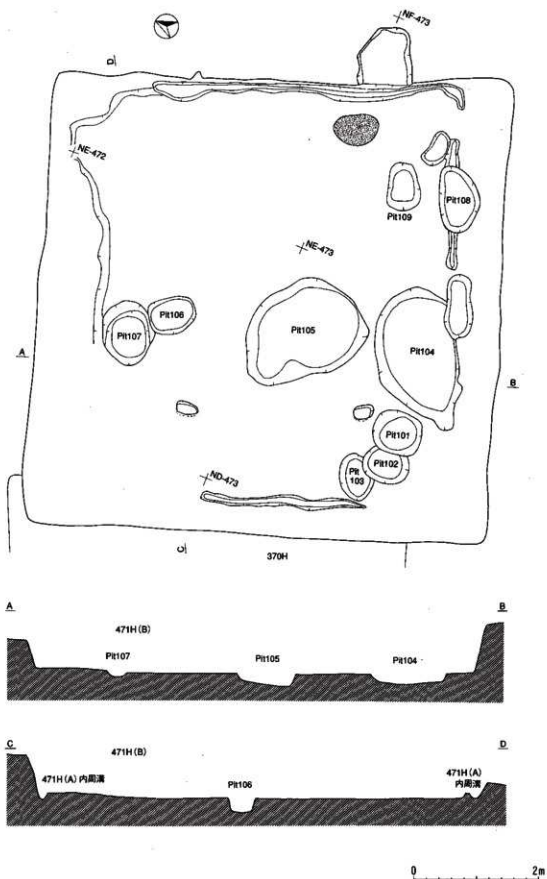


図365 第471号(B) 竪穴住居跡

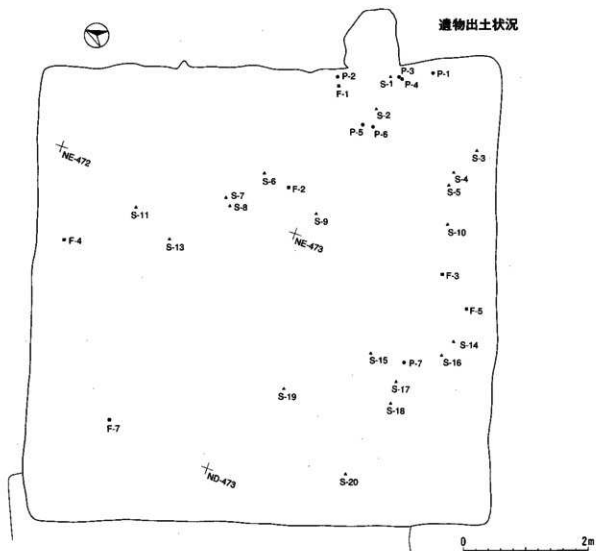
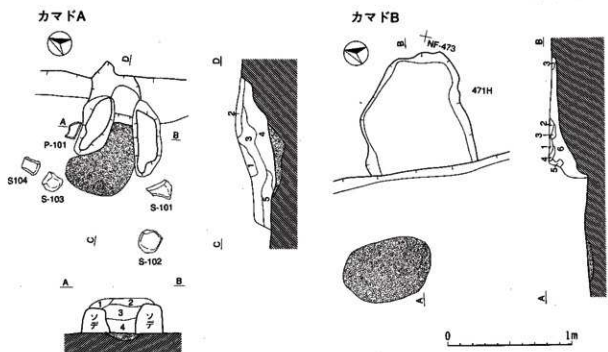


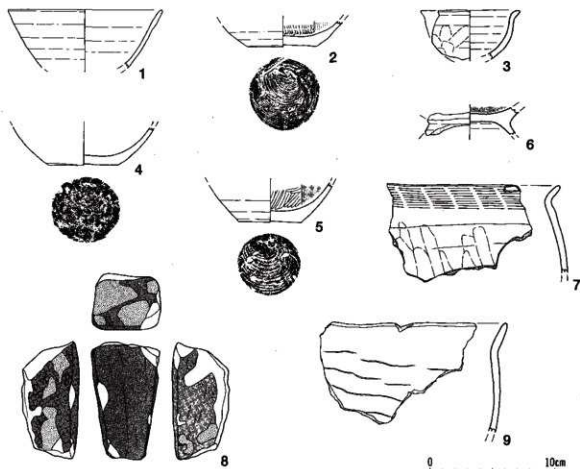
図366 第471号 (A)・(B) 竪穴住居跡 (2)

カマドA

第1層	暗褐色土	10YR3/4	ローム質土	炭化物・焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒多量	
第3層	黒褐色土	10YR2/2	L・B少量	焼土粒微量
第4層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒多量	炭化物少量
第5層	褐色土	10YR4/4	ローム質土	炭化物・焼土粒少量

カマドB

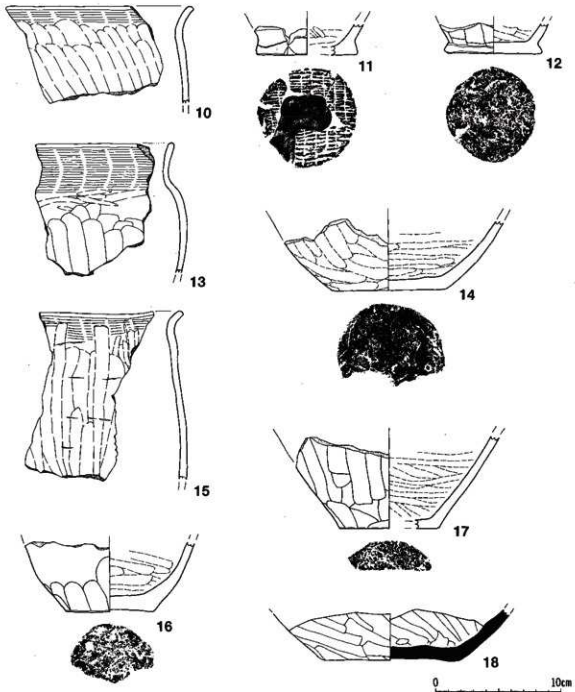
第1層	黒褐色土	10YR3/2	明黄褐色土(10YR7/6)	炭化物・焼土粒混入
第2層	C・F1褐色土	10YR5/4	黒褐色土(10YR2/3)	混入 焼土粒微量
第3層	黄赤褐色土	5YR5/6	焼土層	黒褐色土(10YR3/2)
第4層	黄赤褐色土	10YR7/6	黒褐色土(10YR3/2)	混入 粘土粒微量
第5層	褐色土	5YR6/6	黒褐色土(10YR3/2)	混入
第6層	黒褐色土	10YR3/2	明黄褐色土(10YR7/6)	混入 ローム粒・炭化物・焼土粒混入



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口徑	器高	底徑	口胸部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	環	フク土	(12.4)	(4.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ		
2	土師器	環	(B)東庭	—	(1.9)	5.6	—	—	ロクロ	—	—	—	ヘラミダキ	調整済み	BⅠ	内面黒色結核 F-4
3	土師器	小型土器	胎床	(8.0)	(4.0)	—	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—	
4	土師器	環	(B)フク土	—	(3.0)	—	—	—	不明	—	—	不明	余切り?	B?	—	
5	土師器	環	フク土	—	(3.3)	—	—	—	ロクロ	—	—	—	ヘラミダキ	調整済み	BⅠ	内面黒色結核
6	土師器	高台付環	フク土	—	(2.2)	—	—	—	ロクロ	—	—	—	ヘラミダキ	調整済み	—	内面黒色結核
7	土師器	壺	8777社	(21.0)	(7.7)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	輪郭状	
9	土師器	壺	フク土	(21.0)	(8.2)	—	ナテ?	ナテ?	—	不明	不明	—	—	A	輪廓状	

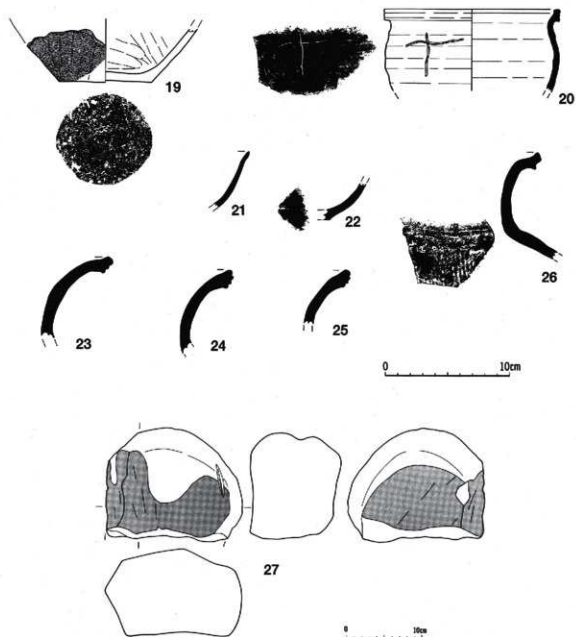
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
8	フク土	9.1	5.2	4.4	280	凝	磁石	炭化物付着

図367 第471号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版 番号	種 類	器 種	器土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			取柄調整	分類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	土師器	壺	床面	(18.0)	(7.8)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	P-3
11	土師器	壺	フク土	—	(2.3)	(8.0)	—	—	ヘラナテ?	—	—	ヘラナテ	黒編み肌	A	縁飾痕
12	土師器	壺	フク土	—	(2.4)	7.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナテ	ヘラナテ	A	底痕
13	土師器	壺	フク土	(22.0)	(10.5)	—	ヨコナテ	ヘラナテ ヘラケズリ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	—
14	土師器	壺	フク土	—	(5.7)	9.0	—	—	ヘラナテ	—	—	ヘラナテ	ヘラナテ	A	—
15	土師器	壺	フク土	(23.0)	(13.5)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	縁飾痕
16	土師器	壺	フク土	—	(5.6)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナテ	ヘラナテ	A	砂 土 質
17	土師器	壺	フク土	—	(7.3)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナテ	ヘラナテ	A	—
18	須恵器	壺	フク土	—	(4.1)	(10.8)	—	—	ケズリ	—	—	ケズリ	切 取 痕	—	—

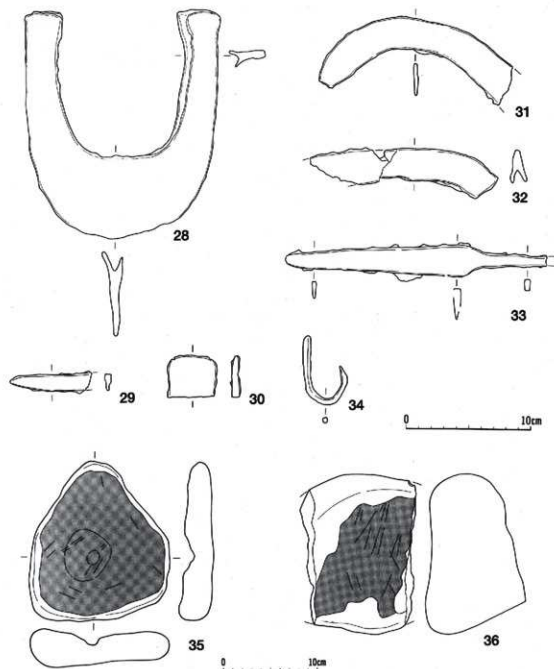
図368 第471号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	種別	器名	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
19	土師器	壺	フク土	—	(4.2)	7.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツク	A	外側出入状泥物付着
20	須恵器	鉢	フク土	(14.0)	(6.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外側調整
21	須恵器	杯	フク土	—	(4.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	471号出 外側出入状土着
22	須恵器	杯	フク土	—	(2.8)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	外側調整 ヘラナデ 調整痕跡立
23	須恵器	壺	床直	—	(6.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-3
24	須恵器	壺	フク土	—	(6.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
25	須恵器	壺	フク土	—	(4.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
26	須恵器	壺	フク土	—	(8.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
27	カマド床直	18.3	14.5	11.1	3927	安	磁石 S-103	

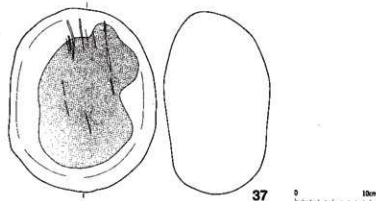
図369 第471号竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
28	床面	18.4	6.8	1.0	498.5	鑷(鋸)先	Fe-5
29	フク土	6.4	1.3	0.6	7.4	刀子	
30	フク土	4.0	3.3	0.7	18.8	板状	
31	フク土	15.6	2.6	0.3	39.0	鎌	Fe-1
32	フク土	11.4	2.6	0.9	65.0	鑷(鋸)先	Fe-2
33	フク土	21.1	2.5	0.7	54.7	小刀	Fe-4
34	PI(1)フク土	5.5	0.4	0.5	6.1	釣針	Fe-5

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
35	フク土	16.8	14.9	3.9	1110	凝	磨石	炭化粉付着
36	カマド床直	11.4	17.0	10.6	3042	凝	砥石	S-104

図370 第471号竪穴住居跡出土遺物(4)



図録番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
37	床面	24.5	19.5	14.2	6595	安	磁石	S-4

図371 第471号竪穴住居跡出土遺物 (5)

第471号 (B) 竪穴住居跡 (図364～図371)

[位置] NC～NE-471～473グリッドに位置する。

[重複] 第471号 (A) 住居跡は、本住居跡を拡張したものである。

[平面形・規模] 東壁の周溝のほかは、断片的に壁または周溝を検出した。東壁6 m10cm、西壁2 m68cm、南壁3 m22cm、北壁3 m62cmである。平面形は不明である。主軸方位はN-68°-Eで、床面積は、39.57㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁32cm、南壁54cm、北壁45cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅7～31cm、深さ1～21cmの周溝が東壁、西壁・南壁の一部に断片的に検出された。

[ピット] 検出されたピットは7個である。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 東壁南側に構築されており、火床面と煙道のみ残存する。煙道は半地下式で、住居跡外に92cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。焚き口周辺から芯材に使われたと思われる礫が出土している。

[その他の施設] 中央やや南側に、長軸234cm、短軸128cm、深さ16cmのピット4、南壁西側に、長軸204cm、短軸144cm、深さ20cmのピット5を検出した。用途等については不明である。

[時期] 重複関係から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

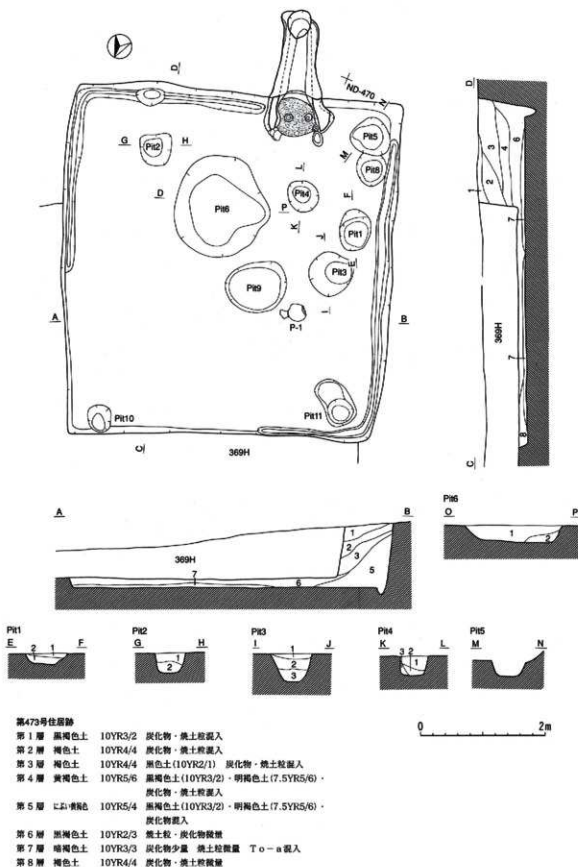


図372 第473号竪穴住居跡(1)

第473号竪穴住居跡（図372～図378）

〔位置〕 NC・NE-468・470グリッドに位置する。

〔重複〕 第369号・第495号住居跡と重複し、本住居跡は第369号住居跡より古く、第495号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 東壁5m60cm、西壁5m45cm、南壁5m30cm、北壁4m90cmの方形である。床面積は27.40㎡で、主軸方位はN-163°-Eである。

〔壁・床面〕 北側が第369号住居跡に切られている。壁高は、東壁16cm、西壁102cm、南壁78cm、北壁14cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅6～21cm、深さ9～37cmの周溝が断片的に検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは6個である。柱穴は、ピット2（31cm）、ピット5（25cm）、ピット10（26cm）、ピット11（20cm）と考える。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。羽口と礫を芯材として用い、粘土を覆って本体を築いている。焚口には土師器の坏が2個伏せた状態で置かれ、支脚としていた。2つの支脚は、間隔が19cm、火床面から約9cm上に底部が置かれるように設置されている。煙道は半地下式で、住居跡外に140cmのびる。煙道底面は煙出し方向に急勾配に立ち上がる。

〔その他の施設〕 西壁南側に、長軸66cm、短軸50cm、深さ18cmのピット1、西壁中央に、長軸74cm、短軸72cm、深さ46cmのピット3、カマドの北側に、長軸54cm、短軸48cm、深さ32cmのピット4、中央から南寄りに、長軸162cm、短軸154cm、深さ26cmのピット6、中央付近に、長軸98cm、短軸80cmのピット9を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は8層に分層され、7層にT_{0-a}火山灰が混入する。床面南側一帯に炭化材が検出されたことから、焼失家屋と考える。

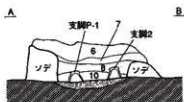
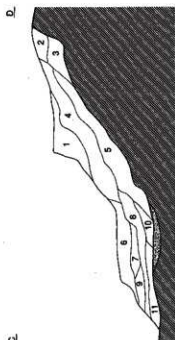
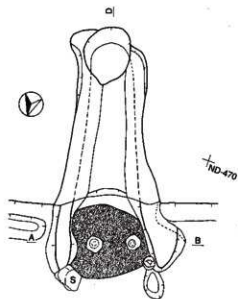
〔出土遺物〕 土師器の甕、坏、埴、小型土器や須恵器の坏、壺、鉢、長頸壺のほか、羽口、刀などが出土している。特に長頸壺は、床面からほぼ完形の状態で出土した。また、床面から炭化したトチの実が出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

- PH1
 第1層 にぶい黄褐色 7.5YR5/6 粘土質土 炭化物・焼土粒混入
 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム殻 炭化物微量、しまりなし
- PH2
 第1層 黄褐色土 10YR5/6 粘土質土 黒褐色土(10YR2/2)混入
 炭化物・焼土粒微量
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 黒色土(10YR2/1)、明黄褐色土(10YR5/6)
 炭化物混入
- PH3
 第1層 黒褐色土 10YR3/2 黒色土(10YR2/1)、にぶい黄褐色土(10YR5/4)
 炭化物混入
 第2層 褐色土 10YR4/4
 第3層 褐色土 10YR4/4

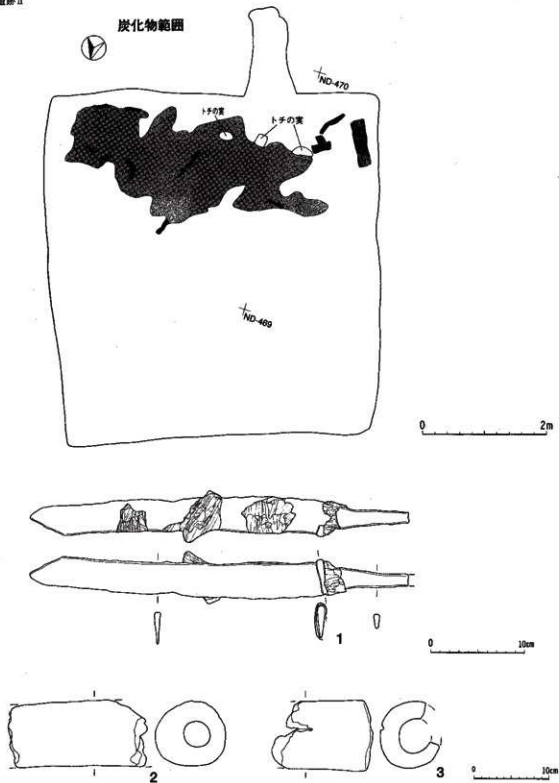
- PH4
 第1層 炭化物層 焼土粒少量
 第2層 にぶい黄褐色 10YR5/4 暗褐色土(10YR3/3)混入 炭化物
 焼土粒中量
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 にぶい黄褐色土(10YR5/4)混入
 炭化物・焼土粒多量
- PH6
 第1層 黒褐色土 10YR3/2 明黄褐色土(10YR6/6)混入
 炭化物・焼土粒少量
 第2層 暗褐色土 7.5YR3/3 明黄褐色土(10YR6/6)混入
 焼土粒少量



0 1m

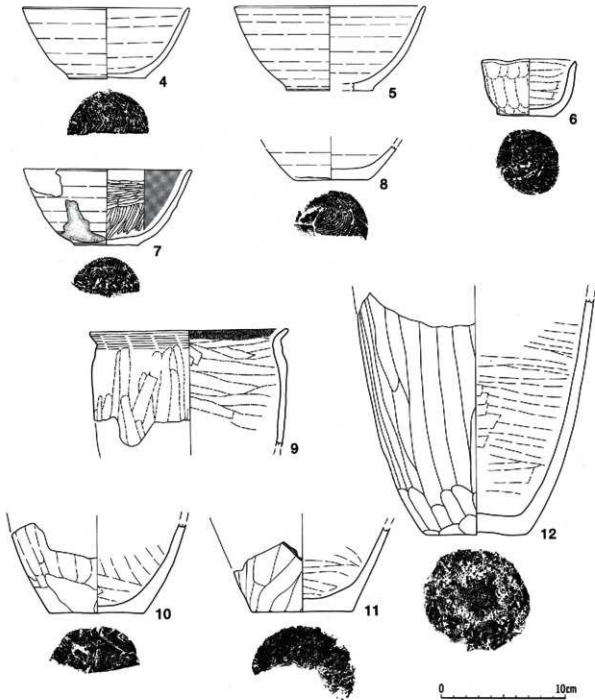
- カマド
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 L.B 礫石・焼土粒少量
 第2層 黒褐色土 7.5YR2/2 焼土ブロック多量
 第3層 黒褐色土 7.5YR2/1 焼土ブロック中量
 第4層 暗褐色土 7.5YR3/4 炭化物・焼土粒中量
 第5層 黄褐色土 10YR5/8 粘性あり
 第6層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・焼土粒混入、しまりなし
 第7層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物・焼土粒多量
 第8層 黒色土 10YR1.7/1 ローム殻・炭化物・焼土粒多量
 第9層 黒褐色土 7.5YR2/2 ローム殻・炭化物・焼土粒混入
 第10層 赤褐色土 5YR4/8
 第11層 黒色土 10YR2/1 炭化物・焼土粒混入、しまりなし

図373 第473号竪穴住居跡(2)



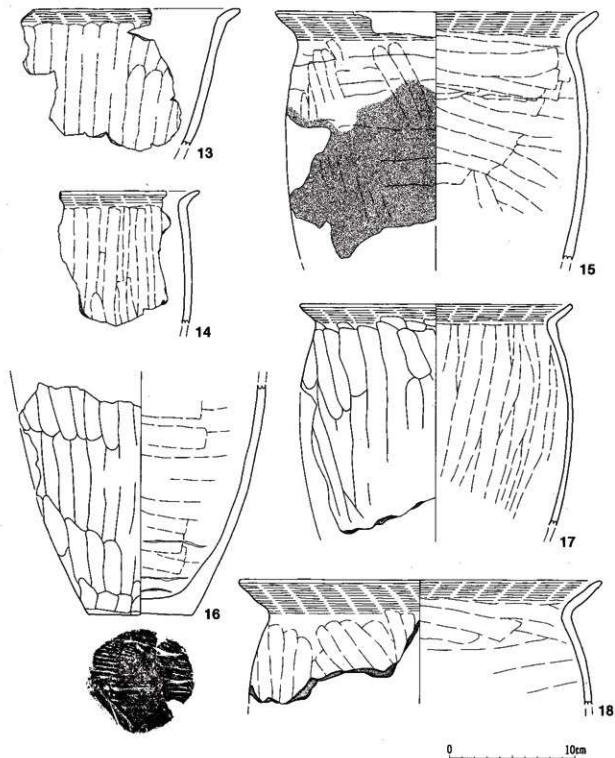
図版番号	出土層位	計 画 値 (cm)			重さ (g)	種 類	備 考	
		長さ	幅	厚さ				
1	フタ土	40.5	3.4	0.6	206.3	刀	木製握柄	
図版番号	出土層位	計 画 値 (cm)			重さ (g)	石 質	分 類	備 考
		長さ	外径	内径				
2	フタ土	(18.5)	8.6×9.5	3.5	(1330)	B	ナデ	
3	カマド芯材	(13.4)	8.9×(7.9)	—	(530)	不明	—	

図374 第473号竪穴住居跡(3)・出土遺物(1)



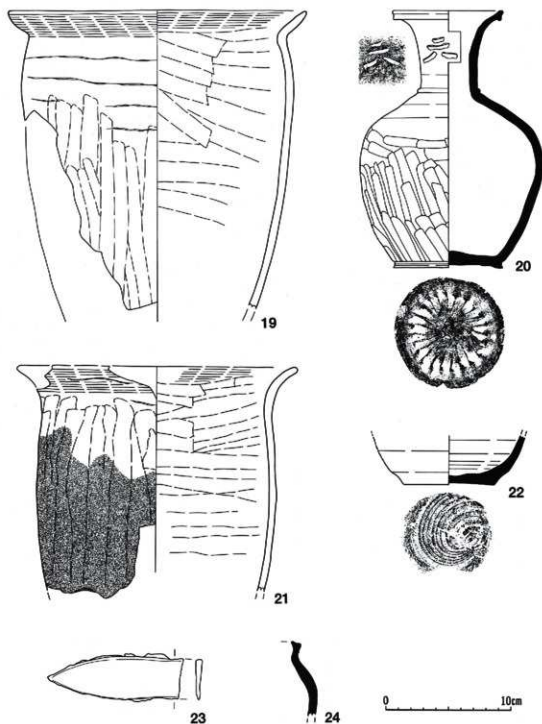
図版番号	種類	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考		
			口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半					
4	土師器	坏 F90 フナ土	(13.6)	(5.8)	(6.2)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	B II b	
5	土師器	坏 F90 フナ土	(15.4)	(6.8)	(7.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り?	B II b	
6	土師器	小壺土器	7.6	4.5	4.2	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	—	—	
7	土師器	坏 F91 フナ土	(13.6)	6.1	(5.2)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	刷毛色刷毛	B I b		
8	土師器	坏 F91 フナ土	—	(2.7)	6.2	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	B II		
9	土師器	壺 F97 フナ土	(16.0)	(9.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	A	内蔵入込灰状火物押痕	
10	土師器	壺 F97 フナ土	—	(8.1)	(7.6)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-112, 116		
11	土師器	壺 F97 フナ土	—	(6.6)	8.2	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-201		
12	土師器	壺 F97 フナ土	—	(19.5)	8.2	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂嵐	A	P-103, 105, 106, 108 109, 111, 120, 121		

図375 第473号竪穴住居跡出土遺物(2)



図版 番号	種類	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
			口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
13	土師器	甕	床面	(28.0)	(11.4)	—	ヨコナア	ヘラナア	—	ヘラナア	ヘラナア	—	—	—	P-11, 12, 13
14	土師器	甕	2ヤF9層	(21.0)	(10.8)	—	ヨコナア	ヘラナア	—	ヨコナア	ヘラナア	—	—	A	P-11B
15	土師器	甕	2ヤF9層	(26.0)	(19.8)	—	ヨコナア	ヘラナア	—	ヨコナア	ヘラナア	—	—	A	P-114, 102 縁部, 口縁部
16	土師器	甕	2ヤF9層	—	(18.5)	8.2	—	—	ヘラナズリ	—	ヘラナア	ヘラナア	—	A	P-110, 114 P-119Z層
17	土師器	甕	F9層 F7上	22.0	(18.4)	—	ヨコナア	ヘラナズリ	—	ヨコナア	ヘラナア	—	—	A	—
18	土師器	甕	F9層 F7上	29.0	(10.0)	—	ヨコナア	ヘラナア	—	ヨコナア	ヘラナア	—	—	A	—

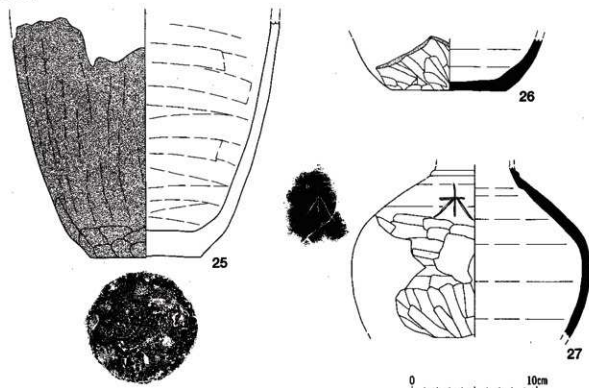
図376 第473号竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	種類	器名	出土層位	計測値 (cm)			外面調整		内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半			
19	土師器	甕	Pl6 灰層	(24.0)	(24.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	A I	P-102, 113 P-17 輪郭図
20	須恵器	長底甕	床面	(9.0)	20.5	8.8	ロクロ	ロクロ	ケズリ	—	—	—	A	菊花文 —
21	土師器	甕	床面	(22.6)	(18.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	A	P-106, 107, 101 輪郭図, 粘土分析
22	須恵器	鉢	Pl1 フタ土	—	(3.9)	7.2	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	A	同版番号有り
24	須恵器	甕	Pl1 フタ土	—	(6.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	A	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
23	Pl6フタ土	11.4	3.8	0.5	73.8	刀	

図377 第473号竪穴住居跡出土遺物 (4)



図版 番号	種 類	器 種	土質	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
25	土師器	壺	床面	—	(19.3)	9.0	—	ヘラナア?	ヘラケズリ	—	ヘラナア	ヘラナア	ナゲツク	A	P.5, 9, 11, 14, 15, 13 片断出土片
26	須恵器	壺	フタ土	—	(4.2)	(9.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ 切替 ヘラケズリ	—	—	—
27	須恵器	長頸壺	床底	—	(13.8)	—	—	須恵ロクロ ケズリ	ケズリ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	外面調整 底面調整

図378 第473号竪穴住居跡出土遺物 (5)

第475号竪穴住居跡 (図379)

〔位置〕 MV・MW-482・483グリッドに位置する。

〔重複〕 第398号住居跡、第322号溝と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 西壁6m46cm、南東部分が調査区外にかかり、また、本住居跡の大半を第398号住居跡に切られている。残存する南壁3m68cm、北壁36cmである。平面形、主軸方位は不明である。床面積は7.33㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、西壁48cm、南壁12cmである。床面は起伏を持ち、東側にやや傾斜する。

〔周溝〕 幅12～30cm、深さ1～13cmの周溝が南壁から西壁にかけて断片的に検出された。

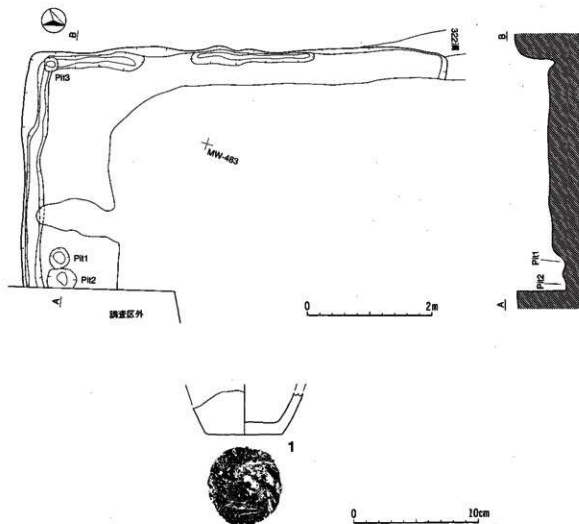
〔ビット〕 検出されたビットは3個である。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の甕が出土している。

〔時期〕 時期は不明である。

(相馬良仁)



図版番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
			口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	灰土	—	(3.8)	6.0	—	—	不明	—	—	不明	ヘラナア	A?	

図379 第475号竪穴住居跡・出土遺物

第476号竪穴住居跡 (図380～図383)

〔位置〕 NF～NH-474・475グリッドに位置する。

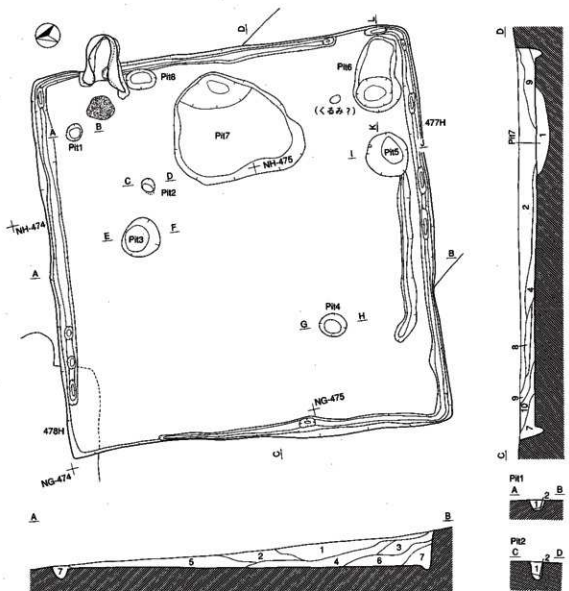
〔重複〕 第477号住居跡、第478号住居跡と重複し、本住居跡は第477号住居跡より古く、第478号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 東壁6 m12cm、西壁6 m15cm、南壁6 m38cm、北壁6 m10cmの方形である。床面積は37.51㎡で、主軸方位はN-97°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁35cm、西壁36cm、南壁18cm、北壁19cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅6～26cm、深さ3～21cmの周溝がほぼ一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットは6個である。いずれも柱穴とは考えられない。

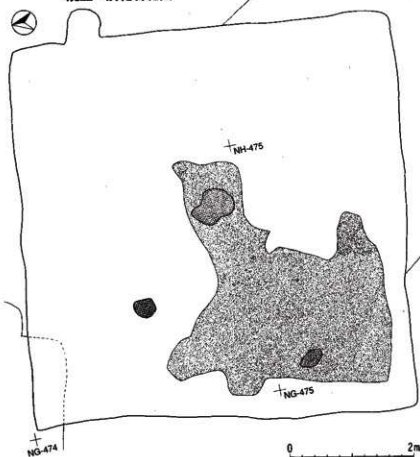


第476号住居跡

- | | | | | |
|------|------|---------|----------------|------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭土粒・炭化物微量 | B-Tm混入 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭土粒・炭化物・ローム粒微量 | |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭土粒・炭化物・ローム粒微量 | B-Tm |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭土粒・炭化物少量 | B-Tm混入 |
| 第5層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭土粒・炭化物微量 | L, B中量 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭土粒微量 | B-Tm混入 |
| 第7層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 炭土粒・炭化物微量 | L, B少量 |
| 第8層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 炭土粒・炭化物少量 | B-Tm混入 |
| 第9層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭土粒・炭化物微量 | L, B少量
B-Tm混入 |
| 第10層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物微量 | L, B少量 |

図380 第476号竪穴住居跡(1)

焼土・炭化物範囲



Pl1
第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量
第2層 暗褐色土 10YR3/3 褐色土(10YR4/6)混入

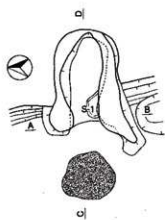
Pl5
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量

Pl3
第1層 暗褐色土 10YR3/1 ローム粒・焼土粒中量
第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量 炭化物中量
第3層 褐色土 10YR4/6 ローム粒多量 焼土粒中量

Pl4
第1層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物少量
第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量

Pl2
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量
第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量

Pl6
第1層 黒褐色土 10YR2/3 褐色土(7.5YR4/4)混入
第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量
第3層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒少量

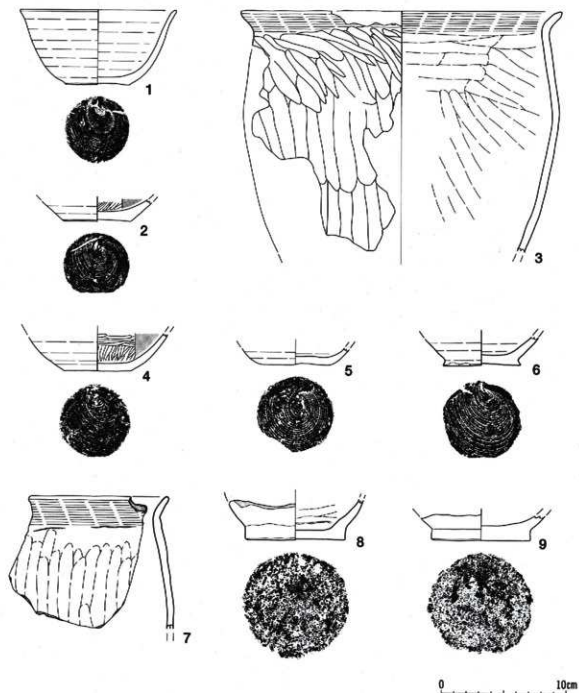


カマド
第1層 暗褐色土 10YR3/3
焼土ブロック・浮石・ローム粒混入
第2層 暗褐色土 10YR3/2
焼土ブロック・ローム粒混入
第3層 褐色土 7.5YR4/4
ローム粒・炭化物微量
第4層 黒色土 10YR2/2
焼土ブロック・B-Tm混入



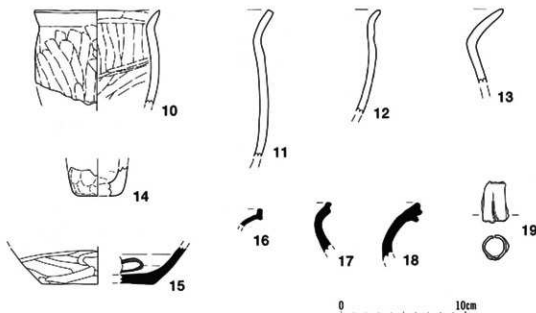
0 1m

図381 第476号竪穴住居跡(2)



器物番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	Py6底裏	12.6	6.0	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-2
2	土師器	坏	フク土	—	(1.7)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミダキ	回転糸切り	B I	内面黒色施装
3	土師器	甕	Py77722 底裏	(24.0)	(19.8)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	—
4	土師器	坏	フク土	—	(3.0)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミダキ	回転糸切り	B I	内面黒色施装
5	土師器	坏	フク土	—	(1.4)	5.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B II	—
6	土師器	坏?	フク土	—	(2.2)	6.2	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B II	—
7	土師器	甕	フク土	(19.0)	(10.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪郭筋
8	土師器	甕	Py7底裏	—	(3.2)	8.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-1
9	土師器	甕	フク土	—	(2.0)	8.0	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A?	—

図382 第476号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	フク土	(10.0)	(7.6)	—	不明	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	AⅢ	
11	土師器	簀	針777社	(20.0)	(10.6)	—	ヨコナデ	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪郭図 P-4
12	土師器	甕	フク土	(14.0)	(8.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
13	土師器	甕	フク土	(30.0)	(6.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
14	土師器	小皿土器	フク土	—	(2.3)	(3.0)	—	—	—	ユビ圧痕	—	ナデ	ナデツケ	—	
15	須恵器	甕	床面	—	(3.0)	(9.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	—	—	内面大断面図 P-1
16	須恵器	壺	フク土	—	(1.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
17	須恵器	甕	フク土	—	(4.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	自然発
18	須恵器	甕	フク土	—	(4.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面大断面図、輪郭図参照

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
19	フク土	3.2	2.2	2.0	10.5	筒状	

図383 第476号竪穴住居跡出土遺物(2)

【カマド】 東壁北側に構築されている。礫を芯材として用い、粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に50cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

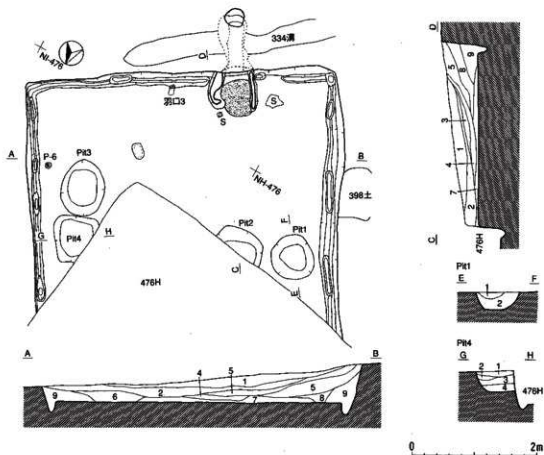
【その他の施設】 南東隅に、長軸120cm、短軸66cm、深さ42cmのビット6、東壁中央付近に、長軸208cm、短軸198cm、深さ22cmのビット7を検出した。

【堆積土】 堆積土は10層に分層され、1、3、4、6、8、9層にB-Tm火山灰が混入している。南西付近に広がる焼土を検出した。

【出土遺物】 覆土から、土師器の甕、坏、小型土器や須恵器の甕のほか、筒状の鉄製品が、また床面からは須恵器の壺が出土している。

【時期】 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



第477号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒・炭化物・小礫微量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物微量 ローム少量 焼土ブロック混入
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・焼土粒・炭化物微量
第4層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒・炭化物少量
第5層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物・焼土粒微量 L, B少量
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・焼土粒・炭化物微量
第7層	黒色土	10YR2/1	焼土粒・炭化物少量
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・焼土粒・炭化物中量
第9層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒・ローム粒混入

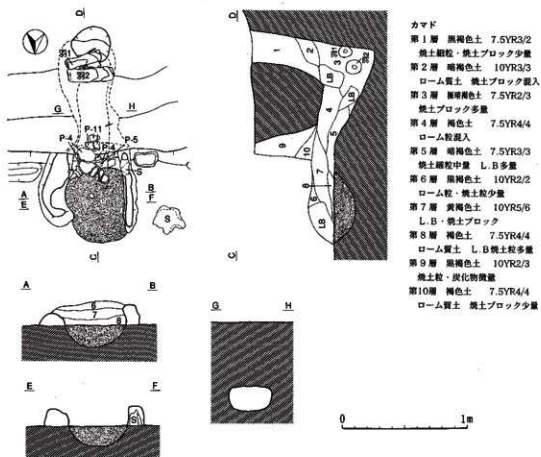
P11

第1層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物微量 焼土ブロック中量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物・焼土粒微量 L, B中量

P14

第1層	褐色土	10YR4/6	ローム粒・炭化物少量 砂礫多量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム細粒 焼土粒・炭化物少量
第3層	暗褐色土	7.5YR3/4	L, B微量 焼土粒・炭化物中量
第4層	褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物・焼土粒微量

図384 第477号竪穴住居跡(1)



炭化材・焼土炭範囲

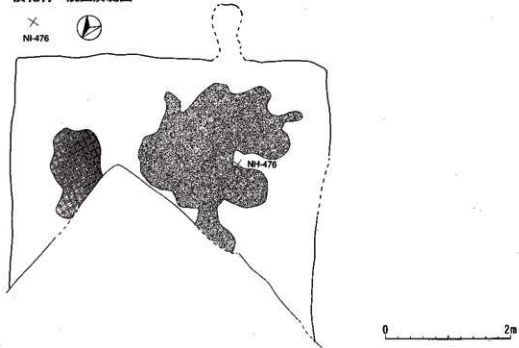
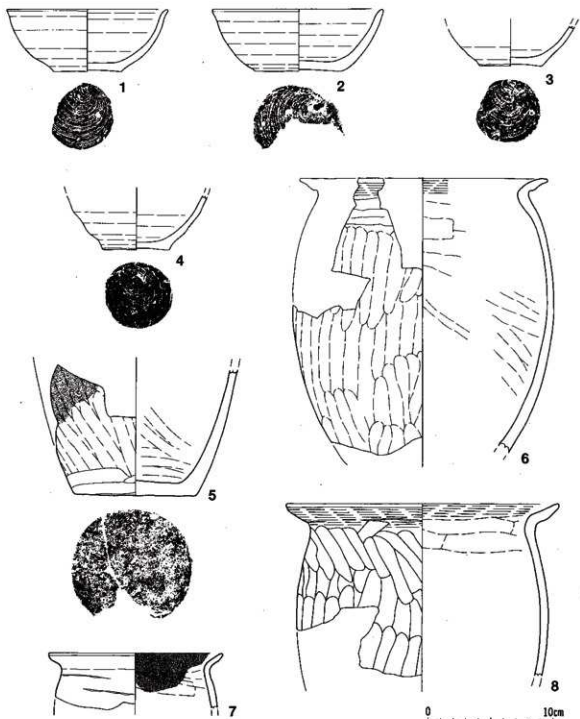
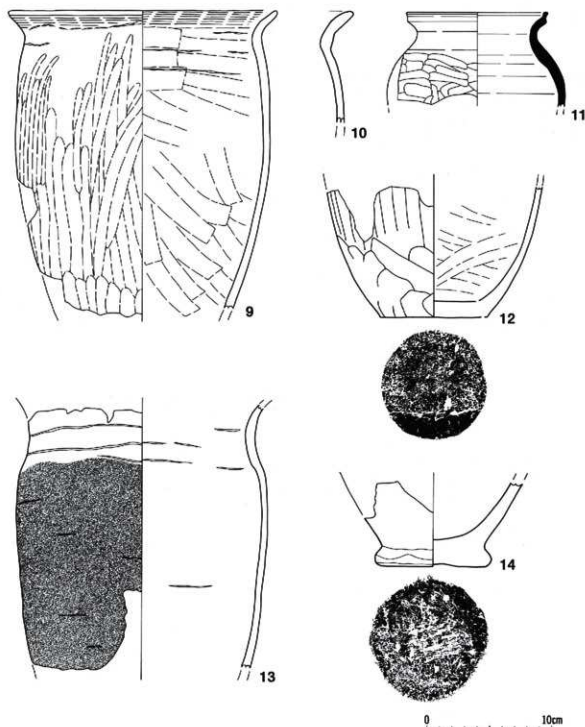


図385 第477号竪穴住居跡(2)



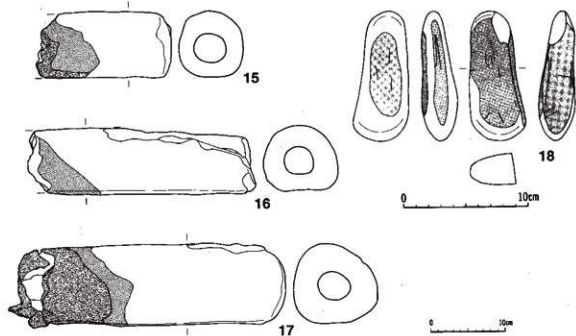
図形 番号	種類	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
			口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	フク土	(13.0)	5.4	(5.4)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	
2	土師器	坏	フク土	—	5.4	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	P-8
3	土師器	坏	フク土	—	(3.2)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
4	土師器	坏	灰底	—	(4.4)	(5.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
5	土師器	甕	フク土	—	(10.4)	9.8	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ?	ヘラナデ	砂粒 →ナデシケ	A	片断物上付物
6	土師器	甕	71772 灰底	(20.0)	(22.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P.6, 7, 8, 10, 11 片断物
7	土師器	坏	フク土	(14.1)	(6.1)	—	ナデ?	ナデ?	ナデ?	ナデ?	ナデ?	—	—	A	片断物
8	土師器	甕	フク土	22.0	(13.8)	—	ナデ?	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図386 第477号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版 番号	種類	器 體	口上位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			近隣調整	分類	備 考
				口 径	高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
9	土師器	甕	S ¹⁷²⁷² 表裏	21.6	(24.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1	P-12 輪縁部
10	土師器	甕	S ¹⁷²⁷² 表裏	(24.0)	(9.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-12 輪縁部
11	須恵器	裏	フク土	(11.2)	(7.5)	—	ロクロ	ケズリ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—
12	土師器	甕	フク土	—	(10.5)	(8.6)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	A	彩 →ナツク
13	土師器	甕	S ¹⁷²⁷² 表裏	—	(21.2)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A1	P-1 輪縁部、外蓋
14	土師器	甕	床面	—	(7.1)	9.2	—	不明	不明	—	不明	不明	—	A	P-48 彩 →ナツク

図387 第477号竪穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			長さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
18	カマドフク土	10.4	4.4	2.5	140	礫	砥石	S-1

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			長さ (g)	石質	調査	備考
		長さ	外径	内径				
15	床面	(18.1)	8.8×8.6	3.9×4.4	(1200)	B	—	
16	カマド煙道部	(30.1)	8.8×9.9	—	(2100)	C	—	開口-1 砂粒多量
17	カマド煙道部	37.1	10.6×11.3	3.8×4.4	4270	C	—	開口-2 砂粒多量

図388 第477号竪穴住居跡出土遺物 (3)

第477号竪穴住居跡 (図384～図388)

〔位置〕 NG・NH-475・476グリッドに位置する。

〔重複〕 第476号住居跡、第398号土坑、第334号溝と重複し、本住居跡は第398号土坑より新しく、第476号住居跡、第334号溝より古い。

〔平面形・規模〕 南壁5m、北側が第476号住居跡に切られ、煙道が第334号溝に切られている。残存する東壁3m70cm、西壁4m40cmであり、残存部分から方形と推定する。床面積は13.55㎡で、主軸方位はN-148°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁40cm、西壁50cm、南壁60cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅9～16cm、深さ6～32cmの周溝が一巡すると推定する。

〔ピット〕 検出されたピットは4個である。柱穴はピット1 (24cm)、ピット4 (30cm) と考える。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。礫を芯材として転用し、この上に粘土を覆って本体を築いている。煙道は地下式で、住居跡外に101cmのびる。煙道底面煙出し方向に緩やかに下降する。ソデ付近から芯材に転用したと思われる礫が、煙出し底面付近からも芯材に転用したと思われる羽口が出土した。また、焚き口から土師器が出土している。

[その他の施設] 西壁中央に、径82cmのビット2、東壁西側付近に、長軸90cm、短軸70cmのビット3を検出した。

[堆積土] 堆積土は9層に分層される。中央付近に広がる焼土を検出した。

[出土遺物] 土師器の甕、坏や羽口、砥石が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第478号竪穴住居跡 (図389・図390)

[位置] NF・NG-473・474に位置する。

[重複] 第476号住居跡、第397号土坑と重複し、本住居跡は第397号土坑より新しく、第476号住居跡より古い。

[平面形・規模] 南東側が第476号住居跡に切られる。東壁3m62cm、西壁3m72cm、南壁3m46cm、北壁3m58cmの北西隅が丸い方形である。床面積は11.62㎡で、主軸方位はN-106°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁24cm、西壁29～60cm、南壁51cm、北壁23cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅10～26cm、深さ2～23cmの周溝が東壁中央付近を除きほぼ一巡する。

[ビット] 検出されなかった。

[カマド] 東壁南側に構築されている。煙道と火床面のみを検出した。煙道は半地下式で、住居跡外に54cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

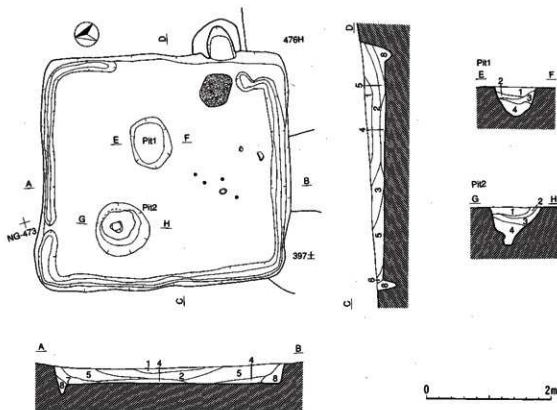
[その他の施設] 中央からやや東寄りに、長軸84cm、短軸64cm、深さ46cmのビット1を検出した。1層にT₀-a火山灰が混入している。西壁北側から東寄りに、径88cm、深さ60cmの円形のビット2を検出し、1、3層にT₀-a火山灰が混入している。ビット2は、ほぼ中央に径15cm、深さ16cmの落ち込みがあり、形態から「ロクロビット」と考えられる。

[堆積土] 堆積土は8層に分層され、1～5、7層にT₀-a火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から、土師器の坏や砥石が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築された土師器の製作に関わる遺構と考えられる。

(相馬良仁)



第478号住居跡

- | | | | |
|-----|------|-----------|-----------------------------------|
| 第1層 | 黒色土 | 10YR2/1 | T o - a 混入 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | T o - a 混入 ローム粒中量 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | T o - a 混入 黒色土(10YR2/1)混入 ローム粒中量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | T o - a 混入 ローム粒少量 |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR4/6 | T o - a 混入 黒褐色土(10YR2/3)混入 |
| 第6層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | |
| 第7層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | T o - a 混入 ローム粒中量 |
| 第8層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | にぶい、黄褐色土(7.5YR5/4)混入 ローム粒中量 炭化物少量 |

Pit1

- | | | | |
|-----|------|-----------|---------------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | T o - a 混入 ローム粒・炭化物・焼土粒混入 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量 |
| 第3層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | ローム粒・炭化物少量 |
| 第4層 | 黄褐色土 | 10YR5/8 | 黒色土(10YR2/1)混入 |

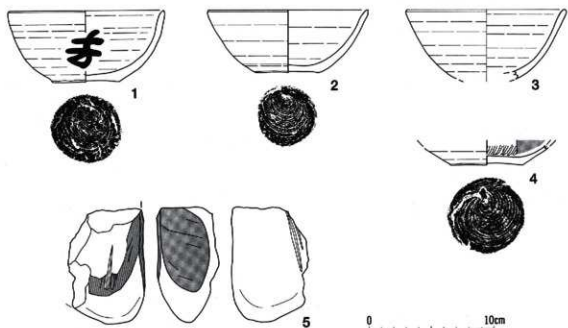
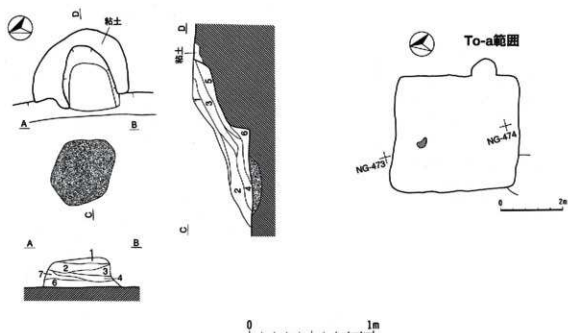
Pit2

- | | | | |
|-----|------|-----------|---|
| 第1層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | T o - a 混入 |
| 第2層 | 黒色土 | 10YR2/1 | |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | T o - a 混入 黄褐色土(10YR4/6)混入 ローム粒中量 炭化物少量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 褐色土(10YR4/6)混入 ローム粒・炭化物少量 |

カマド

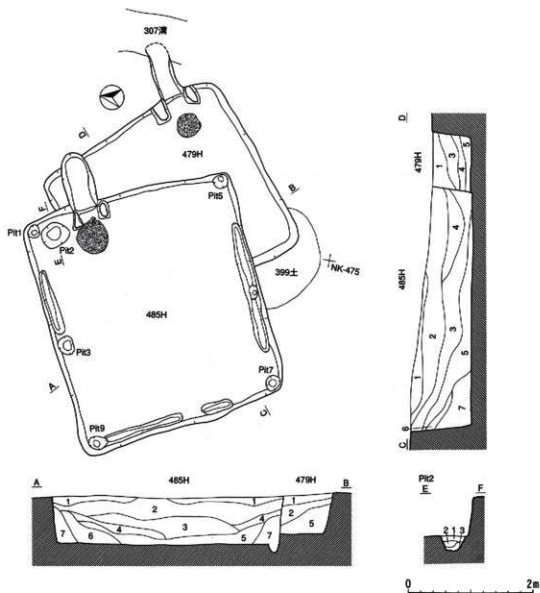
- | | | | |
|-----|------|-----------|----------------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土ブロック少量 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土ブロック少量 |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム層 |
| 第4層 | 黒色土 | 10YR2/1 | T o - a 混入 ロームブロック多量 炭化物少量 |
| 第5層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | ローム粒・焼土粒混入 炭化物少量 |
| 第6層 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | 焼土粒混入 |
| 第7層 | 褐色土 | 10YR4/4 | |

図389 第478号雙穴住居跡(1)



図録番号	種類	器種	土質	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	杯	フク土	12.6	5.7	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	B II b	P-6 線画
2	土師器	杯	フク土	(13.0)	5.0	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	B II b	P-4
3	土師器	杯	フク土	(13.0)	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	—	—	B II	P-3
4	土師器	杯	フク土	—	(1.6)	5.8	—	—	ロクロ	—	—	ヘタミガキ	網乾赤色	—	B I	内面黒色結膜 P-2
図録番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	材質	分類	備考								
		長さ	幅	厚さ												
5	フク土	9.2	5.7	4.6	312	凝	凝石	5-1								

図390 第478号竪穴住居跡(2)・出土遺物



第479号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物微量
 第2層 褐色土 7.5YR4/6 ローム層
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 粘土粒混入
 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物・粘土粒少量
 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒混入

PH2

- 第1層 褐色土 7.5YR4/4 粘土粒微量
 第2層 暗褐色土 7.5YR3/3
 第3層 褐色土 7.5YR4/6

第485号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/4 炭化物・粘土粒微量
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量 炭化物・粘土粒微量
 第3層 暗褐色土 10YR3/2
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 粘土粒少量 炭化物微量
 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒混入
 第6層 暗褐色土 10YR3/3 L, B中量
 第7層 暗褐色土 10YR3/3 L, B混入

図391 第479号・第485号竪穴住居跡(1)

第479号竪穴住居跡（図391～図394）

〔位置〕 N J・NK-473・474グリッドに位置する。

〔重複〕 第485号住居跡、第399号土坑、第307号溝と重複し、本住居跡は第399号土坑より新しく、第485号住居跡、第307号溝より古い。

〔平面形・規模〕 東壁2 m80cm、北壁3 m16cm、西側が第485号住居跡に切られ、煙道が第307号溝に切られる。残存する南壁82cm、西壁46cmで、方形と推定する。主軸方位はN-51°-Eで、床面積は3.67㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁66cm、南壁62cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ビット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 北壁東側に構築されている。芯材を使わず、粘土を覆って本体を構築する。煙道は半地下式で、住居跡外に88cmのびる。煙道底面は残存部分から、煙出し方向に緩やかに立ち上がると推定する。

〔堆積土〕 堆積土は5層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の甕が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第485号竪穴住居跡（図391～図394）

〔位置〕 N J・NK-473・474グリッドに位置する。

〔重複〕 第479号住居跡、第399号土坑と重複し、本住居跡が最も新しい。

〔平面形・規模〕 東壁3 m36cm、西壁3 m24cm、南壁3 m48cm、北壁3 m70cmの方形である。床面積は11.08㎡で、主軸方位はN-68°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁8～60cm、西壁82cm、南壁8～86cm、北壁64cmである。床面は平坦である。

〔周溝〕 幅12～22cm、深さ1～9cmの周溝が断片的に検出された。

〔ビット〕 検出されたビットは7個である。柱穴はビット1（36cm）、ビット3（32cm）、ビット4（21cm）、ビット5（22cm）、ビット6（15cm）、ビット7（18cm）と考える。

〔カマド〕 東壁北側に構築されている。焚口には、土師器の坏を伏せた状態で置き、支脚としている。煙道は半地下式で、住居跡外に83cmのびる。煙道底面は煙出し方向にやや急勾配に立ち上がる。

〔その他の施設〕 カマドの北側に、長軸46cm、短軸36cm、深さ24cmのビット2を検出した。

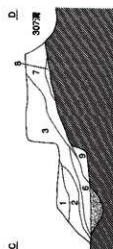
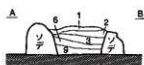
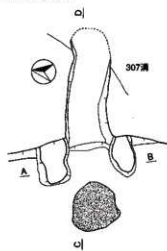
〔堆積土〕 堆積土は7層に分層される。

〔出土遺物〕 土師器の甕、坏や須恵器の甕、鉢が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

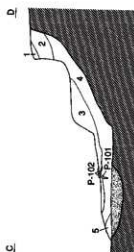
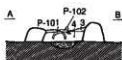
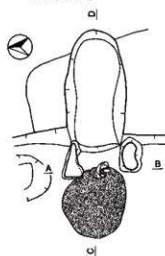
479Hカマド



479Hカマド

- | | | | |
|-----|------|----------|-------------|
| 第1層 | 褐色土 | 7.5YR4/6 | 炭化物微量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | 炭化物少量 焼土粒微量 |
| 第3層 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | 炭化物微量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 7.5YR2/2 | 炭化物微量 |
| 第5層 | 褐色土 | 7.5YR4/6 | |
| 第6層 | 赤褐色土 | 5YR4/6 | 焼土粒中量 |
| 第7層 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | 焼土粒中量 |
| 第8層 | 褐色土 | 7.5YR4/6 | |
| 第9層 | 褐色土 | 7.5YR4/6 | |

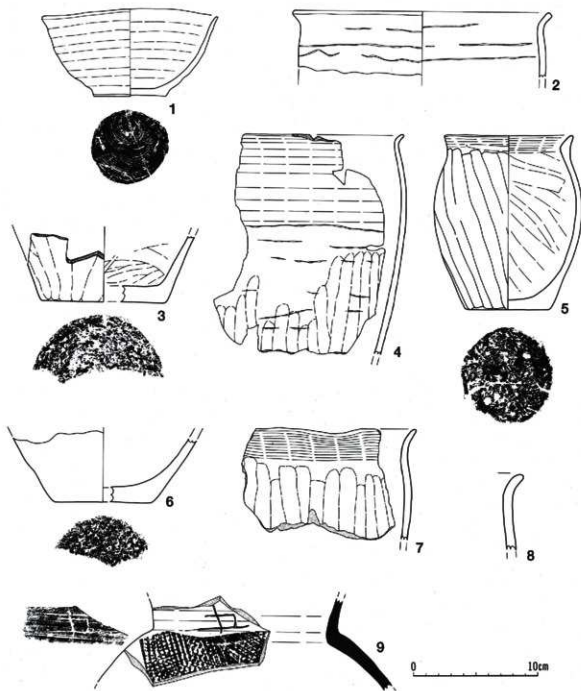
485Hカマド



485Hカマド

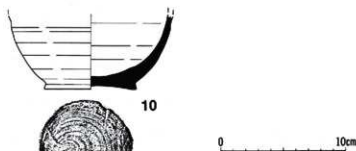
- | | | | |
|-----|------|----------|--------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 焼土粒微量 炭化物極微量 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 焼土粒微量 |
| 第4層 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | 焼土粒中量 |
| 第5層 | 黒色土 | 7.5YR2/1 | 焼土粒少量 炭化物微量 |

図392 第479号・第485号竪穴住居跡(2)



図版 番号	種 類	器 種	出土位置	計測値 (cm)			外 面 測 量			内 面 測 量			底面測値	分 類	備 考		
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半					
1	土師器	坏	217771	14.2	7.0	5.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転成形	BⅡb	485H	
2	土師器	壺	フタ土	(21.0)	(5.1)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A	線刻, 磨減	485H	
3	土師器	甕	フタ土	—	(5.4)	(10.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂流	A	—	485H	
4	土師器	甕	217771	(22.0)	(17.6)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	不明	不明	—	—	B	線刻	476H	
5	土師器	甕	フタ土	(10.4)	14.0	7.0	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラズリ	ヘラズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂流	AⅡe	—	485H	
6	土師器	壺	フタ土	—	(6.7)	(8.0)	—	—	不明	—	—	不明	不明	A	刷毛	485H	
7	土師器	壺	217771	(20.0)	(8.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	—	476H	
8	土師器	甕	217771	(18.0)	(6.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	—	476H	
9	須恵器	甕	フタ土	—	(7.2)	—	—	器底ロクロ 器口ヘラナデ	—	—	—	器底ロクロ 器口ヘラナデ	—	—	—	外面磨減	485H

図393 第479号・第485号竪穴住居跡出土遺物(1)



図面 番号	種類	種別	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	須恵器	鉢	フタ土	—	(6.0)	7.4	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転溝切り	—	485H

図394 第479号・第485号竪穴住居跡出土遺物（2）

第480号竪穴住居跡（図395～図397）

〔位置〕 NN・NO-469・470グリッドに位置する。

〔重複〕 第490号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁3m36cm、西壁3m52cm、南壁3m60cm、北壁3m62cmで南西隅がやや突き出す方形である。床面積は13.78㎡で、主軸方位はN-178°-Sである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁12cm、西壁78cm、南壁66cm、北壁48cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されたピットは3個である。柱穴はピット1（22cm）、ピット2（23cm）と考える。

〔カマド〕 東壁北側に構築されている。礫を芯材として転用し、粘土を覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に61cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道から芯材に使われたと思われる礫が多量に出土した。

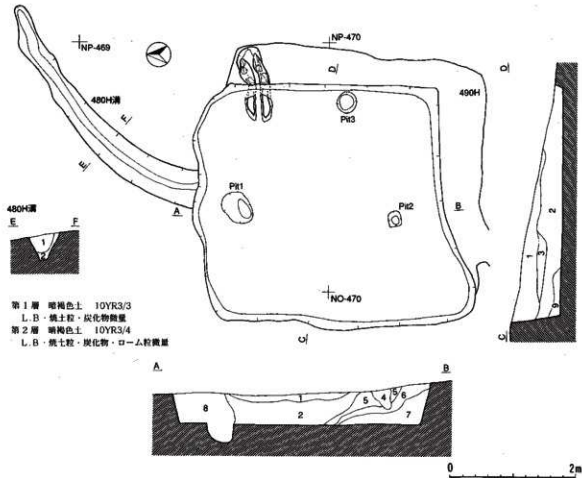
〔その他の施設〕 北壁中央から北東方向に、幅20～62cm、深さ40cm、長さ4m50cmの溝を検出した。排水溝として使われたと考える。

〔堆積土〕 堆積土は9層に分層される。

〔出土遺物〕 土師器の甕や須恵器の坏、壺が出土している。

〔時期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

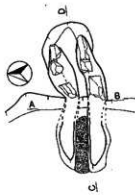
（相馬良仁）



第1層 暗褐色土 10YR3/3
L.B・焼土粒・炭化物微量
第2層 暗褐色土 10YR3/4
L.B・焼土粒・炭化物・ローム粒微量

第480号住居跡
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 焼土粒・炭化物中量
第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物微量 焼土粒少量 ローム粒中量
第3層 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒少量 炭化物・ローム粒中量
第4層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒・炭化物微量 ローム粒中量

第5層 褐色土 10YR4/4 焼土粒中量 L.B混入
第6層 暗褐色土 10YR3/3 焼土微量 炭化物・ローム粒中量
第7層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒・炭化物微量 ローム粒少量
第8層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒少量 炭化物・ローム粒中量
第9層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量



カマド遺物出土状況

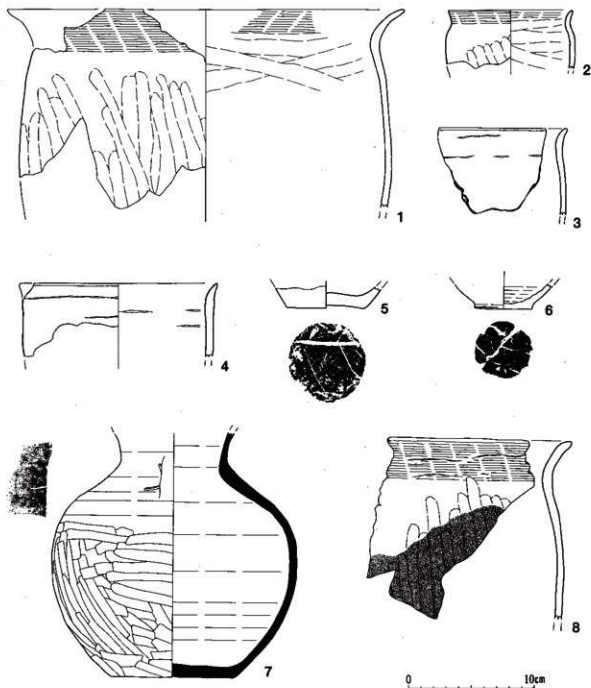


カマド

第1層 暗褐色土 10YR3/4
ローム粒・L.B・炭化物・焼土粒微量
第2層 褐色土 7.5YR4/6
焼土粒・小礫微量
第3層 黒褐色土 10YR2/3
焼土粒・ローム粒混入

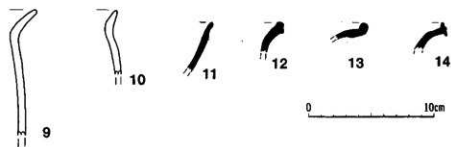


図395 第480号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(32.0)	(16.0)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	
2	土師器	甕	フク土	(10.0)	(4.6)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	
3	土師器	甕	フク土	(16.0)	6.6	—	不明	不明	—	ヘラナテ?	ヘラナテ?	—	—	A	輪縁部
4	土師器	甕	フク土	(16.0)	(5.9)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪縁部
5	土師器	甕	フク土	—	(1.8)	6.4	—	—	不明	—	—	ヘラナテ	本葉部	A	
6	土師器	甕?	フク土	—	(2.0)	4.6	—	—	不明	—	—	ロクロ	輪縁部	B	
7	須恵器	甕	床底	—	(19.5)	10.0	—	ヨコナテ	ケズリ	—	ロクロ	ロクロ	口縁部 ヘラナテ	—	片断部
8	土師器	甕	フク土	(21.0)	14.3	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	輪縁部、3.5cm以内部付部

図396 第480号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図録 番号	種 類	出土位置	計測値 (cm)			外 面 測 量			内 面 測 量			表面調整	分 期	備 考	
			口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
9	土師器	壺	フタ土	(20.0)	(10.0)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
10	土師器	壺	フタ土	(15.0)	(5.2)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	内面輪線状
11	須恵器	杯	フタ土	—	(4.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
12	須恵器	壺	フタ土	—	(2.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
13	須恵器	壺	フタ土	—	(1.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
14	須恵器	壺	フタ土	—	(2.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図397 第480号竪穴住居跡出土土遺物(2)

第482号竪穴住居跡 (図398・図399)

〔位 置〕 NL・NM-471グリッドに位置する。

〔重 複〕 第452号・第492号・第494号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 南2m78cm、東側が削平され、北側が第452号住居跡に、煙道が第492号住居跡に切られている。残存する西壁2m54cm、北壁60cmで方形と推定される。主軸方位はN-143°-Eで、床面積は6.71㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、西壁41cm、南壁10cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周 溝〕 幅8~12cm、深さ3~12cmの周溝が西壁の一部に検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは3個である。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。焚き口には土師器を伏せた状態に置き、支脚としていた。

煙道は、残存部分から地下式と推定する。煙道底面は煙出し方向に緩やかに下降する。

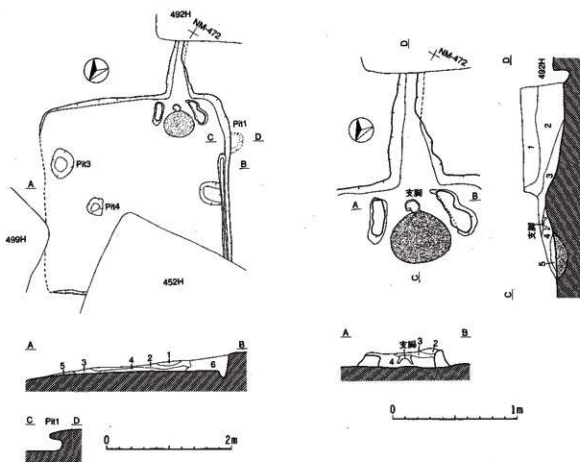
〔その他の施設〕 西壁南側に、径36cmで西壁を24cm掘り込んだピット1を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は6層に分層され、5層に焼土が大量に混入している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の甕が出土している。

〔時 期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀中葉~後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

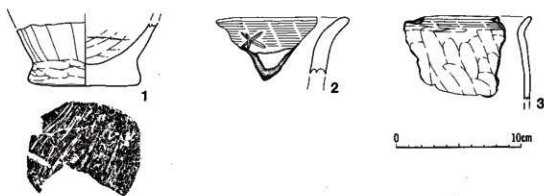


第482号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物微量
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒・炭化物少量 ローム粒中量
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・焼土粒・炭化物微量
 第5層 褐色土 7.5YR4/4 ローム粒・焼土多量
 第6層 黒褐色土 7.5YR2/2 ローム粒・焼土粒中量

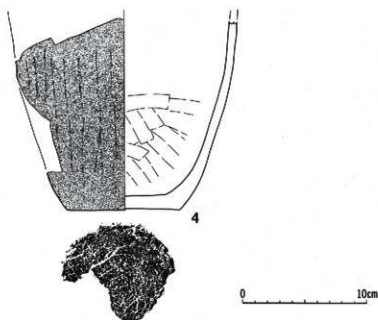
カマド

- 第1層 暗褐色土 7.5YR3/3 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
 第2層 暗褐色土 7.5YR2/3 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
 第3層 黒褐色土 7.5YR2/2 ローム粒・炭化物少量 焼土粒中量
 第4層 黒褐色土 7.5YR3/2 ローム粒少量 焼土粒中量
 第5層 暗褐色土 5YR2/4 ローム粒・焼土粒中量



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口徑	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	37772	—	(5.1)	9.0	—	—	ヘラナテ ヘラナテ	—	—	ヘラナテ	ヘラナテ	A	P-101 内面磨製痕あり
2	土師器	甕	37772	(22.0)	(5.0)	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	A	器底 磨製痕
3	土師器	甕	37771	(19.0)	(6.4)	—	ヨコナテ ヘラナテ	ヘラナテ	—	—	ヘラナテ	—	—	A	

図398 第482号竪穴住居跡出土遺物(1)



図録 番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	蓋高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
4	土師器	蓋	477721 477722	—	(15.4)	9.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	片断出土品

図399 第482号竪穴住居跡出土遺物(2)

第483号竪穴住居跡 (図400)

[位置] ND・NE-478グリッドに位置する。

[重複] 第499号土坑、第334号溝と重複し、本住居跡は第499号土坑より新しく、第334号溝より古い。

[平面形・規模] 北壁2m46cm、南側が調査区外にかかり、東壁が第334号溝に切られている。残存する東壁94cm、西壁2m24cmである。床面積は4.6㎡である。平面形及び主軸方位は不明である。

[壁・床面] 壁高は、東壁34cm、西壁30cm、北壁10cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されたピットは2個である。柱穴は、ピット3 (24cm) で、その他は調査区外にあると考えられる。

[カマド] 検出されなかった。

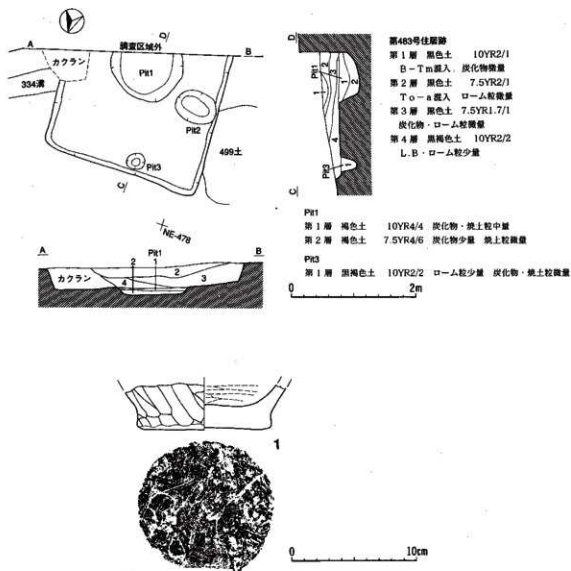
[その他の施設] 北壁中央から南寄りに、径118cm、深さ32cmのピット1を検出した。

[堆積土] 堆積土は4層に分層され、1層にB-Tm火山灰、2層にT-o-a火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から、土師器の甕が出土している。

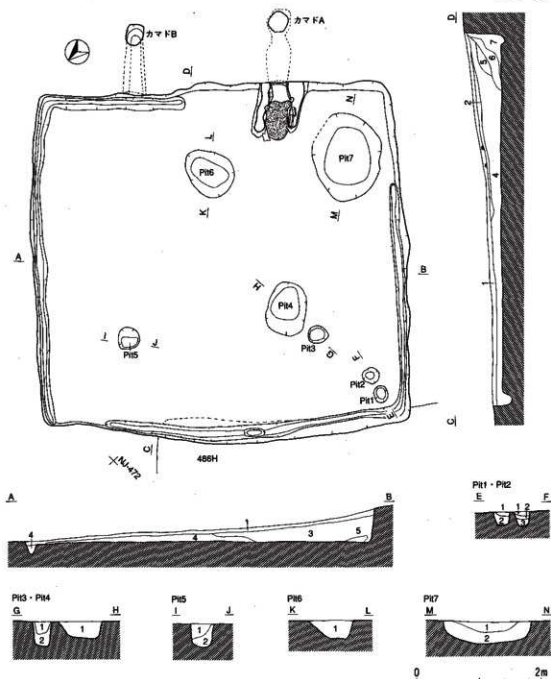
[時期] 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



図版番号	種別	部類	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分期	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	—	(3.7)	11.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナアツケ	A	

図400 第483号竪穴住居跡・出土遺物



第484号住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 B-Tm混入 ローム粒微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 B-Tm混入 ローム粒微量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 粘土粒中量 炭化物微量
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・焼土粒微量
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3

P11

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 焼土ブロック混入 炭化物微量
- 第2層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物・焼土粒微量

P12

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 褐色土 7.5YR4/4 ローム質土 焼土粒少量
- 第3層 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム質土 炭化物・焼土粒中量

P13

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 褐色土 7.5YR4/4 ローム質土

P14

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・焼土粒微量

P15

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 黒褐色土(10YR3/2)混入

P16

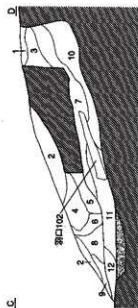
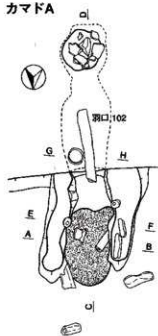
- 第1層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物・焼土粒微量

P17

- 第1層 黄褐色土 10YR5/6 焼土粒少量
- 第2層 褐色土 10YR4/6 焼土粒微量

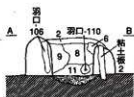
図401 第484号竪穴住居跡(1)

カマダA



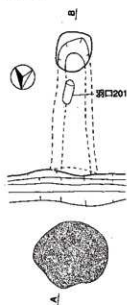
カマダA

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2
B-Tm層入 焼土粒中量 灰化物少量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3
灰化物・焼土粒微量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3
焼土粒多量
- 第4層 褐色土 7.5YR4/4
灰化物少量 焼土粒微量
- 第5層 褐色土 7.5YR4/4
焼土粒微量
- 第6層 褐色土 7.5YR4/4
灰化物微量
- 第7層 褐色土 7.5YR4/4
- 第8層 暗褐色土 7.5YR3/4
焼土粒中量
- 第9層 褐色土 7.5YR4/4
焼土粒微量
- 第10層 黒褐色土 7.5YR3/2
焼土粒微量
- 第11層 暗褐色土 7.5YR3/3
焼土粒少量
- 第12層 褐色土 7.5YR4/4
灰化物微量



0 1m

カマダB



カマダB

- 第1層 黒褐色土 7.5YR5/6
- 第2層 褐色土 7.5YR4/4
- 第3層 褐色土 7.5YR4/4 焼土粒少量
- 第4層 明褐色土 7.5YR5/6 焼土粒少量
- 第5層 褐色土 7.5YR4/4 焼土粒微量

0 1m

図402 第484号竪穴住居跡(2)

第484号竪穴住居跡 (図401～図407)

〔位置〕 NI～NK-471～473に位置する。

〔重複〕 第486号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁5m65cm、西壁5m88cm、南壁5m45cm、北壁5m30cmの北側中央がややふくらむ方形である。床面積は31.49㎡で、主軸方位はN-132°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁33cm、西壁64cm、南壁43cm、北壁26cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅8～23cm、深さ6～19cmの周溝が断片的に検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは4個である。柱穴はピット3(36cm)、ピット5(36cm)と考える。

〔カマド〕 カマドは2つ検出された。南壁西側に構築されたものをカマドA、南壁東側に構築されたものをカマドBとした。検出状況から、カマドAが新しい。カマドAは羽口、焼成粘土板を芯材として転用し、この上に粘土を覆って本体を構築している。特にソデからは、羽口を床面に立てた状態に置き、周りを粘土で覆って構築したソデと床面を掘り込み、焼成粘土板を埋め込んで周りを粘土で覆って構築したソデが確認された。煙道は地下式で、住居跡外に119cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道から芯材に転用されたと思われる羽口と土師器が、焚き口周辺からも芯材に転用されたと思われる礫が出土し、また、煙出しから土師器が多量に出土した。カマドBは煙道と火床面のみ残存する。煙道は地下式で住居跡外に113cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道から芯材に転用されたと思われる羽口が出土した。

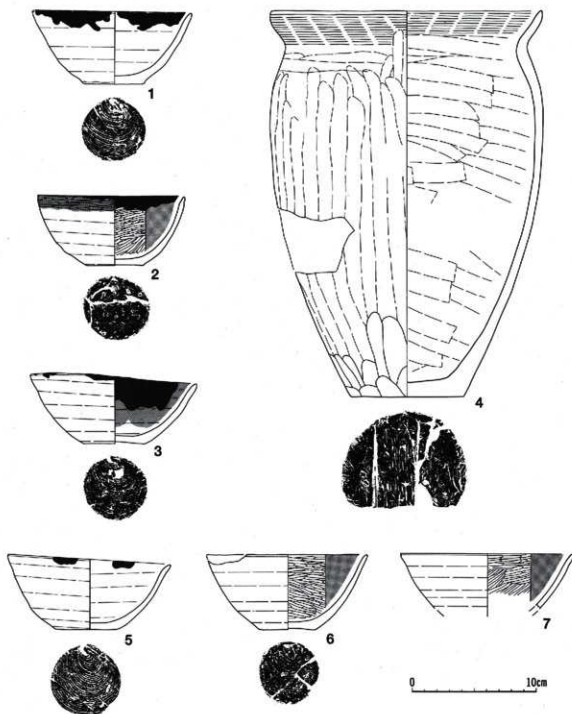
〔その他の施設〕 中央から北西寄りに、長軸84cm、短軸42cm、深さ26cmのピット4、中央から南寄りに、長軸86cm、短軸68cm、深さ23cmのピット6、南西隅に、長軸142cm、短軸110cm、深さ34cmのピット7を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は7層に分層され、1、2層にB-Tm火山灰が混入している。

〔出土遺物〕 土師器の甕、坏、高台付坏や須恵器の坏のほか、羽口、砥石、焼成粘土板が出土している。

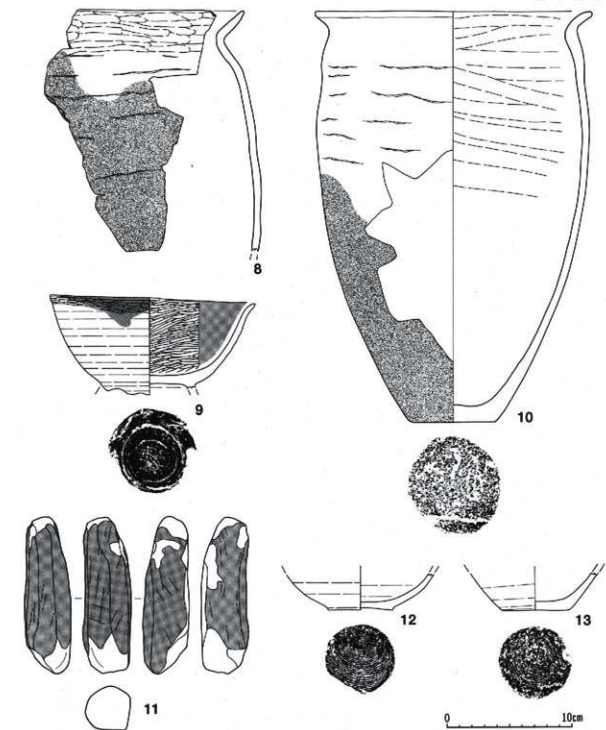
〔時期〕 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	針777社	12.8	5.9	4.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	BⅡb	内外面ボール付磨 P-111 灯物皿
2	土師器	坏	アク土	11.8	5.7	4.6	ヘタミガキ	ロクロ	ロクロ	ヘタミガキ	ヘタミガキ	ヘタミガキ	ヘタミガキ	糸切り	BⅡb	内外面ボール付磨付研 底縁部一均等に施す 3/3
3	土師器	坏	針777社	13.4	5.7	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	両面糸切り	BⅡb	ボール付研付研 P-113 灯物皿
4	土師器	甕	陸床	22.0	31.0	9.0	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	AⅡb	P-2, P-3 輪飾皿
5	土師器	坏	針777社	13.2	6.0	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡb	内外面ボール付磨 P-112 灯物皿
6	土師器	坏	床面 (13.0)	6.0	4.4	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘタミガキ	ヘタミガキ	ヘタミガキ	ヘタミガキ	糸切り	BⅡb	内面顔色地磨
7	土師器	坏	床面 (14.0)	(4.4)	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘタミガキ	ヘタミガキ	—	—	—	BI	P-11 内面顔色地磨

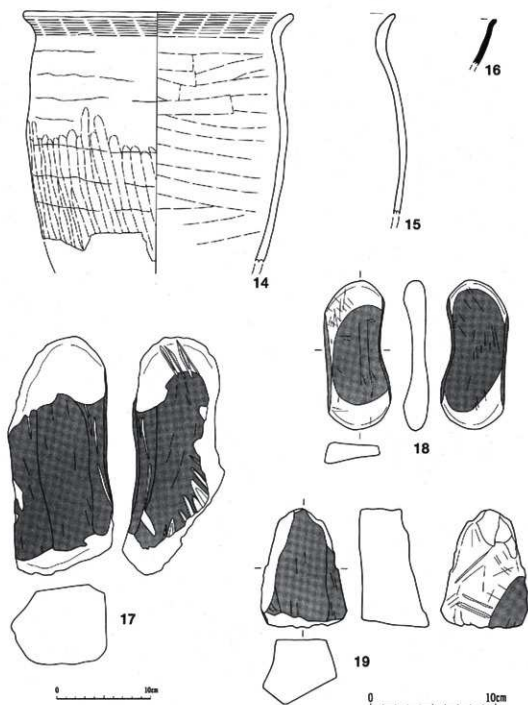
図403 第484号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種別	器名	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
8	土師器	甕	床西	(20.0)	(19.0)	—	ヘラナデ	ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-8, 黒土褐色、黒土紅褐色、輪飾肌
9	土師器	高台付杯	P3722 P3723 P3724 P3725 P3726	16.5	(8.0)	—	ヘラミガキ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	余切り	—	P-1 内外黒褐色地肌
10	土師器	甕	P3727 P3728	(22.0)	31.3	7.0	不明 (地肌)	不明 (地肌)	不明 (地肌)	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A I d	P-3, 17 黒褐色、輪土付肌
12	土師器	杯	フク土	—	(2.9)	5.2	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	段取本器身	B II	
13	土師器	杯	フク土	—	(3.0)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	不明	赤褐色 地肌	B II	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
11	フク土	12.4	3.7	3.5	240	凝	磁石	

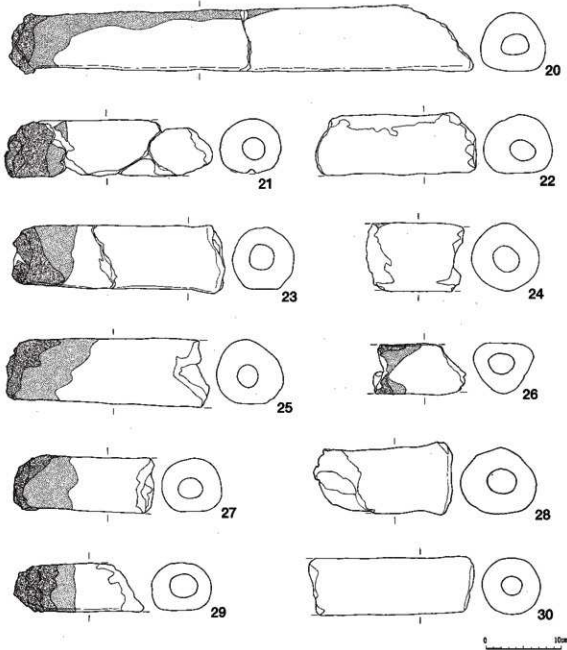
図404 第484号竪穴住居跡出土遺物(2)



図録番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	胴高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	S1777上	22.0	(20.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-103, 104, 105, 106 磨製土 (K)
15	土師器	甕	S1777上	(22.0)	(16.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粒上付蓋
16	銅器	環	扉面	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内側黒、火打ナ多量

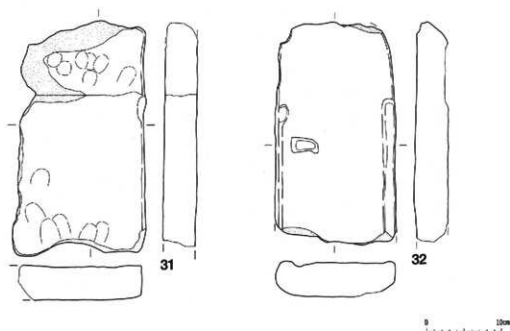
図録番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石膏	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
17	カマドフタ土	24.7	10.6	8.2	2230	安	磁石	S-101
18	フタ土	11.9	4.4	1.0	150	磨製	磁石	現在物付蓋
19	フタ土	9.4	5.9	5.1	365	磨製	磁石	

図405 第484号竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
20	カマド煙道部	(61.3)	7.8×8.6	2.8×3.7	(4100)	C	ナテ	図D-102
21	カマド床面	(27.6)	(7.3)×8.2	3.1	(1070)	不明	ナテ	図D-104 砂粒多量
22	カマドフク土	(21.5)	7.5×9.2	2.7×3.3	(1430)	C	ナテ	図D-108
23	カマドフク土	28.2	8.3	3.4	1740	B		図D-106 砂粒多量
24	カマドフク土	(13.0)	9.0	3.7×3.2	(800)	B	ナテ	図D-109 砂粒多量
25	カマドフク土	(27.1)	8.6×9.0	3.0	(1680)	B	ナテ	図D-110 砂粒多量
26	カマドフク土	(12.5)	6.8×8.1	2.8×3.5	(392)	D ₁		図D-105 砂粒多量
27	カマド煙道	(18.7)	7.1×8.0	2.7×3.3	(950)	B	ナテ	図D-201
28	カマドフク土	(18.6)	8.9×10.2	3.4×4.0	(1210)	B	ナテ	図D-107 砂粒多量
29	カマド床面	(17.3)	6.4×8.0	3.1×3.6	(620)	C	ナテ	図D-103
30	カマドフク土	(22.1)	7.5×7.8	2.5	(1285)	B	ナテ	図D-119

図406 第484号竪穴住居跡出土遺物(4)



図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
31	焼成粘土板	カマド芯材	(30.8)	(16.8)	4.5	2595		C-2
32	焼成粘土板	カマド芯材	(29.4)	15.6	4.5	2700		C-3

図407 第484号竪穴住居跡出土遺物 (5)

第486号竪穴住居跡 (図408～図410)

〔位置〕 NH・NI-471～473グリッドに位置する。

〔重複〕 第484号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 南側が第484号住居跡に切られている。東壁5m、西壁5m10cm、南壁5m47cm、北壁5m32cmの方形と考えられる。主軸方位はN-133°Eで、床面積は26.96㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁20～43cm、西壁61cm、南壁26cm、北壁58cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅12～29cm、深さ8～38cmの周溝がほぼ一巡する。

〔ビット〕 検出されたビットは7個である。柱穴はビット2 (36cm)、ビット3 (24cm)、ビット9 (57cm)、ビット10 (45cm) と考える。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。煙道が第484号住居跡に切られている。煙道は半地下式である。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がると推定する。

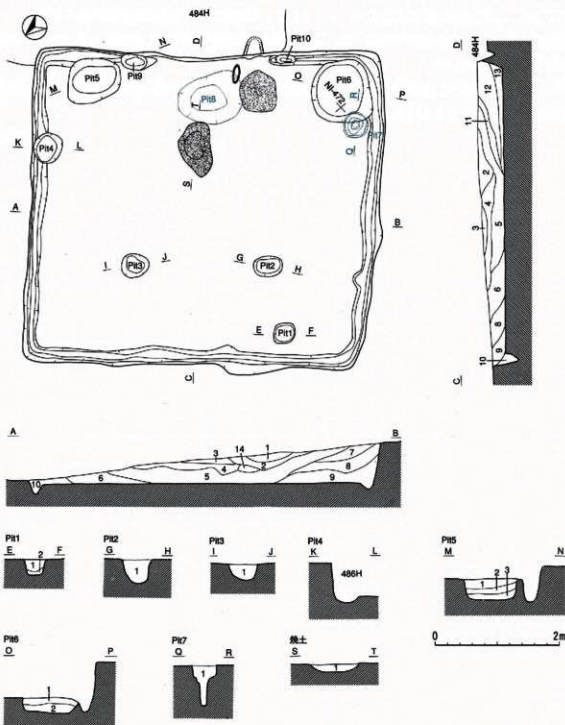
〔その他の施設〕 南東隅付近に、長軸94cm、短軸72cm、深さ34cmのビット5、南東隅に、長軸98cm、短軸94cm、深さ24cmのビット6を検出した。西壁南側の貼り床下から、長軸42cm、短軸36cm、深さ64cmのビット7を検出した。ビット7は、中央に径10cm、深さ36cmの落ち込みがあり、形鑑から「ロクビット」と考えられる。またビット上部にはテラスを持っている。南壁中央から北寄りに、長軸88cm、短軸50cmの焼土を検出し、火床面と考える。

[堆積土] 堆積土は14層に分層され、1、3、7、9層にT o - a火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕、坏、埴、小型土器や須恵器の壺が、床直からは刀子が、床面からは砥石が出土している。

[時 期] 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築された土師器の製作に関わる遺構と考えられる。

(相馬良仁)



第486号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 T_{0-a}混入 ローム粒少量
 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 T_{0-a}混入 ローム粒少量
 第4層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量
 第5層 黒褐色土 10YR2/3 L.B.・ローム粒・炭化物・焼土粒少量
 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
 第7層 暗褐色土 10YR3/3 T_{0-a}混入
 第8層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量

- 第9層 黒褐色土 10YR3/2 T_{0-a}混入 ローム粒・炭化物少量
 第10層 黒褐色土 10YR3/1 にぶい・橙色土(7.5YR6/4)混入 炭化物少量
 第11層 暗褐色土 10YR6/8 黒褐色土(10YR3/2)混入
 第12層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量
 第13層 黒褐色土 10YR3/2 橙色土(7.5YR6/8)混入 ローム粒中量
 第14層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・焼土微量 ローム・小礫多量

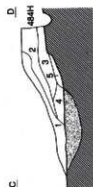
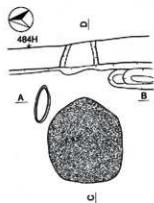
図408 第486号竪穴住居跡(1)

- PH1
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量 炭化物微量
第2層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒少量
- PH2
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物少量
- PH3
第1層 暗褐色土 10YR3/3 黒色土(10YR1.7/1)混入 ローム粒少量
- PH5
第1層 黒褐色土 10YR3/2 焼土粒微量 炭化物・ローム粒少量
第2層 暗赤褐色土 5YR3/6 ローム粒少量
第3層 褐色土 10YR4/6 焼土粒微量

- PH6
第1層 褐色土 7.5YR4/6 ローム粒少量 焼土粒多量
第2層 褐色土 10YR5/4 焼土粒少量

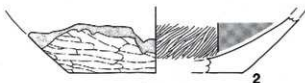
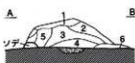
- 床下PH7
第1層 黄褐色土 10YR5/8 黒色土(10YR1.7/1)混入

- 焼土
第1層 赤褐色土 2.5YR5/8 明赤褐色土(2.5YR5/8)混入



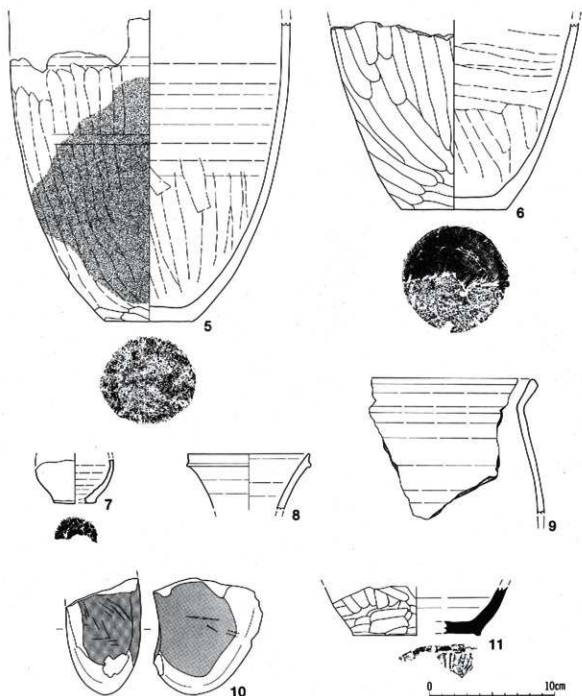
カマド

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 黒色土(10YR1.7/1)混入 ローム粒少量 焼土粒微量
第2層 暗褐色土 10YR3/3 明黄褐色土(10YR6/8)混入
第3層 褐色土 7.5YR4/4 焼土粒中量
第4層 橙色土 7.5YR6/6
第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第6層 暗褐色土 7.5YR2/3 暗褐色土(7.5YR3.4)混入 焼土粒中量



図版番号	種類	形状	出土層位	計測値 (cm)			外面測値			内面測値			底面測値	分類	備考
				口径	器高	底径	口径部	体部上半	体部下半	口径部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	AY77711 フタ土	(13.0)	(5.3)	—	ロタロ	ロタロ	—	ロタロ	ロタロ	—	—	BⅡ	
2	土師器	埴	フタ土	—	(4.8)	(14.8)	—	—	ヘラナア	—	—	ヘラミガキ	砂底	—	内面黄色胎地
3	土師器	杯	フタ土	—	(5.0)	(6.0)	—	—	ロタロ	—	—	ロタロ	段板未切り	BⅡ	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
4	床敷	12.6	1.3	0.5	23.5	刀子									

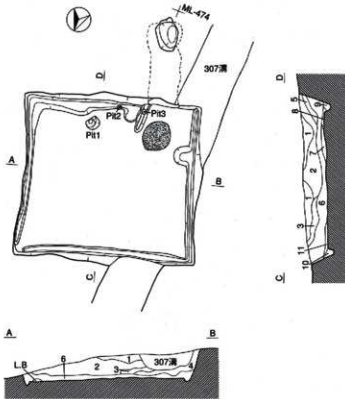
図409 第486号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
5	土師器	甕	身蓋 57177上	—	(24.4)	(7.0)	—	ロクロ ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	B1	P-1
6	土師器	甕	57177上	—	(15.1)	(8.4)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	A	
7	土師器	小型土甕	床面	—	(3.4)	(3.4)	—	ナデ	ナデ	—	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ	—	
8	土師器	甕?	フク土	(9.8)	(4.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
9	土師器	甕	フク上	(21.0)	(10.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
11	煎茶器	甕	貼床下	—	(3.8)	(10.2)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	菊花文	—	

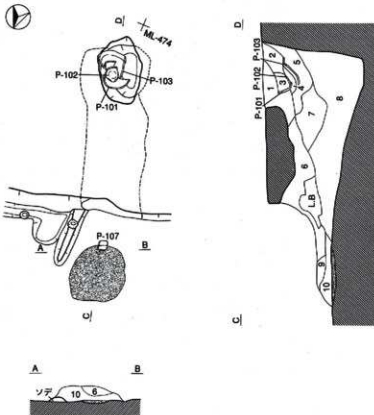
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
10	床面	8.4	6.0	8.0	530	凝	磁石	S-2

図410 第486号竪穴住居跡出土遺物(2)



第488号住居跡

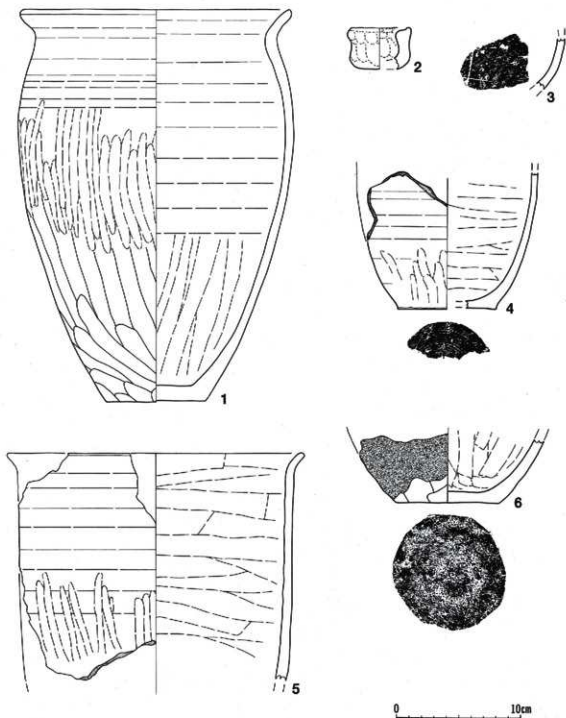
- 第1層 黒褐色土 10YR3/2
ローム粒微量 炭化物・焼土粒少量
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2
粘土ブロック混入
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2
- 第4層 粘土凝結土 10YR4/3
炭化物微量
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2
焼土粒・ローム粒微量
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3
焼土粒・炭化物少量
- 第7層 褐色土 7.5YR4/4
ローム質土 焼土細粒微量
- 第8層 赤褐色土 5YR4/6
焼土層
- 第9層 褐色土 7.5YR4/4
ローム質土 焼土粒少量
- 第10層 暗褐色土 10YR3/4
- 第11層 明褐色土 7.5YR5/6
粘土層



カマド

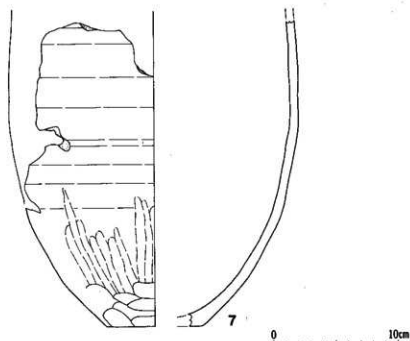
- 第1層 黒褐色土 7.5YR3/2 焼土粒少量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒少量
- 第3層 暗褐色土 7.5YR2/3 焼土粒多量
- 第4層 褐色土 7.5YR4/4 L.B多量
- 第5層 暗褐色土 7.5YR3/3 L.B微量 炭土粒中量
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 L.B・焼土粒少量
- 第7層 黄褐色土 10YR5/6 L.B少量
- 第8層 褐色土 7.5YR4/4 L.B・焼土粒多量
- 第9層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒少量 炭化物微量
- 第10層 褐色土 7.5YR4/4 焼土粒少量

図411 第488号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土状況	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	5777号	22.0	31.5	8.0	ロクロ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	B I	P-103, 101
2	土師器	小壺土器	フク土 (5.0)	(3.4)	(3.4)	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ナデツケ	—	—	
3	土師器	坏	フク土	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	B II	調査	
4	土師器	甕	5777号	—	(10.9)	(8.0)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	図版未収録	B	—
5	土師器	甕	5777号	(22.0)	(17.2)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B	P-106
6	土師器	甕	5777号	—	(5.9)	(8.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	調査未収録	A	P-102

図412 第488号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図形 番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	土師器	甕	オオツツク 穴跡部	—	(24.5)	(7.6)	—	リブ ヘラズリ	ヘラズリ	—	不明	不明	ナツツク?	B1	P.104, 107

図413 第488号竪穴住居跡出土遺物(2)

第488号竪穴住居跡 (図411～図413)

[位置] NK・NL-472・473グリッドに位置する。

[重複] 第313号溝と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 第313号溝に西壁を切られており、東壁2m60cm、西壁2m52cm、南壁2m84cm、北壁2m92cmで、方形と推定する。主軸方位はN-161°-Eで、床面積は5.59㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁14cm、西壁54cm、南壁16～51cm、北壁38cmである。床面はやや起伏があり、北側に緩やかに傾斜する。

[周溝] 幅8～24cm、深さ3～23cmの周溝がほぼ一巡する。

[ピット] 検出されたピットは3個である。

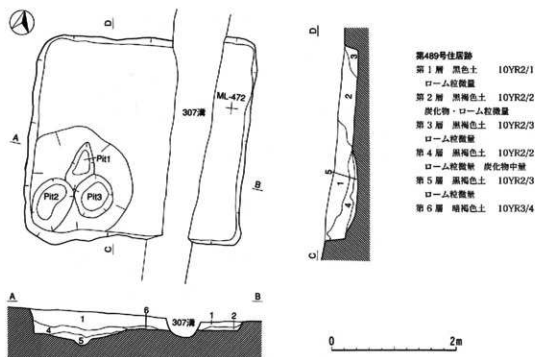
[カマド] カマドは、南壁西側に構築されている。ソデは東側のみを検出した。煙道は地下式で、住居跡外に134cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに下降する。煙出しから土師器が出土した。

[堆積土] 堆積土は11層に分層され、8層は焼土層である。

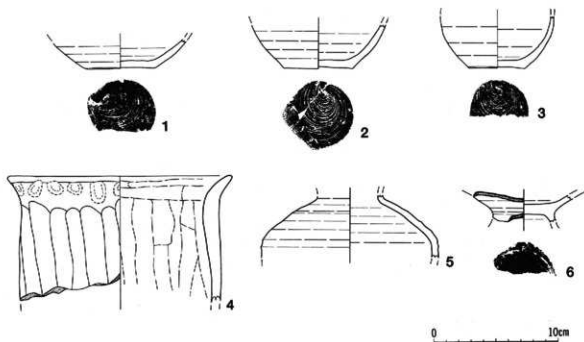
[出土遺物] 覆土から土師器の甕、小型土器が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)



- 第489号住居跡
- 第1層 黒色土 10YR2/1
ローム粒微量
 - 第2層 黒褐色土 10YR2/2
炭化物・ローム粒微量
 - 第3層 黒褐色土 10YR2/3
ローム粒微量
 - 第4層 黒褐色土 10YR2/2
ローム粒微量 炭化物中量
 - 第5層 黒褐色土 10YR2/3
ローム粒微量
 - 第6層 暗褐色土 10YR3/4



図面番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	床直	—	(2.4)	(5.4)	—	—	ロクロ ユヅナナ	—	—	ロクロ	同軸糸切り	BⅡ	
2	土師器	杯	床直	—	(3.5)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	同軸糸切り	BⅡ	
3	土師器	壺?	床直	—	(4.1)	4.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	同軸糸切り	B	
4	土師器	壺	フク土	18.0	(10.0)	—	—	ユビ圧痕	ヘラケズリ	—	ヘラナア	ヘラナア	—	A	
5	土師器	壺	床直	—	(5.0)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	B	
6	土師器	筒合片	床直	—	(2.4)	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	念室の浅 溝の底行

図414 第489号竪穴住居跡・出土遺物

第489号竪穴住居跡 (図414)

[位置] NK・NL-471・472グリッドに位置する。

[重複] 第307号溝と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 東壁3m60cm、西壁2m92cm、北壁東側と南壁東側を第307号溝に切られている。残存する南壁2m64cm、北壁2m38cmで、南壁西側がふくらむ方形である。床面積は10.18㎡で、主軸方位は不明である。

[壁・床面] 壁高は、東壁14cm、西壁24～57cm、南壁20～58cm、北壁7～22cmである。床面は北側に緩やかに傾斜する。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。

[その他の施設] 北西隅に、長軸168cm、短軸162cm、深さ10～16cmの窪地を検出した。北西隅に、長軸78cm、短軸38cmのピット1、長軸84cm、短軸62cmのピット2、径62cmのピット3を検出した。

[堆積土] 堆積土は7層に分層される。

[出土遺物] 床直から、土師器の甕、坏、高台付坏、壺が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

第490号竪穴住居跡 (図415・図416)

[位置] NN・NO-469・470グリッドに位置する。

[重複] 第480号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 第480号住居跡に、大半を切られている。残存する東壁3m94cm、西壁3m88cm、南壁3m78cm、北壁4m20cmのほぼ方形である。床面積は14.4㎡で、主軸方位はN-180°-Sである。

[壁・床面] 壁高は、東壁6cm、西壁88cm、南壁72cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅6～24cm、深さ3～16cmの周溝がほぼ一巡する。

[ピット] 検出されたピットは2個である。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に構築されている。煙道と火床面のみ残存する。煙道は半地下式で、住居跡外に99cmのびる。煙道底面は、やや起伏を持ちながら、煙出し方向に急勾配に立ち上がる。

[その他の施設] 南東隅に、径36cmのピット1、西壁南側に、径80cmのピット2を検出した。

[出土遺物] 土師器の甕や羽口、砥石が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

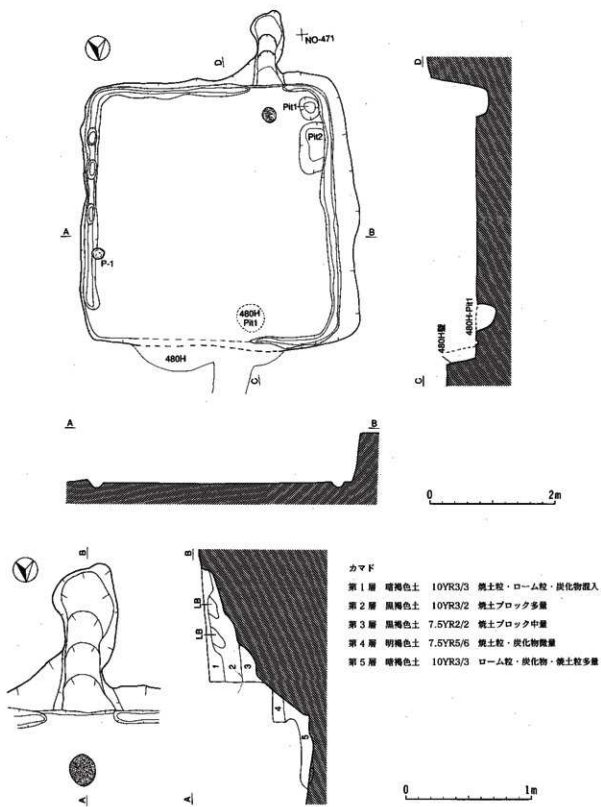
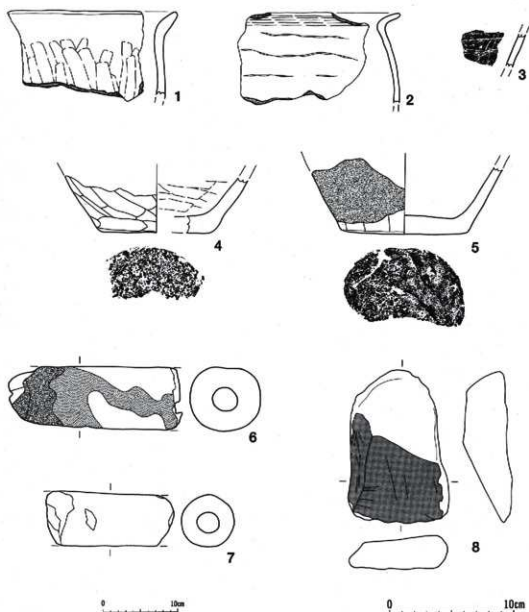
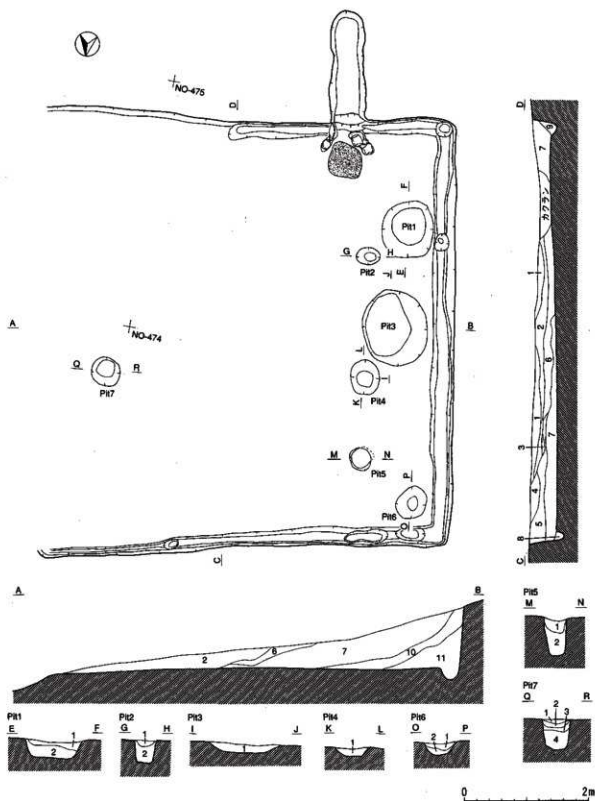


図415 第490号竪穴住居跡



図版番号	種別	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	胴高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(22.0)	(6.9)	—	ナデ?	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
2	土師器	甕	フク土	(22.0)	(7.2)	—	ヨコナデ	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪郭図, 断面図
3	土師器	杯?	フク土	—	—	—	—	—	—	不明	—	—	—	B?	断面図
4	土師器	甕	フク土	—	(4.5)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂込	A	出土層位, 断面図
5	土師器	甕	床直	—	(6.0)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	不明	ナゲツケ	A	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	材質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
8	フク土	12.1	8.0	2.7	4.9	流	磁石	炭化物付着							
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考							
		長さ	外径	内径											
6	床直	(23.0)	8.6×9.5	3.2	(1280)	B	ナデ	明口-2							
7	床直	(17.1)	7.1	2.8×3.0	(730)	B	ナデ	明口-2							

図416 第490号竪穴住居跡出土遺物



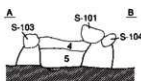
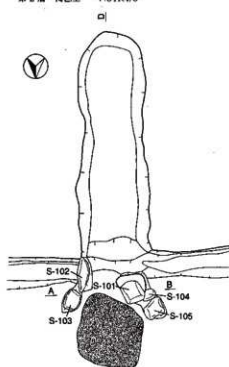
第491号住居跡

第1層 暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・焼土粒中量	第6層 にぶい黄褐色土	10YR4/3	L・粘土ブロック多量
第2層 暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・焼土粒少量 炭化物微量	第7層 黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)混入 L・炭化物・焼土粒少量
第3層 褐色土	10YR4/4	ローム質土 粘土粒少量	第8層 暗褐色土	7.5YR3/4	L B微量
第4層 褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物・焼土粒微量	第9層 褐色土	7.5YR4/6	ローム層
第5層 褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物・焼土粒微量	第10層 黒褐色土	10YR2/2	L B少量 炭化物・焼土粒微量
			第11層 暗褐色土	10YR3/3	L B混入

図417 第491号竪穴住居跡(1)

- PH1
 第1層 褐色土 7.5YR4/6
 第2層 暗褐色土 7.5YR3/3 炭化物・炭土粒微量
 PH2
 第1層 黒色土 7.5YR2/1
 第2層 褐色土 7.5YR4/6
 PH3
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭土粒少量 炭化物微量
 PH4
 第1層 黒褐色土 10YR2/1 炭化物少量
 PH5
 第1層 黒色土 7.5YR2/1
 第2層 褐色土 7.5YR4/6

- PH6
 第1層 褐色土 7.5YR4/4
 第2層 褐色土 7.5YR4/6 炭化物微量
 PH7
 第1層 黒褐色土 7.5YR2/2 炭化物微量
 第2層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物微量
 第3層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物微量
 第4層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物微量

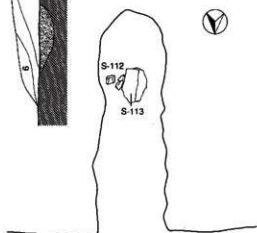


0 1m

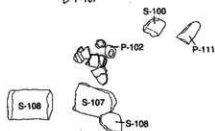
カマド

- 第1層 黒褐色土 7.5YR2/2 被熱したL,B中量
 第2層 褐色土 10YR4/4 被熱したL,B少量 炭土粒微量
 第3層 褐色土 7.5YR4/6 しまりなし
 第4層 褐色土 7.5YR4/4 ローム層
 第5層 黒褐色土 10YR2/2 炭土ブロック多量
 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム質土

カマド遺物出土状況



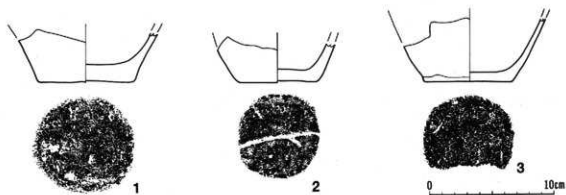
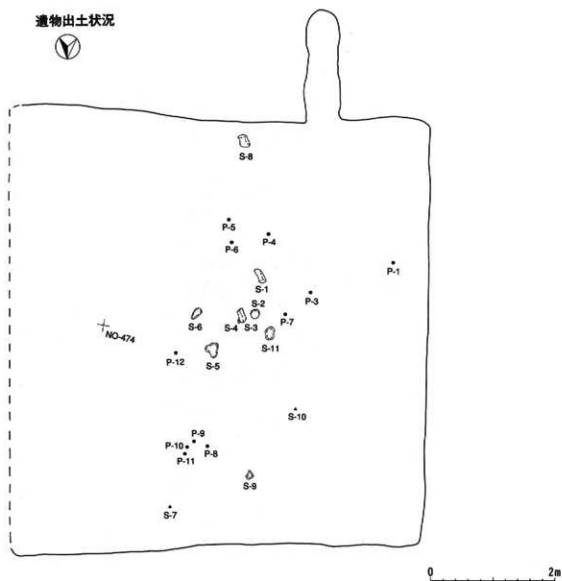
P-107



0 1m

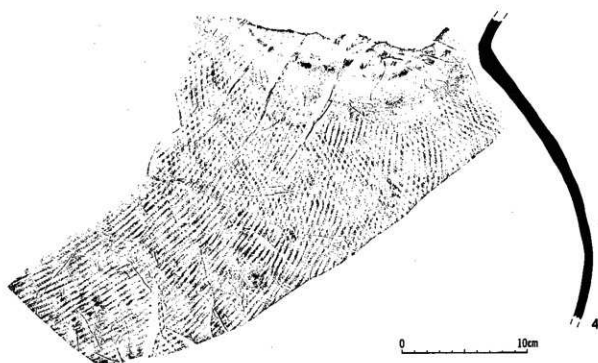
図418 第491号竪穴住居跡(2)

遺物出土状況



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	羹	2777土	—	(4.0)	8.0	—	—	不明	—	—	不明	ナアツケ	A?	図録 P.102
2	土師器	羹	胎床	—	(3.0)	6.0	—	—	不明	—	—	不明	ナアツケ	A?	図録
3	土師器	羹	Rt177土	—	(5.1)	7.0	—	—	不明	—	—	不明	ナアツケ	A?	図録 P.1

図419 第491号竪穴住居跡(3)・出土遺物(1)



図録 番号	種別	種名	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
4	須臾器	壺	第1772 第1791	—	(22.2)	—	開口クロ	黒→クワ 第1772A	—	開口クロ	黒→赤 第1772B	—	—	—	—

図420 第491号竪穴住居跡出土遺物(2)

第491号竪穴住居跡 (図417~図421)

【位置】 NM~NO-473~475グリッドに位置する。

【重複】 確認されなかった。

【平面形・規模】 東側が削平されており、残存する西壁6 m81cm、南壁6 m80cm、北壁6 m62cmで、方形と推定する。床面積は45.11㎡で、主軸方位はN-172°-Sである。

【壁・床面】 壁高は、西壁96cm、南壁38cm、北壁44cmである。床面は、南側に緩やかに上昇する。

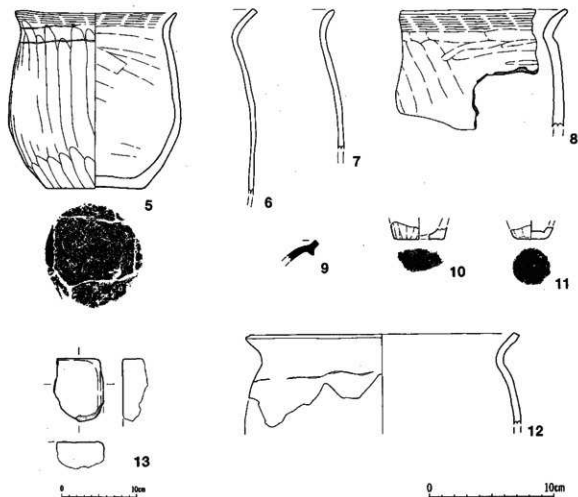
【周溝】 幅10~34cm、深さ13~39cmの周溝が西壁・北壁と南壁の一部に検出された。

【ピット】 検出されたピットは5個であり、柱穴は、ピット2 (36cm)、ピット5 (54cm)、ピット7 (48cm) と考える。

【カマド】 南壁西側に構築されている。礫を芯材として転用し、粘土を覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に172cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道と焚き口周辺から、芯材に使われたと思われる礫や土師器が出土した。

【その他の施設】 西壁南側に、径88cm、深さ24cmのピット1、西壁中央に、長軸124cm、短軸104cm、深さ10cmのピット3を検出した。

【堆積土】 堆積土は11層に分層される。



図版番号	種類	種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
5	土師器	甕	8F77F1	(13.0)	14.2	8.0	ヨコナテ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナテ	ヘラナテ	ヘラナテ	—	—	AⅡe	輪痕, P-106
6	土師器	甕	8F77F1	22.0	14.3	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	輪痕, P-106	
7	土師器	甕	8F77F1	(16.0)	(11.3)	—	不明	不明	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	底痕, P-107	
8	土師器	甕	8F77F1	(24.0)	(9.6)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	不明	不明	—	—	A	P-103	
9	須恵器	甕	胎床下	—	(1.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	—
10	土師器	小型土器	胎床	—	(1.4)	(4.0)	—	—	ヘラナテ	—	—	不明	ナアツケ	—	—	—
11	土師器	小型土器	フタ土	—	(1.1)	2.4	—	—	ユビ圧痕	—	—	不明	ナアツケ	—	—	輪痕
12	土師器	甕	8F77F1	(22.0)	(7.4)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	輪痕, P-105	

図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
13	焼成粘土板	フタ土	(14.3)	(7.4)	(3.8)	169		

図421 第491号竪穴住居跡出土遺物 (3)

〔出土遺物〕 覆土から土師器の甕、小型土器や須恵器の甕、壺のほか焼成粘土板が出土している。

〔時期〕 出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

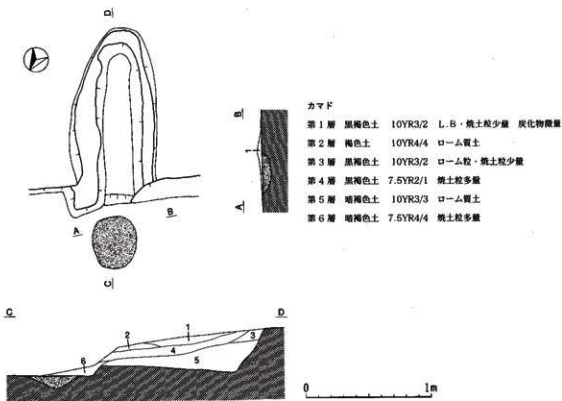
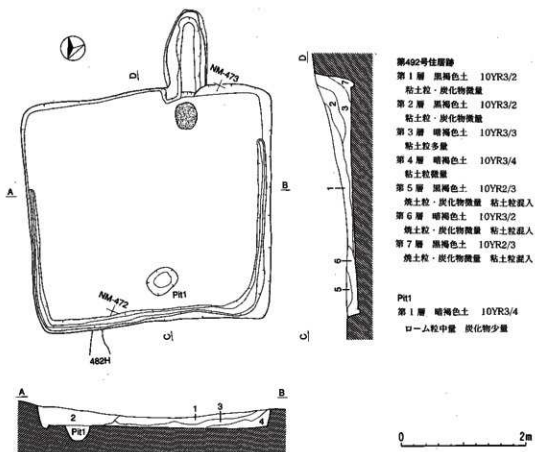
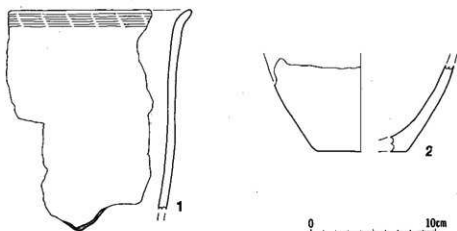


図422 第492号竪穴住居跡



図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(25.0)	(17.0)	—	ヨコナデ	不明	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
2	土師器	甕	フク土	—	(7.2)	(7.6)	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A?	破損

図423 第492号竪穴住居跡出土遺物

第492号竪穴住居跡 (図422・図423)

〔位置〕 NL・NM-471~473グリッドに位置する。

〔重複〕 第482号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁3 m42cm、西壁3 m54cm、南壁3 m88cm、北壁3 m42cmの方形である。床面積は12.13㎡で、主軸方位はN-152°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁16cm、西壁56cm、南壁28cm、北壁30cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅6~28cm、深さ2~16cmの周溝が東壁、西壁、北壁の一部にコの字形に検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは1個である。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。ソデから煙道にかけて粘土で覆って構築している。残存部分から煙道は地下式と推定され、住居跡外に123cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに下降する。

〔堆積土〕 堆積土は7層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の甕が出土している。

〔時期〕 出土遺物から、9世紀後半~10世紀前半に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

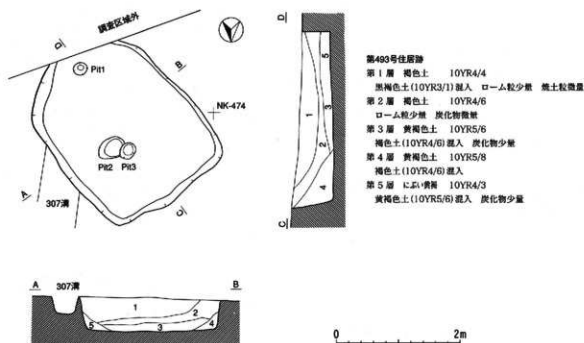


図424 第493号竪穴住居跡

第493号竪穴住居跡 (図424)

〔位置〕 NK・NL-475・476グリッドに位置する。

〔重複〕 第307号溝と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 北壁2m6cm、南側が調査区外にかかり、東壁が第307号溝に切られている。残存する東壁2m12cm、西壁2m20cm、南壁96cmで南側が広がる長方形と推定する。床面積は5.03㎡で、主軸方位は不明である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁56cm、西壁48cm、北壁68cmである。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

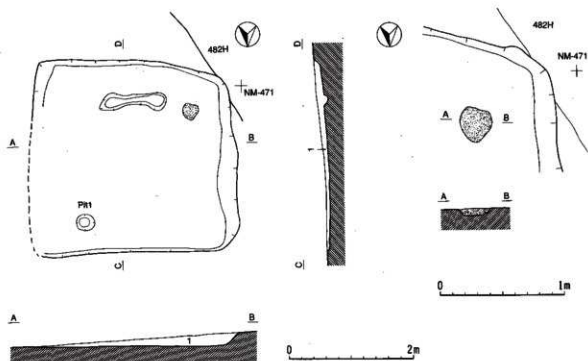
〔ピット〕 検出されたピットは3個である。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は5層に分層される。

〔時期〕 時期は不明である。

(相馬良仁)



第494号住居跡

第1層 暗褐色土 10VR3/3 L・B・焼土粒・炭化物散見

図425 第494号竪穴住居跡

第494号竪穴住居跡 (図425)

[位置] NM-470・471グリッドに位置する。

[重複] 第482号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

[平面形・規模] 東壁の大半が削平されている。東壁96cm、西壁2m66cm、南壁3m2cm、北壁3m2cmの方形と推定される。床面積は8.48㎡で、主軸方位は不明である。

[壁・床面] 西壁20cm、南壁10cm、北壁2cmである。床面は北側に緩やかに傾斜する。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されたピットは1個である。

[カマド] 南西隅付近に火床面のみ確認された。

[その他の施設] 南壁から70~74cm西側に、幅16~28cm、長さ1m8cmの溝を検出したが用途などについては不明である。

[堆積土] 堆積土は1層に分層される。

[時期] 時期は不明である。

(相馬良仁)

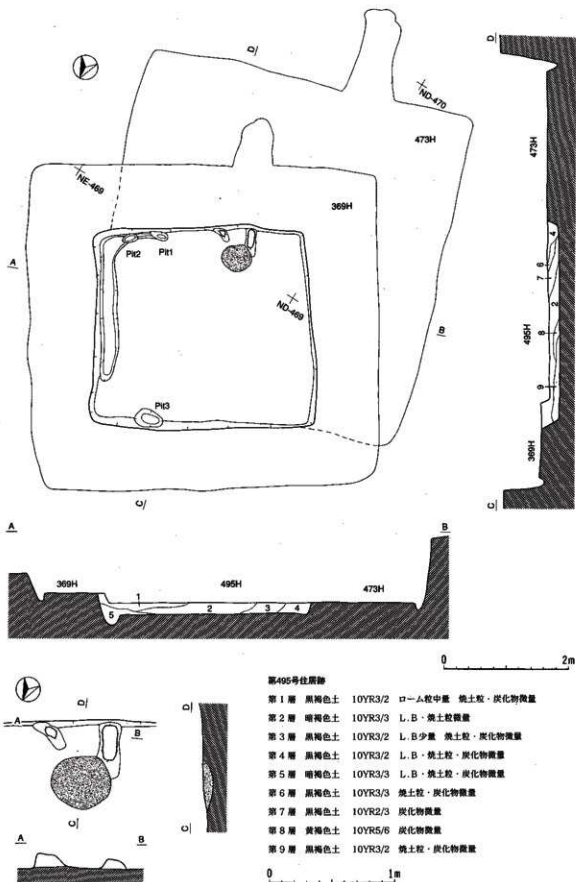


図426 第495号竪穴住居跡



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
1	床面	7.2	0.9	0.6	16.8	釣針?	2種別

図427 第495号竪穴住居跡出土遺物

第495号竪穴住居跡 (図426・図427)

[位置] NC・ND-468・469グリッドに位置する。

[重複] 第369号・第473号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

[平面形・規模] 東壁3m8cm、西壁3m14cm、南壁3m36cm、北壁3m80cmの方形である。床面積は10.24㎡で、主軸方位はN-149°-Eである。

[壁・床面] 本住居跡は、第473号住居跡に切られているため、床面から16cm上の部分は残存しない。残存する壁高は、東壁36cm、西壁18cm、南壁18cm、北壁40cmである。床面は平坦である。

[周溝] 幅10~28cm、深さ11~17cmの周溝が、東壁、南壁の一部に検出された。

[ピット] 検出されたピットは3個である。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に構築されている。火床面とソデのみ検出した。

[堆積土] 堆積土は層に9分層される。

[出土遺物] 床直から鉄製品が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀前半~中葉に構築されたと考えられる。

(相馬良仁)

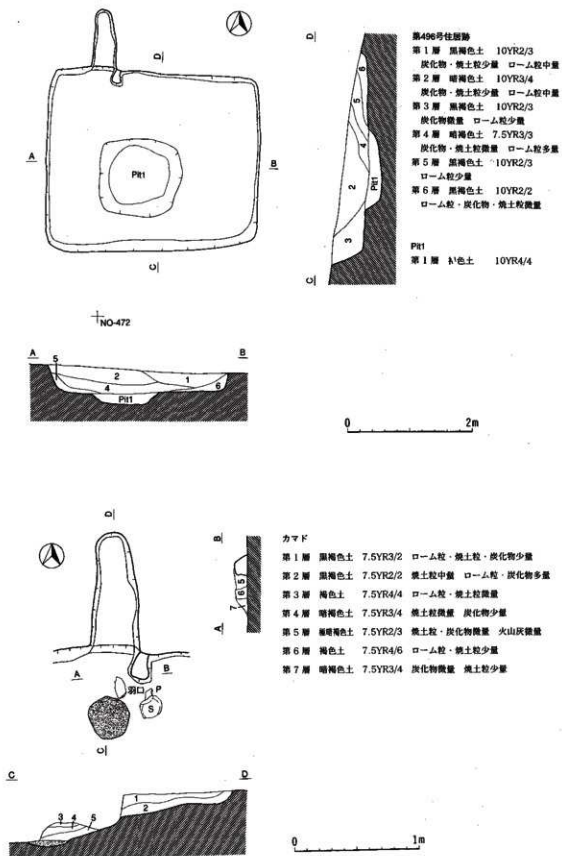
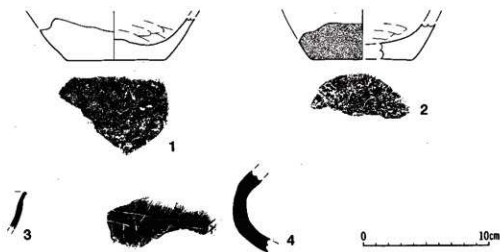


図428 第496号竪穴住居跡



区画 番号	種 類	品 名	出土層位	計測値 (cm)			外 面 測 量			内 面 測 量			近前調査	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フタ土	—	(3.4)	(10.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナダ	ナデツケ	A	
2	土師器	甕	フタ土	—	(2.9)	(8.0)	—	—	ヘラナダ?	—	—	ヘラナダ	ナデツケ	A	胎土付着
3	須恵器	坏	フタ土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
4	須恵器	甕	フタ土	—	(6.6)	—	—	ロクロ	—	—	—	ヘラナダ	—	—	片断調査

図429 第496号竪穴住居跡出土遺物

第496号竪穴住居跡 (図428・図429)

〔位 置〕 NN・NO-470・471グリッドに位置する。

〔重 複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁2 m50cm、西壁2 m76cm、南壁3 m24cm、北壁3 m12cmの方形である。床面積は8.61㎡で、主軸方位はN-3°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁11cm、西壁50cm、南壁40cm、北壁28cmである。床面はやや起伏がある。

〔周 溝〕 検出されなかった。

〔ビット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 北壁西側に構築されている。ソデは東側のみ検出された。煙道は半地下式で、住居跡外に94cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。焚き口から礎、羽口、土師器が出土したことから、これらを芯材として転用していたと考える。

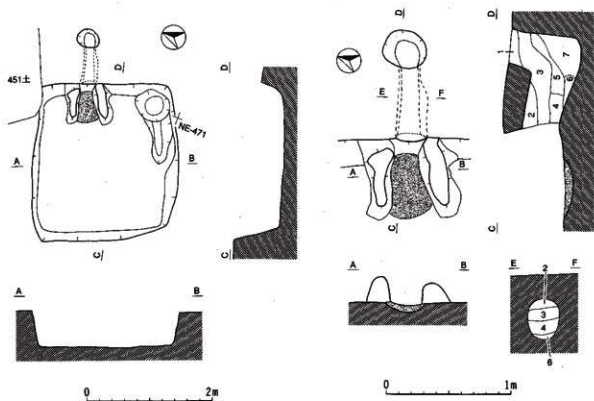
〔その他の施設〕 中央付近に、長軸132cm、短軸124cm、深さ24cmのビットを検出した。用途などについては不明である。

〔堆積土〕 堆積土は6層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の甕や須恵器の甕、坏が出土している。

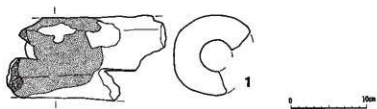
〔時 期〕 時期は不明である。

(相馬良仁)



カマド

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 焼土粒・炭化物微量
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 軽石少量
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・炭化物微量
 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量
 第5層 褐色土 7.5YR4/4 ローム粒・焼土粒少量
 第6層 褐色土 7.5YR4/6 ローム粒・焼土粒少量 炭化物多量
 第7層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量 焼土粒・炭化物微量



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
1	フタ土	(21.4)	10.5×(10.2)	—	(1,260)	B	ナア	

図430 第497号竪穴住居跡・出土遺物

第497号竪穴住居跡 (図430)

[位置] ND・NE-470・471グリッドに位置する。

[重複] 第451号土坑と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 西壁2m4cm、南壁2m28cm、北東隅を第451号土坑に切られている。東壁2m2cm、北壁2m10cmの方形である。床面積は4.49㎡で、主軸方位はN-70°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁32cm、西壁74cm、南壁54cm、北壁60cmである。床面は東側がくぼむ。

[周溝] 幅10~42cm、深さ6~10cmの周溝が南壁の一部に検出された。

[ピット] 検出されたピットは1個である。

[カマド] 東壁北側に構築されている。煙道は地下式で、住居跡外に87cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに下降する。

[出土遺物] 覆土から土師器の羽口が出土している。

[時期] 時期は不明である。

(相馬良仁)

青森県埋蔵文化財調査報告書 第264集

野 木 遺 跡 II (第2分冊)

青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告

発行年月日 平成11年3月31日
発 行 青森県教育委員会
〒030-0801
青森市新町2丁目3番1号
電話0177-22-1111 (代表)

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042
青森市新城字天田内152-15
電話0177-88-5701 FAX. 0177-88-5702

印 刷 所 青森コロニー印刷
〒030-0943
青森市幸畑字松元62-3
電話0177-38-2021 FAX. 0177-38-6753



活彩あomor
— 輝くあomorの時代 —